朝鮮總督府月報

明治四十四年六月二十日第三種郵便物認可（毎月一回二十日發行）
朝鮮總督府月報第二卷第三號　明治四十五年三月二十日發行

朝鮮總督府月報

第貳卷第參號

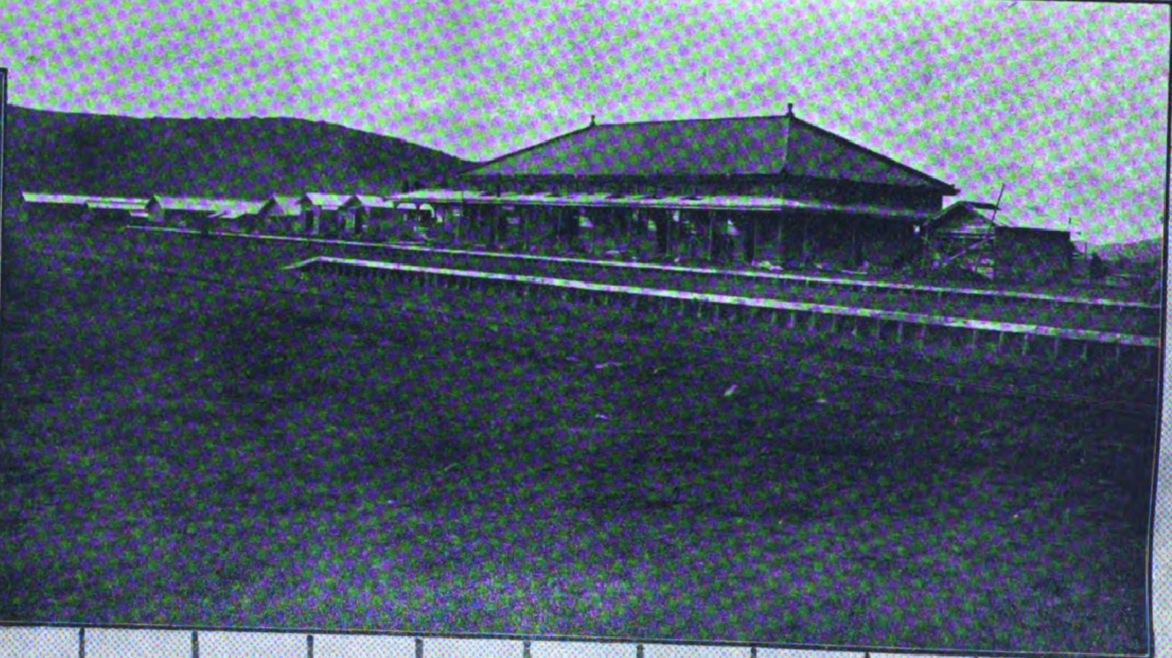
目次

群山東海岸





恩津ノ彌勒



群山停車場

朝鮮總督府月報 第貳卷第參號

○朝鮮ノ森林植物

第一 森林帶

朝鮮ノ森林植物ニ關スル調査ハ未タ完了セサルモ概略五百種ノ多キニ達シ其ノ内樹高二丈以上ニ達スヘキモノニシテ調査ヲ終リタルモノハ針葉樹十屬十七種、濶葉樹七十屬百五十種、竹類一屬三種ニシテ其ノ主ナル樹種名ハ別表森林植物一覽ニ詳ナリ

此等森林植物ノ分布ヲ見ルニ大部分ハ日本内地系及滿洲系ニ屬シ朝鮮固有ノ種ハ少數ナルモ近時調査漸ク進ミ新ニ命名セラルルモノ多シ

朝鮮森林帶ハ從來ノ調査ニヨルニ暖帶、溫帶(更ニ南部、中部、北部ニ別ツ)寒帶ノ三帶ニ區別スルヲ適當トス

(附圖參照)

第一 暖帶林　此ノ帶ニ屬スルモノハ全羅、慶尙ノ南部北緯三十五度以南ノ地ニシテ同溫線十三度以上ノ地ヲ領ス而シテ垂直的ニハ其ノ上部界ハ濟州島ニテハ二千尺ニ終リ全羅道ニテハ群山、慶尙道ニテハ冬外串岬附近ニ於テ海面ト一致ス而シテ朝鮮ニ於ケル此ノ帶ノ主ナル林相ヲ擧クレハ

(イ)常綠濶葉樹林　主トシアカガシ、シヒノキ、タブ、クス等ノ常綠濶葉樹ヨリ成ル森林ニシテ下木ニハマサキ、テイカカヅラ、オホバツルグミ、トベラ、モチノキ、ヒサカキ、カクレミノヲ生ス此ノ種ノ林相ハ現時濟州島ノ一部ニ於テ之ヲ見ルノミ

(ロ)落葉濶葉樹林　主トシテクヌギ、アベマキ、コナラ、ハンノキ、ネムノキ等ノ陽性落葉濶葉樹ヨリ成

ル森林ニシテ下木ニハミヅキ、イチゴ類、ツツジ類、ハギ類、ダンコウバイ等ヲ生ス此ノ種ノ林相ハ濟州島及全羅、慶尙地方ニ於テ最普通ニ見ルトコロノ一ナリ

(ハ) アカマツ林　アカマツヲ主木トスル森林ニシテ往往クロマツヲ混生ス下木ニハハギ類、コマツナギ其ノ他二三ノ陽草類ヲ生スルモノニシテ此ノ種ノ林相ハ朝鮮南部ニ於テ最普通ニ見ルトコロノモノナリ

(ニ) 竹林　マダケ、ハチク及ヤダケヨリ成ル森林ニシテ僅ニ全羅、慶尙ノ一部ニ於テ見ルノミ

第二溫帶林　此ノ帶ハ暖帶ノ北方ニ位シ全羅、慶尙ノ北方ヨリ鴨綠、豆滿ノ國境ニ到リ同溫線六度以上十三度未滿ノ地ヲ領ス而シテ垂直的ニハ本帶ノ下部界ハ直ニ暖帶ニ接シ其ノ上部界ハ濟州島ノ漢羅山ニ在リテハ五千尺全羅、慶尙ノ智異山ニテハ四千三百尺江原道ノ金剛山ニテハ三千八百尺平安咸鏡ノ狼林山ニテハ三千尺國境長白山ニ在リテハ二千五百尺ニ達ス而シテ朝鮮ニ於ケル此ノ帶ノ主ナル林相ヲ擧クレハ

(イ) 落葉濶葉樹林　カヘデ類、シナ類、オホヤマレンゲ等ノ陰性落葉濶葉樹ヲ主木トシ下木ニハナナカマド、イヌツゲ、サルナシヲ生スルカ又ハカシハ、オホナラ、コナラ、ナラカシハ、シラカンバ等ノ陽性落葉濶葉樹ヲ主木トシ樹下ニハハギ類及陽草類ヲ生スル森林ニシテカシハ、ナラカシハ、オホナラハ往往純林ヲナスモノアリ此ノ種ノ林相ノ內前者ハ北方ニ多ク後者ハ南方ニ多シ

(ロ) アカマツ林　アカマツヲ主木トスル森林ニシテ林相ノ狀態暖帶ノモノニ等シク樹下ニハ主トシテハギ類ヲ生ス又ナラ、カシハノ混生スルモノアリ此ノ種ノ林相ハ朝鮮ニ於テハ溫帶ノ大部分ヲ占領ス

而シテ此ノ帶ハ其ノ生育スル森林植物ノ種類ニヨリ次ノ三部ニ區別シ得

(一)溫帶南部　同溫線十二度以上十三度未滿ノ地域ニシテ全羅、慶尙ノ北半ハ之ニ屬ス而シテ此ノ地域ニハ仍暖帶ノ樹木タルタブ、アカガシ、シヒノキ等ノ常綠濶葉樹及マダケ、ハチクヲ存在ス

(二)溫帶中部　同溫線九度以上十二度未滿ノ地域ニシテ忠淸、江原、京畿、黃海ノ大部ハ之ニ屬ス而シテ此ノ地域ニハ常綠濶葉樹ハ殆ト跡ヲ絕ッ南部ニ生セサルテウセンゴエフマツ、イタヤカヘデ、ヤマナラシ、オノオレカンバ、キハダ等ヲ見ルコトヲ得

(三)溫帶北部　同溫線六度以上九度未滿ノ地域ニシテ平安、咸鏡ノ大部之ニ屬ス而シテ此ノ地域ニハ新ニシラカンバ、シラベ、エゾマツ、オガラバナ、ミネカヘデ、ナナカマド等ヲ見ル事ヲ得

第三寒帶林　此ノ帶ハ朝鮮ニテハ唯垂直的ニ現ハルルノミニシテ水平的ニハ存在セス即濟州島ノ漢羅山ニ五千尺以上全羅、慶尙ノ智異山ニテハ四千尺以上江原道ノ金剛山ニテハ三千八百尺以上ノ山頂ニ於テ見ルノミニシテ北方平安、咸鏡地方ニテハ鴨綠、豆滿江ノ上流一帶ノ高原ヲ領ス朝鮮ニ於ケル此ノ帶ノ主ナル林相ヲ擧クレハ

(イ)針葉樹林　シラベ、タウヒ、エゾマツ、トドマツ、シコタンマツ、テウセンマツ等ノ針葉樹ヲ主木トスル森林ニシテカシハ、シラカンバ、オノオレカンバ、ナナカマド等ノ落葉濶葉樹ヲ混生ス此ノ種ノ林相ハ主トシテ鴨綠、豆滿江ノ上流一帶ニ分布ス彼ノ營林廠ノ經營ニ係カル森林ハ主トシテ此ノ帶ニ屬スルモノナリ

(ロ)落葉濶葉樹　ヤマナラシ、ドロノキ、シラカンバ、ハンノキ等ノ陽性落葉濶葉樹ヲ主木トスル森林ニシテ前記森林中ニ介在ス

朝鮮ノ森林ハ前記ノ如ク主トシテ暖帶ニテハ常綠濶葉樹林、落葉濶葉樹林、アカマツ林ノ三相、溫帶ニテハ

陰性落葉闊葉樹林、陽性落葉闊葉樹林、アカマツ林ノ三相、寒帶ニテハ針葉樹林、落葉闊葉樹林ノ二相ヲ有ス而シテ之レ概ネ人工ニ起因スル林相變化ノ歴史ヲ表示スルモノニシテ往古ハ主トシテ常緑闊葉樹ハ暖帶ヲ陰性落葉闊葉樹ハ温帶ヲ針葉樹ハ寒帶ヲ領有セシモ山火ノ頻來及過度ノ伐採ハ先ツ天然ニ於ケル林相ノ破壞ヲ促シ茲ニ林相ノ退化トナリ土質ノ變化トナリ暖帶ニ於ケル常緑闊葉樹林先ツ衰ヘテ落葉闊葉樹林之ニ代リ温帶ニ於ケル陰性落葉闊葉樹林ハ陽性落葉闊葉樹林ニ移リ更ニ暖温各帶共アカマツ林ニ占領セラルルニ至リ寒帶林ニ於ケルヤマナラシ、シラカンバ林亦林相退化ノ第一歩ヲ示スモノナリ而シテ朝鮮各地ニ見ル禿山ハ之レアカマツ林ノ最後ヲ示シタルモノニシテ即チ林相ノ滅亡ヲ意味スルモノト謂フヘシ

朝鮮産森林植物ノ内林業上主要ナル樹種ハ約四十種、内地産及外國産ノ有要樹種ニシテ朝鮮ニ植林ノ見込アルモノ十數種ニ及フカ故ニ造林適樹ノ撰定ハ比較的容易ナリト謂フヲ得ヘシ此等造林適樹ノ適地及效用ハ以下第二、第三ニ詳ナリ以テ林業經營上ノ參考ニ資スルニ足ルヘシ

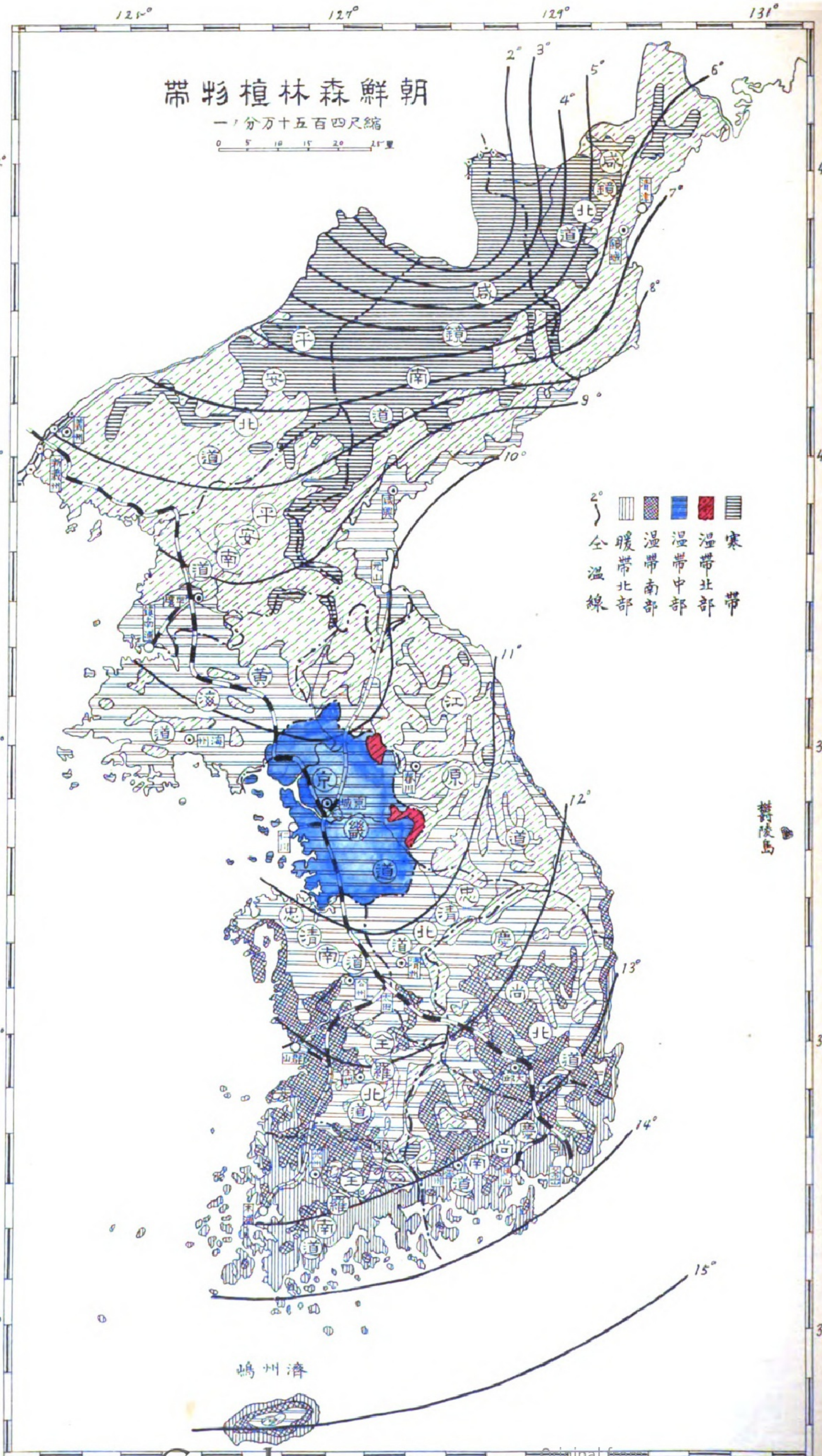
第二　主要樹種ノ適地

例言

一、本編ハ朝鮮ニ於ケル造林適樹ノ内朝鮮産二十五種、内地産三種、外國産十四種ニ就キ其ノ造林シ得ル植物帶内ニ於テ主トシテ中等以上ノ生育ヲ爲スヘキ適地ヲ記載シタルモノナリ

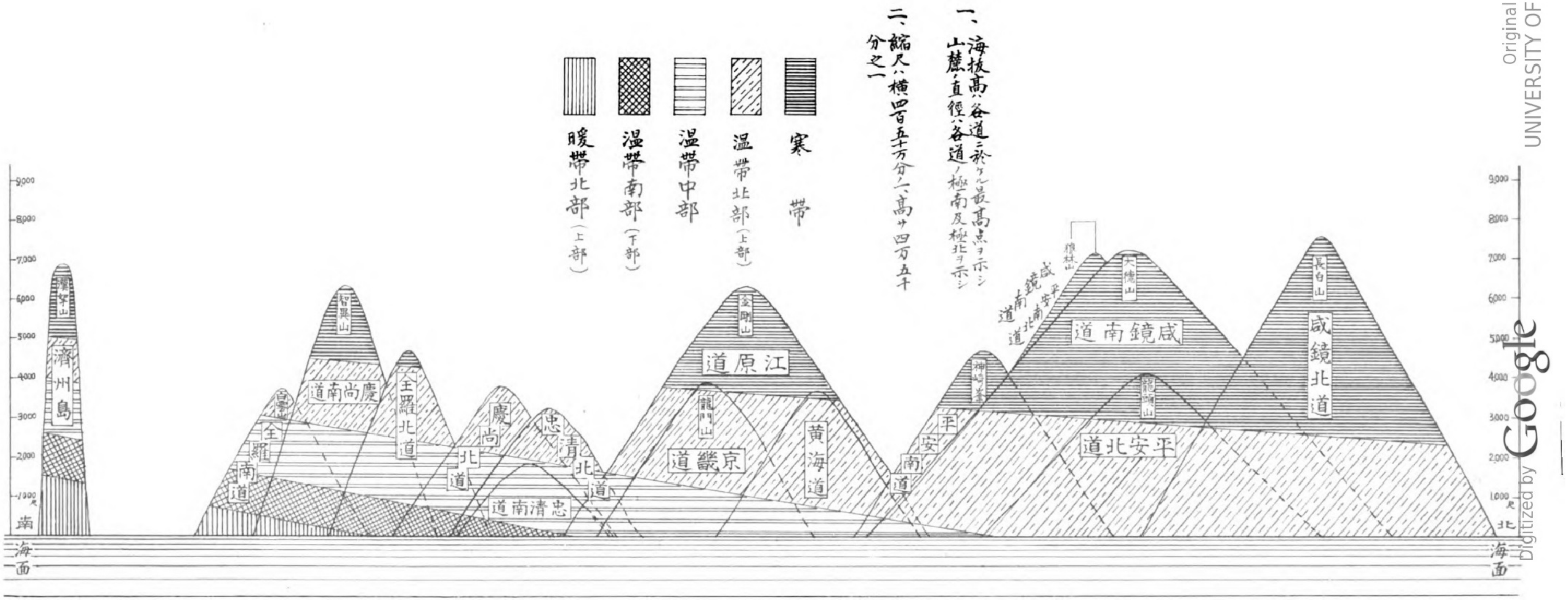
二、内地産及外國産樹種ハ朝鮮ニ於ケル造林ノ成績不明ナルモノ多シト雖内地ニ於ケル成績ヲ參考シ見込ヲ以テ之ヲ記載セリ但シ外國種ノ内ニセアカシヤ、ヤマナラシ類ノ如キハ數年前ニ輸入セラレ既ニ優秀ナル生育ヲ遂ケツツアリ

三、内地産及外國産樹種ハ樹名ノ下ニ各原産地名ヲ記載セリ



朝鮮森林植物帯
縮尺四百五十万分ノ一
0 5 10 15 20 25 里
寒帯
温帯北部
温帯中部
温帯南部
暖帯北部
全温線
鬱陵島
濟州嶋
125° 127° 129° 131°
42° 40° 38° 36° 34°

朝鮮垂直的森林植物帶



一、海拔高ハ各道ニ於ケル最高点ヲ示シ山麓ノ直徑ハ各道ノ極南及極北ヲ示シ
二、縮尺ハ横四百五十万分ノ一高サ四万五千分之一
寒帶
温帶北部（上部）
温帶中部
温帶南部（下部）
暖帶北部（上部）
濟州島
漢拏山
全羅南道
白雲山
慶尚南道
智異山
全羅北道
慶尚北道
忠清北道
忠清南道
京畿道
龍門山
江原道
金剛山
黃海道
平安南道
神嶋峯
平安北道
狼林山
咸鏡南道
咸鏡南道
平安北道
大德山
咸鏡北道
長白山
海面
南
北

四、本編ニ掲ケタル造林適樹ノ内最安全且有利ニシ比較的短期間ニ收益ヲ擧ケ得ルモノハ白楊類ニセアカシヤ、ハンノキ類、クヌキ及ナラ類、アカマツ、クロマツ等ノ薪材用材又ハ兩者兼用林クリノ收實及薪材用材兼用ノ林等ナリ

シラベ

稍乾キタル壤土又ハ砂質壤土ヲ好ミ土深一尺五寸以上ナルヲ要シ荒キ氣候ニ耐ユ

タウヒ、エゾマツ

稍濕潤ナル砂質壤土又ハ壤土ヲ好ミ埴質壤土ニ耐ユルモ砂土及埴土ニ耐エス通例能ク岩石上ニモ生長シ土深ニ關スルコト少ナシ

カラマツ

壤土又ハ砂質壤土ヲ好ミ埴土ニ適セス通例濕地ヲ嫌ヒ土深一尺以上ナルヲ要シ高寒ノ陽燥地ニモ適生ス

テウセンゴエフマツ

適潤ナル壤土、砂質壤土又ハ埴質壤土ニ適シ埴土ニ耐エス土深一尺地味中等以上ナルヲ要ス通例風通少キ山ノ中腹以下ニ適生ス

イタヤカヘデ

適潤ナル腐埴土ヲ好ミ壤土、砂質壤土及埴質壤土ニ耐ユルモ砂土及埴土ニ適セス土深一尺五寸以上ナルヲ要ス通例山腹及平地ノ半陰地ニ適ス

ヤマナラシ

稍乾キタル埴質壤土、壤土又ハ砂質壤土ヲ好ミ埴土ニ耐ユ土深一尺以上地味ノ好惡少ナシ通例山腹ノ

稍乾キタル地殊ニ火災跡地、伐採跡地等ニ適生ス濕地ニ耐エス

カシハ

壤土又ハ砂質壤土ヲ好ミ埴質壤土及埴土ニ耐ユルモ砂土ニ適セス稍乾燥ニ耐ユ土深一尺以上ナルヲ要ス通例山ノ中腹ニ位スル燒跡、伐採跡等ノ陽燥地ニ適シ寒帶ニ在リテハ特ニ山ノ中腹以下ニ適ス

ヤマハンノキ

壤土又ハ砂質壤土ヲ好ミ埴質壤土及砂土ニ耐エ乾燥ニモ耐ユ地味ヲ選ハス山岳ノ裸出地、石礫地等ニモ良ク生育ス

オホナラ、ミヅナラ

砂質壤土又ハ壤土ヲ好ミ埴質壤土、砂土ニ耐ユ土深一尺以上ナルヲ要ス通例山ノ中腹以下ヲ好ミ特ニ平地及溪畔ニ適ス

ドイツアカマツ(歐洲原產)

稍乾キタル壤土、砂質壤土ヲ好ミ又能ク埴質壤土、砂土ニ適スルモ埴土ニ耐エス土深一尺五寸以上ノ陽燥地ニ適シ濕地ニ耐エス通例南向山腹以下ノ地ニ良好ナル生長ヲ爲ス

オレゴンマツ(北米原產)

稍濕潤ナル壤土、砂質壤土又ハ埴質壤土ヲ好ミ埴土及砂土ニ適セス土深一尺以上ニシテ通例動搖セサル多濕ノ空氣ニ充テル山岳地ニ適ス

ドイツタウヒ(歐洲原產)

稍濕潤ナル砂質壤土、壤土ヲ好ミ埴質壤土ニ耐ユルモ埴土ニ耐エス通例空氣多濕ナル山腹以下ノ地ニ適ス

歐洲カラマツ(歐洲原產)

カラマツニ準ス

ドイツクロマツ(歐洲原產)

稍乾キタル壤土又ハ砂質壤土ヲ好ミ埴土ニ耐エス土深一尺以上ナルヲ要ス通例稍高キ山ノ緩斜地礫地及海岸砂地ニ生シ山腹以上ニ適セス

モンゴリカシハ

オホナラニ準シ通例陽燥地ニ適ス

ドロノキ

稍濕リタル壤土又ハ埴質壤土ヲ好ミ砂質壤土ニ耐ユルモ埴土及砂土ニ適セス土深一尺五寸以上ナルヲ要ス通例谷間、山麓又ハ平地ニ良好ナル生長ヲナシ低濕地ニ耐ユ一般ニ山ノ中腹以下ニ適生ス

シホヂ

濕潤ナル壤土及埴質壤土ヲ好ミ土深一尺五寸以上地味中等以上ナルヲ要ス通例、濕氣アル平地ニ生ス

アカマツ

殆ト土壤ヲ選ハス乾燥地又ハ淺地ニモ比較的良ク生育ス通例陽燥ナル裸出地ニモ生長シ朝鮮海濱ニモ適生ス

テウセンモミ

適潤ナル埴土、壤土又ハ埴質壤土ヲ好ミ砂質壤土ニ耐ユ土深一尺以上ナルヲ要ス通例山麓及谷間ニ良ク生長ス

ピラミツトヤマナラシ(歐洲原產)

適潤ナル壤土及埴質壤土ヲ好ミ砂質壤土及埴土ニモ適シ濕氣アレハ砂土ニ耐ユ土深一尺以上地味ノ好嫌少ナシ稍乾地及濕地ニ耐ユ通例山麓、低キ丘陵、平地及河岸等ニ最適シモニリフエラヤマナラシヨリモ土地ニ對スル適應力强シ

モニリフエラヤマナラシ(北米原産)

適潤ナル壤土及砂質壤土ヲ好ミ埴質壤土、埴土ニモ適ス濕氣アレハ砂土ニモ耐ユ土深一尺以上地味中以上ナルヲ要ス稍乾地及稍濕地ニ耐ユ通例山麓、平地及河岸ニ最適ス

ニセアカシヤ(北米産)

壤土又ハ砂質壤土ヲ好ミ埴質壤土及埴土ニ耐ユ地味ノ好惡少ナシ通例平地、緩斜地、山麓等ノ輕鬆ナル土地ニ良好ナル生育ヲ爲シ又瘠薄地ノ改良ニ適ス濕地ニ耐エス

クリ

排水良キ礫交リノ壤土又ハ砂質壤土ヲ好ミ埴質壤土ニ耐ユルモ砂土、埴土ニ耐エス土深一尺五寸以上ニシテ南及東ニ面セル日當リ良キ山ノ中腹以下ヲ好ムモ西向ノ土地ニ適セス

クヌギ

適潤ナル壤土又ハ埴質壤土ヲ好ミ埴土及砂質壤土ニ耐ユルモ砂土ニ適セス稍乾濕ニ耐ユ土深二尺以上ニシテ地味中等以上ナルヲ要ス

ハンノキ

濕潤ナル壤土、埴質壤土又ハ砂質壤土ヲ好ミ地味ノ好惡少ナシ濕地ニ耐ユ通例河岸、平地等ニ最能ク成長シ山腹以上ノ地、海濱等ニ適セス

ストロオブゴエフマツ(北米原産)

適潤ナル壤土、砂質壤土ニ適シ埴土ニ耐エス稍乾地ニ耐ユ土深一尺五寸以上地味中以上ナルヲ要ス通例山ノ中腹以下又ハ平地ニ適生ス

チウリップノキ(北米原産)

適潤ナル壤土、埴質壤土及砂質壤土ニ適シ砂土及埴土ニ耐エス土深一尺五寸以上地味中等以上ナルヲ要ス濕地ニ耐エス通例山ノ中腹以下ノ地、原野等ニ適生ス

ホホノキ(内地産)

適濕ナル壤土又ハ埴質壤土ヲ好ミ砂質壤土ニ耐ユルモ砂土及埴土ニ耐エス乾燥ヲ嫌フ土深一尺五寸以上ナルヲ要ス通例山ノ中腹以下ニ適生ス

キリ

適潤肥沃ニシテ排水良キ壤土又ハ砂質壤土ヲ好ミ砂土及埴土ニ適セス土深二尺以上ニシテ地味中等以上ナルヲ要ス通例田畑宅地ノ周圍等ニ植栽スヘシ山地、乾燥地及低濕地ニ適セス溫帶中部ニ在リテハ溫暖ナル地方ニ限リ植栽シ得ヘシ

ケヤキ

適潤ナル壤土又ハ埴質壤土ヲ好ミ埴土又砂質壤土ニ耐ユルモ砂土ニ耐エス又濕地ニ適セス土深二尺以上ニシテ地味中等以上ナルヲ要ス通例南東面ニシテ西日ノ當ラサル肥沃ノ緩斜地ヲ好ム

コナラ

壤土又ハ砂質壤土ヲ好ミ埴質壤土、埴土ニ耐ユルモ砂土ニ耐エス土深一尺以上ナルヲ要ス通例陽燥地ニ生シ又岩石地ニモ耐ユ溫帶中部ニ在リテハ可成溫暖ナル地ヲ選フヘシ

ラウソンヒノキ(北米原産)

稍乾キタル壤土及埴質壤土ヲ好ミ砂質壤土及埴土ニ耐ユ土深一尺以上地味中以上ナルヲ要ス過濕地ニ耐エス通例適潤庇蔭ノ平地又ハ緩斜地ニ好適ス

クロマツ

一般ニアカマツニ似タルモ最海岸ニ適シ能ク潮水ニ耐ユ

ヒノキ(内地產)

稍乾キタル壤土及砂質壤土ヲ好ミ埴質壤土及埴土ニ耐ユ土深約一尺五寸以上地味中等以上ナルヲ要ス通例南東面ノ山腹以上ノ地又ハ排水良キ耕地廻リ屋敷ノ内外等ニ植栽スヘシ

スギ(内地產)

適潤肥沃ニシテ排水良キ壤土ヲ好ミ砂質壤土及埴質壤土ニ耐ユルモ砂土、埴土ニハ適セス又乾燥ニ耐エス土深約一尺五寸以上地味中等以上ナルヲ要ス通例暖帶北部ニ在リテハ北東面ノ山脚又ハ谷間等ニ植栽スヘク温帶南部ニ在リテハ南東面ノ山脚又ハ谷間等ニ植栽スヘシ

朝鮮ハ空氣乾燥スルカ故ニ暖帶及温帶南部ニハ造林シ得ムモ一般ニ好適地少シ

エンピツビヤクシン(北米原產)

稍乾キタル壤土及埴質壤土ヲ好ミ砂質壤土及埴土ニ耐ユ又濕地ニ耐ユル力强シ土深一尺五寸以上地味中等以上ナルヲ要ス通例水分多キ石交リノ土地又ハ石灰質土ニ最能ク生長シ岩石地ニモ耐ユ

セーダー(ヒマラヤ原產)

適潤肥沃ニシテ排水良キ壤土ヲ好ミ埴質壤土及砂質壤土ニ耐ユルモ砂土及埴土ニ耐エス土深一尺五寸以上地味中以上ナルヲ要ス通例南東面ノ山脚又ハ谷地ニ植栽スヘシ朝鮮ニハ適地少キモ生育ノ見込アリ

カイガンショウ(歐洲原產)

乾キタル砂質壤土又ハ砂土ヲ好ミ埴質壤土及埴土ニハ適セス通例海岸ノ砂地ニ砂防、防風、防潮用トシテ植栽セラル

シラカシ　アカガシ

適潤ナル壤土及埴質壤土ヲ好ミ埴土及砂質壤土ニモ生長ス砂土ニ適セス土深一尺五寸以上ナルヲ要ス通例山腹ノ緩斜地ニシテ直接ニ寒風ヲ受ケサル陰地ニ良好ナル生長ヲナス

第三　主要樹種ノ效用

例言

一、本編ハ朝鮮ニ於ケル造林適樹ノ內朝鮮產二十五種、內地產三種、外國產十四種ニ就キ其ノ效用ノ概要ヲ記載シタルモノナリ

二、內地產及外國產樹種ハ朝鮮ニ於ケル造林成績不明ナルモノ多シト雖內地ニ於ケル成績ヲ參考シ造林ノ見込アルモノヲ記載セリ

三、內地產及外國產樹種ハ樹名ノ下ニ各原產地名ヲ記載セリ

四、本編ニ掲ケタル造林適樹ノ內最安全且有利ニシテ比較的短期間ニ收益ヲ擧ケ得ルモノハ白楊類ニセアカシヤ、ハンノキ類、クヌギ及ナラ、アカマツ、クロマツ等ノ薪材、用材又ハ薪材用材兼用林クリノ收實及薪材用材兼用林等ナリ

シラベ

〔木材〕建築材。製紙原料。農具。下等家具。指物、曲物及經木類。

〔立木〕水源涵養等保安林適樹。

タウヒ
（木材）建築材特ニ板材、製紙原料、家具、指物、曲物、剞箸、經木類。
（樹皮）單寧原料。
（立木）水源涵養等保安林適樹。

エゾマツ
（木材）建築材、船及帆檣、電柱、鑛坑支柱、橋梁及一般土工材、製紙原料、農具、家具、指物、折箱、曲物及經木類。
（樹脂）松脂。
（立木）水源涵養、土砂扞止等保安林適樹。

カラマツ
（木材）建築材、帆檣及櫂、裝飾材、電柱、鐵道枕木、鑛坑支柱、橋梁其ノ他ノ耐濕土工材、農具、家具。
（樹皮）單寧原料。
（樹脂）松脂。
（立木）生籬、庭園樹、土砂扞止、水害防備、防風及風致等保安林適樹。

テウセンゴエフマツ
（木材）建築材、車輛材、電柱、鐵道枕木、橋梁及一般土工材、家具、指物、曲物及經木類、棺材。
（實）食用
（立木）庭園樹、水源涵養等保安林適樹

イタヤカヘデ
（木材）堅牢及裝飾ヲ主トスル建築材、船艦ノ艤裝材、農具、橇、馬具、槌、燃料、木炭。

〔立木〕 庭園樹。

ヤマナラシ

〔木材〕 製紙原料。包裝箱。彫刻材、鏇工材、經木、杓子、箸及總楊子類。燐寸軸木及箱。

カシハ

〔木材〕 裝飾材。鐵道枕木、其ノ他ノ耐濕用材。桶、樽類。器械、器具及其ノ箱類。燃料。

〔樹皮〕 單寧原料。染料。

〔葉〕 柞蠶飼料。蒸葉ハ餅ヲ包ミ又ハ竹皮ノ代用。

〔實〕 精製シテ食用。

ヤマハンノキ

〔木材〕 下等建築材。下等土工材。茶箱、家具。下等漆器ノ素地及鏇工材。小細工物。燃料及鍛冶屋炭。

〔樹皮〕 染料。

〔實〕 染料。

〔立木〕 土砂扞止、水源涵養等保安林適樹。

オホナラ

〔木材〕 鐵道枕木、鑛坑支柱、其ノ他ノ耐濕及耐壓用材。船艦及艀、櫂。裝飾材。農具。桶、樽及家具類。器械、器具及其ノ箱類。下駄歯。燃料及木炭。

〔樹皮〕 單寧原料及染料。屋根葺料。

〔實〕 精製シテ食用。

〔葉〕 柞蠶飼料。

〔立木〕防火樹。

ミヅナラ オホナラニ同シ

ドイツアカマツ(歐洲原產)

〔木材〕建築材。帆檣及船具。鐵道枕木、鑛坑支柱、鋪道材、橋梁及一般土工材。指物。燃料。

〔樹脂〕松脂。

オレゴンマツ(北米原產)

〔木材〕建築材。船艦及帆檣材。電柱、鐵道枕木、鑛坑支柱、橋梁及一般土工材。製紙原料。家具。指物、折箱、曲物及經木類。

ドイツタウヒ(歐洲原產)

〔木材〕建築材。船艦及帆檣。電柱、鑛坑支柱。製紙原料。樂器。包裝箱。家具。燃料。

〔樹皮〕單寧原料。

〔樹脂〕松脂。

歐洲カラマツ(歐洲原產)

〔木材〕建築材。船艦材。鐵道枕木、鑛坑支柱、橋梁及一般土工材。車輛材。家具。指物。

ドイツクロマツ(歐洲原產)

〔木材〕建築材。船艦、船具及帆檣。鐵道枕木、鋪道其ノ他ノ土工材。指物。燃料。

〔樹脂〕松脂。

モンゴリカシハオホナラニ同シケレトモ材少シク下等。

ドロノキ

〔木材〕製紙原料、包裝箱、經木、杓子、箸及總楊子類、燐寸軸木及箱、火藥用木炭、
〔果實〕白毛ハ綿ノ代用。
シホヂ
〔木材〕建築材、船艦艤裝材、車輛材、鐵道枕木、農具、天秤棒、把柄、西洋家具、下等ナル盆、椀類燃料。
アカマツ
〔木材〕建築材、船及船具、鑛坑支柱、橋梁及一般土工材、臼、杵、其ノ他農具、桶、樽及家具類、机案、指物、鏇工材、燐寸軸木及箱、燃料、下等木炭、松明、
〔樹皮〕眞皮ハ食用。
〔葉〕纖維ハ緞通原料、燃料。
〔花〕花粉ハ鮮人茶ノ代用又ハ菓子トナス。
〔樹脂〕松脂。
〔立木〕庭園樹、盆栽、松茸培養樹、土砂扞止、飛砂防止、防風及風致等保安林適樹。
テウセンモミ
〔木材〕建築材、製紙原料、農具、包裝箱、下等家具、指物、曲物及經木類、棺材、鍛冶屋炭。
〔立木〕庭園樹、水源涵養、風致等保安林適樹。
ピラミツトヤマナラシ（歐洲原產）
〔木材〕簡易ナル建築材、製紙原料、包裝箱、膠著板、曲物、經木、杓子、箸及總楊子類玩具、燐寸軸木及箱、燃料及木炭。
〔立木〕行道樹、庭園樹、水害防備及風致等保安林適樹。

モニリフエラヤマナラシ（北米原産）

〔木材〕　簡易ナル建築材特ニ床板。製紙原料。包裝箱。膠著板。栽物板。曲物。經木、杓子、箸及總楊子類。燐寸軸木及箱。燃料。

〔立木〕　行道樹。庭園樹。水害防備及風致等保安林適樹。

ニセアカシヤ（北米原産）

〔木材〕　下等建築材。船艦及櫂。鐵道枕木、鑛坑支柱、其ノ他一般耐濕土工材。裝飾材。器械及鉋臺、天秤棒等ノ器具。車輛材。鏇工材。燃料及木炭。

〔立木〕　行道樹。庭園樹。生籬。土地改良樹。防火樹。土砂扞止、水害防備及風致等保安林適樹。

クリ

〔木材〕　鐵道枕木、鑛坑支柱、其ノ他各種耐濕土工材。桶、樽、天秤棒及家具類。舵、櫂材。鏇工材。下駄歯。上等燃料及木炭。

〔樹皮〕　單寧原料。染料。

〔實〕　生食。菓子原料。料理用。搗栗。煎栗等トシテ貯藏ス。

〔葉〕　柞蠶飼料。

〔寄生蟲〕シラガダユウノ繭ハショール等ノ原料。

クヌギ

〔木材〕　杭材。椎茸栽培榾木。上等燃料及木炭。

〔樹皮及殼斗〕　單寧原料及染料

〔葉〕　柞蠶飼料。

ハンノキ

〔木材〕下等建築材。下等土工材。家具。下等漆器素地及鏇工材。玩具。燃料及鍛冶屋炭、火藥用木炭。

〔樹皮〕單寧原料及染料。

〔實〕染料。

〔立木〕水害ノ防備、防風等保安林適樹。

〔立木〕庭園樹。

ストロオブゴエフマツ(北米原産)

〔木材〕建築材。船艦及帆檣。指物、經木。燐寸軸木。燃料。

チウリップノキ(北米原産)

〔木材〕建具材及屋根板。船艦材。製紙原料。心材ハポンプノ導管、水桶等耐濕及耐壓器具。鏇工材。指物。

〔立木〕行道樹。庭園樹。

ホホノキ(内地産)

〔木材〕机案、製圖板、裁物板、碁盤。看板、額縁、札類。刄物ノ鞘、天秤棒。樂器。彫刻材、鏇工材、漆器素地。曲物及經木類鉛筆材。下駄齒。燐寸軸木。金銀漆器琢磨用木炭。

〔立木〕庭園樹。行道樹。

キリ

〔木材〕箪笥、長持、書棚、火鉢、煙草盆等ノ家具。裝飾材。琴瑟等ノ樂器。指物、經木類。琢磨及火藥用木炭。

〔葉〕煎汁ハ婦女子ノ洗髮用。

〔立木〕庭園ノ日除樹。

ケヤキ

〔木材〕上等硬質建築材。船艦材。裝飾材。硬質器具、器械、把柄及其ノ箱。上等家具。車輪、齒車及其ノ軸。鏇工材、彫刻材、上等漆器素地。玩具。陶磁器製造用炭。

〔枝條〕海苔篊朶材料。

〔葉〕琢磨用トシテトクサノ代用。

〔寄生菌〕老樹ノ切株ニハ美味ナルエノキダケヲ生ス。

〔立木〕庭園樹。行道樹。防風、目標及風致等保安林適樹。

コナラ

〔木材〕鑛坑支柱。桶、樽類。農具。下駄齒。椎茸榾木。上等燃料及木炭。

〔樹皮〕單寧原料及染料。屋根葺用。

〔實〕精製シテ餅、澱粉又ハアルコホル。

〔立木〕防火樹。

ラウソンヒノキ（北米原產）

〔木材〕建築材。船艦材。電柱、鐵道枕木、橋梁及一般土工材。桶、樽及其ノ他ノ家具類。

〔立木〕庭園樹。水源涵養、水害防備等保安林適樹。

クロマツ

〔木材〕（アカマツヨリ稍下等）建築材。船及船具。鑛坑支柱、橋梁及一般土工材。臼、杵、桶、樽及其ノ他ノ家具類。机案。鏇工材。燃料、下等木炭、松明。

〔樹皮〕眞皮ハ食用。松皮紙原料。

〔葉〕 燃料。香油原料。

〔樹脂〕 松脂。

〔立木〕 庭園樹。松茸培養樹。海濱ノ土砂扞止、飛砂防止、防風、潮害防備、目標、風致等保安林適樹。

ヒノキ(内地産)

〔木材〕 上等建築材。船及帆檣。電柱、鐵道枕木、橋梁及集約ナル土工材。農具。水管、桶、樽、箱、俎板、天秤棒及其ノ他ノ家具類。器械。裁物及製圖板。彫刻、鑄型及鏇工材、漆器素地。指物、折箱、曲物、箸及經木類。附木、燐寸軸木及箱。魚網浮標。

〔樹皮〕 屋根板及壁板ノ代用。繩。

〔立木〕 庭園樹。盆栽。水源涵養、土砂扞止、水害防備、防風及風致等保安林適樹。

スギ(内地産)

〔木材〕 建築材、船及帆檣。電柱、鐵道枕木、橋梁及一般土工材。製紙原料。農具。水管、桶、樽、箱及其ノ他ノ家具。指物、折箱、曲物及經木類。附木。下駄。漁網浮標。酒造用木香。

〔樹皮〕 屋根板又ハ壁板ノ代用。線香及抹香。繩。

〔立木〕 生籬。庭園樹。盆栽。水源涵養、土砂扞止、水害防備、風致等保安林適樹。

エンピツビヤクシン(北米原産)

〔木材〕 船艦材。電柱、鐵道枕木。桶、樽類。指物。鉛筆。

〔立木〕 庭園樹。

セーダー(ヒマラヤ原産)

〔木材〕 建築材。電柱、鐵道枕木。製紙原料。家具。指物。

カイガンシヨウ(歐洲原產)

〔木材〕建築材。電柱、鐵道枕木。包裝箱。粗指物。燃料。

〔樹脂〕松脂。

〔立木〕海濱ノ土砂扞止、飛砂防止、防風、潮害防備、目標及風致等保安林適樹。

アカガシ　シラカシ

〔木材〕硬質器具、器械及其ノ箱類。車輪、齒車及其ノ軸。定木、鉋臺、把柄。籾摺臼ノ齒。艪及櫂。下駄齒。燃料及木炭。

〔樹皮〕單寧原料及染料。

〔立木〕庭園樹。防火樹。水源涵養等保安林適樹。

第四　森林植物一覽表

寒帶	溫帶北部	溫帶中部	溫帶南部	暖帶北部	用途	備考
ハヒマツ						針　半　喬
イハヤナギ						闊　　灌
シヤクナゲ						常　闊　灌
シラカンバ	シラカンバ				用材、薪炭材	闊　　喬
シラベ	シラベ				用材	針　　喬
タウヒ	タウヒ	タウヒ			用材	針　　喬
エゾマツ	エゾマツ				用材	針　　喬
ハヒビヤクシン	ハヒビヤクシン	ハヒビヤクシン				針　　灌
カラマツ	カラマツ	カラマツ			用材	落　針　喬
アララギ	アララギ	アララギ			用材	針　　喬
テウセンゴエフマツ	テウセンゴエフマツ	テウセンゴエフマツ			用材	針　　喬
オガラバナ	オガラバナ					闊　半　喬
ミネカヘデ	ミネカヘデ					闊　半　喬
イタヤカヘデ	イタヤカヘデ	イタヤカヘデ			用材、薪炭材	闊　　喬

マカンバ	マカンバ					濶喬
ヂソウカンバ	ヂソウカンバ					濶喬
ミヤマハンノキ	ミヤマハンノキ				薪炭材	濶灌
ヤマナラシ	ヤマナラシ	ヤマナラシ			用材、薪材	濶喬
カシハ	カシハ	カシハ	カシハ	カシハ	用材、薪材、椎茸原料	濶喬
ミヤマナナカマド	ミヤマナナカマド					濶半喬
バッコヤナギ	バッコヤナギ	バッコヤナギ			用材	濶半喬
エゾウハミヅサクラ	エゾウハミヅサクラ	エゾウハミヅサクラ			用材、薪炭材	濶喬
ヤマハンノキ	ヤマハンノキ	ヤマハンノキ	ヤマハンノキ		用材、薪炭材	濶喬
アチダゴ	アチダゴ	アチダゴ	アチダゴ			濶喬
ネヅコ	ネヅコ	ネヅコ			用材	針喬
ハクシヨウ	ハクシヨウ	ハクシヨウ			用材	針喬
オホナラ	オホナラ	オホナラ	オホナラ		用材、薪炭材、椎茸原料	濶喬
ミヅナラ	ミヅナラ	ミヅナラ	ミヅナラ		用材、薪炭材、椎茸原料	濶喬
シナノキ	シナノキ	シナノキ			用材、薪材	濶喬
ハリギリ	ハリギリ	ハリギリ	ハリギリ	ハリキリ	用材、薪炭材	濶喬
ハウチハカヘデ	ハウチハカヘデ	ハウチハカヘデ	ハウチハカヘデ		用材、薪炭材	濶喬
マンシユウカヘデ	マンシユツカヘデ				用材、薪炭材	濶半喬
ハシドイ	ハシドイ	ハシドイ				濶半喬
パラモミ	パラモミ				用材	針喬
	(ドイツアカマツ)	(ドイツアカマツ)			用材、薪炭材	針喬(歐洲)
	(オレゴンマツ)	(オレゴンマツ)			用材	針喬(北米)
	(ドイツタウヒ)	(ドイツタウヒ)			用材	針喬(歐洲)
	(歐洲カラマツ)	(歐洲カラマツ)			用材、薪材	落針喬(歐洲)
	(ドイツクロマツ)	(ドイツクロマツ)	(ドイツクロマツ)		用材、薪炭材	針喬(歐洲)
	タラノキ	タラノキ	タラノキ			濶半喬
	チノチレカンバ	チノチレカンバ			用材、薪炭材	濶喬
	エゾエノキ	エゾエノキ				濶喬
	オホバシナノキ	オホバシナノキ			用材、薪材	濶喬
	イヌエンジュ	イヌエンジュ	イヌエンジュ		用材、薪炭材	濶喬

寒帶	温帶北部	温帶中部	温帶南部	暖帶北部	用途	備考
	ナナカマド	ナナカマド				濶　喬
	コレヤクルミ				用材	濶　喬
	モンゴリカシハ	モンゴリカシハ	モンゴリカシハ		用材、薪炭材、柞蠶飼料、椎茸原料	濶　喬
	ドロノキ	ドロノキ	ドロノキ		用材、薪材	濶　喬
	ケヤマハンノキ	ケヤマハンノキ	ケヤマハンノキ			濶　喬
	ヤマネコヤナギ	ヤマネコヤナギ	ヤマネコヤナギ			濶 牛 喬
	ネコヤナギ	ネコヤナギ	ネコヤナギ	ネコヤナギ		濶　灌
	ヤマザクラ	ヤマザクラ	ヤマザクラ	ヤマザクラ	用材、薪炭材	濶　喬
	チウセンウリハダカヘデ					濶 牛 喬
	ヤマブダウ	ヤマブダウ	ヤマブダウ			濶　蔓
	オホサンザシ	オホサンザシ	オホサンザシ			濶 牛 喬
	オホバヤナギ	オホバヤナギ	オホバヤナギ			濶　喬
	ミヅキ	ミヅキ	ミヅキ		用材、薪炭材	濶　喬
	キハダ	キハダ			用材、薪炭材	濶　喬
	カラコギカヘデ	カラコギカヘデ	カラコギカヘデ			濶 牛 喬
	ウリノキ	ウリノキ	ウリノキ		用材、薪炭材	濶 牛 喬
	ニハトコ	ニハトコ	ニハトコ	ニハトコ		濶　灌
	シホヂ	シホヂ	シホヂ	シホヂ	用材、薪炭材	濶　喬
	シラクチツル	シラクチツル	シラクチツル			濶　蔓
	アチハダ	アチハダ	アチハダ	アチハダ		濶　喬
	クロウメモドキ	クロウメモドキ	クロウメモドキ	クロウメモドキ		濶　灌
	ヤマナシ	ヤマナシ	ヤマナシ	ヤマナシ		濶　喬
	コブニレ	コブニレ	コブニレ			濶　喬
	オヒヨウニレ	オヒヨウニレ			薪炭材	濶　喬
	ツノハシバミ	ツノハシバミ	ツノハシバミ			濶　灌
	ハシバミ	ハシバミ	ハシバミ	ハシバミ		濶　灌
	ミツバカヘデ	ミツバカヘデ	ミツバカヘデ	ミツバカヘデ	用材、薪炭材	濶 牛 喬
	ナラカシハ	ナラカシハ			薪炭材、椎茸原料	濶　喬
	ハルニレ	ハルニレ	ハルニレ	ハルニレ	用材、薪炭材	濶　喬

クハ	クハ	クハ	クハ	用材、蠶ノ飼料	闊	喬
カラフトズミ	カラフトズミ	カラフトズミ			闊	半喬
ピヤクシン	ピヤクシン	ピヤクシン	ピヤクシン	用材	針	喬、
アカマツ	アカマツ	アカマツ	アカマツ	用材、薪炭材	針	喬
テウセンモミ	テウセンモミ			用材	針	喬
(ピラミッドヤマナラシ)	(ピラミッドヤマナラシ)	(ピラミッドヤマナラシ)	(ピラミッドヤマナラシ)	用材、薪炭材	闊	喬(歐洲渡來)
(ニセアカシヤ)	(ニセアカシヤ)	(ニセアカシヤ)	(ニセアカシヤ)	用材、薪炭材	闊	喬(北米渡來)
(モコリフエラヤマナマシ)	(モニリフエラヤマナラシ)	(モニリフエラヤマナラシ)	(モニリフエラヤマナラシ)	用材、薪炭材・	闊	喬(北米)
ヤマウルシ	ヤマウルシ	ヤマウルシ	ヤマウルシ		闊	半喬
コノデガシハ	コノデガシハ	コノデガシハ	コノデガシハ		針	喬
トネリコ	トネリコ	トネリコ		用材、薪炭材	闊	喬
ネズミサシ	ネズミサシ	ネズミサシ	ネズミサシ		針	喬
シダレヤナギ	シダレヤナギ	シダレヤナギ	シダレヤナギ		闊	喬
(ストローブゴユフマツ)	(ストローブゴエフマツ)	(ストローブゴエフマツ)		用材	針	喬(北米)
シンジユ	シンジユ	シンジユ	シンジユ	樗蠶飼料	闊	喬
クリ	クリ	クリ	クリ	用材、薪炭材、種實用	闊	喬
クヌギ	クヌギ	クヌギ	クヌギ	薪炭材、椎茸原料	闊	喬
アベマキ	アベマキ	アベマキ	アベマキ	薪炭材、コルク料	闊	喬
タウハウチハカヘデ	タウハウチハカヘデ	タウハウチハカヘデ	タウハウチハカヘデ		闊	喬
ウルシ	ウルシ	ウルシ	ウルシ	塗料、用材、薪材	闊	半喬
ハンノキ	ハンノキ	ハンノキ	ハンノキ	用材、薪炭材	闊	喬
アツキナシ	アツキナシ	アツキナシ	アツキナシ	薪炭材	闊	喬
エンジユ	エンジユ	エンジユ	エンジユ	用材、薪炭材	闊	喬
(チユリップノキ)	(チユリップノキ)	(チユリップノキ)		用材	闊	喬(北米)
ナシ	ナシ	ナシ	ナシ		闊	喬
アンズ	アンズ	アンズ	アンズ		闊	喬
スモモ	スモモ	スモモ	スモモ		闊	喬
モモ	モモ	モモ	モモ		闊	喬
イボタ	イボタ	イボタ	イボタ		闊	灌
ダンコウバイ	ダンコウバイ	ダンコウバイ	ダンコウバイ		闊	灌

寒帯	温帯北部	温帯中部	温帯南部	暖帯北部	用途	備考
	ハリケヤキ	ハリケヤキ	ハリケヤキ			闊半喬
	ユスラウメ	ユスラウメ	ユスラウメ			闊灌
	ナツメ	ナツメ	ナツメ			闊半喬
	サハシバ	サハシバ	サハシバ	サハシバ	薪材	闊喬
	イヌツゲ	イヌツゲ	イヌツゲ	イヌツゲ		常闊灌
		アカシデ	アカシデ	アカシデ	薪炭材、椎茸原料	闊喬
		ハクウンボク	ハクウンボク			闊喬
		ムラサキツツヂ	ムラサキツツヂ			闊灌
		(ホホノキ)	(ホホノキ)	(ホホノキ)	用材	闊喬(内地)
		ヌルデ	ヌルデ	ヌルデ		闊半喬
		ツゲ	ツゲ	ツゲ		常闊半喬
		サンセウ	サンセウ	サンセウ		闊灌
		イヌサンセウ	イヌサンセウ	イヌサンセウ		闊灌
		カハヤナギ	カハヤナギ	カハヤナギ		闊半喬
		コリヤナギ	コリヤナギ	コリヤナギ	用材	闊灌
		キリ	キリ	キリ	用材	闊喬
		シナキリ	シナキリ	シナキリ	用材	闊喬
		テウセンゴシユウ	テウセンゴシユウ	テウセンゴシユウ		闊喬
		クサギ	クサギ	クサギ		闊灌
		ニガキ	ニガキ	ニガキ		闊半喬
		サイカチ	サイカチ			闊喬
		リンゴ	リンゴ	リンゴ		闊喬
		カキ	カキ	カキ		闊喬
		テウチクルミ	テウチクルミ		用材、薪材	闊喬
		ケヤキ	ケヤキ	ケヤキ	用材、薪炭材	闊喬
		イテフ	イテフ	イテフ	用材、薪材	落針喬
		マユミ	マユミ	マユミ		闊半喬
		クヮリン	クヮリン	クヮリン		闊喬
		エゴノキ	エゴノキ	エゴノキ	用材、薪材	闊半喬

ヤチパハンノキ	ヤチパハンノキ			闊喬
ナツハゼ	ナツハゼ	ナツハゼ		闊灌
ネムノキ	ネムノキ	ネムノキ		闊半喬
イヌガヤ	イヌガヤ	イヌガヤ		針喬
マルミノイヌガヤ	マルミノイヌガヤ	マルミノイヌガヤ		針喬
マサキ	マサキ	マサキ		常闊灌
ヤマボウシ	ヤマボウシ	ヤマボウシ		闊半喬
ヨシノザクラ	ヨシノザクラ	ヨシノザクラ	用材、薪炭材	闊喬渡來
コナラ	コナラ	コナラ	用材、薪炭材、椎茸原料	闊喬
クロモジ	クロモジ	クロモジ		闊灌
コブシ	コブシ	コブシ		闊喬
フジ	フジ	フジ		闊蔓
アケビ	アケビ	アケビ		闊蔓
カウゾ	カウゾ	カウゾ	燃料	闊灌
(ラウソンヒノキ)	(ラウソンヒノキ)	(ラウソンヒノキ)	用材	針喬(北米)
サルスベリ	サルスベリ	サルスベリ		闊半喬
ケンポナシ	ケンポナシ	ケンポナシ		闊喬
イヌシデ	イヌシデ	イヌシデ		闊喬
ナツツバキ	ナツツバキ	ナツツバキ		闊半喬
	クロマツ	クロマツ	用材、薪炭材	針喬
	ムクエノキ	ムクエノキ		闊喬
	エノキ	エノキ		闊・喬
	ハリグハ	ハリグハ		闊半喬
	タマツバキ	タマツバキ		常闊半喬
	アカメヤナギ	アカメヤナギ		闊喬
	ノブノキ	ノブノキ	用材	闊喬
	アキニレ	アキニレ	薪炭材	闊喬
	チヤンチン	チヤンチン	用材、薪炭材	闊喬
	ヒトツバタゴ	ヒトツバタゴ		闊喬
	クマノミヅキ	クマノミヅキ	用材、薪炭材	闊喬

寒帯	温帯北部	温帯中部	温帯南部	暖帯北部	用途	備考
			アサダ	アサダ	薪炭材	濶喬
			ヤダケ	ヤダケ	用材	竹
			マダケ	マダケ	用材	竹
			カラタチ	カラタチ		濶灌
			モツコク	モツコク		常濶半喬
			ツバキ	ツバキ	油料	常濶半喬
			ザクロ	ザクロ		濶半喬
			カヤ	カヤ	用材、種實用	針喬
			アハブキ	アハブキ		濶喬
			カナクギノキ	カナクギノキ		濶灌
			ユズリハ	ユズリハ		常濶喬
			チヤ	チヤ		常濶喬
			トベラ	トベラ		常濶半喬
			ヒヒラギ	ヒヒラギ		常濶半喬
			ヒサカキ	ヒサカキ		常濶灌
			クマササ	クマササ		竹
			クロチク	クロチク	用材	竹
			シヤシヤンボ	シヤシヤンボ		常濶半喬
			カキノキダマシ	カキノキダマシ		濶喬
			ハチク	ハチク	用材	竹
			(ヒノキ)	(ヒノキ)	用材	針喬(内地)
			(スギ)	(スギ)	用材	針喬(内地)
			アカメカシハ	アカメカシハ	用材、薪炭材	濶喬
			ツルグミ	ツルグミ		常濶灌
			(エンピツビヤクシン)	(エンピツビヤクシン)	用材	針喬(北米)
			(セーダー)	(セーダー)	用材	針喬(ヒマラヤ)
			(カイガンシヨウ)	(カイガンシヨウ)	用材、薪材	針喬(歐洲)
				ホツバタブ		常濶喬
				イヌビハ		濶半喬

イスノキ	用材、薪炭材	常濶喬
カクレミノ		常濶半喬
カラスノサンセウ		濶半喬
ヤブニッケイ		常濶喬
モチノキ		常濶半喬
ユズ		常濶半喬
イヌクス		常濶喬
シヒノキ	用材、薪炭材、椎茸原料	常濶喬
ツクバネガシ	用材、薪炭材、椎茸原料	常濶喬
アカガシ	用材、薪炭材、椎茸原料	常濶喬
アラガシ	用材、薪炭材、椎茸原料	常濶喬
ヤマモモ		常濶喬
シラカシ	用材、薪炭材、椎茸原料	常濶喬
ウラジロカシ	用材、薪炭材、椎茸原料	常濶喬
クロカシ	用材、薪炭材、椎茸原料	常濶喬
ミミヅバヒ		常濶喬
クスドイゲ		常濶半喬
クスノキ	用材、製脳料、薪炭材	常濶喬
ミカン		常濶半喬

備考

一、本表ハ朝鮮ニ於ケル森林植物ノ内喬木及半喬木ハ調査濟ノモノヲ全部、灌木及蔓莖植物ハ主ナルモノヲ選ヒ尚内地產及外國產ノ有用樹種ヲモ列記シ各其ノ造林シ得ル植物帶別ニ揭記セリ

二、本表ニ於ケル略符左ノ如シ

針　喬　　常綠針葉ノ喬木

針半喬　　常綠針葉ノ半喬木

針灌	常綠針葉ノ灌木
落針喬	落葉針葉ノ喬木
濶喬	落葉濶葉ノ喬木
濶半喬	落葉濶葉ノ半喬木
濶灌	落葉濶葉ノ灌木
濶蔓	落葉濶葉ノ蔓莖
常濶喬	常綠濶葉ノ喬木
常濶半喬	常綠濶葉ノ半喬木
常濶灌	常綠濶葉ノ灌木
常濶蔓	常綠濶葉ノ蔓莖
竹	竹類
（　）	內地產及外國產ノ樹種、但シ其ノ產地ヲ備考欄ニ記載シ括弧ヲ以テ示セリ
――	主要造林樹種
渡來	外國樹種ニシテ曩ニ朝鮮ニ移植セラレ在來種ノ如ク優秀ナル生育ヲナシツツアルモノヲ示ス

三、本表ニハ從來通稱セラレタル內地名ヲ揭ケタリト雖內地產ト種ヲ異ニスルモノ少カラス例ヘハ左ノ如シ

通稱	學名
マカンバ	Betula davurica Pall.
シナノキ	Tilia amurensis Kom. Tilia manchurica Rupr.
ハウチハカヘデ	Acer japonicum Thunb. var. nudicarpum Nakai.
ヲノヲレカンバ	Betula Schmidti Rgl.
テウセンウリハダカヘデ	Acer tegmentosum Max.
ミツバカヘデ	Acer triflorum Kom.
テウセンモミ	Abies holophylla Max.
ハリケヤキ	Zolkowa Davidii B. et. H.
テウセンゴシユ	Zanthoxylum Danielli Benv.

○滿洲ニ於ケル輸入朝鮮米

附、滿洲各地ニ勃興セル水田事業ノ狀況及同事業カ將來朝鮮米ニ及ホス影響

甲、滿洲ニ於ケル朝鮮米ノ狀況

第一　緒言

現今朝鮮米ノ滿洲ニ輸入セラルル經路ニ二アリ一ハ仁川、鎭南浦、群山、木浦、釜山等ノ諸港ヨリ海路大連港

ヘ輸送セラレ他ハ陸路鮮滿鐵道直通輸送ニ依リ安東縣ヲ經由シテ滿洲內陸ニ入込ムモノ即チ是レナリ尙他ニ海運ニヨリ營口ニ陸揚セラルルモノアリト雖未タ甚タ微微タルモノニシテ敢テ重キヲナスニ足ラス故ニ以下主トシテ大連及安東縣ヲ經由シ滿洲ニ輸送セラルル朝鮮米ノ同地ニ於ケル商況ヲ縷述シ併セテ其ノ將來ノ形勢ヲトセムトス

第二　滿洲ニ於ケル鮮米ノ需給狀況

大連港ハ其ノ地位關東州ノ突端ニ位シ附近ニハ本邦人ノ移住者多ク從テ日常食料品タル白米ノ需用ハ滿鐵沿線各地ニ比較シテ著シク大ナルモノアリ今滿洲各都邑ニ於ケル一箇月ノ白米需要高ヲ示セハ左ノ如シ

大連	四、三〇〇石	奉天	八四〇石	安東縣	七八〇石
營口	三〇〇	長春	三九〇	千金寨	四二〇
旅順	五四〇	鐵嶺	三六〇	公主嶺	二三〇
遼陽	三二〇	大石橋	一七〇		

而シテ現今滿洲各地ニ輸入セラルル白米ノ產地ヲ見ルニ朝鮮米アリ、南清米アリ、內地米アリト雖其ノ約八割强ハ實ニ朝鮮ノ產米ニシテ左ニ揭ケタル大連埠頭滿鐵事務所ノ輸入統計ハ其ノ一端ヲ示スモノト謂フヲ得ヘシ

	四十三年	四十四年
朝鮮米	八一、五五八石	一〇一、一三〇石
南清米	七、三二〇	九、二七六
內地米	四、九九二	五、六七〇
合計	九三、八七〇	一一六、〇七六

南北滿洲ノ最近ノ調査ニ係ル人口ハ一千六百餘萬ノ多數ヲ示スト雖其ノ白米ヲ常食トスルモノハ僅ニ

七萬餘ノ本邦人アルノミ他ハ清國人ニシテ且其ノ大部ハ農民ナルヲ以テ一般生活程度甚タ低ク多クハ高粱、火燒(麥粉ニテ製シタル燒パン)饅頭(蒸饅頭)、餛飩等ヲ常食トシ白米ノ需要ハ極メテ少額ナリトス四十四年ニ於ケル安東縣ノ輸入額ハ未タ判明セサルモ四十三年同地輸入朝鮮米ハ四萬一千七百二十七石ナルニ依リ之ニ前記ノ同年大連港輸入額九萬三千八百七十石ヲ加フルトキハ合計十三萬五千五百九十七石ニ上レリ而シテ安東縣輸入米ハ全部朝鮮産ナルモ大連港ニ陸揚シタルモノハ南清及内地ノ産米ヲ含ミ其ノ四十四年ニ於ケル輸入割合ハ朝鮮米八割七分一厘南清米八分内地米四分九厘ナルヲ見ハ以テ滿洲ニ於ケル朝鮮米カ各市場ヲ獨占セルノ狀況ヲ知ルニ足ルヘシ、斯ノ如ク朝鮮米ノ優勢ナル位地ニ立テル所以ヲ考察スルニ由來日本產米ハ世界ニ卓絕セル美味ヲ有シ最本邦人ノ嗜好ニ適スルニ依リ彼ノ蘭貢米ノ如キ品質甚シク劣レルモノハ單ニ價格ノ差ヲ以テノミハ邦人間ニ勢力ヲ得ル能ハス依然内地人ハ内地產米ニ戀戀タルモノアリ然レトモ遠ク母國ヲ離レテ滿洲ノ地ニ移住セルモノカ日常ノ食料米ノ供給ヲ内地ニ仰クニ於テハ近來益價格騰貴ノ傾向アル内地米ヲ一層高價ナラシメ到底需要供給ノ良好ナル結果ヲ見ル能ハス是ニ於テカ勢ヒ其ノ代用品ヲ求メサルヘカラス而シテ朝鮮米ハ其ノ品質最内地米ニ類シ其ノ風味亦内地米ニ比シ敢テ遜色ナキノミナラス價格低廉ニシテ且運送上ノ利便到底内地產ノ比ニアラス故ニ明治四十年以降本邦人間ニ多量ノ需要ヲ惹起シ年ト共ニ增加シツヽアリ今大連輸入米需要狀況ノ變遷ヲ明カナラシムル爲、關東都督府調查輸入年表ヲ左ニ掲載スヘシ

種別	三十九年下半期 輸入價額	割合	四十年 輸入價額	割合	四十一年 輸入價額	割合	四十二年 輸入價額	割合
内地米	円 一七一、六五五	六二六	円 三三七、一〇一	二四七	円 二二九、二五九	一三〇	円 六五、七〇二	五四
南清米	一〇二、五五四	三七四	二一、六八二	一六	六三、一九三	三六	一三〇、〇二五	一〇六
朝鮮米	—	—	九七七、六〇九	七三七	一、四六七、七七五	八三四	一、〇二五、九八三	八四〇
合計	二七四、二〇九		一、三三六、三九二		一、七六〇、二二七		一、二二一、七一〇	

斯ノ如ク白米ノ滿洲ニ輸入セラレタル量ハ近年內地人移住激增ト共ニ逐年增加シ明治四十二年ノ百二十二萬一千七百十圓ハ翌四十三年ニ至リテ更ニ二十八萬餘圓ヲ增加シ合計百五十萬四千九百三十圓ノ多額ニ上レリ

第三　大連ニ於ケル商況

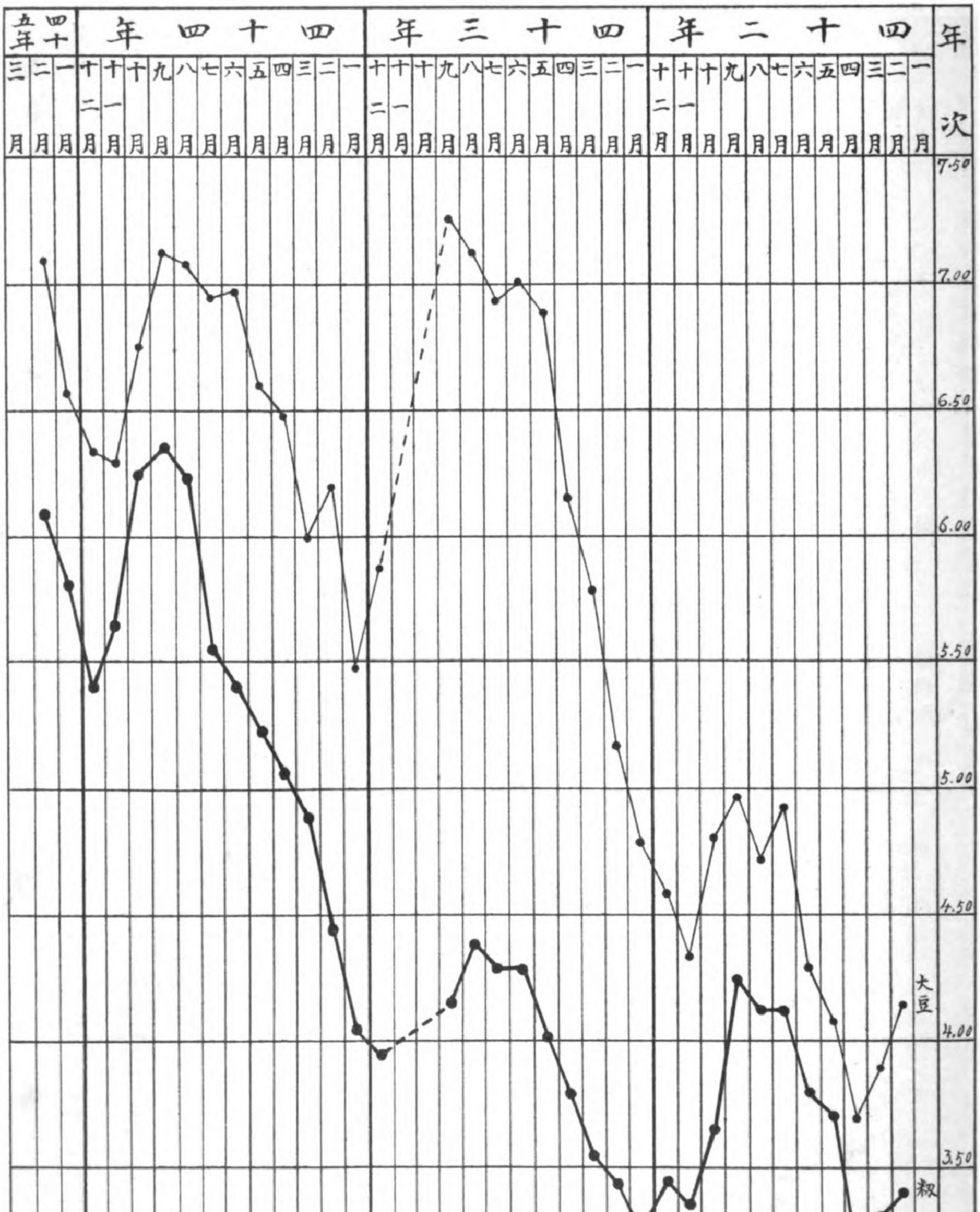
大連ニ於ケル朝鮮米ノ商況ハ同市カ最大需要地タルノ故ヲ以テ研究スルノ必要アリ而シテ四十三年ニ於テハ二月ノ卸賣平均相場一石十一圓八十錢ヲ最低トシ十月ノ平均十四圓八十錢ヲ最高トセシカ同年日本內地ニ於テハ水害ヲ蒙リタル地方多ク米作不況ノ豫想ハ早クモ朝鮮ニ於ケル米價ヲ昂騰セシメ其ノ影響ハ忽チ大連市場ニ波及シ翌四十四年ノ白米相場ハ俄カニ強氣配ヲ現出セリ卽チ左表ノ如シ

四十四年大連ニ於ケル鮮米卸賣相場(上等品)

一月	十五圓六十錢	二月	十五圓八十錢	三月	十七圓三十錢
四月	十七圓三十五錢	五月	十七圓八十錢	六月	十八圓五十錢
七月	二十圓五十錢	八月	二十一圓八十錢	九月	二十一圓六十錢
十月	二十一圓三十錢	十一月	二十一圓四十錢	十二月	二十一圓五十錢

斯ノ如ク下半期ニ於テハ二十一圓臺ヲ拔クニ至リタリ是レ蓋日本內地ノ米商カ頻リニ買煽レル折柄七月ニ於ケル關稅改正ヲ控ヘテ產地農家ノ賣惜ミニ場面狂騰ヲ來シ是ト共ニ大連白米市場ノ普通七八千叺(三斗入)ノ在荷ハ七月頃ニ至リテ著シク減少シ平常ノ三分ノ一トナリ且動モスレハ品切レヲ告ケムトスルノ悲境ニ陷リタリ當時大連到著米ノ如何ニ急減セルカハ左表ノ埠頭事務所調査ニ係ル揚荷統計ニ依テ窺フヲ得ヘシ

明治四十二年以降穀價（籾大豆）高低表



四十四年大連港輸入鮮米仕出港別（單位石）

月別	仁川	木浦	鎮南浦	群山	釜山	合計
一月	四,五〇〇	一,六九二	—	一七四	三〇	六,三九六
二月	五,六五二	二,〇八八	—	九〇〇	—	八,六四〇
三月	五,八五〇	一,六二〇	一,八七八	四,四七六	—	一三,八二四
四月	二,〇八八	九七八	二,七七八	九一八	—	六,七六二
五月	一,九八六	二,五六二	四,四八二	一,〇九八	一八	一〇,一四六
六月	二,八二六	八六四	一,七八八	二二二	—	五,七〇〇
七月	二,一七二	五五八	二,一七二	三三〇	—	五,二三二
八月	三,〇三〇	一,〇一四	四,一九四	八九四	—	九,一三二
九月	一,八〇六	五七六	四,二三〇	一六八	四八	六,八二八
十月	一,七九四	二〇四	三,九六〇	一,〇四四	七八	七,〇八〇
十一月	二,九八二	九二四	三,七九八	一,二〇六	—	八,九一〇
十二月	三,八二八	九三〇	五,一二四	二,四八四	一一四	一二,四八〇
計	三八,五一四	一四,〇一〇	三四,四〇四	一三,九一四	二八八	一〇一,一三〇

右表示セルカ如ク六、七月ノ鮮米出廻ハ急減ヲ告ケシト雖越エテ八月氣配ハ依然底強ナカラ産地側ノ出荷稍〻活潑トナリ在荷漸ク常態ニ復シタルニ依リ四十五年年初ノ當地相場ハ二十一圓見當ニ低下セリ是レ昨秋朝鮮ノ米作ハ平年作ノ一割以上ノ増收ヲ見一面内地移出ノ甚タ振ハサリシニ基因スルモノナリ

第四、滿洲ニ於ケル朝鮮米ノ將來

以上敍述シタル諸種ノ現象ヲ綜合シ鮮米滿洲輸入ノ前途ヲ考究スルニ過去數年間ノ趨勢ハ多大ノ望ヲ囑セシムルニ足ル然レトモ近來注目ヲ怠ルヘカラサル現象ハ四十三年以降滿洲ノ平野ニ勃興セル水田

事業即チ是ナリ而シテ目下滿洲產水田米ハ其ノ品質ニ於テ未タ朝鮮米ニ匹敵スル能ハスト雖市場ニ於ケル兩者ノ相場ハ石七八圓ノ開キヲ有シ滿洲產米ヲ廉價トスルノ弊ハ今後或ハ中流以下ノ邦人及上流清人間ニ意外ノ歡迎ヲ受クルコト無キヲ保シ難ク近ク同米ノ收穫高ニシテ劇增セムカ朝鮮米ノ强敵タルヲ失ハサルナリ故ニ以下少シク滿洲ニ於ケル水田事業ノ狀況ヲ記述シ以テ參考ニ資セムトス

乙、滿洲各地ニ勃興セル水田事業ノ狀況及同事業カ將來朝鮮米ニ及ホス影響

第一、滿洲各地ニ勃興セル水田事業

滿洲ノ經濟狀態ハ農業ヲ本位トス故ニ此ノ地ニ移住シ來ル多數ノ人民モ農ヲ以テ生計ノ資ヲ求メツツアリ然レトモ此ノ茫茫タル沃野ニハ孜孜土ニ塗レテ勞働スル清國農民アリ彼等カ祖先以來踏襲セル農法ハ全ク米大陸ニ見ル大農法ト其ノ規ヲ一ニシ日本內地ノ如キ掌大ノ地ニ集約農業ヲ營ミタル本邦農夫ノ耕作法トハ著シク其ノ趣ヲ異ニス故ニ本邦移民カ農業ヲ以テ彼等ト競爭セムトスルニ於テハ須ラク母國ニ於テ永キ經驗ヲ有スル米作ノ好適地ヲ求メテ之ニ水田事業ヲ興スノ有利ナルニ如クハナシ現今滿鐵沿線地方ニ於ケル農作種別ハ大豆、高粱、粟、稗等其ノ主ナルモノニシテ就中高粱ノ作付反別ハ全耕地ノ過半ヲ占メ其ノ收穫物ハ清人ノ常食ニ供セラルルノ外高粱酒釀造ノ原料トナリ又莖幹ハ同地方唯一ノ燃料ニシテ最重要ナル農產物ナリト雖其ノ收益比較ニ至リテハ到底大豆作及稻作ニ及ハサルナリ

滿洲重要農產物成績比較概算

種別	耕作面積	收穫高	同上價額	支出	一段步純益
米	一段步	二石二斗外ニ藁	二十八圓四十錢	十三圓五十錢	十四圓九十錢
大豆	一晌地	五石	銀五十元	銀二十二元	五圓八十錢(換算)

高粱	一晌地	八石 外ニ莖幹	銀六十五元	銀四十七元	三圓八十錢(換算)

備考 一晌地ハ我カ三段七畝十三歩餘ナリ

斯ク有利ナル米作カ從來何故滿洲ニ於テ行ハレサリシヤヲ考究スルニ由來滿洲人ハ永ク粗食ニ慣レ主トシテ高粱飯ヲ常食トシ又其ノ莖稈ナカリセハ日常炊事ノ燃料ニ缺乏シ其ノ他冬季間ニ於ケル温突爐用燃料、家屋築造材料等ニモ使用スルヲ以テ高粱ハ最重要ナル農産物トナリ清人ハ鋭意之カ耕作ニ從事シ敢テ他ヲ顧ミルノ遑ナカリキ、而シテ清人モ米作法ヲ知ラサルニ非スト雖滿洲地方ハ一般ニ雨量少ナク五月ヨリ十月ニ至ル間ノ總量ハ六百粍内外ニ過キス而モ此ノ僅少ナル降水モ樹木鬱蒼タル山野ニ乏シキヲ以テ忽チ海洋ニ注入シ遼河、渾河、大子河等ノ如キ大河川ヲ除クノ外何レモ平日ハ涸渇シテ流水ヲ見ス米國式ノ機械力ヲ藉リテ灌漑ヲナスカ如キハ未タ彼等ノ夢想タモ及サル所ニシテ滿洲ノ農業カ今日ノ狀況ヲ呈セルハ畢竟彼等農民カ農業ニ關スル智識ノ幼稚ナルニ因ルモノトス、今其ノ實例ヲ提供スレハ熊岳城ニハ既ニ數十年來清人ノ經營ニ係ル廣袤百數十町歩ノ水田アリト雖其ノ舊慣ヲ墨守セル耕作法ハ收穫高ニ何等增進ヲ見ル能ハサリキ而シテ日露戰役以後本邦人ノ此ノ地ニ移住スルモノ多ク今ヤ七萬餘ヲ算スルニ至リ彼等カ唯一ノ食料タル白米ハ朝鮮半島ヨリ滔滔トシテ此ノ地ニ流入シ一箇年十五萬石内外ノ巨額ニ上レルヲ見テ從來久シク閑却サレシ水田事業モ漸ク本邦人ノ注意スル所トナリタリ

滿洲ニ於ケル水田事業カ始テ世人ノ注目ヲ喚起スルニ至リシハ先年新民府管内公大堡子ニ朝鮮人カ經營シタリシ三百町餘ノ水田カ會々利權回收熱ニ驅ラレシ清國土民ニ還附ヲ迫ラレ茲ニ端ナク外交問題ヲ惹起シタル以後ノ事ニシテ爾來斯業ニ注目セル本邦人ノ各所ニ試作セシ成績ハ甚タ見ルヘキモノアリ近時清人亦奉天北陵附近ニ於テ約四千八百町餘ノ試作ヲナスモノアリテ今ヤ稻作收益ノ他ニ優レルハ、

一般支那農民間ニモ會得セラレ水田耕作ニ從事スルモノ益〻多キヲ加フルニ至レリ、サレハ近キ將來ニ於ケル滿洲產米ハ相當ノ額ニ達スルハ敢テ困難ナラサルヘシト謂フ而シテ現下此ノ地方ニ良好ノ效果ヲ收メツツアルハ多クハ本邦人經營ノ農場ニシテ其ノ各地方ニ於ケル狀況左ノ如シ

一、奉天附近ニ於ケル水田事業

四十三年以來奉天附屬地內ニ水田ヲ經營シタル勝弘某ハ從前自己所有地ニ專ラ大豆、高粱、包米等ヲ耕作シタリシカ近年ニ至リ偶〻同地方ノ地質カ米作ニ適スルヲ發見セシヨリ先ツ畑地二千餘坪ヲ水田ト爲シ曩ニ新民府ヲ逐ハレタル朝鮮人數十名ヲ傭入レ此處ニ稻作ヲ試ミタル結果翌年更ニ開墾地ヲ擴大シテ百町歩トナシ稻苗ノ植付ヲ爲スト共ニ土地柄旱魃ノ久シキヲ慮リテ米國ニ行ハルル灌漑法ニ則リ附近ニ堀井戶四、五箇所ヲ設ケ機械力ヲ以テ高處ニ貯水シ是ヨリ隨時各水田ニ用水ヲ供給スルノ設備ヲナシ目下使用中ノ喞筒ノ灌漑力ハ一時間約八百石ナリト謂フ

今四十四年ニ於ケル收穫高ヲ聞クニ一段歩平均二石二斗ニシテ同地ノ土壤ハ甚タ肥沃ナルモノアリ試作當初ノ如キハ施肥多キニ過キ却ヲ失敗セルカ如キ有樣ニシテ今後四、五年間ハ殆ト施肥ノ必要ナカルヘシト謂フ而シテ本年更ニ數十町歩ヲ擴張スル豫定ノ由ナルカ其ノ將來ノ發展今ヨリ豫測スルニ難カラス

二、撫順水田ノ狀況

撫順炭坑附近ニ耕作シツツアル水田ハ大江某ノ二百町歩ニ次キ山崎某ノ百町歩等ナリ而シテ滿洲ニ於ケル米作經營ニ關スル山崎某ノ所說ハ參考ニ値スルモノアリ曰ク滿洲ノ河川ハ緩流ナルカ故ニ內地ニ於ケルカ如ク米作地ニ河水ヲ引入レムコトハ困難ニシテ其ノ費用モ少ナカラサルヘク故ニ何レノ河川ヲ利用スルモ喞筒ヲ用キテ灌漑スルヲ得策トス、サレハ水田ノ經營ハ石炭豐富ニシテ電力供給ノ便アル

撫順炭坑附近ヲ最適當ノ地ト謂フヲ得ヘシ撫順水源地ニハ既ニ電力供給ノ設備アリテ適當ノ喞筒ヲ据付ケムニハ直ニ三百町歩ノ水田ヲ開墾シ得ヘク尚老虎臺坑東方一帶ノ平原モ大鶯咀子ニ於テ東洲河ノ水ヲ引用セハ優ニ五百町歩ノ水田ヲ作ルヲ得ヘシ而シテ滿洲ニ於テ農業ヲ經營セムトセハ先ツ土地問題ヲ考究セサルヘカラス即チ兩國民ノ合併法ニ依ルカ或ハ借地法ヲ採ルカノ二途アリ又本邦人カ米田耕作ノ爲若干ノ淸人ヲ使用スルニ際シテモ小作米納入ノ方法ヲ取リ四分、六分ノ割合ヲ以テ收穫利益ヲ配分セハ容易ニ紛擾ノ生スルコトナカルヘク斯クシテ資本ニ對シ年年一割二分以上ノ利益ヲ得經營資本ノ借入利子ヲ年七分トスルモ約二十箇年ニシテ元金ヲ償還スルヲ得ヘシト、而シテ山崎某ハ明治四十年頃撫順炭坑水道工事ニ從事セシ際運河ノ水量及沿岸ノ土地ヲ踏査スルニ及ムテ圖ラス米田開發ノ有利ナルヲ發見シ其ノ後再撫順水源地附近一帶ノ荒蕪地ヲ調査シテ愈、水田適好地ナルヲ知リ又同地ノ氣候ハ北海道ニ類似セルヲ以テ旭川地方ニ産スル農作物ヲ耕作セハ必ス良好ノ結果ヲ得ヘキヲ確信シ四十三年中該地方ヨリ種子ヲ取リ寄セ試ニ二十八坪ノ耕地ニ播種シタルニ僅僅四十日ニシテ穗ヲ出シ十月中旬ニハ早クモ苅取リヲ了シ一反歩六俵餘ノ收穫割合ヲ得タルニ依リ昨年ハ耕地面積ヲ擴張シ著著經營ノ歩武ヲ進メタリ其ノ四十四年度ノ收穫成績ハ未タ發表セサルモ同地方ノ結實豐穰ナリシヲ傳フルヲ以テ一段歩ノ收穫ハ恐ラクハ二石三斗以上ヲ算セシナルヘシト謂フ

三、關東洲ノ水田事業

大連附近ノ水田事業ハ老虎灘外一箇所ニ矢部某ノ經營ニ係ルモノアリ其ノ四十四年度ニ於ケル耕作狀況ハ水田二段歩中一段歩ニハ粳稻他ノ一段歩ニハ糯稻ヲ植付ケタルニ粳米二石五斗糯米二石餘ノ收穫アリ其ノ耕作地ハ再墾地ニシテ四十三年ノ試作當時ニ比シ一二割ノ增收ヲ來セシカ此ノ二箇年ニ於ケル經驗ニ徵スレハ種子ハ毎年內地及朝鮮産ヲ輸入スルノ必要ナク嘗テ試作ノ初年內地種子ヲ蒔キタル

ニ其ノ發育頗ル脆弱ニシテ蟲害多カリシカ同年收穫シタル種子ヲ翌年ニ同一地ニ播植シタルニ蟲害ナキノミナラス發育亦頗ル良好ナリキ其ノ收支計算ノ內容ハ粳二石ノ價二十圓藁百貫價五圓收入合計二十五圓ニシテ其ノ支出ハ廐肥二百貫價五圓豆粕十貫餘價四圓及人夫賃四圓五十錢（一人三十錢ノ者十五人）ニシテ合計十三圓五十錢差引純益十一圓五十錢ナリト謂フ以上ハ老虎灘水田ニ就キテ述ヘタルモノナルカ尙乾某ハ三十里堡及普蘭店等ニ於テ二三年來孰レモ良好ノ成績ヲ收メツツアリ

第二、滿洲水田事業ノ朝鮮米ニ及ホス影響

近時世上往往南滿洲ノ將來ヲ悲觀スルノ聲ヲ聞クモ是レ未タ其ノ眞相ヲ穿タサルモノニシテ近年滿洲各地ニ興レル水田事業ノ如キ移民招致ノ最好事業タルト共ニ南滿地方利源ノ啓發ニ貢獻スル所蓋鮮少ナラサルヘシ奉天撫順等ニ於ケル該事業經營者ノ抱負タルヤ遼河以北ニ朝鮮米ノ侵入ヲ防止スルニアリト謂ヘハ將來同地方ノ米產額ニシテ增加セムカ最打擊ヲ蒙ルモノハ朝鮮米ニシテ目下鎭南浦及仁川方面ヨリ大連港ニ每月發送スル朝鮮米ハ其ノ數實ニ八千石ヲ下ラスト雖滿洲ニ於テ上述ノ如ク水田事業ノ起ルトセハ茲數年ヲ經過シタル曉ニ於テ朝鮮米カ果シテ現時ノ勢力ヲ持續シ得ヘキヤ否ヤ疑ヒナキ能ハス然レトモ滿洲ニ於ケル水田事業カ將來果シテ如何ノ程度ニ發達スヘキヤハ今ニシテ知ル能ハス又假令大ナル發達ヲナストスルモ滿洲產米ノ品質ハ顆粒小ニシテ黑色ヲ帶ヒ容易ニ精白シ難キ缺點アルト共ニ風味ニ於テモ朝鮮米ニ及ハサルコト遠ク殊ニ一面ニ於テ在住者ノ增加ト共ニ消費ヲ增進スヘキニ依リ到底近キ將來ニ於テ能ク朝鮮米ヲ滿洲米ヨリ驅逐スルコト能ハサルヘシ

○湖南線江景群山間開通ト其ノ影響

明治四十五年三月六日ヨリ開通セル湖南線江景群山間ハ其ノ哩程三十一哩二分ニシテ之ニ從來開業セ

ル大田江景間三十七哩七分ヲ加フレハ總計六十八哩九分ノ延長トナル江景群山間ノ線路ハ全羅北道礪山、龍安、咸悅、益山、臨陂ノ諸郡ヲ經テ裡里ニ到リ之ヨリ木浦ニ通スルモノ(目下建設中)ト之レヨリ分レテ再ヒ益山、臨陂ノ二郡ヲ經テ群山港ニ達スルモノニシテ此ノ間錦江及萬頃江ノ流ニ沿フ廣濶ナル沃野ヲ貫通スルモノニシテ此ノ地方ハ物產ノ豐富人口ノ稠密ヲ以テ夙ニ朝鮮ニ冠タリ今其ノ沿道ノ概況及開通後ノ狀況ヲ示セハ左ノ如シ

(一) 江景群山間線路概況

江　景

江景ハ湖南線中ノ主要驛ニシテ大田ヨリ三十七哩七分ノ地點ニ在リ有名ナル錦江ノ流ニ沿ヒ群山、公州全州等ニ達スル水陸交通ノ要衝ニシテ戶數千餘戶人口四千三百(內內地人八七〇朝鮮三、三四〇支那人一六三)ヲ有シ忠淸南道樞要ノ地タリ重ナル官衙、銀行、會社等此ノ地ニ在リ石城、魯城、連山、恩津ノ各郡ヨリ產出スル米穀約十二萬八千石ハ主トシテ江景市場ノ勢力範圍ニシテ毎月六回例市ヲ開ク市場ハ大邱、平壤等ト並ヒ稱セラルル大市場ニシテ日常需要品亦此ノ市場ヲ經ルモノ多ク賣ル者買フ者陸續十數里ノ遠キヨリ來集シ所謂肩摩轂擊ノ狀ヲ現出ス

江景公園ハ玉女峯上ニ在リ最景勝ノ地ヲ占メ錦江眼下ニ流レ鷄龍ノ連山ノ縹緲綺ノ如シ、彩雲山ハ市街ヲ距ル南方十三町黃山ノ前面ニ在リ附近ノ平野目睫ノ間ニ迫リ雄大ノ風光愛スヘシ

咸　悅

咸悅停車場ハ江景停車場ヲ距ル七哩全羅北道咸悅郡東四面ニ在リ東北三十丁ニシテ龍安郡邑內ニ三里

ニシテ江景西北一里十丁ニシテ咸悅郡邑內ニ達ス邑內停車場間ノ道路ハ目下二間幅ニ改修中ニシテ營業開始迄ニハ竣工ノ豫定ナリト謂フ停車場附近ニハ東一丁ニ光岡農場アリ

龍安郡ハ四面戶數千七百九十三戶人口八千六百九十人(內地人十五人)ヲ有シ西北錦江ニ沿ヒタル全羅北道中最小郡ニシテ西北忠淸南道林川郡ト相對ス水田千六百九十二町畑二百三十四町アリ米一萬八百九十石麥千五百六十九石豆四百三十三石ヲ產ス此ノ他ニ特種產物ナシ郡邑內ハ群江街道ニ面シ戶數百戶ニ滿タサル部落ニシテ郡衙、憲兵分遣所、郵便所アリ西二里ニシテ咸悅郡邑內ニ達ス物資ノ需給ハ總テ江景商人ノ手ヲ經市日每ニ擔軍ニ依リテ移送セラルルヲ以テ鐵道開通後ニ於テモ距離運賃等ノ關係上咸悅停車場ニ發著スルモノナカルヘシ邑內ヨリ北一里ニ聖堂浦アリ船付場ニシテ錦江水運ノ便アリ江景群山間ノ通船必要ニ應シ寄港ス船賃ハ群山迄一人五十錢穀類一石ニ付六錢ニシテ邑內ヨリ聖堂浦迄ノ運搬賃ハ穀類一石ニ付二十五錢ヲ要スヘシ

咸悅郡ハ西北錦江ヲ隔テテ忠淸南道林川郡ト相對シ龍安郡ノ西ニ在リ郡內錦江沿岸ハ概ネ山嶺起伏シテ平地ニ乏シキモ南方ハ沃野遠ク連リ各種作物ノ栽培ニ適ス十一面戶數四千十六戶人口一萬九千百九十六人(內地人百十二人內商人二人)ヲ有シ水田二千六百八十八町、畑九百九十四町アリテ米二萬五千七百三十一石、麥四千九百九石、豆二千七百八十五石ヲ產ス此ノ地陶土器一萬九千箇、蘆席一萬五千枚、網巾千五百枚、飴二萬七千五百斤(此價格約七千五圓)ノ特產物アリ市場ハ邑內、熊浦及南一面黃登里ニ在リ邑內ハ群江街道ニ在リテ戶數四百十七戶人口千八百四十八人(內地人三十二人)ヲ有シ郡衙、巡查駐在所、郵便所、金融組合アリ東四里十二町ニシテ江景ニ二里ニシテ龍安郡邑內ニ東南一里十丁ニシテ咸悅停車場ニ西南二里ニシテ黃登停車場ニ西二里二十六丁ニシテ臨陂郡邑內ニ六里二十六丁ニシテ群山ニ北一里ニシテ熊浦ニ達ス熊浦ハ船付場ニシテ錦江ニ依リ江景ト群山トニ水運ノ便アリ陰曆一、六日ニ開市シ毎市賣買高

千圓ヲ下ラス江景群山間ノ通船必要ニ應シ寄港ス船賃ハ群山迄一人五十錢穀類ハ一石ニ付五錢ニシテ解船ハ約半日ニシテ達スヘシ邑内ヨリ熊浦迄ノ運搬賃ハ穀類一石ニ付十八錢咸悅停車場ニハ二十錢ヲ要スヘシト目下物資ノ需給ハ錦江水運ニ依リテ江景、群山ト取引ヲ爲ス

上述ノ如ク兩郡共北一里ノ間ニ錦江船付場アリ四時水運ノ便ヲ有シ低廉ナル運賃ニ依リテ物資ノ需給ヲ爲シ得ラルルノ地位ニ在ルヲ以テ群山ニ往來スルモノハ鐵道開通後ト雖尙此ノ水運ヲ利用スヘク咸悅郡ヨリハ西南二里ニ黃登停車場ノアルアリ龍安郡ヨリハ東二里餘ニシテ江景ノアルアリ故ニ本停車場ハ礪山、益山、咸悅郡地方ニ往來スルモノノ外大ナル利益ヲ得サルヘキカ

黃登

黃登停車場ハ咸悅停車場ヲ距ル五哩九分全羅北道臨陂郡東一面ニ在リ停車場構內ハ臨陂、咸悅、益山ノ三郡ニ跨リ停車場ノ東北約六町ノ處ニ咸悅郡黃登里市場アリ戶數約百戶日本人旅館一軒アリ此ノ地方ニ於テ江景ニ次ク市場ト稱シ陰曆五、十ノ日ニ開市シ取引高每市二千圓ヲ下ラスト謂フ集散貨物ハ米穀、綿布、綿絲、煙草、食鹽、肉類、石油、魚類其ノ他日用雜貨ニシテ市場ヨリ停車場ニ通スル道路ハ目下改修中ナリ營業開始迄ニハ竣工スヘシ停車場ハ臨陂郡ニ屬スルモ同邑內ニハ車道ナク(水利組合ノ築堤ニ依リ二里ニテ達ス)咸悅郡邑內ニハ黃登里市場ヲ經由スル二間幅ノ車道アリ二里ニシテ達シ往來極テ便ナリ附近部落又少カラス片桐、森谷農場亦此ノ附近ニ在リ

裡里

裡里停車場ハ黃登停車場ヲ距ル五哩全羅北道益山郡南一面ニ在リ萬頃江流域平野ノ稍中央ニ位シ全群

車道隆熙橋ヨリ北ニ入ルコト約二十餘丁ノ處ニアリ西六里ニシテ群山ニ、東六里ニシテ全州ニ、西北三里ニシテ臨陂ニ、東北四里ニシテ咸悦ニ東二里半ニシテ郡邑內ニ達ス附近里餘ノ處ニ白鷗亭、大場村(細川農場アリ)木川浦等ノ要區ヲ占メ將來最有望ノ地タリ

源ヲ全州郡ニ發シ全州平野ヲ灌漑スル萬頃江ハ裡里ノ前面ヲ流レ西方五里ニシテ海ニ注ク江口ヨリ十八里大場村迄ハ常ニ舟楫ノ便アリ大場村、雙江浦、木川浦最船舶ノ出入多ク米、麥、大豆、煙草等ヲ移出シ食鹽、海產物、石油、綿布、綿絲、陶器、マッチ其ノ他日用雜貨ニ移入ス船舶ハ例年九月ヨリ六月迄ノ間ニシテ五十石乃至二百石積ノ船舶ヲ通スヘシ船舶ノ往來一箇月通常六十隻ナルモ秋季收穫期ニ及ヘハ二百五十隻ニ上ルヘシ

裡里ハ元全群街道ノ要路ニ當リ群山方面ヨリ全州方面ニ往來スルモノハ此ノ地ヲ經テ徒步、人肩、馬背ニ依ルモノ頻繁タリシカ明治四十二年全群車道開通後ハ白鷗亭ニ直通シ裡里ヲ迂回スルモノナキニ至リ一時寂レタリシモ湖南線ノ分岐點トシテ鐵道ノ開通決定シタル以來各種營業者ノ注意ヲ惹キ急ニ此ノ地ニ集マルモノ增加シ鐵道工事著手ト同時ニ著シク戶口ヲ增シ一年前ノ戶數五戶二十人ニ對シ今日ニ於テハ百四戶五百六十人ノ多キニ達セリ如此急激ノ發展ヲ爲シタルハ鐵道ノ敷設ニ因リタルモ明治四十年此ノ地ニ來リ附近ノ土地ヲ買收シ農場ヲ經營セル某農業家カ其ノ農場ヲ中心トシ所有地ニ長屋ヲ建設シ市場ヲ設ケ日鮮人ヲ招致シタル爲ニシテ今ヤ一市街ヲ成シ雜貨店アリ、旅館、料理屋アリテ市況活氣ニ滿テリ停車場ヨリハ約八丁アリ目下新道改修中ナリ

市場ハ陰曆四、九ノ日開市シ近鄕ノモノ每市五六百人集合穀類、布帛、酒、莨、鹽干魚其ノ他日用雜貨ノ取引多ク一箇月平均五千圓ヲ下ラス物資ハ萬頃江帆船ニ依リテ裡里ヨリ南十丁古棧ヨリ陸揚ケ又ハ船積ミヲ爲シ群山港ト取引ヲ爲ス市場ハ此ノ他郡邑內及木川浦ニアルモ取引高多カラス

居留民ハ此ノ地ノ繁榮ヲ圖ル爲裡里繁榮組合ヲ組織シ方一里ノ區域ニ亙リ下級行政機關トシテ諸事ニ活動シツツアリ目下學校組合ノ認可申請中ナリ此ノ地益山郡廳(昨夏郡邑内ヨリ移轉)アリ憲兵分遣所アリ、郵便遞送所アリ

益山郡ハ全州郡ノ西北ニ在リ十六面戸數八千五百八十戸人口三萬七千六百八人(內地人七百四十三人)ヲ有シ水田七千六百四十五町、畑千百七十五町アリテ米五萬二千四百九十八石、麥七千九百九十六石、豆三千七百八十石ヲ產ス邑內ハ戸數三百三十一戸人口千六百六人裡里ヲ距ル二里半ノ處ニ在リ郡衙所在地タリシカ裡里ニ停車場ノ設立セラルルコトニ決定セショリ昨夏同地ニ郡衙ヲ移轉シ寂寞ヲ極ムルニ至レリト本郡堺ニ在ル黃登停車場ヨリ東十町ニ臨益水利組合ノ貯水池アリ周回八里益山、咸悅、臨陂郡內腰橋堤一圓二千町歩ノ水田ニ灌漑ス

裡里ハ上述ノ如ク最近ノ發達ニ係リ從テ商業上ノ勢力其ノ圈內狹ク未タ大場村及郡邑內トモ取引ヲ爲スニ至ラスト雖全州、高山、錦山郡ノ咽喉ニ當レルヲ以テ鐵道開通後ハ附近ニ於ケル生產物ノ此ノ地ヲ經テ移送セラレ日用雜貨ノ全州地方ニ移入セラルルモノ迄此ノ地ヲ經由スルニ到リ直接群山、京城又ハ內地トノ取引ヲ開始シ將來有望ノ地トナルヘシ今四十四年中ノ裡里、群山間移出入貨物ノ價格ヲ調フルニ移出米約五萬石、移入綿布約四萬圓、石油約一萬圓其ノ他約雜貨六萬圓アリシト云フ

裡里停車場ヨリ南三十丁ニシテ全群車道ニ接續シ六里ニシテ全州ニ達ス鐵道開通後ハ目下二日乃至三日ヲ要シ一負百斤五十五錢荷馬車一臺千斤五圓ヲ要スル全群間ノ陸運ハ一部裡全間ニ變シ群山ヨリ裡里迄鐵道ニ依リ裡里ヨリ全州迄荷馬車ニ依リ且全群間ノ現行運賃ヨリ幾分ヲ低減セラレ尙速達ヲ見ルニ至ルヘシ今ヤ全州ノ有志者ハ鐵道開通後裡里全州間ノ交通ヲ便ナラシムル爲資本金四萬圓ヲ以テ二呎九吋半(軌條十二磅)ノ手押式輕便軌道ヲ全群街道ノ一側ニ敷設スヘキ計畫アリ貨物ノ運送ヲモ兼營ス

ヘシト謂フニ依リ竣工ノ上ハ一層兩地間ノ運輸交通ヲ簡易ナラシメ沿道物資ノ需給ヲ充タシ經濟上ノ圓滑ヲ見ルニ至ルヘシ

地境

地境停車場ハ裡里停車場ヲ距ル八哩二分全羅北道臨陂郡南三面萬子山ニ在リ西三里ニシテ群山ニ、東北一里半ニシテ郡邑內ニ東南九里ニシテ全州ニ西南一里ニシテ群山府地境里ニ達ス鐵道線路ハ停車場ノ東二丁ノ處ニテ全群街道ヲ橫斷ス停車場ノ近傍ハ戶數三十戶ニ滿タサルモ指顧ノ間ニ數多ノ部落アリテ幾多ノ農場此ノ附近ニ在リ西南一里ニハ地境里市場アルヲ以テ營業開始後ハ相當ノ旅客乘降アルヘシ臨陂郡ハ北方錦江ヲ隔テテ忠淸南道韓山、舒川郡ト相對シ十三面戶數五千八百七十戶人口二萬七千二十八人(內地人二百五十人)ヲ有シ水田五千三百十一町、畑七百九十六町アリ米四萬二千二百五十九石、豆二千六百十七石ヲ產ス此ノ他ニ特種產物ナシ郡邑內ハ地境停車場ヲ距ル東北一里半群江街道ニ在リ戶數百五十三戶六百九十人(內地人二十二人)郡衙、巡查駐在所、郵便所アリ西四里半群山港ニ達ス物資ノ需給ハ總テ群山ノ勢力範圍ニ屬シ水陸一兩便ニ依ル市場ハ邑內ト邑內ヨリ北方二里羅浦トニ在リ每市五百圓ヲ下ラス羅浦ハ船付場ニシテ錦江ニ依リ群山ト水運ノ便アリ群山迄ノ運賃ハ穀類一石ニ付五錢邑內ヨリノ運搬賃ハ同三十錢ヲ要スヘシ

群山

群山停車場ハ地境停車場ヲ距ル六哩三分全羅北道群山港ニ在リ本港ハ明治三十二年五月ヲ以テ開港シ朝鮮半島西海岸中央ノ好區ヲ占メ全羅北道、忠淸南道ヲ勢力圏內ニ收メ農商工業ノ主腦地タリ北百二十

二哩ニ仁川港ヲ控ヘ南百八哩ニ木浦港アリ鐵道ハ湖南線ニ依リテ京釜線大田驛ニ近ク聯絡シ以テ交通ノ便ヲ開クヘク錦江、萬頃江、東津江ノ三大江流ハ全北ノ大平野ヲ灌漑シ且舟楫ノ便アリ産物又豐富ナリ港ハ錦江ノ下流ニ在リ天然ノ儘ニシテ人工ヲ加ヘス深サ滿潮時七尋乃至九尋干潮時三尋乃至五尋ニシテ二千噸內外吃水二十餘尺ノ船舶一隻一千噸以內ノ船舶數隻ヲ容ルニ過キス海潮干滿ノ差甚タシク實ニ十五尺乃至二十三尺ニ及ヒ且港灣トシテノ設備未タ全カラス從テ貨物運賃、荷役費用他港ニ比シ不廉ヲ免レスト云フ

市街ハ西ニ山嶽ヲ負ヒ北錦江ヲ隔テテ忠淸南道舒川郡ト相對シ東全州平野ニ接ス市街ノ總面積五十七萬二千平方米突ニシテ東西十丁餘南北六町餘アリ西北ヨリ東南ニ延ヒ平坦砥ノ如ク家屋連接ス群山居留民團地域內ハ戶數千二百四十六戶人口五千一人ニシテ(群山府管內ノ總戶數ハ八面六千二十二戶二萬六千六百五十八人)市街ハ鐵道開通ニ伴ヒ著シク發展シ人口、戶數日ヲ逐フテ增加シツツアリ地方交通ノ度平南間ヨリ密ナルヲ以テ錦江水運ノ便アリト雖鐵道ヲ利用スルモノ蓋鮮カラサルヘシ

群山附近ハ沃野連リ錦江、萬頃、東津ノ三流域水田十萬町步ヲ控ヘ到ル處地味肥沃ニシテ米穀ノ産額全羅北道ニ於テ百萬石、忠淸南道ニ於テ約百萬石ヲ下ラス其ノ他煙草、綿等ノ特産物アリ此等ノ産物ハ從來群山ヲ取引市場トシテ多ク水運ニ依リ出荷サレタリシモ鐵道ノ開通後ハ生産地ヨリ直接需要地ニ又ハ群山ニテ一度取引セラレタルモノモ鐵道ニヨリテ更ニ京仁其ノ他ノ地方ニ移送セラルルモノ尠カラサルヘク群山ニ鐵道開通後ハ此等生産地ニ日用雜貨ノ供給ト相俟テ湖南線ハ相當ノ貨物收入ヲ擧クルコトヲ得ヘシ

群山ノ商業ハ農業ニ伴フテ發達セルモノニシテ仁川港ノ如ク戰役ノ影響ヲ受クルコトナク漸進的ニ貿易額ヲ增進シ根底アル成長ヲ實現セルモノ全ク農事的實力特ニ米穀ノ産出饒キカ爲ナリ背後ニ全州、江

景ノ二大平野アリ米穀ノ産出巨多ナルヲ以テ本港ノ輸出貿易ハ米ヲ以テ最トシ年額二百萬圓近クニ達セムトセリ、鐵道ノ開通ハ偶、群山商人ニ活動ノ機會ヲ與フルト同時ニ地方農業者ノ利益ヲ増進シ以テ鐵道ニ依リ他地方ト容易ニ取引ヲ爲シ得ルノ便ヲ與ヘタリ

群山近海ハ朝鮮西海岸ニ於ケル漁業ノ最好區ニシテ竹島漁場ノ如キ年年漁獲高三十萬圓ニ上ルヘク内地ヨリノ出漁者ハ漁期ノミニシテ福岡、佐賀縣ヲ主トシ其ノ數五千ヲ下ラス故ニ冬期ハ鮮人ノ近海ニテ漁獲スルノミ群山魚市場ハ群山附近全羅、忠清道ノ沿海竹島、蝟島、隔音群島其ノ他絶好ノ漁區ニ富ミ年年漁獲スルモノノ販路ハ仁川ヲ最トシ江景、全州其ノ他附近ニシテ群山ノ魚市場ニ上ルモノハ重ニ日本人ノ嗜好ニ適スルモノノミニシテ其ノ數多カラス一箇年ノ賣上高七萬圓内外ナリ、鐵道開通後ハ湖南線沿道ハ勿論遠ク京城方面ニ移出スルモノ尠カラサルヘシ

群山ハ市街全部埋立地ナルヲ以テ井戸ヲ掘鑿スルモ適當ノ飲料水ヲ得ス唯僅ニ市ノ周圍山麓ニアル十數箇ノ井戸ニ依リ一般飲料水ヲ給シツツアリ人口増加スルニ從ヒ水道ヲ敷設スルノ必要アリ工費總額三十萬圓二箇年ノ繼續事業トシテ四十五年度ヨリ起工シ竣工ノ上ハ人口一萬人ニ對シ給水シ得ヘシ

水運　群山江景間二十四哩ハ錦江ニ依リ水運ノ便ヲ有シ毎日定期ニ石油發動機船相往復ス(萬頃江水運ハ裡里參照)大阪商船會社群山代理店ハ四十四年十二月五十噸ノ小蒸汽船南浦丸ヲ迴航シ群山江景間毎日運航セシム

尙本年一月ヨリ群山茁浦間(茁浦ハ全羅北道興德郡ニアリ船付場ニシテ市場アリ湖南線井邑停車場ヨリ約四里)ノ運航ヲ開始セリ

群山港ニ於ケル艀船賃ハ一才ニ付一錢七厘、一噸ニ付六十五錢(四十才一噸穀類六石一噸)ニシテ他港ニ比シ高ク市中ニ於ケル仲仕賃錢又非常ニ高率ナルモ鐵道開通後ハ鐵道便貨物ノ取扱上引下ノ必要ヲ生シ

一般勞働賃金ノ低下ヲ見ルヘシ

全州

全州ハ裡里停車場ヲ距ル南約六里ニ在リ全羅北道ノ首府トシテ道ノ中央ニ位シ西北群山ニ十二里、北江景ニ十一里、忠清南道公州ニ二十一里、南方南原ニ十四里ニシテ達シ金堤、益山、高山、鎭安、任實ノ諸郡ニ抱擁セラレ交通四方ニ通シテ貨物ノ集散ニ便ナリ市街ハ西全州川ニ臨ミ東西南ノ三方ハ峯巒ヲ以テ圍繞シ北一眸千里ノ稱アル平野ニ接ス山水秀麗ノ地ニシテ戸數四千二百人口一萬九千ヲ有シ道廳、裁判所、郡廳、慈惠醫院、農工銀行、學校、郵便局、金融組合、學校組合等アリ各官衙及各種ノ機關殆ト備ハラサルモノナク道内交通ノ中樞ニシテ商業又繁盛ナリ特ニ全群間幅員四間ノ坦坦タル車道開通以來往來愈頻繁ニシテ物資ノ出入亦多ク内地人ノ來リ住スルモノ日ニ月ニ其ノ數ヲ增シ市街ハ城壁ヲ撤去シテ市區改正ト共ニ漸ク舊來ノ面目ヲ改メ今ヤ日本人戸數六百人口二千ノ多數ニ達シ將來最有望ノ地タリ

市中ニ於ケル商業ハ五六ノ日本商人ヲ除ク外專ラ鮮人向雜貨ヲ商フ移入貨物ハ日鮮人向雜貨ニシテ年額六十萬圓ヲ算ス重ニ群山商店ヲ經テ移入スルモ大阪其ノ他ト直接取引スルモノアリ三里ニ金溝、七里ニ任實、九里ニ鎭安、十四里ニ南原アリ漸次取引高ヲ增加シ發展ノ見込アリ今其ノ重ナルモノヲ擧クレハ

煙草	三萬圓	清酒	二萬圓	麥酒	五千圓
味噌醬油	一萬圓	麥粉	一萬圓	砂糖	二萬圓
綿布、綿絲	二十萬圓	石油	一萬圓	吳服太物	五萬圓
木材	七萬圓	乾物	四萬圓		

移出ハ二十萬圓ヲ算シ主トシテ群山ト取引ヲ爲ス重ナルモノヲ擧クレハ

牛　皮　三萬圓　朝鮮紙　三萬圓　米　六萬圓

等ニシテ市中全州川ニ沿ヒ西門外、南門外ノ二市場アリ陰曆二、七ノ日ニ開市シ穀類、綿絲、綿布、食鹽、牛、石油薪炭、鹽干魚其ノ他日用雜貨ノ取引盛ナリ一箇月ノ賣買高三萬圓ヲ下ラス鐵道開通後ハ裡里驛ヲ經由シ各地ト取引ヲ爲スニ至ルヘク裡里全州間ノ運輸交通亦盛ナルニ至ルヘシ

全州郡ノ總戸數ハ一萬九千五百七十三戸ニシテ人口八萬六千五百七十三人アリ水田五千三百九十七町畑千五十六町ニシテ米五萬六千六百八十二石、麥一萬二千七百三十一石、豆三千五百十七石ヲ產ス此ノ地麻布千六百疋、木綿織物二千五百疋、麻千五百斤、綿二萬五千斤、紙十三萬五千斤、約四萬圓ノ特產物アリ郡內ニハ內地人ノ經營ニ係ル農場アリ岩崎男爵ノ經營ニ係ル東山農場ハ全群街道ニ跨リ場內ニハ鮮人二十餘戸百人日本人ノ雜貨店二戸アリテ街道ノ兩側ニ一市街ヲ成ス漸次發展ノ趨勢アリ農場ハ全州ノ平野ヲ一眸ノ下ニ眺ムル丘陵ニ在リテ事務所ノ外數棟ノ倉庫ヲ有ス此ノ地巡査駐在所アリ東里餘ニシテ大場村ニ達ス大場村ハ細川侯爵ノ農場(約千町步)アリ萬頃江水運ノ便ヲ有ス地味肥沃ニシテ旱水害ノ虞殆トナク絕好ノ農場タリト謂フ

(二) 湖南線江景群山間開通後ノ狀況

本月六日ヨリ湖南線江景群山間開通シ營業列車ノ發著スルニ至ルヤ同區間ノ各停車場ハ附近ヨリ參集シタル鮮人ヲ以テ充タサレ物珍ラシケニ列車ノ發著ヲ見物シ終日去ラサルモノアリ開業當日ノ如キ殊ニ雜沓ヲ極メタリ開通後ニ於ケル數日間ノ客貨發送取扱數量及收入ハ別表ノ通ニシテ一日平均旅客四百六十六人貨物五百九十三噸、收入八百二十七圓ヲ擧ケツツアリ固ヨリ僅ニ三日間ノ統計ニシテ之ヲ以テ將來ヲ律スルコトハ能ハサルモ試ニ其ノ一日平均ヲ同區間開業前即大田江景間ト比スルニ

區間	哩程	比較	乘車人員	客車收入	貨物噸數	貨車收入	收入合計
大田江景間	三七、七 哩分	二月一日ヨリ三月五日迄ノ一日平均	一六三 人	二二二・九〇 圓	四三五 噸	一八九・六六 圓	四一二・五六 圓
大田群山間	六八、九	開業後三日間平均	四六六	五一七・〇四	五九〇	三一〇・二一	八二七・二五

前表ノ如ク開業後俄然トシテ著シキ增加ヲ示シ哩程延長ノ割合ニハ頗ル好況ニシテ群山ニ於ケル乘車旅客ノ如キ開業當日大田行二個列車ヲ以テ百七十人ニ達セリ蓋右ノ狀況ハ將來ニ永續スヘキハ勿論漸次沿線地方民ニ「汽車開通」ヲ周知セラルルニ從ヒ殊ニ近ク乘車賃金ノ低減等ニ因リ益好況ニ向フヘク湖南線ハ茲ニ有力ナル終端停車場ヲ得テ一層其ノ利用ヲ增加セラルヘシ

湖南線運輸收入概算調

驛名	日附	乘車人員	降車人員	客車收入	貨物發送噸數	貨車收入	合計
群山	三、六	一九四	一〇四	一八五・〇〇	九	四四・五九	二二九・五九
	七	七三	六〇	一八二・九四	二	六・六〇	一八九・五四
	八	一〇九	一〇九	二〇八・四六	八	一七・八六	二二六・三二
合計		三七八	二七三	五七六・四〇	一九	六九・〇五	六四五・四五
地境	六	二七	一六	一五・三九			一五・三九
	七	七	二三	一・七七			一・七七
	八	一三	一一	一・一〇			一・一〇
合計		四七	五〇	一八・二六			一八・二六
裡里	六	一一一	一七一	一三三・三四	四	八・七二	一四二・〇六
	七	六三	五八	六九・三一	八	一〇・七一	八〇・〇二
	八	七五	八二	九三・八二	一	一三・四二	一〇七・二四
合計		二四九	三一一	二九六・四七	一三	三二・八五	三二九・三三
黃登	六	二九	一六	一七・六五	六	七・五五	二五・二〇
	七	一六	二〇	五・六七		二四	五・九一
	八	四〇	二〇	一九・九〇		〇五	一九・九五

合計	八五	五六	四三・二二	六	七・八四	五一・〇六
咸悅 六	二	一三	一・五〇			一・五〇
咸悅 七	七	二	一・七五			一・七五
咸悅 八	一	二	三七			三七
合計	一〇	一七	三・六二			三・六二
佳水院江景間各驛 六	二一	一九〇	二四八・八三	三三六	一五〇・六五	三九九・四八
佳水院江景間各驛 七	一八九	一七〇	一七五・六三	五九四	四〇九・二七	五八四・九〇
佳水院江景間各驛 八	二二九	二五一	一八八・七〇	八一三	二六〇・九七	四四九・六七
合計	六二九	六一一	六一三・一六	一,七四二	八二〇・八九	一,四三四・〇五
總計	一,三九八	一,三一八	一,五五一・一三	一,七八〇	九三〇・六三	二,四八一・七六

農業及殖林

○從前官有林野ノ調査

朝鮮ニ於ケル國有林野ノ内公山ト稱スル區域ハ一般ニ人民ノ入山ヲ許シタルヲ以テ民家ニ近キ是等ノ森林ハ今日多クハ荒廢ニ傾キツツアルモ封山又ハ陵園墓ニ屬スル森林等所謂從前官有ノ森林ハ古來官ニ於テ特種ノ保護ヲ加ヘ禁養シ來リシヲ以テ民家ノ附近ニ存在スルモノモ尙良好ナル林相ヲ保チ禿山童峯ノ間ニ獨リ鬱蒼ノ美觀ヲ呈スルモノ多シ其ノ内殊ニ都邑ノ附近ニ存在スルモノニ在リテハ風致上又ハ衞生上重要ナル關係ヲ有スルノミナラス將來之等都市ノ發達ニ伴ヒ斯ル位置ニ在ル國有林ニ對シテハ速ニ適當ナル整理ノ方法ヲ立ツルハ甚タ必要ナル事柄ナルヲ以テ農商工部ニ於テハ之レカ經營ノ參考資料ニ供セムカ爲四十四年中各道長官ニ託シ道廳又ハ府廳所在地其ノ他主ナル都邑附近ニ於ケル從前官林ノ調査ヲ行ヒタルニ忠淸南道、平安北道、全羅南道及京城府内ハ事業ノ都合上調査シ得サリシカ其ノ他ノ十道ニ於テ調査ヲ行ヒタルモノ合計百四十一箇所見込面積六千四百四町歩餘此ノ見積價格十二萬七千七百五十三圓餘ナリ其ノ概要左ノ如シ

從前官林調査箇所種別一覽表

道名	府郡名	邑ノ四山其ノ他禁山			壇、廟、陵、及胎封山			其ノ他ノ屯土			合計		
		箇所數	面積	見積價格	箇所數	面積	見積價格	箇所數	面積	見積價格	箇所數	面積	見積價格

京畿道	仁川府	一	五•0000	三一五•000	—	—	—	一	二二•0000	七00•000	二	二七•0000	一,〇一五•000
同	水原府	二	一〇二•五五三	三四,八八〇•000	—	—	—	一	一•五000	—	三	一〇四•〇五三	三四,八八〇•000
同	開城郡	四	一二八•0000	一,五三七•000	六	九七•一六二〇	四,二七〇•000	—	—	—	一〇	二二五•一六二〇	五,八〇七•000
計		七	二三五•五五三	三六,七三二•000	六	九七•一六二〇	四,二七〇•000	二	二三•五000	七00•000	一五	三五六•二一五	四一,七〇二•000
忠淸北道	忠州郡	三	四三九•九000	一六五•000	二	三〇•0000	一六一•000	二	五•八000	—	七	四七五•七000	三二六•000
同	淸州郡	一	七•七000	四〇•000	二	二〇•八五00	三五〇•000	—	—	—	三	二八•五五00	三九〇•000
同	永同郡	二	一•七000	八•六00	一	二•0000	六•000	—	—	—	三	三•七000	一四•六00
同	沃川郡	一	六000	二•000	—	—	—	—	—	—	一	六000	二•000
計		七	四四九•九000	二一五•六00	五	五二•八五00	五一七•000	二	五•八000	—	一四	五〇八•五五00	七三二•六00
全羅北道	全州郡	四	一三三•七000	二,〇六〇•000	七	一三一•〇四00	一〇,六00•000	二	五四00	二八•000	一三	二六五•二八00	一二,六八八•000
同	群山府	—	—	—	—	—	—	七	三四•三三00	六八四•000	七	三四•三三00	六八四•000
計		四	一三三•七000	二,〇六〇•000	七	一三一•〇四00	一〇,六00•000	九	三四•八七00	七一二•000	二〇	二九九•六一00	一三,三七二•000
慶尙北道	慶山郡	一	一〇•0000	二,九五〇•000	—	—	—	—	—	—	一	一〇•0000	二,九五〇•000
同	河陽郡	三	六七•五000	四〇三•五00	一	二五二〇	七•七00	一	四•0000	四•000	五	七一•七五二〇	四一五•二00
同	漆谷郡	一	二五00	一七•五00	—	—	—	二	二〇〇•一四00	六,〇一三•四二〇	三	二〇〇•三九00	六,〇三〇•九二〇
同	星州郡	—	—	—	—	—	—	一	五〇•0000	七五〇•000	一	五〇•0000	七五〇•000
計		五	七七•七五00	三,三七一•000	一	二五二〇	七•七00	四	二五四•一四00	一,三五七•四二〇	一〇	三三二•一四二〇	四,七三六•一二〇
慶尙南道	晋州郡	一	二•六七00	四三三•000	—	—	—	七	一七•二七二七	二,二九七•七六五	八	一九•九四二七	二,七三〇•七六五
同	釜山府	—	—	—	—	—	—	一	一六八•0000	一〇,000•000	一	一六八•0000	一〇,000•000
同	馬山府	二	一〇•六二一一	一〇〇•000	—	—	—	七	四九•五八一八	一三三•000	九	六〇•二〇二九	二三三•000
計		三	一三•二九一一	五三三•000	—	—	—	一五	二三四•八六一五	一二,四三〇•七六五	一八	二四八•一六〇六	一二,九六三•七六五
黃海道	黃州郡	四	八五五•七000	三,九二四•一00	—	—	—	一	一四四•三000	七四一•五00	五	一,000•0000	四,六六五•六00
同	瑞興郡	二	三一五•八000	七,一〇六•000	—	—	—	—	—	—	二	三一五•八000	七,一〇六•000
同	海州郡	二	一〇〇•五000	七四九•五00	—	—	—	—	—	—	二	一〇〇•五000	七四九•五00
同	載寧郡	二	八〇•0000	八三三•二00	—	—	—	—	—	—	二	八〇•0000	八三三•二00

計		一〇	一,三五二•〇〇〇〇	一三,六〇三•八〇〇	—	—	—	一	一四四•三〇〇〇	七四一•五〇〇	一一	一四九六•三〇〇〇	一四,三四五•三〇〇
平安南道	江西郡	—	—	—	一	五•四五一〇	二〇•〇〇〇	—	—	—	一	五•四五一〇	二〇•〇〇〇
同	鎮南浦	一	六•六三三〇	四〇〇•〇〇〇	一	一二〇三	一五•〇〇〇	—	—	—	二	六•七五三三	四一五•〇〇〇
同	龍岡郡	一	三•二〇〇〇	五•〇〇〇	一	一•〇七一二	五•〇〇〇	一	三〇•五〇〇四	四〇•〇〇〇	三	三四•七七一六	五〇•〇〇〇
同	价川郡	—	—	—	—	—	—	一	四一二•〇〇〇〇	四五〇•〇〇〇	一	四一二•〇〇〇〇	四五〇•〇〇〇
同	順安郡	—	—	—	—	—	—	二	一三•三一三八	一五三•〇〇〇	二	一三•三一三八	一五三•〇〇〇
同	殷川郡	—	—	—	二	二•〇九一八	二六•〇〇〇	二	三•六六三三	一〇•〇〇〇	四	五•七六三〇	三六•〇〇〇
同	永柔郡	—	—	—	一	八〇〇〇	三•〇〇〇	一	五二二•〇〇〇〇	三五〇•〇〇〇	二	五二二•八〇〇〇	三五三•〇〇〇
同	中和郡	—	—	—	三	四七•〇〇〇〇	二,三五〇•〇〇〇	—	—	—	三	四七•〇〇〇〇	二,三五〇•〇〇〇
計		二	八•八三一〇	四〇五•〇〇〇	九	五六•五四二三	二,四一八•〇〇〇	七	九六〇•九六〇四	一,〇〇三•〇〇〇	一八	一,〇三五•七六〇七	三,八二五•〇〇〇
江原道	春川郡	一	一三四•六六〇〇	二三一•〇〇〇	—	—	—	—	—	—	一	一三四•六六〇〇	二三一•〇〇〇
同	華川郡	二	四二四•八六〇〇	四,〇五六•〇〇〇	—	—	—	一	二•七一一七	七七•六四〇	三	四二七•五七一七	四,一三三•六四〇
計		三	五五九•五二〇〇	四,二八七•〇〇〇	—	—	—	一	二•七一一七	七七•六四〇	四	五六二•二三一七	四,三六四•六四〇
咸鏡南道	咸興郡	一	三二三•五〇〇〇	三,〇六八•〇〇〇	八	六六六•四〇〇〇	二三,一八七•三〇〇	—	—	—	九	九八九•九〇〇〇	二六,二五五•三〇〇
同	成興郡長津郡	一	三〇五•八〇〇〇	四,一三三•五六四	—	—	—	—	—	—	一	三〇五•八〇〇〇	四,一三三•五六四
同	元山府	一	一九•一〇〇〇	一八五•〇〇〇	三	九•六九〇〇	九四三•〇〇〇	—	—	—	四	二八•七九〇〇	一,一二八•〇〇〇
計		三	六四八•四〇〇〇	七,三八五•五六四	一一	六七六•〇九〇〇	二四,一三〇•三〇〇	—	—	—	一四	一,三二四•四九〇〇	三一,五一五•八六四
咸鏡北道	鏡城郡	四	八•六三〇〇	七九•〇五〇	二	八•五三〇〇	五九•七一〇	—	—	—	六	一七•一六〇〇	一三八•七六〇
同	會寧郡	四	五六•一〇〇〇	三五五•七〇〇	—	—	—	—	—	—	四	五六•一〇〇〇	三五五•七〇〇
同	吉州郡	一	八•九二〇〇	五〇•六八〇	—	—	—	—	—	—	一	八•九二〇〇	五〇•六八〇
同	明川郡	二	一三•五八〇〇	一六六•八〇〇	—	—	—	—	—	—	二	一三•五八〇〇	一六六•八〇〇
同	城津郡	四	二一五•〇〇〇〇	五〇〇•〇〇〇	—	—	—	—	—	—	四	二一五•〇〇〇〇	五〇〇•〇〇〇
計		一五	三〇二•三三〇〇	一,一五二•二三〇	二	八•五三〇〇	五九•七一〇	—	—	—	一七	三一〇•八六〇〇	一,二一一•九四〇
總計		五九	三,七八一•三八〇四	六八,七三四•一九四	四一	九六三•四七三三	四一,九九八•七一〇	四一	一,六六〇•五八〇六	一七,〇二〇•三三四	一四一	六,四〇四•四四〇三	一二七,七五三•二三九

備考

一　四山トハ郡衙所在地其ノ他都邑ノ四周ニ在ル禁山ノ總稱ニシテ主山、案山、靑龍、白虎ノ四種ニ分ツ卽チ主ナル官衙又ハ其ノ都邑ニ對シ後方ニ在ル山ヲ主山ト謂ヒ前面ニ在ルヲ案山ト稱シ右ナルヲ靑龍、左ナルヲ白虎ト名ク、此ノ四山ハ風致又ハ防禦上ノ關係ニ依リ古來樹木ノ伐採ヲ嚴禁シ或ハ人民ニ命シテ樹木ノ植付ヲ行ハシメ特ニ周到ナル保護ヲ加ヘタルモノナリ、故ニ是等ノ山林ハ最民家ニ接近セルニ係ラス一般ニ美良ナル林相ヲ呈セリ水原ニ於ケル八達山ノ如キハ其ノ一例ナリ

四山以外ノ禁山ニハ山城、藪等ヲ含ム、山城トハ堡壘、要塞等ノ如キ國防上必要ナル地點ニ在ル城壘ニ附屬セル山ニシテ樹木ヲ保護禁養シタルモノナリ

藪トハ都邑ノ曝露ヲ防キ仍兵事上ノ目的ヲ以テ都邑ノ入口其ノ他必要ナル地域ニ樹木ヲ禁養シタルモノナリ

二　陵ハ歷代王ノ墳墓、壇廟ハ社稷壇、厲壇、文廟等ヲ謂ヒ、胎封山トハ歷代王ノ胞衣ヲ埋メタル土地ニシテ是等ニ附屬セル森林ハ古來一般ニ樹木ノ伐採又ハ開墾ヲ禁シ殊ニ陵ニ在リテハ多數ノ山直ヲ置キ專ラ山林ノ監護ニ當ラシメタリ

三　其ノ他屯土ニ屬スル森林ハ諸官廳ノ柴場其ノ他收入ノ目的ヲ以テ設置シタルモノニシテ小柴山又ハ草山ナルヲ常トス尙烽燧山ハ屯土中ニ編入シ置ケリ

○平北柞蠶製絲講習所狀況

（平北長官報告）

曩ニ平安北道ニ於テハ地方費支辨ヲ以テ柞蠶製絲及機業傳習ヲ講習セシメツツアリシカ總督府ハ該事業補助ノ爲四十三年度ニ於テハ金四百圓四十四年度ニ於テハ金六百圓ヲ交付シ其ノ事業ヲ奬勵セリ當該講習所ノ近況左ノ如シ

明治四十三年七月朝鮮婦人一名ヲ安東縣柞蠶製絲試驗所ニ派遣シ製絲業ヲ修得セシメ之ヲ敎師トシ道廳所屬建物五棟ヲ修理シ製絲機七臺ト柞蠶繭十六萬粒ヲ買入レ講習生十四名ノ入所ヲ許可シ同年十月ヨリ講習ヲ開始セリ爾來入所希望者益增加シ成績亦良好ナリシヲ以テ進ムテ內地人敎師ヲ傭聘シ製絲機二十臺ヲ購入シ同年度ノ補助金ヲ以テ更ニ新工場ヲ增築セリ然ルニ四十三年ニ於テハ柞蠶繭價暴落シ飼育者ノ損害尠カラサル模樣ナリシヲ以テ之カ救濟ノ方法トシ同時ニ講習絲料ヲ得ルノ目的ヲ飼養者所有ノ繭ノ受託製絲ヲ爲スコトトセリ

右ノ如ク入所希望者モ多ク製絲スヘキ繭亦多數ナリシヲ以テ更ニ製絲機二十七臺ヲ講習ニ充ツルノ外尙修業後相當計畫ヲ立テ斯業ニ著手スル者ニ對シ貸與スルノ目的ヲ以テ四十四年

度補助金ヲ以テ製絲機ヲ購入セリ講習ハ三箇月ヲ以テ一期トス四十三年十月開講以後四十四年十二月ニ至ル五期間ニ於ケル生徒講習ノ狀況左ノ如シ

講習期	募集人員	應募人員	入所許可人員	卒業生人員
第一期	一四人	二〇人	一四	一四
第二期	一四	一八	一〇	一〇
第三期	二〇	一三	一〇	八
第四期	二〇	二〇	一九	一三
第五期	三五	三五	三四	三三
計	一〇三	一一三	八七	七八

卒業生總數七十八名ノ內八名ハ各自自宅ニ於テ製絲業ニ從事シ三十七名ハ講習所ニ於テ委託繭ノ製絲ニ從事シ居レリ而シテ四十四年度ニ於ケル消費豫定繭數二百七十三萬粒ニ上レリ」尙製織傳習ニ就テハ四十四年京都ヨリ實地家ヲ傭聘シ四十五年ニハ春夏ノ講習會開催ノ豫定ヲ以テ各種製織ノ試驗ヲ爲シ織機ハ曩ニ總督府ヨリ配付シタルモノヲ使用シツツアリ

○明治四十五年一月中營林廠事業成績

一 惠山鎭支廠ニ於テ本月迄ニ於ケル伐木運材數

材種	伐木數 一月中	伐木數 累計	運材數 一月中	運材數 累計
丸、角材	六、七七七尺〆	七四、二〇二尺〆	一七、三八七尺〆	八一、五〇五尺〆
築港用丸太	—	一四一本	—	—
電柱	—	四、九〇八	—	四、九〇八本
計	六、七七七尺〆	七四、二〇二尺〆 五、〇四九本	一七、三八七尺〆	八一、五〇五尺〆 四、九〇八本

二 製材

(一) 新義州製材所ニ於ケル製材

種別	消費木材數(尺〆) 一月中	消費木材數(尺〆) 累計	製材數(尺〆) 一月中	製材數(尺〆) 累計
丸、角材	八、六九〇	一四三、〇四五	五、八一七	九〇、三二七
準備材	五四〇	五、一七九	三七三	三、三四三
計	九、二三〇	一四八、二二四	六、一九〇	九三、六七〇

(二) 會寧出張所ニ於ケル製材

種別	消費木材數(尺〆) 一月中	消費木材數(尺〆) 累計	製材數(尺〆) 一月中	製材數(尺〆) 累計
丸、角材	八七一	一〇、八四一	三八四	四、七四〇
端切材	—	四七四	—	三四九
計	八七一	一一、三一五	三八四	五、〇八九

三 木材賣却

種別	賣却木材數 一月中	賣却木材數 累計	代金(圓) 一月中	代金(圓) 累計
丸、角材	二、一四四尺〆	二九、九九一尺〆	一一、六五七	一一九、〇五三
小丸太	二七四本	一〇、五二四本	二三九	八、四一四
五尺未滿モノ	—	四九三本	—	四四
車軸	三七聯	二八七聯	一〇〇	六九三
車枉	四二六片	二、一四七片	二三九	一、二二四
製材	一二、三一〇尺〆	六三、九七二尺〆	八七、六〇九	四四四、九四七
副產物	—	—	一、二三八	三〇、七一八
計			一〇一、〇八二	六〇五、〇九三

鑛業

○雲山金鑛概況　（明治四十四年十一月十二月視察）

目次　一、鑛業ノ概要　二、各金坑記事　三、鑛床論

一、鑛業ノ概要　雲山金鑛ニ於テ東洋鑛業會社ノ自ラ經營セルハ大岩金坑（Tabowie Mine）橋洞金坑（Taracol Mine）鎭後金坑（Chintui Mine）月隱乃（チンチー）金坑（East Condlestick Mine）極城洞金坑（Kuk San Dong Mines）及鷹峰（メイボン）金坑（Charabowie Mine）ノ六金坑ナリ之等ノ金坑ハ相接近シテ所在セス北西ナル月隱乃金坑北東ナル極城洞金坑及南方ナル鷹峰金坑ノ位置ヲ結ヘハ一邊約七里ノ正三角形ヲ爲シ大岩橋洞及鎭後ノ三金坑ハ此ノ三角形内ノ北西隅ニ近ク位セリ卽チ雲山金鑛操業區域ハ二十二平方里餘ニ亙リ鑛石ハ一箇所ヨリ產出スルモノニ非ス

雲山金鑛ニ於テ現ニ一日ニ採掘スル金鑛ノ數量ハ約千〇十噸ニ達ス各金坑一日ノ出鑛高、鑛石ノ平均含金量等ヲ擧クレハ次ノ如シ

鑛石ノ含金量及實收率ハ明治四十三年七月ヨリ四十四年六月末日ニ至ル一箇年ノ平均値ヲ掲ク

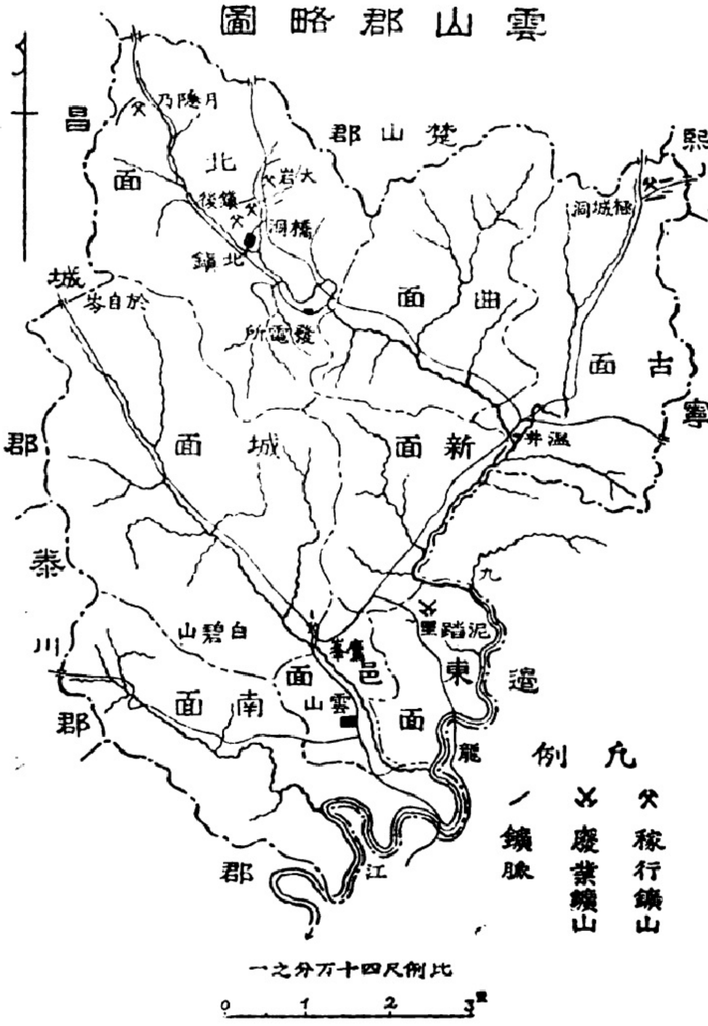
	一日出鑛高	一噸ニ付平均含金値	實收百分率	價額
大岩金坑	噸 三二〇	弗 五・〇七	八四・四	弗 一、三六九・三
橋洞金坑	三〇〇	四・九二	八六・三	一、二七三・八
鎭後金坑	八〇	五・〇二	八五・四	三四三・〇
月隱乃金坑	三〇	一〇・九〇	八七・五	二八六・一
極城洞金坑 北坑	一〇〇	三・〇九	八〇・五	二四八・七
極城洞金坑 南坑	七〇	二・五四	八〇・二	一四二・六
鷹峰金坑	一一〇	八・三八	八一・四	七五〇・三
計	一〇一〇			四、四一三・八

上記ノ如クニシテ雲山金鑛ヨリ一箇年約三十六萬噸ノ鑛石ヲ採掘シ三百萬圓ノ產金額アリ鑛石ハ大岩、橋洞、月隱乃、極城洞及鷹峰ニ於ケル搗鑛所並橋洞、月隱乃及極城洞ニ於ケル青化收金所ニ於テ製錬ニ附セリ鑛石ノ品位ハ鑛石一噸ニ付平均五弗一七卽チ百萬分ノ七・六ニシテ良鑛ト謂フヲ得ス其ノ極城洞金坑南坑所產鑛石ノ如キハ鑛石一噸ニ付平均二弗五四卽チ百萬分ノ三・七六ノ含金アルニ過キス蓋東洋鑛業會社長パーキンスカ「本會社ノ位置ハ除外例ニ屬ス卽チ東洋ニ於ケル品質粗惡ナル鑛石ヲ處理シテ然モ成功セル鑛業ヲ營メル先進者ナリ」ト謂ヘルハ過言ニアラスト信ス而シテ此ノ言ノ肯定セラル、ハ一ニ製錬法其ノ宜シキヲ得タルニ因ルナルヘシ然モ尙銳意製錬法ヲ改メテ鑛石含金ノ大部分ヲ抽出セムト務メツツアリ其ノ設備ノ一端ヲ窺フニ搗鑛鑛尾ヨリ汰物ヲ得ルニ是レ勗メ最近ニ於テモ大岩ニ「カンパス」ニヨル汰物集收所ヲ設クルアリ又青化收金ノ殘滓ハ再ヒ之ヨリ收金セムトシテ既ニ極城洞ニ再收金所ヲ建テ其ノ成績ニ鑑ミ橋洞ニモ同樣ナル設

備ヲ爲サムトシツツアリ而シテ各金坑ニヨリ異種ノ裝置ヲ設ケテ所產鑛石ニ最適應セル製錬法ヲ採用セムトセリ

雲山金鑛成功ノ一因ハ又採鑛及製錬ニ要スル動力經費ノ大ナラサルコトナリ本金鑛中主要ナル金坑タル大岩及橋洞ノ製錬所及橋洞ノ鐵工場ニ要スル動力ハ主トシテ水力電氣ニ依ル、其ノ發電所ハ北鎭ノ南東一里餘ナル北面館岱洞ニ在リ給水ハ北鎭ヨリ分派セル水道及草里ニ於ケル貯水池ニ依ルモノナリ而シテ最近四箇年間ノ會社報告ニ依レハ冬期給水缺乏ノ爲ニ發電ヲ休止スルコト一箇年ニ六十八日乃至百四十四日間ニシテ殘餘ハ裝置ニ故障ナキ限リ平均五百餘馬力ノ動力ヲ送レリ大岩及橋洞兩金坑ニ於テ發電不能ノ場合ニ用フル燃料及他ノ四金坑ニ於ケル採鑛及製錬ニ要スル燃料ハ一箇年約三萬三千「コード」(一「コード」ハ四呎、四呎、八呎積ナリ)ヲ使用セリ此等ノ薪材ノ容易ニ獲ラルルハ雲山金鑛ニ取リテ幸ナルコトニ屬ス

雲山郡略圖



金鑛ノ稼行ニ從事セル人員ハ坑夫ノ約千百人ナルニ加ヘテ約千人ノ雜夫アリ此等ノ大多數ハ朝鮮人ニシテ二千餘人ノ人夫ヲ指揮監督シ及會社ノ事務ニ鞅掌スル外國人七十七人アリ坑內採鑛ニ關シテハ纔ニ外國人ノ之ヲ指導スルアルニ過キスシテ請負制度ヲ採レリ爲ニ坑夫ヲシテ自ラ勤勉ナラシムルノ利アリ其ノ他經營ノ方法ヲ看ルニ簡捷ヲ旨トシ總テノ事經濟的ニシテ役員ノ數少ク徒然タルモノヲ見ス是レ所謂亞米利加式經營ニシテ採ツテ以テ範ト爲スニ足ル所ナリ

如上說述セル如ク鑛石ノ多量ナルト製錬ノ設備完全ニ近キト動力ノ費用少ナルト經營ノ經濟的ナルトハ實ニ東洋鑛業會社ノ收益一箇年百三十餘萬ニ達スル理由ナリト思惟ス

二、各金坑狀況

(イ)大岩金坑　ハ雲山金鑛金坑中ノ巨擘ニシテ北部雲山郡ニ

於ケル主要ナル開市場タル北鎭ノ北方三十町北面荻里了好尾下洞ニ在リ而シテ會社ノ主要ナル事務ハ大岩ニ於テ執ラル

大岩附近ノ地質ハ巨晶ノ長石ヲ有スル花崗岩ヨリ成ル該岩ハ時ニ不完全ナル剝理ヲ有シ又岩體中ニハ往往捞取セラレタル雲母片岩ヲ包有ス鑛床ハ花崗岩ニ胚胎ス露頭ハ大岩谷ノ東側竪坑ノ傍ニ起リ大岩ト稱スル屛風狀ノ巍然タル岩體ヲ為シ東方千四百呎ニ亙ル竪坑ノ東方四百五十呎ノ地ニ於テ上盤鏰及下盤鏰ノ二脈ニ分岐シ更ニ東方ニ進ムコト五百二十呎ニシテ再ヒ合一セリ一般ノ走向北七十五度東ニシテ北方ニ傾斜スルコト七十五度ナリ露頭ハ西方大岩谷ヲ越エテ顯ハレス蓋シ南北ニ走ル斷層ノアルアリテ其ノ踪跡ヲ晦マシ南方三千呎ヲ隔テ橋洞ニ其ノ連續セル鑛脈ヲ露出スルモノナリ坑內ニ就キテ鑛脈ノ狀態ヲ見ルニ鑛脈ノ延長ハ二千八百呎ニ達スレトモ稼行ニ堪フヘキ部分卽チ富鑛帶(ペー・シュート)ハ約千二百呎ナリ富鑛帶ハ下部ニ降ルニ從ヒ其ノ位置西方ニ移動シ富鑛帶ノ傾斜(ピッチ)ハ約六十五度ナリトス而シテ西方ニハ斷層ノアルアリテ鑛脈ヲ斷ツカ為ニ第七坑道以下ニ於テハ富鑛帶ノ延長千呎ヲ出テス

鑛脈ノ幅ハ十尺乃至四十尺ニシテ灰色石英ヨリ成ル內ニ幅一尺乃至十五尺ニ達スル白色石英ノ部分アリ此ノ白色石英ノ部分ハ卽チ鑛石ニシテ貧鑛部ハ白色石英ヲ缺キタル灰色石英脈ノ部分ナリ上盤鏰及下盤鏰ノ間隔ノ最廣部ハ三十尺乃至七十尺ニ達シ其ノ間ハ母岩タル花崗岩ヨリ成ル而シテ一般ニ地表ニ近キ所ニ於テハ上盤鏰良好ニシテ下部ニ於テハ下盤鏰良好ナリ鑛脈內ニハ時ニ幅狹キ岩脈ノ貫入セルコトアルモ鑛脈ハ之カ為ニ特殊ノ影響ヲ蒙ラス

鑛石ニハ黃鐵鑛方鉛鑛閃亞鉛鑛ヲ伴隨シ時ニ縞條ヲ為セル石墨ヲ含有ス鑛石ノ品位ハ一噸三弗乃至十六弗ニシテ平均五弗⊙七ナリト謂フ

大岩金坑ニハ略鑛脈ノ傾斜ニ沿ヒ掘下セル一箇ノ竪坑アリ其ノ延長千二百二十八呎ニ達ス第一坑道ヨリ第十坑道ニ到ル十箇ノ坑道ヲ有シ其ノ各ノ間隔垂直ニ九十呎乃至百二十呎アリ竪坑坑口地並以上ニモ亦上部坑道中部坑道及本坑道ノ三坑道アリ現今ハ主トシテ本坑道以下第七坑道ノ間ヨリ出鑛セリ

大岩製鍊所ニハ搗鑛杵八十本アリテ一日平均三百二十噸ノ鑛石ヲ處理ス而シテ混汞搗鑛ニヨル實收率ハ全含金量ニ對シ平均百分ノ四十四・五ナリト謂フ汰物ハ橋洞ナル青化收金所ニ送致ス其ノ量一日平均約三十四噸ナリ青化實收率ハ汰物ノ含金量ニ對シ百分ノ八十六・四ナリト謂フ斯クシテ其ノ全實收率ハ百分ノ八十四・四ニ該當ス

(ロ)橋洞金坑　ハ北面荻里了好尾下洞ニ在リテ大岩金坑ト北鎭トノ中間ニ位ス製鍊所ノ外鐵工場病院等ヲ置ク

橋洞附近ノ地質ハ大岩附近トハ稍〻其ノ趣ヲ異ニシ花崗岩ハ

剝理ヲ有スルモノ多ク內ニ黑雲母片麻岩ヲ介在ス片麻岩剝理ノ走向ハ東西ニ近ク傾斜北方七十度ナリ又橋洞西方ノ山地ハ主トシテ長石ノ巨晶ヲ有スル花崗岩ヨリ成ル

橋洞金坑ノ鑛脈ハ大岩金坑ニ於ケルモノト其ノ性狀同樣ナリ走向平均北七十六度五十分東傾斜北六十五度乃至八十度ナリ露頭ハ東大岩谷ノ西側ニ起リ西走シテ鎭後金坑ヲ經柳秋狭ノ溪谷ニ到ル其ノ延長約五千七百五十呎アリ尙鑛脈ハ西方ニ連亙スト謂ソ鑛脈ノ東端ハ大岩谷ノ西側ニ於テ斷タレ谷ヲ越エテ東方ニ延ヒス是レ大岩金坑ノ條下ニ述ヘシ如ク大岩谷ニ沿ヒ南北ニ走ル斷層アルカ爲ニシテ從來地質學者ノ說ク所ニ據レハ大岩金坑及橋洞金坑ノ鑛脈ハ同一鑛脈ノ連續セルモノニシテ大岩谷ニ沿ヘル斷層ニ依リ其ノ西側落下シ爲ニ其ノ間ニ約千米突ノ水平差ヲ見ルニ至リタリト謂フ橋洞ヨリ鎭後ニ亙ル鑛脈ハ其ノ延長五千七百五十呎ニ及ヘトモ其ノ內採鑛ニ足ルヘキ部分ハ橋洞金坑ニ於ケル延長約千六百呎鎭後金坑ニ於ケル延長約千二百呎ノ間ニシテ橋洞金坑坑內ト鎭後金坑坑內トノ間ニハ稼行ニ堪エサル部分約千呎ヲ存ス、橋洞金坑ニ於ケル鑛脈亦竪坑ヨリ西方約七百尺ニ於テ上盤鎚及下盤鎚ノ二脈ニ分岐シ西南西ニ亙ルコト約千百呎ニシテ再ヒ合一セリ富鑛帶ハ前記ノ如ク約千六百呎アリテ其ノ傾斜ハ大岩ニ於ケルト同シク西方ニ向フ鑛脈ノ幅ハ十尺ヨリ二十尺ニ達スレトモ鑛石トシテ採掘スルニ足ル部分ハ一尺乃至十餘尺ナリ坑內ニ於テ上盤鎚及下盤鎚ノ二脈ヲ共存スル部分ニテハ上盤鎚ヲ良好ナリトス

鑛石ノ性質ハ大岩金坑ニ於ケルモノト同シク唯時ニ磁硫鐵鑛ヲ伴隨スルヲ異ナレリトス其ノ品位ハ一噸平均四弗九二ナリト謂フ

橋洞金坑ニモ鑛脈ノ傾斜ニ沿ヒ掘下セル一箇ノ竪坑アリテ其ノ延長千二百六十一尺ニ達シ坑道十箇アリ竪坑地並及之以上ニ三箇ノ坑道ヲ有ス各坑道ノ垂直距離ハ八十呎乃至百二十呎ナリ現ニ主トシテ第三坑道以下第七坑道ノ間ヨリ採鑛セリ而シテ第十坑道ニ於テハ鑛脈ノ稼行スルニ足ルヘキ部分ヲ未タ發見セスト謂フ

製錬所ハ竪坑ノ南方約三町ニ在リ搗鑛杵八十本アリテ橋洞及鎭後兩金坑ノ鑛石ヲ搗鑛ス橋洞ニ於ケル鑛石ノ搗鑛ニヨル實收率ハ全含金量ニ對シ平均百分ノ四十六・七ニシテ橋洞青化收金所ニ於テハ現ニ橋洞搗鑛所ニ於ケル汰物ニ加フルニ大岩及鷹峰搗鑛所ニ於ケル汰物ヨリ收金セリ而シテ橋洞金坑ノ鑛石ノ汰物ハ其ノ含金量ノ百分ノ八十六・九ヲ實收ス斯シテ全實收率ハ鑛石ノ含金量ニ對シ百分ノ八十六・三ニ當ル青化收金ノ殘滓ハ橋洞ニ山積シアリ之ヲ再ヒ青化收金ニ附スル計劃アリテ現ニ青化收金所ノ裝置ヲ變更シツツアリ

（八）鎭後金坑　ハ橋洞ノ西方約二十町ノ山地ニ在リ鎭後金坑附近ノ地質ハ主トシテ長石ノ巨晶ヲ有スル花崗岩ヨリ構成セ

ラレ内ニ黑雲母片麻岩及黑雲母片岩ノ薄層ヲ介在ス片麻岩及片岩ノ剝理ハ北七十度東乃至東西ニシテ北方ニ五十度乃至七十度傾斜ス

鑛脈ハ橋洞鑛脈ノ西方ニ連亙セルモノノ一部ニシテ走向ハ東北東ニ向ヒ北方ニ急斜セリ鎭後竪坑ハ東方ニ於テ其ノ露頭ヲ檢スルニ厚サ十二尺乃至二十尺アリ坑内ニ於テ稼行スヘキ富鑛帶ノ延長ハ約千二百呎アリテ該帶ノ傾斜（ピッチ）ハ西方ニ五十度乃至六十度ナリ上盤鏈及下盤鏈ノ二脈アレトモ上盤鏈ハ稼行ニ堪フル部分極メテ小ニシテ鑛脈ノ幅ハ二尺乃至十二尺ナリ

鑛石ノ性質ハ大岩金坑ニ於ケルモノト同シク其ノ品位ハ一噸ニ付含金三弗乃至十弗ニシテ平均五弗〇二ナリト謂フ

鎭後竪坑ハ延長約四百二十呎ニ達シ第一坑道以下第四坑道ニ到ル四坑道アリ第四坑道以下ハ坑井ヲ掘下スルコト三百五呎ニ迨ヒ茲ニ第五坑道第六坑道及第七坑道ヲ開鑿セリ又鎭後竪坑ノ西南西約千四百呎ナル柳秋狄谷ヨリ第三坑道地並水平坑道ヲ開坑シ竪坑ト連結セリ尙該水平坑道坑口ノ北方ニ延長約二百尺ノ一竪坑ヲ掘下セリ現今ハ主トシテ第一坑道以下第三坑道ニ於テ採鑛ニ從事ス

鎭後竪坑ヨリ出鑛スル鑛石ハ橋洞製錬所ニ送致セラル搗鑛實收率ハ百分ノ四十六・五ニシテ汰物ノ青化收金率ハ原鑛石ノ含金量ニ對シ百分ノ三十八・九ナリ卽チ全實收率ハ百分ノ八十五・四ナリトス

（二）月隱乃金坑　月隱乃金坑ハ北鎭ヲ距ル北西二里半北面狄里月隱上洞ニ在リ本金坑ノ鑛脈ハ東洋鑛業會社ニ於テ稼行セル鑛脈中幅員最小ナレトモ含金量ハ最大ナルモノニ屬ス

月隱乃ノ溪谷ハ巨晶長石ヲ有スル斑狀花崗岩及帶綠色ノ花崗岩ヨリ構成セラル鑛脈ハ前者ニ胚胎シ延長九千呎ニ亙リ其ノ北東端ハ月隱乃谷西側ノ一支谷「ネンサ」谷ニ起リ南西ニ走ルコト約四千二百呎ニシテ燭臺峰ニ到リ走向ヲ轉シテ南走ス此ノ南北走スル部分ノ延長四千八百呎アリ而シテ鑛脈ノ北東ヨリ南西ニ向フ部分ヲ東燭臺峰坑區ト稱シ南走スル部分ヲ西燭臺峰坑區ト稱ス現ニ採鑛ニ從事セルハ前者ニシテ朝鮮人ハ呼ムテ月隱乃金坑ト謂フ本金坑ニ於ケル鑛脈ハ走向北四十度乃至五十度東ニシテ南東ニ傾斜スルコト六十七度乃至七十三度ナリ幅ハ二寸乃至一尺三寸ニシテ兩盤ノ肌際ハ明亮ニ母岩タル花崗岩ト相接ス本鑛脈ハ實ニ花崗岩ノ節理ニ沿ヒテ生セル間隙ヲ充塡セシ石英脈ナリ坑内ニ就キテ鑛脈ノ狀態ヲ見ルニ本坑道ヲ南西ニ進ムコト約千五百呎ニシテ鑛脈ハ南七十六度東ニ急折シ北東四十度ニ傾斜ス其ノ延長約三十五尺ニシテ再ヒ復舊シ南西ニ走ル斯ク鑛脈ノ一度南東南ニ屈折スルハ獨リ本坑道ニ於テ見ルノミナラス本坑道上ナル中間坑道及第二隧道ニ於テモ本坑道ニ於ケル鑛脈屈折箇所ニ相應セル位置ニ於テ鑛脈ノ同樣ニ屈折セルヲ見ル蓋此ノ南東南ナル方向亦花崗岩中ノ一ノ節理面ノ走向ニ一致スルモノナルヘシ坑内ニ於テ

ハ此ノ鑛脈屈曲ノ點ヨリ南西ニ掘進スルコト未タ長カラス而シテ現今迄ニ知得セラレタル範圍內ニ於テハ本坑ニ在リテ稼行スヘキ鑛脈ノ延長約千六百呎ナリトス

鑛石ハ黃鐵鑛方鉛鑛及少量ノ閃亞鉛鑛ヲ含有スル白色石英ニシテ含金量ハ鑛石ニヨリ差違甚タシク一噸三弗乃至百弗アリテ其ノ平均十弗九ナリト謂フ

月隱乃金坑ニハ本坑道ノ外上部ニ中間坑道及第二隧道アリ本坑道以下ハ坑井ヲ掘下スルコト三百呎ニシテ第一坑道及第二坑道アリ「ネンサ」谷ヨリ第二坑道地並下部隧道ヲ開鑿シ今後百餘尺ニシテ坑井ニ貫通スヘシ現ニ主トシテ本坑道以上ヨリ採鑛シ本坑坑口ヨリ出鑛ス若夫レ他日下部隧道開鑿ノ工成ラハ採鑛及出鑛ニ多大ノ便宜ヲ得ヘシ

月隱乃谷ノ西側ニ製錬所アリ搗鑛杵十本ヲ設置ス青化收金ノ裝置ハ他ノ青化收金所ニ於ケルモノト異ニシテ青化法ヲ施スニ先タチ鑛尾ノ淘汰ハ之ヲ省略シ搗鑛機ヨリ出ツル鑛尾ノ全部ヲ直ニ青化加里液ト共ニ攪拌ス搗鑛實收率ハ全含金量ニ對シ百分ノ七十四・七ニシテ青化法ニヨル實收率ハ鑛尾ニ對シ百分ノ五十三・八ナリ斯シテ百分ノ八十七・五ノ全實收率ヲ舉ケツツアリ

(ホ)極城洞金坑　ハ古面牛上里及牛中里ニ在リテ雲山、楚山、熙川三郡ノ界ニ近ク位シ北鎭ヲ東微北ニ距ル直徑五里ニ在リ通路ハ北鎭ノ東南東三里半ナル古面溫井ヨリ北微東ニ極城洞ノ溪谷ヲ溯ル三里半ニシテ本金坑ニ達ス本金坑ハ極城洞谷ニヨリテ南北兩坑ニ分タレ其ノ中間ノ谷ノ南側ニ中坑ナルモノアリ

極城洞金坑附近ノ地質ハ主トシテ剝狀花崗岩ヨリ成リ內ニ黑雲母片麻岩及黑雲母片岩ノ薄層ヲ介在ス之等岩類ノ剝理ノ走向ハ北六十度乃至七十度東ニシテ南方或ハ北方ニ六十度乃至八十度ヲナシテ急斜ス

鑛脈ハ剝狀花崗岩ニ胚胎シ時ニ鑛脈ノ下盤ヲナシテ薄キ黑雲母片岩ノ存スルアルヲ檢セリ南坑ノ鑛脈ハ極城洞谷ノ南方山側ニ露出シ走向平均北四十五度西ニシテ傾斜南西十二度ナリ幅二尺乃至十五尺アリテ時ニ鑛脈中ニ黑雲母片岩ヲ夾有ス又石英脈ハ其ノ一部巨晶花崗岩質ヲ帶ヒ來リテ帶紅色長石ヲ伴隨スルコトアリ鑛脈ノ南側ハ東北東ニ走ル斷層ニヨリテ斷絕セラレタルカ如ク爲ニ鑛床賦存區域ノ幅約八百呎ニ過キスシテ延長ハ東北東ノ方向ニ約千六百呎アリ而シテ南坑ハ既ニ賦存鑛石ノ三分ノ二餘ヲ採鑛シ盡セリ北坑ハ南坑ノ北東ニ位シ其ノ鑛脈ハ走向平均北四十五度東ニシテ北西ニ傾斜スルコト十五度ナリ幅ハ三尺乃至十五尺ニシテ內ニ黑雲母片岩ヲ夾有スル部分少カラス坑內ニ就キテ見ルニ北三十度東乃至東西ニ亙ル數箇ノ斷層アリテ鑛脈ハ北西或ハ北方ニ落下ス而シテ本鑛脈ハ賦存ノ幅約七百呎以上ニ達セサルモノノ如ク其ノ延長ハ東北東ニ亙リ雲山郡界迄約千九百呎アリ尙此ノ鑛脈ハ雲山郡

界ノ地中ニ布衍シテ東方熙川郡西面克城里側洞ニ露出ス側洞ニ於ケル露頭ハ一ノ許可鑛區内ニ在リ東洋鑛業會社ハ鑛業權者ヨリ借區シ現ニ側洞ニ於ケル露頭部ヨリ坑道開鑿ニ從ヘリ而シテ郡界ヨリ側洞ノ露頭ニ至ル迄鑛床賦存ノ延長東北東ニ二百八十間アリ中坑ハ南坑及北坑ノ間ニ介在ス其ノ鑛脈ハ剝狀花崗岩ニ胚胎シ走向北六十五度東乃至東西ニシテ北方ニ八十五度傾斜ス而シテ鑛脈ハ延長千八百呎ニ達スルカ如ク幅ハ三尺乃至五尺アリ南坑ノ北側ニ於テ現ニ探鑛ニ從ヘリ

鑛石ハ南北兩坑共ニ黄鐵鑛方鉛鑛及土狀石墨ヲ含有スル石英鑛石ニシテ硫化鑛物ハ縞條ヲナシ又ハ散點ス其ノ含金量ハ貧弱ナリ卽チ南坑ニ於ケル鑛石ハ平均品位一噸ニ付二弗五四ニシテ北坑ニ於ケルモノハ一噸ニ付三弗〇九ナリ

極城洞金坑ニ於テ現ニ採鑛ニ從事セルハ南坑及北坑ナリ南坑ニハ露頭ヨリ入レル九條ノ坑道ヲ有スルモ第六坑道以上殊ニ鑛床ノ南部ハ既ニ採盡シ現時主トシテ第六坑道及第八坑道ヨリ採鑛セリ北坑ニハ露頭部ヨリ開鑿セル第一ヨリ第八ニ到ル八坑道竝零坑道及零零坑道アリテ現ニ主トシテ鑛床ノ北西部ヲ採鑛セリ

極城洞ナル搗鑛所ニハ搗鑛杵四十本ヲ備ヘ之ニ附隨シテ青化收金所アリ尙明治四十四年落成セシ青化收金殘滓卽チ有價汰物再收金所アリ搗鑛ニヨル實收率ハ南坑ノ鑛石ハ含金ノ百分ノ五十九・三ニシテ北坑ノ鑛石ハ百分ノ五十九・七ナリ又青化法ニヨル實收率ハ汰物含金量ノ百分ノ六十六・八ニシテ全實收率ハ南坑ノモノ百分ノ八十・五北坑ノモノ八十・二ナリトス而シテ有價汰物ノ再青化收金ハ未タ創設當時ニ屬スレトモ成績良好ニシテ其ノ裝置ハ一日約五十噸ノ汰物ヲ處理スルコトヲ得

(へ)鷹峰金坑　ハ城面鷹峰ナル九龍江ノ北岸ニ在リテ溫井ヲ距ル南西約四里半雲山郡邑ヲ距ル北西一里半ニ在リ本金坑ハ東洋鑛業會社ニテハ之ヲ龜岩金坑ト呼ヒ土人ハ之ヲ鷹峰金坑ト稱ス

鷹峰四近ノ地質ハ複雲母花崗岩黑雲母花崗岩及白雲母花崗岩ヨリ成リ金坑ノ北西ナル山地及九龍江ノ南側ニ峭壁ヲ爲シテ聳ユル白碧山ノ連嶂ハ剝狀花崗岩ヨリ成ル複雲母花崗岩中ニハ巨晶花崗岩小花崗岩及玢岩ノ岩脈頻リニ貫入シ殊ニ巨晶花崗岩脈ヲ多シトス鑛脈ハ複雲母花崗岩ニ胚胎シ九龍江ノ北岸階段狀丘阜ノ突角ニ露頭ノ跡アリ脈幅二十尺アリテ其ノ内良好ナル鑛石ヲ有セシ部分ハ上盤ニ二尺下盤ニ十二尺アリシト謂フ其ノ走向ハ北十度西ニシテ傾斜ハ西方五十四度ナリ露頭ノ延長ハ僅ニ約七間ニ過キス蓋本露頭ハ初其ノ形狀龜ノ如カリシヲ以テ此ノ附近ヲ龜岩ト稱シタルナルヘシ此ノ如ク露頭ハ大ナリト云フヘカラス其ノ兩端ハ平地ノ下ニ沒セシモノニシテ之ヲ坑內ニ就テ見ルニ稼行スヘキ鑛脈ノ延長約千呎ニ達セリ鑛脈ハ竪坑附近ニ於テ二分シテ北走シ上盤鎚及下盤鎚ヲ

爲シ北走スルニ從ヒ其ノ間隔愈〻隔タリ約百尺ヲ計ルニ到ル又兩脈ノ分岐點ハ下底ニ到ルニ從ヒテ北進ス鑛脈ノ走向ハ略南北ニシテ傾斜ハ地下ニ到ルニ從ヒ急ニシテ第八坑道ニ於テ六十七度ヲ計レリ上下兩銿トモ含金白色石英脈ハ幅一尺乃至十尺アリテ十數尺ノ綠色脈石ノ間ニ夾在シ時ニ細脈ヲ爲シテ脈石中ニ存ス上盤銿及下盤銿ノ富鑛帶ハ共ニ北方ニ傾斜スト雖下盤銿富鑛帶ノ傾斜(ピッチ)ハ上盤銿ノ其レニ比シ緩ニシテ前者ハ約四十度後者ハ約五十度ナリ又兩銿富鑛帶ノ延長ヲ比スルニ一般ニ下盤銿ノモノ長ク七百呎乃至八百呎ニ達シ上盤銿ノモノハ百呎乃至五百呎ナリトス往往鑛脈ヲ切斷シ或ハ鑛脈內ニ幅二尺乃至四尺ノ黑色緻密ノ岩脈ノ貫通スルアルモ鑛脈ノ性狀ニ對シテハ何等ノ變化ヲモ與フルコトナシ本金坑ハ嘗テ第五坑道ニ於テ下盤銿ハ幅五寸ニ減シ上盤銿亦稼行スヘカラサルニ至リ一時悲境ニ陷リ明治三十九年ヨリ製錬ヲ休止シ總テノ搗鑛機ヲ撤廢シ纔ニ下底ノ探掘ニ從事セリ然ルニ下底ニ於テ再ヒ鑛脈ノ膨大セルニ會スルヤ明治四十一年十二月再ヒ製錬ヲ開始スルニ至レリ

鑛石ハ白色石英ニシテ毒砂方鉛鑛及黃鐵鑛ヲ夾有シ時ニ肉眼的自然金粒ヲ散點ス而シテ露頭ニ於テハ鑛脈中ニ白雲母ノ存スルヲ檢セリ含金量ハ鑛石一噸ニ付二弗半乃至二十弗ニ迨ヒ平均ノ品位八弗三八ナリトス

本金坑ニハ鑛脈ノ傾斜ニ沿ヒ延長千二百六十呎ナル竪坑一アリアヨリ第一坑道乃至第九坑道ヲ開掘セリ第九坑道以下ハ坑內水多キカ爲ニ未タ竪坑ヲ掘下スルニ至ラス坑井ニヨリテ掘下シ第十坑道ヲ少シク開鑿セリト謂フ現ニ主トシテ第八坑道ヨリ出鑛ス

製錬所ニハ搗鑛杵二十本ヲ設置セリ搗鑛ニヨル實收率ハ鑛石含金量ノ百分ノ六十二・七ナリ汰物ハ之ヲ橋洞ニ送致シテ青化收金ニ附セリ靑化收金ノ實收率ハ汰物含金ノ百分ノ八十二ニシテ全實收率ハ鑛石含金量ノ百分ノ八十一・四ニ該當ス

(ト)泥踏里廢坑　ハ東面馬場里內洞ニ在リテ鷹峰ノ東方約一里十町ニ位ス嘗テ會社ニヨリテ盛ニ操業セラレタル鑛脈ハ內洞東方ノ山丘上ニ露ハレ明治三十三四年ノ交最盛況ヲ呈セリ其ノ後下底ニ掘下スルニ從ヒ鑛脈ノ幅漸次狹小トナリ含金量亦貧弱トナルニ迨ヒ遂ニ三十九年九月廢坑ノ止ムヘカラサルニ至レリ鑛脈ハ複雲母花崗岩ニ胚胎シ北十七度西ニ走リ西南西ニ傾斜スルコト七十二度ナリ韓國鑛業調查報告ニヨレハ脈幅三尺乃至十五尺アリテ明治三十八年十一月ニ於テハ第一坑道以下第九坑道アリシト謂フ現今附近ニ散在セル鑛石ヲ見ルニ石英鑛石ニ多量ノ毒砂並方鉛鑛黃鐵鑛閃亞鉛鑛及時ニ雲母ヲ夾雜ス本廢坑ヨリ採鑛セル鑛量ハ會社ノ報告ニヨレハ十五萬二千六百三十二噸ニシテ含金量ハ一噸十弗ニ近カリシト謂フ

雲山郡內ニハ如上記述セル鑛脈ノ外小鑛脈アリテ其ノ數二百

ニ達スヘシ而シテ橋洞ノ東方ナル東谷及北鎭ノ東方ナル三峰里ニ於ケル小鑛脈ハ朝鮮人之ヲ採掘シ會社ハ買鑛セリ又南面富淵里ニ於テハ朝鮮人ノ會社ニ納稅シテ小鑛脈ヲ稼行セルモアリ

三、鑛床論　雲山郡ニ於テ鑛床ヲ胚胎スル地質ハ主トシテ剝狀花崗岩巨晶長石ノ斑狀ヲ爲セル花崗岩及複雲母花崗岩ニシテ之等ノ岩類ハ朝鮮ニ於テ獨リ雲山郡ニ特有ナルモノニアラス實ニ平安北道ノ大部ヲ奄有スル地質ニ屬ス鑛床ハ含金石英脈ニシテ幅小ハ月隱乃金坑ニ於ケル平均六寸ノモノヨリ大ハ大岩金坑ニ於ケル平均五六尺ノモノニ迨ヘリ鑛石ハ黃鐵鑛、方鉛鑛、閃亞鉛鑛、磁硫鐵鑛、毒砂等ノ硫化鑛物ヲ伴隨シ金ハ一般ニ之等硫化物中ニ含有セラルルカ如シ是レ朝鮮ニ於ケル一般金鑛ノ性狀タリ、雲山金鑛採掘ノ鑛石ハ硫化鑛物ノ種類卽チ黃鐵鑛或ハ毒砂ヲ多存スルコトニヨリ二樣ニ區別スヘシ大岩、橋洞鎭後月隱乃及極城洞ニ於ケル鑛石ハ黃鐵鑛ヲ鷹峰ニ於ケルモノハ毒砂ヲ多存ス此ノ鑛石ニ二樣ノ別アルハ雲山ノミニアラスシテ昌城及朔州兩郡ニ於テモ是アルヲ認メタリ又雲山各金坑ノ地質ヲ見ルニ鷹峰ノモノノミ地殼ノ比較的深處ヲ形成セリト認メラルヘシ複雲母花崗岩ニ胚胎セリ之ヲ要スルニ雲山金鑛稼行ノ鑛脈ハ朝鮮ニ於ケル普通ノ金鑛床ニ屬シ特ニ著シキ異點ノ認ムヘキモノアルニアラス唯夫大岩ノ露頭ニ比敵スルニ足ル雄大ニシテ良質ナルモノヲ他ニ未タ發見セサルハ偶、以テ雲山金鑛ノ名ヲ獲タル一因タルヘシ」

雲山金鑛ニハ大岩、橋洞鎭後ノ大露頭アルト大岩、橋洞及鷹峰ノ三金坑ニ於テハ地表ヨリ千呎以上ニ掘下セルトニ因リ一般金鑛脈ニ關スル性狀ニ就キ闡明セルモノ少カラス大岩、橋洞鎭後ニ亙ル鑛脈ニ於テハ其ノ延長中三箇所ニ千二百呎乃至千六百呎ノ富鑛帶アリテ之等富鑛帶ハ鑛脈ノ二分セル附近ニ存在シ又富鑛帶ハ何レモ直立セサルコトヲ認メタリ朝鮮ニ於ケル他ノ鑛脈ニ就テ亦同樣ナル性狀アルコトヲ豫想スルニ難カラス又鷹峰金坑ニ在リテハ第五坑道附近ニ於テ一度鑛脈ハ緊縮シテ稼行ニ堪エサルニ至リシモ再ヒ下底ヲ開鑿スルニ迨ヒテ鑛脈ハ再ヒ膨大シ曩日ノ景況ヲ挽回スルヲ得タリ是レ鑛脈ハ其ノ走向ニ沿ヒ富鑛帶アルト共ニ傾斜ニ沿ヒ亦扁薄ナル扁桃狀ヲ呈スルニ因ルナリ是ニ於テカ知ル鑛脈ノ傾斜方向ニ一旦緊縮スルアルモ必スシモ深ク其ノ縮迫ヲ持續スルモノニアラサルコトヲ

雲山金鑛會社カ明治二十九年其ノ鑛業權ヲ得シヨリ四十四年六月三十日ニ至ルマテノ採鑛量ハ二百五十九萬八千八百十二噸ニシテ其ノ價額千五百九十五萬四千三百五十七弗五十八「セント」五ニ上リ就中大岩及橋洞ノ兩金坑ハ最多産シ大岩ハ七十六萬二千九百八十噸此價額四百六十三萬六千六百三十三弗三十五「セント」橋洞ハ七十七萬六千百六十六噸此ノ價額四百七十四萬八千六百四十八弗七十六「セント」五ノ鑛石ヲ產セ

リト謂フ卽チ大岩及橋洞ヲ併セ雲山金鑛既出ノ約五分ノ三ヲ産出セルナリ

翻テ之ヲ將來ニ考フルニ大岩金坑ハ現今ヨリ下底ニ掘下スルニ從ヒ稼行スヘキ鑛脈ノ延長縮少スヘキモ尙有望ナリトス橋洞金坑ハ第十坑道ニ於テ鑛脈稼行ニ堪エサルカ如シト稱スレトモ鷹峰ノ實例ヲ見ルモ必スシモ悲觀スヘキニ非ス下底ニ掘進セハ恐ク再ヒ富鑛帶ニ逢著スルナルヘシ況ムヤ橋洞附近ノ地盤ハ地質學上大岩ノ地盤ニ比シ地殼ノ上位ニ在ルモノト認メ得ヘク下底ヘノ掘下ハ望ヲ囑スヘカラサルニ非サルニ於テヲヤ他ノ四金坑中月隱乃金坑ハ稼行鑛脈小ナレトモ未タ水準以上ヲ採鑛スルノ餘地充分ナルモノアリ極城洞金坑ハ其ノ北坑ニ連續セル熙川鑛區ヨリ出鑛スルノ望アリ鷹峰金坑亦尙現産額ヲ維持スヘシ是ヲ以テ之ヲ觀レハ雲山金鑛ハ大ナル支障ナキ限リ現況ヲ持續スルコトヲ得ヘシト思惟ス

商工業

○清酒腐敗原因及善後策

本篇ハ忠淸南道太田ナル某釀造家ノ出願ニ依リ釀造酒腐敗ノ原因調査竝釀造實地指導ノ爲出張セル釀造試驗所技手草道常春氏ノ復命書中ヨリ抄出シタルモノナリ以テ一般ノ參考ニ資ス

一、釀造場現況　釀造ハ四十三年新規起業ニ係リ同年冬期著手四十四年春期迄ニ百石餘ヲ釀成シタルモ七月ニハ自製淸酒全部ヲ販賣シ盡シタルノ好況ナリシヲ以テ更ニ十月下旬ヨリ釀造ニ著手シタルニ第一號仕込一箇ノミ普通淸酒ノ製成ヲ見第二號仕込醪ヨリ腐釀ニ陷リ續テ第五號仕込迄ノ四仕舞分六十五石ハ全ク腐敗ニ歸シ仕込ヲ中止スルノ外ナキニ至レリ依テ腐敗醪四箇ノ內一箇分ハ過成ノ酸ヲ中和シ濁酒トシテ一升十錢ニ販賣シツヽアルモ殘三仕舞分ハ處分ニ窮シ强テ搾取セリ

二、腐敗ノ原因　釀造場ハ河岸ニ在リ倉庫ノ築造敢テ宜シキヲ得サルニ非サルモ仕込場ノ土間砂質ニシテ特ニ酛取場ノ設ナク作業中塵芥飛散シ易ク酛育中有害菌類ノ酛液中ニ落下スルノ媒介ヲ爲スハ腐敗原因ノ一タルヘク又該製造場ノ仕込水ハ極度ノ軟水ナリシニモ拘ラス氣溫ト水質トニ留意スルコトナク單ニ內地ニテ習得セシ器械的操作ニ依リ飽迄モ舊慣ヲ墨守シ何等臨機ノ措置ニ出テサリシハ其ノ原因ノ二ナリ

三、腐敗醪ノ處置　以上ノ腐敗醪ハ强テ搾取シタルモ到底其ノ儘販賣ノ見込ナク酒母ハ燒酎ニ變製ノ外ナカラムモ惡性ノ腐敗酛ト認メ難ク仕込ニ供スルハ冒險タルヲ免レスト雖之カ善後策トシテ先ツ

(イ)二箇ノ酛ヲ醪一仕舞ニ使用シ仕込ヲ爲サシメタルニ稍々

冷込ノ氣味アリシヲ以テ燒石膏ヲ多量ニ投シ尙昇溫ニ勉メ醱酵ヲ促シ辛フシテ普通酒ヲ得ルニ至レリ傍倉庫內ハ勿論容器器具器械類ハ一切消毒殺菌ヲ行ヒ新規酛立ノ準備トシテ製麴ニ著手セリ

(ロ)製麴中火氣ヲ用フルヲ禁シ麴室溫度低キニ過クルトキハ火氣ニ代フルニ熱湯ヲ以テシ各操作ノ適溫ニ注意シ殆ト理想的ノ麴ヲ得タルヲ以テ直ニ酒母ノ仕込ニ供セリ

(ハ)軟水ニ適應セシメムカ爲酒母ノ原料配合率ヲモ變更シ

(ニ)腐敗續發ノ際救濟策トシテ尤モ必要缺クヘカラサル純粹酵母添加酛育テニ著手シ其ノ熟成シタル酒母五個ノ內山卸廢止酛ハ非常ニ優良ノ成績ヲ得外四箇ノ酛モ佳良ノ成績ヲ得タルヲ以テ直ニ仕込ニ供セリ

○晉州國有地小作人組合ニ於ケル副業奬勵

(慶南長官報告)

晉州郡平居驛國有地小作人組合ニ於テハ組合員ノ爲ニ副業トシテ巾著紐及眞田紐ノ製造ヲ奬勵シツツアリシカ何レモ農閑ヲ利用シテ製作シ得ヘキ簡易ナル手業ナルヲ以テ漸次其ノ效果ヲ擧ケ平居驛地方ノ物產トシテ知ラルルニ至レリ一箇年間ノ中著紐製作概況左表ノ如シ

製作時期	製品數量(個)	生產額(圓)	原料價額(圓)	一個ノ賣價(圓)	純益(圓)
自一月至三月	五、八五〇	二二二・三〇	五七七・五〇	・三八	二六八・八〇
自七月至十二月	一五、六〇〇	六二四・〇〇		・四〇	
總計	二一、四五〇	八四六・三〇	五七七・五〇	・三九	二六八・八〇

備考 四、五、六ノ三箇月ハ農繁期ナルヲ以テ製造セス

販路ハ一定ノ得意先ト稱スル如キ大ナル取引先ナシト雖從來平居驛產木八絲トシテ知ラレ慶南、全南、慶北、京畿各道ノ商人主トシテ之ヲ購買ス、該組合ニ於テハ獎勵ノ一著手トシテ原料綿絲購買資金ノ融通ヲ行ヒ製產品ヲ多數ナラシメムコトヲ期シ製品ノ發達、製器ノ改良ヲ努メツツアリ

○平北碧潼市場開始狀況

(平北長官報告)

碧潼ハ義州ヲ距ル三十三里鴨綠江ノ上流ニ在ル都邑ニシテ從來對岸ノ盛京省石柱子及大荒溝ノ兩地ヨリ物資ノ供給ヲ受クルカ故ニ自然此ノ地方ノ生產物モ對岸ニ搬出セラレ碧潼ノ商況ハ萎靡振ハサリシカ近時金融組合ノ組織成リ勸業ノ奬勵ニ併セテ市場開設ヲ見ルニ至リ商況頓ニ繁盛ヲ來セリ、市場ハ二月五日第一回ヲ開催シタリシカ時恰モ陰曆正月前ノ事トテ地方農民ノ出市者頗フル多ク出資モ案外ニ夥多ナリキ、第二回ハ同月八日開催セラレタリシカ前市ニ增シタル賑況ヲ呈シ物資ノ賣行甚タ旺ナリ對岸清國人ノ來市スルモノ多ク生牛ノ

出市亦少カラサリキ物價ハ前市ニ於テ白米ノ一石十六圓六十五錢ナリシモノ第二回市場ニ於テハ一躍十八圓ニ昇騰シタルノ外甚シキ變動ナシ左ニ第一回市場ニ於ケル物價ノ概況ヲ示サム

碧潼市場相場表

(二月五日)

賣出品 品名		單位	價格	買入品 品名	單位	價格
化之布	上	一疋	円 九•〇〇	白米	一斗	円 一•八五
	中		八•五〇			
玉唐木	同		九•三〇	大豆	同	六〇
			八•五〇			
石油	上	一箱	四•四〇	小豆	一斗	一•〇〇
	中		三•八〇			
眞木	上	一疋	一•八〇	粟	同	一•四〇
	中		一•六〇			
唐木	同		九•〇〇	玉唐	同	五八
			八•〇〇			
清國簟	同	一房	九〇	唐米	同	六〇
			八〇			
朝鮮簟	上	一房	一•三〇	木米(番米)		一•一〇
	中		—			
白鷺紙	同	一疋	八〇	薪	一束	五
			六〇			
黑塗里	同	一疋	九•〇〇	同	同	六
木炭		一俵	四五	雞	一羽	三〇
鷄卵		十箇	一五	雛 大	一羽	三五
				雛 小		三〇

○穀物價格表(二月分)

二月十五日現在

府郡道廳名	玄米 上	玄米 中	玄米 下	玄米 平均	大豆 上	大豆 中	大豆 下	大豆 平均	大麥 上	大麥 中	大麥 下	大麥 平均
	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円
京城(京畿)	一四•二一	一三•四八	一二•七八	一三•四八	七•七五	七•四四	七•一三	七•四四	五•二七	四•八〇	四•四九	四•八五
仁川(同上)	一四•〇〇	一三•五〇	一三•〇〇	一三•五〇	八•二〇	八•〇〇	七•三五	七•八五	四•六五	四•五五	四•四五	四•五五
清州(忠北)	一五•〇〇	一四•四〇	一四•〇〇	一四•四六	八•〇〇	七•四〇	六•五〇	七•三〇	—	—	—	—
公州(忠南)	一四•二〇	一三•七〇	一三•四七	一三•七九	七•〇〇	六•六二	六•四〇	六•六七	七•二五	六•八五	六•四〇	六•八三
恩津(同上)(江景)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
全州(全北)	—	—	—	—	七•六五	七•五〇	七•二五	七•四六	—	—	—	—
群山(同上)	一三•七〇	一三•五五	一三•四〇	一三•五五	八•〇〇	七•九〇	七•六〇	七•八三	六•五〇	五•九〇	五•〇七	六•〇三
光州(全南)	一五•〇〇	一四•六〇	一四•二〇	一四•六〇	一〇•五〇	一〇•一〇	九•八〇	一〇•一三	八•〇〇	七•七〇	七•四〇	七•七〇
木浦(同上)	一四•七〇	一四•五〇	一五•二〇	一四•四六	九•〇〇	八•七〇	八•五〇	八•七三	—	—	—	—
大邱(慶北)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
晋州(慶南)	一三•五〇	一三•五〇	一二•〇〇	一三•〇〇	六•一〇	五•九〇	五•七〇	五•九〇	五•六〇	五•三〇	五•〇〇	五•三〇
釜山(同上)	一五•二〇	一四•五〇	一三•九〇	一四•五三	八•二〇	七•九〇	七•七〇	七•九三	六•〇〇	五•九〇	五•八〇	五•九〇

馬山(同上)	一四・八〇	一四・四〇	一四・〇〇	一四・四〇	七・六〇	七・四五	七・三〇	七・四五	六・〇〇	五・八〇	五・六〇	五・八〇
春川(江原)	一七・五〇	一七・一〇	一六・二〇	一六・九三	六・二〇	六・〇〇	五・八〇	六・〇〇	—	—	—	—
江陵(同上)	—	—	—	—	六・八〇	六・五〇	六・二〇	六・五〇	—	—	—	—
海州(黃海)	一三・三〇	一三・〇〇	一二・八〇	一三・〇三	七・〇〇	六・七〇	六・五〇	六・七三	四・八〇	四・五〇	四・二〇	四・五〇
鳳山(同上)(沙里院)	一二・〇〇	一一・五〇	一〇・〇〇	一一・一六	七・〇〇	六・六〇	六・二〇	六・六〇	四・〇〇	三・六〇	三・四〇	三・六六
平壤(平南)	一二・三〇	一二・二〇	一一・七〇	一二・〇〇	七・三〇	六・二〇	六・〇〇	六・五〇	四・四〇	四・二〇	四・一〇	四・〇三
鎭南浦(同上)	一四・五〇	一四・一〇	一三・〇〇	一三・八六	八・二〇	七・八〇	七・二〇	七・七三	五・三〇	四・八〇	四・五〇	四・八六
龍川(平北)	一五・五〇	一四・五〇	一四・〇〇	一四・六六	七・五〇	七・四〇	七・三〇	七・四〇	—	—	—	—
平均	一四・三三	一三・八九	一三・二九	一三・八三	七・六六	七・三三	七・〇二	七・三四	五・六四	五・三一	五・〇八	五・三四
前期對比較高低	・三四	・三六	・一八	・二九	・二一	・一九	・一四	・一八	△・〇三	△・〇四	△・一三	△・〇六

備考

一、本表ハ毎一石ノ(法定量)卸賣價格ヲ掲記シタルモノナリ

二、比較高低欄ノ△印ハ低落ヲ示スモノナリ

三、本表中記入ナキ部分ハ取引ナカリシ爲ナリ但シ恩津大邱ノ分ハ報告書末著ニ付籾價格ノミ記入シ他ハ不明ニ付記入セス

四、大麥ヲ除クノ外各穀物共益〻高騰シツツアルハ現品ノ出廻リ少ク需要ニ對スル供給不足ナルト內地相場ニ促進セラレツツアルニ依ル而シテ前者ノ主因トモ見ルヘキハ農家ノ先行ヲ見越シテ賣惜ツツアルカ爲ナリ

五、大麥ハ各市場共商況不振ニシテ取引皆無ノ市場モ多ク從テ平均額ニ於テ六錢ノ下落ヲ見尙下落ノ傾向ヲ呈セリ

○最近三箇年間穀物價格比較表

時期	籾 上	籾 中	籾 下	籾 平均	玄米 上	玄米 中	玄米 下	玄米 平均	大豆 上	大豆 中	大豆 下	大豆 平均
	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円
四十三年二月二十日	三・七八	三・五〇	三・二七	三・五一	七・五七	七・二八	七・〇四	七・二九	五・九七	五・六七	五・三八	五・六七
四十四年二月十五日	四・七八	四・三六	四・〇二	四・三八	一〇・九九	一〇・四四	九・八六	一〇・四三	六・二四	六・〇〇	五・七一	五・九八
四十五年二月十五日	六・七四	六・二五	五・七八	六・二五	一四・三三	一三・八九	一三・二九	一三・八三	七・六六	七・三三	七・〇二	七・三四
比較高低 對四十三年二月二十日	二・九六	二・七五	二・五一	二・七四	六・七六	六・六一	六・二五	六・五四	一・六九	一・六六	一・六四	一・六六
比較高低 對四十四年二月十五日	一・九六	一・八九	一・七六	一・八七	三・三四	三・四五	三・四三	三・四〇	一・四二	一・三三	一・三一	一・三五

水産業

○京畿道養蠣事業成績

本道沿岸ニハ古來蠣ヲ產シ特ニ永宗島及江華島ハ其ノ主產地トシテ著名ナリ然ルニ近年清國輸出ノ途開クルニ及ムテ忽チ濫採ノ弊ニ陷リ其ノ產額ノ減少甚タ著シク人工ヲ加ヘテ之カ蕃殖ヲ圖ルニアラスムハ遂ニ種族ヲ絕滅スルニ至ラムトスルノ狀況ニ逼レリト雖漁民ハ只採取ニ專ニシテ蕃殖ノ法ヲ知ラス依テ先ツ其ノ方法ヲ周知セシムルノ目的ヲ以テ明治四十四年五月及十月ノ二回ニ亙リ永宗島松山里ニ五千坪及同年十月江華島東幕里ニ二千坪ノ地ヲ劃シテ養蠣場ヲ設置スルコトトセリ

一、養蠣場地勢

永宗島ハ仁川港ヲ距ルコト約三浬ノ西方ニ橫ハレル一大島ニシテ周圍約十里人家七百二十餘戶ヲ有ス沿岸屈曲灣入ニ富ムト雖大概皆瀉干ニ圍繞セラレテ東岸ニ於ケル舊邑里西北岸ニ於ケル禮湖里ノ外ハ船舶ノ出入ニ便ナラス干潟ハ島ノ南北ニ擴延シ其ノ北方ハ土質概シテ固硬ナレトモ南方ハ軟泥ノ地多ク蠣其ノ他ノ貝類ニ富ム、干潮時ニハ全島ノ女子此處ニ出テテ之ヲ採取ス

江華島ハ永宗島ノ北方ニ位シ殆ト本土ニ於ケル通津郡ノ沿岸ニ接シテ橫ハレル周圍約三十里ノ大島ニシテ三面皆深水ヲ以テ繞ラスト雖其ノ南岸ハ長約十浬幅約三浬ニ亙レル干潟擴延ス此ノ干潟ニハ蠣其ノ他ノ貝類ヲ產シ沿岸ノ下道面及吉祥面ハ素ヨリ遙ニ內地ニ介在セル上道面ノ住民ニ至ルマテ盛ニ之ヲ採取ス

二、養蠣場ノ位置

養蠣場ノ位置ヲ選定スルニ當リテハ先ツ養蠣上ノ適否、監督上ノ便否等諸般ノ狀況ヲ較量セサルヘカラス永宗島ニ在リテハ其ノ南岸稍、東端ニ偏セル後所里附近ノ前面ハ現時蠣產地ノ中心ニシテ又蠣ノ成育ニ最適セルカ如シト雖其ノ地沿岸ヲ距ルコト遠ク且採貝業者ノ往來頻繁ニシテ監督上ノ不便尠カラス後所里ノ東一里ナル松山里ノ前面ハ地質大概稍、硬ク養蠣ニ適良ナリト謂フヘカラサルモ監督上ノ便利ヲ有シ且從來蠣ノ棲息ヲ見サル場所ニ蕃殖ヲ計ル亦養蠣事業獎勵上效果尠カラサルヘシトノ見解ニ因リ明治四十四年五月此ノ地ヨリ距岸約一浬ノ處ニ面積二千五百坪ヲ區劃シテ養蠣場ヲ設置シタリ後同年十月更ニ之ヲ擴張スルノ必要ヲ認メ同場ノ北側ニ接シテ二千五百坪ヲ劃シテ場內ニ編入セリ

江華島ニ在リテハ下道面東幕里ノ前面ニ二千坪ノ地ヲ劃シテ養蠣場ヲ設ケタリ現時同島ニ於ケル蠣ノ採取場ハ吉祥面ノ前面東檢島ノ西方ヲ以テ中心トシテ下道面地先ニハ茫漠タル干潟擴延スト雖岸邊ニ近キ部分ヲ除クノ外ハ大概蠣ノ棲息ヲ見ス然レトモ永宗島ニ於ケルト同一ノ理由ニ依リ養蠣場ヲ此處ニ選定セリ

三、苗貝供給地

永宗島ニ在リテハ其ノ沿岸干潟ノ間ニ存スル澪筋ニ苗貝ヲ產スレトモ豊富ナラス同島ヲ距ルコト西南約十一浬ナル舞衣島ノ東岸一帶ノ干潟ハ常ニ稚貝ニ富ムヲ以テ苗貝ヲ同島ヨリ供給スルコトトセリ蓋潮流及風向等ニヨリテ觀察スルニ同島ノ稚貝ハ大概永宗島ニ棲息セル蟶ノ產出セルモノナルヘク將來永宗島ニ於ケル親貝ノ蕃殖スルニ從ヒ稚貝亦增殖シ永宗島ニ於ケル養蟶場ノ苗貝供給地トシテ屈竟ノ場所タリ

江華島ニ在リテハ東檢島西岸一帶ノ干潟ヲ苗貝供給地トナス養蟶場ヲ距ルコト僅ニ約三浬ニシテ往來稍便ナリ此ノ地亦東幕方面ニ於ケル蟶ノ蕃殖ニ伴ヒ永久苗貝供給地タルノ位置ヲ失ハサルモノト認ム

四、養蟶事業

（甲）永宗島

明治四十四年五月十一日ヨリ永宗島養蟶事業ニ著手ス

養蟶場ノ面積ハ二千五百坪ニシテ場內四方ニ空地ヲ存シ其ノ中央七百二十坪ヲ八十坪宛九列ニ分チ中央ノ三列ニハ一坪ニ二升五合、兩側ノ三列ニハ各二升ノ割合ヲ以テ蒔付ルコトトセリ蓋地質稍硬キニ過ルノ嫌アリシヲ以テ普通ノ割合ヨリ少シク減シタリ

後更ニ必要ニ迫リテ曩ニ設置シタル養蟶場ヲ擴張スルコトト成リ同年九月中ニ著手スルノ豫定ナリシモ江華島ニ於ケル養蟶作業ノ困難ニシテ大ニ時日ヲ要シタルニ歸因シ十月ニ入リテ漸ク著手スルニ至リシカ時已ニ遲ク苗貝ヲ得ルコト甚タ容易ナラス僅ニ二百坪ノ蒔付ヲ爲スヲ得タリ

（乙）江華島

同年十二月十二日ヨリ江華島養蟶事業ニ著手ス當時苗貝ハ非常ノ減少ヲ來シ且天候屢不穩ニシテ苗貝ヲ得ルコト甚タ困難ナリシヲ以テ豫定ノ坪數ニ達スルコト能ハサリキ右六百三十坪ハ之ヲ三十坪宛三列七分シ總テ一坪ニ對シ三升ノ割合ヲ以テ蒔付ケタリ

五、經費

養蟶場設置ノ作業ニ要シタル經費ハ總計二百七十三圓四十四錢ニシテ左表ノ如シ

場別	經費			
	苗貝代	人夫賃	借船賃	計
	円	円	円	円
永宗島	六三・〇〇	四九・四〇	一九・五〇	一三一・九〇
江華島	五六・七〇	四二・八四	四二・〇〇	一四一・五四
總計	一一九・七〇	九二・二四	六一・五〇	二七三・四五

六、養蟶場ノ管理

永宗島養蟶場ニ在リテハ二名江華島養蟶場ニ在リテハ一名ノ管理人ヲ置キ永宗島ニ於ケル二名ノ內一名ハ特ニ管理以外蟶苗成育狀態ノ檢測ヲ委託シ毎月其ノ成績ヲ報告セシム

七、成績

永宗島養蟶場ニ在リテハ當初蒔付ケタル苗貝ハ體長九分七厘體量一匁ナリシモ同十一月迄ニ體長一寸五分三厘體量二匁四分トナリ卽チ六箇月間ニ體量ニ於テ一倍以上ノ成長ヲ遂ケタリ之ヲ表示セハ左ノ如シ而シテ當時一坪ニ對シ二升及二升五合ノ二區ニ分チテ蒔付ケタルモ其ノ成績ニ於テハ兩者共ニ大差ヲ見ス

檢測時	體長 (寸)	體量 (匁)	一合ノ數 (個)	一合ノ量 (匁)
五月	、九七	一、〇二	三五	三五
七月	一、三三	一、七三	二三	二八
八月	一、四五	二、一〇	一八	三八
九月	一、五一	二、五〇	一六	四〇
十月	一、五二	二、三三	一五	三五
十一月	一、五三	二、四〇	一五	三六
十二月	一、五三	二、四〇	一五	三六

備考　蟶苗蒔付ハ五月ナリシモ檢測ハ七月ヨリ開始セリ
檢測ハ毎月二十日ヨリ二十五日迄ノ間ニ於テセリ
十一月以後ハ發育休止期ニ入ル

四十四年十月擴張シタル永宗島養蟶場及同月新設シタル江華島養蟶場ニ於ケル成績ハ苗貝蒔付後間モナク結氷期ニ入リタレハ發育甚タ遲鈍ニシテ今日ニ至ル迄體形ニ於テ著シキ差異ヲ認メス然レトモ本道沿岸ニハ未タ害敵ノ來襲ナキヲ以テ各場共ニ苗貝ノ斃死スルモノ稀ニシテ成育順調ニアルモノノ如シ之ヲ要スルニ各養蟶場ハ何レモ設置以來日尚淺シト雖今日迄ノ成績ハ頗ル良好ニシテ特ニ比較的多クノ日子ヲ經過セル永宗島養蟶場ノ成績ハ最顯著ニシテ附近住民ニ尠ナカラサル感動ヲ與ヘ彼等ハ蟶養殖ノ可能ナルコト且其ノ事業ノ有利ナルコトヲ悟リ本場設置ノ方法ニ倣ヒ自ラ養蟶事業ニ從事セムト欲シ續續其ノ準備ニ著手スルモノアリト謂フ本場設置ノ效果空シカラサルナリ

〇忠淸南道延繩漁業傳習成績

延繩漁業ノ傳習ヲ開始スルニ當リ特ニ幅七尺五寸全長三十六尺深二尺三寸ノ甲板裝置アル漁船一艘ヲ群山ニ於テ新造シ之ニ延繩漁具其ノ他傳習ニ必要ナル器具ヲ設備シタリ

傳習生ハ管内沿海各郡守ヲシテ當業者中ヨリ選拔セシメタルカ當初其ノ數多カリシモ乘込ノ際ニ至リ異動ヲ生シ定員ヨリ六名ヲ減スルニ至レリ其ノ數左ノ如シ

舒川郡	十名	庇仁郡	三名
鰲川郡	五名	泰安郡	六名
總計		二十四名	

傳習ハ四十四年十月ヨリ十一月ニ至ル間ニシテ之ヲ二回ニ分チ第一回ハ十月十六日ヨリ同二十八日迄第二回ハ十一月十四日ニ開始シ同三十日ヲ以テ終了セリ

傳習ニ際シテハ道廳員一名漁撈教師二名通譯一名傳習生ト共ニ漁船ニ乘組ミ延繩ノ使用方法、内地式漁船ノ操縱法、漁具製作法其ノ他延繩漁業ニ必要ナル事項ヲ實地ニ就キ懇導切指

導シ而シテ漁具ト潮流トノ關係、魚族ト餌料トノ關係及漁具ノ製作ハ本漁業者ノ緊要トスル處ナルヲ以テ時化若ハ潮待ノ際能ク傳習スル所アラシメ特ニ釣ノ製作縉絲ノ結束法ハ極メテ熟練ヲ要スヘキモノナルニ因リ反覆練習セシムルコトニ努メタリ

漁場ハ本道鷲川郡沿海ニシテ氣温頓ニ降下シタル爲魚族ノ退去ヲ早カラシメタルト時化ノ爲好潮時ヲ逸シ恰モ潮流激甚ナル時期ニノミ操業スルノ止ヲ得サルニ至リ漁獲上ラスト雖漁獲物ノ種類ハ鯛石首魚鮸鰆鰱鰒小鰭等ニシテ水揚高九拾六圓餘ニ達シタリ、而シテ餌料ハ主トシテ本道沿岸ニ產出スル蛸ヲ使用シタルモ尙鰕蝦姑鰡(大ハ三四箇小ハ二箇ニ切斷ス)等ヲ併用シタリ

以上傳習ノ成績ヲ見ルニ延繩ノ使用漁船ノ操縦ニ就テハ素養ノ有無及技能ノ如何ニ因リ一定セスト雖一般ニ會得スルコト速ニシテ普通ノ天候ニ共同作業セハ操業シ得ル迄ニ熟練スルニ至レリ、漁具ノ製作ハ最熟練ヲ要スルモノナルヲ以テ反覆傳習ノ結果其ノ要領ヲ覺知セシムルヲ得タリ

○慶尙北道模範漁業成績

延日灣ニ於ケル鰊擧網ハ同地固有ノ漁具ナルモ施設上多大ノ經費ヲ要スルノミナラス其ノ構造上ノ關係ヨリ布設ノ位置ハ一定水深以內ノ場所ニ限ラレ廣ク使用スルヲ以テ漁獲成績良好ナラス時時收支相償ハサルコトアリ爲ニ該漁業ハ近時甚タ振ハス、又該地ニ於テハ擧網ノ外內地式壺網ヲ布設スル者アリト雖之亦布設ノ箇所ニ局限アリ且一時ニ魚ノ大群ヲ收容シ得ヘキ構造ヲ鈌キ鰊漁ニ對シテハ未タ以テ完全ノ漁具ト稱スルヲ得ス殊ニ朝鮮人ノ如キハ其ノ壺網ノ構成ニ於テ徒ニ網地ヲ節約シ十分ノ縮結ヲ行ハス其ノ利害ヲ察知セサルモノアリ因リテ左記二統ノ網ヲ調製シ延日灣鰊漁場ノ最沖合ヲ選ヒ其ノ位置ヲシテ當業者ノ後網タラシメ昨年十二月下旬之ヲ布設セリ

一、甲網

構造ハ普通ノ壺網ナルモ特ニ縮結ヲ多クシ且普通ノモノニ比シ網ノ周圍ヲ十尋內外增大ス

一、乙網

壺網ノ小袋ノ代用トシテ網奥ニ口幅四尋長六尋ノ落袋ヲ設ク

右二統ノ網ハ略同一ノ場所ニ於テ雙方約百五十間ノ間隔ヲ保チ相對立セシメテ布設ス

該漁場ニハ特ニ大ナル標識旗ヲ設ケ當業者ノ注視ニ便ニス

漁獲成績表

月日	漁獲物	賣上金高
明治四十四年十二月三十日 同 三十一日	鱈	円 二・二九八
自同四十五年一月三日 至 一月三十日	鱈、鮃、河豚、鰆、鰊等	五五九・四四三
自 二月五日 至同 七日	鱈、鮃、鰊等	六五九・八〇〇
計		一、二二一・五四一

○二月中漁業免許數

二月中ニ漁業ヲ免許シタル件數ハ三十八件ニシテ皆慶尙南道ニ於ケル朝鮮人團體ノ出願ニ係ルモノニシテ他道ニハ免許シタルモノナシ

貿易及經濟

○鎭南浦港ニ於ケル最近貿易及經濟狀況

甲、貿易狀況

第一、輪移出貿易

四十四年九月黃海道諸郡水害アリ其ノ後引續キ雨天勝ニテ收穫期ノ後レタルノミナラス一般穀物ノ減收ヲ來シ爾來出廻リ甚タ振ハス僅ニ豆類（主トシテ大豆）及白米ノ取引並鐵鑛、石炭等ノ搬出ニ幾分活氣ヲ呈シタルニ過キサリシカ十二月ニ入リテハ穀類ノ廻著モ漸次增加シ且當港結氷期ニ近ツキタルヨリ相應ノ輪移出アリタレトモ其ノ取引ハ尙豆類白米ニ止マレリ斯クテ十二月末ニハ流氷ノ爲水上ノ交通ハ全ク杜絕シ爾來輸移出ハ汽車便ニ依ルノ外ナク本年一月ノ貿易モ殆ト見ルニ足ルモノナシ而シテ一月中輸出品ノ大部分ハ白米ニシテ大連、安東縣、長春、奉天等滿洲諸地方ニ仕向ケラレタルモノト京城開城並北鮮地方ニ送ラレタルモノト相半シ其ノ數量合

シテ二千餘石ニ過キス之ヲ昨年十二月中ノ白米仕向高五千三百餘石ニ比スレハ非常ノ減退ト謂フヘキモコレ結氷期中例年見ル所ノ現象ニシテ素ヨリ止ムヲ得サルナリ然レトモ近時鮮滿鐵道連帶輸送開始ノ爲奉天、長春等ニモ盛ニ精米ノ仕向アルハ頗ル注目ニ値スヘク將來此ノ方面ニ於ケル鮮白米ノ優勢ナルニ至ルヘキハ疑ヲ容レサル所ナリ

輸移出ノ狀況斯ノ如クナルヲ以テ當港輸出商ハ專心地方穀物ノ買出ニ努力シ解氷後ノ商戰ニ備ヘツツアリ而シテ其ノ買出シタル穀物モ氷上運搬ノ便アル地方ヨリハ盛ニ當港ニ廻送セラルルヲ以テ（解氷後水運ニ依ルノ極メテ便利ナル地方ニ於テハ其ノ地ニ貯藏ス）當港ノ在品ハ次第ニ增加シ一月末ニ於ケル穀物在高ハ左記ノ如シトス

米	一八、〇〇〇叺	小豆	六、〇〇〇叺
籾	二、〇〇〇俵	小麥	九、〇〇〇叺
大豆	三五、〇〇〇叺	粟	四、〇〇〇叺
雜穀	二、〇〇〇叺		

惟フニ昨秋ノ水害カ一般作物ノ減收ヲ來シタル事ハ否定スル能ハスト雖事實平安南北道ノ被害ハ極メテ少ナク黃海道亦大被害ハ一部ニ止マリ其ノ平年作ニ對スル減收モ甚大ナラサリシ模樣ニテ昨秋以來當地穀物市場ノ不振ハ主トシテ出廻遲延ニ歸因スルモノナルヘシトハ近來一般當業者ノ口ニスル所ナルヲ以テ本春解氷後船舶ノ出入頻繁ナルニ至ラハ當港ノ輸移出貿易ハ相當ニ好況ヲ呈スルニ至ルヘシ、今一月中ニ於ケル

主要穀物ノ市價ヲ擧クレハ左ノ如シ

品名		最高	最低	品名		最高	最低
		円	円			円	円
籾	上	七・〇〇	六・六〇	大豆	大玉	八・四五	八・〇〇
	並	六・五〇	六・二〇		並	八・三〇	七・七〇
白米(石拔)	上	一八・五〇	一七・五〇	綠豆		九・三〇	八・七〇
	並	一八・〇〇	一七・〇〇	小麥		七・六〇	七・二〇
	下	一七・五〇	一五・八〇	粟		一三・〇〇	一二・〇〇
玄米	上	一三・五〇	一二・七〇	小豆	上	一〇・〇〇	九・二〇
	並	一二・八〇	一二・〇〇		並	九・六〇	九・〇〇
	下	一一・五〇	一一・〇〇	大麥		四・六〇	四・二〇
糯玄米		一四・二〇	一三・五〇				
糯白米		二〇・〇〇	一九・五〇				

第二、輸移入貿易

一月中ノ輸移入貿易亦輸移出ト同シク殆ト謂フニ足ルモノナク唯常用品小雜貨類ノ僅ニ汽車便ニ依リテ到著シタルモノアルニ過キス元來當港輸移入品ノ過半ハ對岸黃海道諸地方ニ供給スルモノニシテ又結氷期ニ於ケル奧筋地方ノ需要品ハ大同江及其ノ上流諸川ノ結氷前概ネ仕入ヲ了スルヲ以テ一月中輸移入品ノ取引ハ唯鮮人舊節季ノ近ツキタル爲綿布綿絲其ノ他鮮人向雜貨ノ當港附近ノ部落ニ小口ノ需要アルト京義鐵道沿線地方ニ繩叺、石油及食料品等ノ需要アルニ過キサルナリ

一月中重要輸移入品ノ市價大略左ノ如シ

品名	商標	單位	最高	最低
綿絲	平 十手	二十玉一梱	七四・〇〇	七〇・〇〇
	平 十六手		七四・五〇	七二・五〇
撚絲	雙鹿 三十二三子	四十玉	二三〇・〇〇	二二二・〇〇
	扇子 ク 二子		一四一・〇〇	一三六・〇〇
晒金巾	九桃花	五十疋入	三七五・〇〇	三六五・〇〇
	九牡丹		四〇〇・〇〇	三九〇・〇〇
	二君子		三七五・〇〇	三六二・〇〇
	月星		三六五・〇〇	三六〇・〇〇
和金巾	三A	二十疋入	一三九・〇〇	一三六・〇〇
	三B		一三七・〇〇	一三四・〇〇
	三		一二九・〇〇	一二六・〇〇
	騎兵		一三二・〇〇	一三二・〇〇
天竺布		四十疋	一五六・〇〇	一四八・〇〇
白木綿	城	六十疋	一〇九・〇〇	一〇八・〇〇
	牡丹		一〇五・〇〇	一〇五・〇〇
	旗		一〇六・〇〇	一〇六・〇〇
砂糖	N	百斤袋	一一・五〇	一一・五〇
	X		一一・五〇	一一・五〇
	E		一一・三〇	一一・二〇
石油	松	一函	三・四〇	三・三三
	勝利		三・〇八	三・〇〇
	旗		二・九五	二・九〇
麥粉	東鄉	一袋	二・六〇	二・六〇
	日ノ出		二・六〇	二・六〇

第三、當港商圏内ニ於ケル貿易品集散ノ狀況

一、輸移出品出廻狀況

當港ノ重要輸移出品ハ穀物ニシテ其ノ生產地ハ黃海道ノ北半部京義沿線地方ヨリ此ハ遠ク宣川車輦館ニ延ヒ南ハ汗浦岑城ニ至リ甚タ廣大ナル區域ナリ而シテ當港出廻穀物ハ平均年額四十萬石ノ巨額ニ達ス是レ當港カ大同江水運ノ便ヲ有シ西海

岸唯一ノ良港タルノ地位ヲ占ムルニ依ル思フニ鮮滿鐵道連帶輸送モ既ニ開始セラレ更ニ築港完成水陸連絡ノ便益加ハルニ至ラハ當港輸移出貿易ハ更ニ一般ノ發達ヲ見ルニ至ルヘキ乎

今試ニ當港回著主要穀物ノ產地ヲ示セハ左ノ如シ

黃海道　黃州、鳳山、載寧、安岳、信川、殷栗、長連、長淵、松禾、豐川、興水、新幕、沙里院、瑞興、汗浦、岑城、南川等

平安道　平壤、龍岡、三和、中和、郭山、博川、安州、鐵山、肅川、宣川、車輦館、嶺美、定州、東林、南市、新安州等

輸移出貿易商ハ穀物出廻時期ニ至レハ是等ノ主要生產地ニ人ヲ派シテ買出ニ從事セシメ殊ニ集散多キ地ニハ間間出張所ヲ設クルモノアリ又有力ナル地方鮮人ニ資金ヲ給シテ買出シニ從事セシメ利潤ヲ分配スルノ方法ヲ採ルモノアリ近來ノ傾向ハ貿易商カ當港ニ穀物ノ回著スルヲ待ツテ買收スルヨリモ地方ニ就テ買出スノ利ナルヲ覺リ地方トノ連絡ニ重キヲ置クニ至リタリ

此ノ如ク穀物ノ出廻リ範圍ハ極メテ廣キニ亙ルト雖一月ハ大同江水運杜絕ノ結果汽車輸送ニ依ルノ外ナキヲ以テ江岸ニ近キ地方ノ產米ニ解氷期迄產地ニ貯藏セラレ平壤以北ノ鐵道沿線地方產米ノミ當港ニ運搬セラル而シテ一月中鐵道ニ依リ回著シタル穀物ノ主ナルモノハ左ノ如シ（鎭南浦驛調查）

米	四七一噸	大豆	一、五五一噸
雜穀	四六七噸	計	二、四八九噸

二、輸移入品ノ分配狀況

鎭南浦商人ノ輸移入品供給範圍ハ主トシテ對岸黃海道ニシテ載寧、安岳、殷栗、長連、長淵、松禾、豐川地方需要最モ多ク其ノ他本道諸地方及京義沿線主要市場ニ對シテ亦取引ヲナセトモ其ノ額頗ル僅少ナリ蓋平南線ノ開通ハ最近ノコトニシテ從來京義沿線各市場ハ平壤輸入高ノ取引區域ニ屬シ當港商人ノ活動舞臺ハ甚タ制限セラレテ勢ヒ主トシテ黃海道方面トノ取引ニ從事シタルナリ而シテ是等ノ地方トノ取引關係ハ

一、內地人輸入商及地方鮮人雜貨商間
二、內地人輸入商及地方內地人雜貨商間
三、當港鮮人雜貨商及地方鮮人雜貨商間

ノ三種ニシテ從來內地人輸入商ト地方鮮人雜貨商トノ取引其ノ大部分ヲ占メタルカ近來各地方ニ於テ雜貨商ヲ營ム內地人增加シタルタメ前記第二ノ取引ヲ見ルニ至リシナリ

是等地方トノ取引ハ殆ト全部掛賣ナルカ其ノ期間ハ普通荷物到著後一箇月位ノ約定ナレトモ此ノ期限ヲ嚴守スルモノ少ナク二箇月若ハ三箇月ニモ及フモノアリ近來代金決濟ノ爲郵便振替貯金ヲ利用スルモノ多ク鮮商中ニモ此ノ方法ニ依ルモノ往往コレアルカ如シ其ノ他ハ地方ヨリ新ニ商品仕入ニ來ル時前回ノ代金ヲ支拂ヒ歸ルモノト當地輸入商カ店員ヲ派出シテ

集金ヲナスモノトアリ

因ニ當地輸入商ト當地鮮人雜貨商間ノ取引ハ多クハ約束手形ニ依リ期間ハ一箇月乃至二箇月ヲ普通トス

乙、貿易ニ關スル經濟狀況

第一、貿易金融事情

一、輸移出品ニ對スル爲替割引ノ狀況

四十四年十二月中ノ輸移出貿易ハ秋季以來不振ノ市場ニ少シク活氣ヲ呈セシメ從テ此等輸移出ニ對スル爲替割引ノ方面ニ資金ノ需要ヲ惹起シ多少繁忙ノ姿ニテ越年シタルカ一月ニ入ルヤ船舶ノ出入杜絕シタル爲輸移出ニ對スル爲替割引モ極メテ少ナク當地三銀行（朝鮮、百三十、農工）ニ於テ取組ミタルモノ合セテ五十九口五萬九千餘圓ニ過キス（他所代金取立手形ヲ含ム）而シテ其ノ大部分ハ京城、安東縣及大連仕向ノ精米代金ニ對スルモノトス

二、輸移入品ニ對スル貸出

輸入商カ嚮ニ仕入タル商品ニ對スル代金決濟期日ハ漸次切迫シタルモ一方地方商人ニ對スル賣掛代金ハ多クハ解氷後回收セラルル模樣ニテ其ノ間大口ノ取引ナク資金ノ移動鈍キカ故ニ輸入商ノ金繰思ハシカラス從テ一部輸入商品ノ賣買ニ依リヲ成立シタル約束手形ノ割引及輸入商品擔保ノ貸付ハ相當ノ額ニ達シタリ、元來輸入商ハ倉敷料及保險料等ノ負擔ノ關係上輸入品擔保ヲ喜ハス商業手形ノ割引ニ依ッテ融通ヲ得ムトスレトモ事情上述ノ如キヲ以テ止ムヲ得ス結氷中移動ナキ手持商品ヲ擔保トシタルナリ、而シテ綿絲、綿布、砂糖、麥粉、煙草及繩叺ノ如キハ其ノ主ナル擔保品ナリトス然レトモ其ノ貸出額ハ斯カル時期ニ於テモ尙比較的少ナク三銀行ヲ合セテ繩叺約九千圓其ノ他約八千圓ニ過キス

三、穀物買出資金竝在庫穀類ニ對スル貸出

一月中最モ需要多カリシハ地方穀物買出ノ資金及在庫穀物ニ對スル貸出ナリトス船舶ノ出入自在ニシテ輸移出ノ盛ナル時ニ於テハ穀物回著後直チニ輸出セラルルヲ以テ資金ハ轉輾移動スレトモ結氷期ニ於テ地方ニ放資セラルルモノ及在庫品ニ對スル貸出カ解氷迄ハ兎ニ角居据ノ姿ナルハ亦止ムヲ得サルナリ一月初旬以來地方ニ於ケル穀物ノ買出ハ漸次盛ニシテ一月中朝鮮銀行出張所ノ銀行劵發行高ハ十三萬圓ニ達シ其ノ還收セラレタルモノ皆無ナリシハ主トシテ地方ニ散布セラレタルニ依ル於是乎商品擔保ノ貸出及當座貸越ハ常ニ增加ノ傾向ヲ有シコレヲ三銀行貸出ノ統計ニ徵スルニ左ノ如シ

	前月末殘高	一月中貸出高	一月中回收高	一月末殘高
	円	円	円	円
定期貸付	三二四、〇九六	二一二、三八三	一〇、四四三	五二五、九九六
當座貸越	一六二、五七六	五三四、二六二	四七五、六八一	二二一、一五七
割引手形	七四八、六三四	四二三、三三八	五六一、二一八	六一〇、七五二
合計	一、二三五、二六六	一、一六九、九八三	一、〇四七、三四二	一、三五七、九〇五

備考　割引手形ニハ當所割引手形、他所割引手形及荷爲替手形等ヲ含ム

剝理ヲ有スルモノ多ク內ニ黑雲母片麻岩ヲ介在ス片麻岩剝理ノ走向ハ東西ニ近ク傾斜北方七十度ナリ又橋洞西方ノ山地ハ主トシテ長石ノ巨晶ヲ有スル花崗岩ヨリ成ル

橋洞金坑ノ鑛脈ハ大岩金坑ニ於ケルモノト其ノ性狀同樣ナリ走向平均北七十六度五十分東傾斜北六十五度乃至八十度ナリ露頭ハ東大岩谷ノ西側ニ起リ西走シテ鎭後金坑ヲ經柳秋狄ノ溪谷ニ到ル其ノ延長約五千七百五十呎アリ尙鑛脈ハ西方ニ連亙スト謂フ鑛脈ノ東端ハ大岩谷ノ西側ニ於テ斷タレ谷ヲ越エテ東方ニ延ヒス是レ大岩金坑ノ條下ニ述ヘシ如ク大岩谷ニ沿ヒ南北ニ走ル斷層アルカ爲ニシテ從來地質學者ノ說ク所ニ據レハ大岩金坑及橋洞金坑ノ鑛脈ハ同一鑛脈ノ連續セルモノニシテ大岩谷ニ沿ヘル斷層ニ依リ其ノ西側落下シ爲ニ其ノ間ニ約千米突ノ水平差ヲ見ルニ至リタリト謂フ橋洞ヨリ鎭後ニ亙ル鑛脈ハ其ノ延長五千七百五十呎ニ及ヘトモ其ノ內採鑛ニ足ルヘキ部分ハ橋洞金坑ニ於ケル延長約千六百呎鎭後金坑ニ於ケル延長約千二百呎ノ間ニシテ橋洞金坑坑內ト鎭後金坑坑內トノ間ニハ稼行ニ堪エサル部分約千呎ヲ存ス、橋洞金坑ニ於ケル鑛脈亦竪坑ヨリ西方約七百尺ニ於テ上盤𨫤及下盤𨫤ノ二脈ニ分岐シ西南西ニ亙ルコト約千百呎ニシテ再ヒ合一セリ富鑛帶ハ前記ノ如ク約千六百呎アリテ其ノ傾斜ハ大岩ニ於ケルト同シク西方ニ向フ鑛脈ノ幅ハ十尺ヨリ二十尺ニ達スレトモ鑛石トシテ採掘スルニ足ル部分ハ一尺乃至十餘尺ナリ坑內ニ於テ上盤𨫤及下盤𨫤ノ二脈ヲ共存スル部分ニテハ上盤𨫤ヲ良好ナリトス

鑛石ノ性質ハ大岩金坑ニ於ケルモノト同シク唯時ニ磁硫鐵鑛ヲ伴隨スルヲ異ナレリトス其ノ品位ハ一噸平均四弗九二ナリト謂フ

橋洞金坑ニモ鑛脈ノ傾斜ニ沿ヒ掘下セル一箇ノ竪坑アリテ其ノ延長千二百六十一尺ニ達シ坑道十箇アリ竪坑地並及之以上ニ三箇ノ坑道ヲ有ス各坑道ノ垂直距離ハ八十呎乃至百二十呎ナリ現ニ主トシテ第三坑道以下第七坑道ノ間ヨリ採鑛セリ而シテ第十坑道ニ於テハ鑛脈ノ稼行スルニ足ルヘキ部分ヲ未タ發見セスト謂フ

製鍊所ハ竪坑ノ南方約三町ニ在リ搗鑛杵八十本アリテ橋洞及鎭後兩金坑ノ鑛石ヲ搗鑛ス橋洞ニ於ケル鑛石ノ搗鑛ニヨル實收率ハ全含金量ニ對シ平均百分ノ四十六・七ニシテ橋洞靑化收金所ニ於テハ現ニ橋洞搗鑛所ニ於ケル汰物ニ加フルニ大岩及鷹峰搗鑛所ニ於ケル汰物ヨリ收金セリ而シテ橋洞金坑ノ鑛石ノ汰物ハ其ノ含金量ノ百分ノ八十六・九ヲ實收ス斯シテ全實收率ハ鑛石ノ含金量ニ對シ百分ノ八十六・三ニ當ル靑化收金ノ殘滓ハ橋洞ニ山積シアリ之ヲ再ヒ靑化收金ニ附スル計劃アリテ現ニ靑化收金所ノ裝置ヲ變更シツツアリ

(八)鎭後金坑　ハ橋洞ノ西方約二十町ノ山地ニ在リ鎭後金坑附近ノ地質ハ主トシテ長石ノ巨晶ヲ有スル花崗岩ヨリ構成セ

ラレ内ニ黑雲母片麻岩及黑雲母片岩ノ薄層ヲ介在ス片麻岩及片岩ノ剝理ハ北七十度東乃至東西ニシテ北方ニ五十度乃至七十度傾斜ス

鑛脈ハ橋洞鑛脈ノ西方ニ連亙セルモノノ一部ニシテ走向ハ東北東ニ向ヒ北方ニ急斜セリ鎭後竪坑ハ東方ニ於テ其ノ露頭ヲ檢スルニ厚サ十二尺乃至二十尺アリ坑内ニ於テ稼行スヘキ富鑛帶ノ延長ハ約千二百呎アリテ該帶ノ傾斜(ピッチ)ハ西方ニ五十度乃至六十度ナリ上盤鑪及下盤鑪ノ二脈アレトモ上盤鑪ハ稼行ニ堪フル部分極メテ小ニシテ鑛脈ノ幅ハ二尺乃至十二尺ナリ

鑛石ノ性質ハ大岩金坑ニ於ケルモノト同シク其ノ品位ハ一噸ニ付含金三弗乃至十弗ニシテ平均五弗〇二ナリト謂フ

鎭後竪坑ハ延長約四百二十呎ニ達シ第一坑道以下第四坑道ニ到ル四坑道アリ第四坑道以下ハ坑井ヲ掘下スルコト三百五呎ニ迨ヒ茲ニ第五坑道第六坑道及第七坑道ヲ開鑿セリ又鎭後竪坑ノ西南西約千四百呎ナル柳秋狖谷ヨリ第三坑道地並水平坑道ヲ開坑シ竪坑ト連結セリ尙該水平坑道坑口ノ北方ニ延長約二百尺ノ一竪坑ヲ掘下セリ現今ハ主トシテ第一坑道以下第三坑道ニ於テ採鑛ニ從事ス

鎭後竪坑ヨリ出鑛スル鑛石ハ橋洞製錬所ニ送致セラル搗鑛實收率ハ百分ノ四十六・五ニシテ汰物ノ靑化收金率ハ原鑛石ノ含金量ニ對シ百分ノ三十八・九ナリ卽チ全實收率ハ百分ノ八十五・四ナリトス

(二)月隱乃金坑　月隱乃金坑ハ北鎭ヲ距ル北西二里半北面狖里月隱上洞ニ在リ本金坑ノ鑛脈ハ東洋鑛業會社ニ於テ稼行セル鑛脈中幅員最小ナレトモ含金量ハ最大ナルモノニ屬ス

月隱乃ノ溪谷ハ巨晶長石ヲ有スル斑狀花崗岩及帶綠色ノ花崗岩ヨリ構成セラル鑛脈ハ前者ニ胚胎シ延長九千呎ニ亙リ其ノ北東端ハ月隱乃谷西側ノ一支谷「ネンサ」谷ニ起リ南西ニ走ルコト約四千二百呎ニシテ燭臺峰ニ到リ走向ヲ轉シテ南走ス此ノ南北走スル部分ノ延長四千八百呎アリ而シテ鑛脈ノ北東ヨリ南西ニ向フ部分ヲ東燭臺峰坑區ト稱シ南走スル部分ヲ西燭臺峰坑區ト稱ス現ニ採鑛ニ從事セルハ前者ニシテ朝鮮人ハ呼ムテ月隱乃金坑ト謂フ本金坑ニ於ケル鑛脈ハ走向北四十度乃至五十度東ニシテ南東ニ傾斜スルコト六十七度乃至七十三度ナリ幅ハ二寸乃至一尺三寸ニシテ兩盤ノ肌際ハ明亮ニ母岩タル花崗岩ト相接ス本鑛脈ハ實ニ花崗岩ノ節理ニ沿ヒテ生セル間隙ヲ充塡セシ石英脈ナリ坑内ニ就キテ鑛脈ノ狀態ヲ見ルニ本坑道ヲ南西ニ進ムコト約千五百呎ニシテ鑛脈ハ南七十六度東ニ急折シ北東四十度ニ傾斜ス其ノ延長約三十五尺ニシテ再ヒ復舊シ南西ニ走ル斯ク鑛脈ノ一度南東南ニ屈折スルハ獨リ本坑道ニ於テ見ルノミナラス本坑道上ナル中間坑道及第二隧道ニ於テモ本坑道ニ於ケル鑛脈屈折箇所ニ相應セル位置ニ於テ鑛脈ノ同樣ニ屈折セルヲ見ル蓋此ノ南東南ナル方向亦花崗岩中ノ一ノ節理面ノ走向ニ一致スルモノナルヘシ坑内ニ於テ

ハ此ノ鑛脈屈出ノ點ヨリ南西ニ掘進スルコト未タ長カラス而シテ現今迄ニ知得セラレタル範圍內ニ於テハ本坑ニ在リテ稼行スヘキ鑛脈ノ延長約千六百呎ナリトス

鑛石ハ黃鐵鑛方鉛鑛及少量ノ閃亞鉛鑛ヲ含有スル白色石英ニシテ含金量ハ鑛石ニヨリ差違甚タシク一噸三弗乃至百弗アリテ其ノ平均十弗九ナリト謂フ

月隱乃金坑ニハ本坑道ノ外上部ニ中間坑道及第二隧道アリ本坑道以下ハ坑井ヲ掘下スルコト三百呎ニシテ第一坑道及第二坑道アリ「ネンサ」谷ヨリ第二坑道地並下部隧道ヲ開鑿シ今後百餘尺ニシテ坑井ニ貫通スヘシ現ニ主トシテ本坑道以上ヨリ採鑛シ本坑坑口ヨリ出鑛ス若夫レ他日下部隧道開鑿ノ工成ラハ採鑛及出鑛ニ多大ノ便宜ヲ得ヘシ

月隱乃谷ノ西側ニ製錬所アリ搗鑛杵十本ヲ設置ス青化收金ノ裝置ハ他ノ青化收金所ニ於ケルモノト異ニシテ青化法ヲ施スニ先タチ鑛尾ノ淘汰ハ之ヲ省略シ搗鑛機ヨリ出ツル鑛尾ノ全部ヲ直ニ青化加里液ト共ニ攪拌ス搗鑛質收率ハ全含金量ニ對シ百分ノ七十四・七ニシテ青化法ニヨル質收率ハ鑛尾ニ對シ百分ノ五十三・八ナリ斯シテ百分ノ八十七・五ノ全質收率ヲ擧ケツツアリ

(ホ)極城洞金坑　ハ古面牛上里及牛中里ニ在リテ雲山、楚山、熙川三郡ノ界ニ近ク位シ北鎭ヲ東微北ニ距ル直徑五里ニ在リ通路ハ北鎭ノ東南東三里半ナル古面溫井ヨリ北微東ニ極城洞ノ溪谷ヲ溯ル三里半ニシテ本金坑ニ達ス本金坑ハ極城洞谷ニヨリテ南北兩坑ニ分タレ其ノ中間ノ谷ノ南側ニ中坑ナルモノアリ

極城洞金坑附近ノ地質ハ主トシテ剝狀花崗岩ヨリ成リ內ニ黑雲母片麻岩及黑雲母片岩ノ薄層ヲ介在ス之等岩類ノ剝理ノ走向ハ北六十度乃至七十度東ニシテ南方或ハ北方ニ六十度乃至八十度ヲナシテ急斜ス

鑛脈ハ剝狀花崗岩ニ胚胎シ時ニ鑛脈ノ下盤ヲナシテ薄キ黑雲母片岩ノ存スルアルヲ檢セリ南坑ノ鑛脈ハ極城洞谷ノ南方山側ニ露出シ走向平均北四十五度西ニシテ傾斜南西十二度ナリ幅二尺乃至十五尺アリテ時ニ鑛脈中ニ黑雲母片岩ヲ夾有ス又石英脈ハ其ノ一部巨晶花崗岩質ヲ帶ヒ來リテ帶紅色長石ヲ伴隨スルコトアリ鑛脈ノ南側ハ東北東ニ走ル斷層ニヨリテ斷絕セラレタルカ如ク爲ニ鑛床賦存區域ノ幅約八百呎ニ過キスシテ延長ハ東北東ノ方向ニ約千六百呎アリ而シテ南坑ハ既ニ賦存鑛石ノ三分ノ二餘ヲ採鑛シ盡セリ北坑ハ南坑ノ北東ニ位シ其ノ鑛脈ハ走向平均北四十五度東ニシテ北西ニ傾斜スルコト十五度ナリ幅ハ三尺乃至十五尺ニシテ內ニ黑雲母片岩ヲ夾有スル部分少カラス坑內ニ就キテ見ルニ北三十度東乃至東西ニ亙ル數箇ノ斷層アリテ鑛脈ハ北西或ハ北方ニ落下ス而シテ本鑛脈ハ賦存ノ幅約七百呎以上ニ達セサルモノノ如ク其ノ延長ハ東北東ニ亙リ雲山郡界迄約千九百呎アリ尙此ノ鑛脈ハ雲山郡

界ノ地中ニ布衍シテ東方熙川郡西面克城里側洞ニ露出ス側洞ニ於ケル露頭ハ一ノ許可鑛區內ニ在リ東洋鑛業會社ハ鑛業權者ヨリ借區シ現ニ側洞ニ於ケル露頭部ヨリ坑道開鑿ニ從ヘリ而シテ郡界ヨリ側洞ノ露頭ニ至ル迄鑛床賦存ノ延長東北東ニ二百八十間アリ中坑ハ南坑及北坑ノ間ニ介在ス其ノ鑛脈ハ剝狀花崗岩ニ胚胎シ走向北六十五度東乃至東西ニシテ北方ニ八十五度傾斜ス而シテ鑛脈ハ延長千八百呎ニ達スルカ如ク幅ハ三尺乃至五尺アリ南坑ノ北側ニ於テ現ニ採鑛ニ從ヘリ

鑛石ハ南北兩坑共ニ黃鐵鑛方鉛鑛及土狀石墨ヲ含有スル石英鑛石ニシテ硫化鑛物ハ縞條ヲナシ又ハ散點ス其ノ含金量ハ貧弱ナリ卽チ南坑ニ於ケル鑛石ハ平均品位一噸ニ付二弗五四ニシテ北坑ニ於ケルモノハ一噸ニ付三弗〇九ナリ

極城洞金坑ニ於テ現ニ採鑛ニ從事セルハ南坑及北坑ナリ南坑ニハ露頭ヨリ入レル九條ノ坑道ヲ有スルモ第六坑道以上殊ニ鑛床ノ南部ハ既ニ採盡シ現時主トシテ第六坑道及第八坑道ヨリ採鑛セリ北坑ニハ露頭部ヨリ開鑿セル第一ヨリ第八ニ到ル八坑道竝零坑道及零零坑道アリテ現ニ主トシテ鑛床ノ北西部ヲ採鑛セリ

極城洞ナル搗鑛所ニハ搗鑛杵四十本ヲ備ヘ之ニ附隨シテ青化收金所アリ尙明治四十四年落成セシ青化收金殘滓卽チ有價汰物再收金所アリ搗鑛ニヨル實收率ハ南坑ノ鑛石ハ含金ノ百分ノ五十九・三ニシテ北坑ノ鑛石ハ百分ノ五十九・七ナリ又青化法ニヨル實收率ハ汰物含金量ノ百分ノ六十六・八ニシテ全實收率ハ南坑ノモノ百分ノ八十・五北坑ノモノ八十・二ナリトス而シテ有價汰物ノ再青化收金ハ未タ創設當時ニ屬スレトモ成績良好ニシテ其ノ裝置ハ一日約五十噸ノ汰物ヲ處理スルコトヲ得

（へ）鷹峰金坑　ハ城面鷹峰ナル九龍江ノ北岸ニ在リテ溫井ヲ距ル南西約四里半雲山郡邑ヲ距ル北西一里半ニ在リ本金坑ハ東洋鑛業會社ニテハ之ヲ龜岩金坑ト呼ヒ土人ハ之ヲ鷹峰金坑ト稱ス

鷹峰四近ノ地質ハ複雲母花崗岩黑雲母花崗岩及白雲母花崗岩ヨリ成リ金坑ノ北西ナル山地及九龍江ノ南側ニ峭壁ヲ爲シテ聳ユル白碧山ノ連嶂ハ剝狀花崗岩ヨリ成ル複雲母花崗岩中ニハ巨晶花崗岩小花崗岩及玢岩ノ岩脈頻リニ貫入シ殊ニ巨晶花崗岩脈ヲ多シトス鑛脈ハ複雲母花崗岩ニ胚胎シ九龍江ノ北岸階段狀丘阜ノ突角ニ露頭ノ跡アリ脈幅二十尺アリテ其ノ內良好ナル鑛石ヲ有セシ部分ハ上盤ニ二尺下盤ニ十二尺アリシト謂フ其ノ走向ハ北十度西ニシテ傾斜ハ西方五十四度ナリ露頭ノ延長ハ僅ニ約七間ニ過キス蓋本露頭ハ初其ノ形狀龜ノ如カリシヲ以テ此ノ附近ヲ龜岩ト稱シタルナルヘシ此ノ如ク露頭ハ大ナリト云フヘカラス其ノ兩端ハ平地ノ下ニ沒セシモノニシテ之ヲ坑內ニ就テ見ルニ稼行スヘキ鑛脈ノ延長約千呎ニ達セリ鑛脈ハ竪坑附近ニ於テ二分シテ北走シ上盤銿及下盤銿ヲ

爲シ北走スルニ從ヒ其ノ間隔愈〻隔タリ約百尺ヲ計ルニ到ル又兩脈ノ分岐點ハ下底ニ到ルニ從ヒテ北進ス鑛脈ノ走向ハ略南北ニシテ傾斜ハ地下ニ到ルニ從ヒ急ニシテ第八坑道ニ於テ六十七度ヲ計レリ上下兩𨫤トモ含金白色石英脈ハ幅一尺乃至十尺アリテ十數尺ノ綠色脈石ノ間ニ夾在シ時ニ細脈ヲ爲シテ脈石中ニ存ス上盤𨫤及下盤𨫤ノ富鑛帶ハ共ニ北方ニ傾斜スト雖下盤𨫤富鑛帶ノ傾斜（ピッチ）ハ上盤𨫤ノ其レニ比シ緩ニシテ前者ハ約四十度後者ハ約五十度ナリ又兩𨫤富鑛帶ノ延長ヲ比スルニ一般ニ下盤𨫤ノモノ長ク七百呎乃至八百呎ニ達シ上盤𨫤ノモノハ百呎乃至五百呎ナリトス往往鑛脈ヲ切斷シ或ハ鑛脈內ニ幅二尺乃至四尺ノ黑色緻密ノ岩脈ノ貫通スルアルモ鑛脈ノ性狀ニ對シテハ何等ノ變化ヲモ與フルコトナシ本金坑ハ嘗テ第五坑道ニ於テ下盤𨫤ハ幅五寸ニ減シ上盤𨫤亦稼行スヘカラサルニ至リ一時悲境ニ陷リ明治三十九年ヨリ製錬ヲ休止シ總テノ搗鑛機ヲ撤廢シ纔ニ下底ノ探掘ニ從事セリ然ルニ下底ニ於テ再ヒ鑛脈ノ膨大セルニ會スルヤ明治四十一年十二月再ヒ製錬ヲ開始スルニ至レリ

鑛石ハ白色石英ニシテ毒砂方鉛鑛及黃鐵鑛ヲ夾有シ時ニ肉眼的自然金粒ヲ散點ス而シテ露頭ニ於テハ鑛脈中ニ白雲母ノ存スルヲ檢セリ含金量ハ鑛石一噸ニ付二弗半乃至二十弗ニ迨ヒ平均ノ品位八弗三八ナリトス

本金坑ニハ鑛脈ノ傾斜ニ沿ヒ延長千二百六十呎ナル竪坑一アリテヨリ第一坑道乃至第九坑道ヲ開掘セリ第九坑道以下ハ坑內水多キカ爲ニ未タ竪坑ヲ掘下スルニ至ラス坑井ニヨリテ掘下シ第十坑道ヲ少シク開鑿セリト謂フ現ニ主トシテ第八坑道ヨリ出鑛ス

製錬所ニハ搗鑛杵二十本ヲ設置セリ搗鑛ニヨル實收率ハ鑛石含金量ノ百分ノ六十二・七ナリ汰物ハ之ヲ橋洞ニ送致シテ青化收金ニ附セリ青化收金ノ實收率ハ汰物含金ノ百分ノ八十二ニシテ全實收率ハ鑛石含金量ノ百分ノ八十一・四ニ該當ス

（ト）泥踏里廢坑　ハ東面馬場里內洞ニ在リテ鷹峰ノ東方約一里十町ニ位ス嘗テ會社ニヨリテ盛ニ操業セラレタル鑛脈ハ內洞東方ノ山丘上ニ露ハレ明治三十三四年ノ交最盛況ヲ呈セリ其ノ後下底ニ掘下スルニ從ヒ鑛脈ノ幅漸次狹小トナリ含金量亦貧弱トナルニ迨ヒ遂ニ三十九年九月廢坑ノ止ムヘカラサルニ至レリ鑛脈ハ複雲母花崗岩ニ胚胎シ北十七度西ニ走リ西南西ニ傾斜スルコト七十二度ナリ韓國鑛業調查報告ニヨレハ脈幅三尺乃至十五尺アリテ明治三十八年十一月ニ於テハ第一坑道以下第九坑道アリシト謂フ現今附近ニ散在セル鑛石ヲ見ルニ石英鑛石ニ多量ノ毒砂並方鉛鑛黃鐵鑛閃亞鉛鑛及時ニ雲母ヲ夾雜ス本廢坑ヨリ採鑛セル鑛量ハ會社ノ報告ニヨレハ十五萬二千六百三十二噸ニシテ含金量ハ一噸十弗ニ近カリシト謂フ

雲山郡內ニハ如上記述セル鑛脈ノ外小鑛脈アリテ其ノ數二百

ニ達スヘシ而シテ橋洞ノ東方ナル東谷及北鎭ノ東方ナル三峰里ニ於ケル小鑛脈ハ朝鮮人之ヲ採掘シ會社ハ買鑛セリ又南面富淵里ニ於テハ朝鮮人ノ會社ニ納税シテ小鑛脈ヲ稼行セルモアリ

三、鑛床論　雲山郡ニ於テ鑛床ヲ胚胎スル地質ハ主トシテ剝狀花崗岩巨晶長石ノ斑狀ヲ爲セル花崗岩及複雲母花崗岩ニシテ之等ノ岩類ハ朝鮮ニ於テ獨リ雲山郡ニ特有ナルモノニアラス實ニ平安北道ノ大部ヲ奄有スル地質ニ屬ス鑛床ハ含金石英脈ニシテ幅小ハ月隱乃金坑ニ於ケル平均六寸ノモノヨリ大ハ大岩金坑ニ於ケル平均五六尺ノモノニ迨ヘリ鑛石ハ黃鐵鑛、方鉛鑛、閃亞鉛鑛、磁硫鐵鑛、毒砂等ノ硫化鑛物ヲ伴隨シ金ハ一般ニ之等硫化物中ニ含有セラルルカ如シ是レ朝鮮ニ於ケル一般金鑛ノ性狀タリ、雲山金鑛採掘ノ鑛石ハ硫化鑛物ノ種類卽チ黃鐵鑛或ハ毒砂ヲ多存スルコトニヨリ二樣ニ區別スヘシ大岩、橋洞鎭後月隱乃及極城洞ニ於ケル鑛石ハ黃鐵鑛ヲ鷹峰ニ於ケルモノハ毒砂ヲ多存ス此ノ鑛石ニ二樣ノ別アルハ雲山ノミニアラスシテ昌城及朔州兩郡ニ於テモ是アルヲ認メタリ又雲山各金坑ノ地質ヲ見ルニ鷹峰ノモノノミ地殼ノ比較的深處ヲ形成セリト認メラルヘシ複雲母花崗岩ニ胚胎セリ

之ヲ要スルニ雲山金鑛稼行ノ鑛脈ハ朝鮮ニ於ケル普通ノ金鑛鑛床ニ屬シ特ニ著シキ異點ノ認ムヘキモノアルニアラス唯夫大岩ノ露頭ニ比敵スルニ足ル雄大ニシテ良質ナルモノヲ他ニ未タ發見セサルハ偶〻以テ雲山金鑛ノ名ヲ獲タル一因タルヘシ」

雲山金鑛ニハ大岩、橋洞鎭後ノ大露頭アルト大岩、橋洞及鷹峰ノ三金坑ニ於テハ地表ヨリ千呎以上ニ掘下セルトニ因リ一般金鑛脈ニ關スル性狀ニ就キ闡明セルモノ少カラス大岩、橋洞鎭後ニ亙ル鑛脈ニ於テハ其ノ延長中三箇所ニ千二百呎乃至千六百呎ノ富鑛帶アリテ之等富鑛帶ハ鑛脈ノ二分セル附近ニ存在シ又富鑛帶ハ何レモ直立セサルコトヲ認メタリ朝鮮ニ於ケル他ノ鑛脈ニ就テ亦同樣ナル性狀アルコトヲ豫想スルニ難カラス又鷹峰金坑ニ在リテハ第五坑道附近ニ於テ一度鑛脈ハ緊縮シテ稼行ニ堪エサルニ至リシモ再ヒ下底ヲ開鑿スルニ迨ヒテ鑛脈ハ再ヒ膨大シ曩日ノ景況ヲ挽回スルヲ得タリ是レ鑛脈ハ其ノ走向ニ沿ヒ富鑛帶アルト共ニ傾斜ニ沿ヒ亦扁薄ナル扁桃狀ヲ呈スルニ因ルナリ是ニ於テカ知ル鑛脈ノ傾斜方向ニ一旦緊縮スルアルモ必スシモ深ク其ノ縮迫ヲ持續スルモノニアラサルコトヲ

雲山金鑛會社カ明治二十九年其ノ鑛業權ヲ得シヨリ四十四年六月三十日ニ至ルマテノ採鑛量ハ二百五十九萬八千八百十二噸ニシテ其ノ價額千五百九十五萬四千三百五十七弗五十八「セント」五ニ上リ就中大岩及橋洞ノ兩金坑ハ最多產シ大岩ハ七十六萬二千九百八十噸此價額四百六十三萬六千六百三十三弗三十五「セント」橋洞ハ七十七萬六千百六十六噸此ノ價額四百七十四萬八千六百四十八弗七十六「セント」五ノ鑛石ヲ產セ

リト謂フ卽チ大岩及橋洞ヲ併セ雲山金鑛既出ノ約五分ノ三ヲ產出セルナリ

翻テ之ヲ將來ニ考フルニ大岩金坑ハ現今ヨリ下底ニ掘下スルニ從ヒ稼行スヘキ鑛脈ノ延長縮少スヘキモ尙有望ナリトス橋洞金坑ハ第十坑道ニ於テ鑛脈稼行ニ堪エサルカ如シト稱スレトモ鷹峰ノ實例ヲ見ルモ必スシモ悲觀スヘキニ非ス下底ニ掘進セハ恐ク再ヒ富鑛帶ニ逢著スルナルヘシ況ムヤ橋洞附近ノ地磐ハ地質學上大岩ノ地磐ニ比シ地殼ノ上位ニ在ルモノト認メ得ヘク下底ヘノ掘下ハ望ヲ囑スヘカラサルニ非サルニ於テヲヤ他ノ四金坑中月隱乃金坑ハ稼行鑛脈小ナレトモ未タ水準以上ヲ採鑛スルノ餘地充分ナルモノアリ極城洞金坑ハ其ノ北坑ニ連續セル熙川鑛區ヨリ出鑛スルノ望アリ鷹峰金坑亦尙現產額ヲ維持スヘシ是ヲ以テ之ヲ觀レハ雲山金鑛ハ大ナル支障ナキ限リ現況ヲ持續スルコトヲ得ヘシト思惟ス

商工業

○淸酒腐敗原因及善後策

本篇ハ忠淸南道太田ナル某釀造家ノ出願ニ依リ釀造酒腐敗ノ原因調査竝釀造實地指導ノ爲出張セル醸造試驗所技手草道常春氏ノ復命書中ヨリ抄出シタルモノナリ以テ一般ノ參考ニ資ス

一、釀造場現況　釀造ハ四十三年新規起業ニ係リ同年冬期著手四十四年春期迄ニ百石餘ヲ釀成シタルモ七月ニハ自製淸酒全部ヲ販賣シ盡シタルノ好況ナリシヲ以テ更ニ十月下旬ヨリ釀造ニ著手シタルニ第一號仕込一箇ノミ普通淸酒ノ製成ヲ見第二號仕込醪ヨリ腐釀ニ陷リ續テ第五號仕込迄ノ四仕舞分六十五石ハ全ク腐敗ニ歸シ仕込ヲ中止スルノ外ナキニ至レリ依テ腐敗醪四箇ノ內一箇分ハ過成ノ酸ヲ中和シ濁酒トシテ一升十錢ニ販賣シツツアルモ殘三仕舞分ハ處分ニ窮シ强テ搾取セリ

二、腐敗ノ原因　釀造場ハ河岸ニ在リ倉庫ノ築造敢テ宜シキヲ得サルニ非サルモ仕込場ノ土間砂質ニシテ特ニ酛取場ノ設ナク作業中塵芥飛散シ易ク酛育中有害菌類ノ酛液中ニ落下スルノ媒介ヲ爲スハ腐敗原因ノ一タルヘク又該製造場ノ仕込水ハ極度ノ軟水ナリシニモ拘ラス氣溫ト水質トニ留意スルコトナク單ニ內地ニテ習得セシ器械的操作ニ依リ飽迄モ舊慣ヲ墨守シ何等臨機ノ措置ニ出テサリシハ其ノ原因ノ二ナリ

三、腐敗醪ノ處置　以上ノ腐敗醪ハ强テ搾取シタルモ到底其ノ儘販賣ノ見込ナク酒母ハ燒酎ニ變製ノ外ナカラムモ惡性ノ腐敗酛ト認メ難ク仕込ニ供スルハ冒險タルヲ免レスト雖之カ善後策トシテ先ツ

（イ）二箇ノ酛ヲ醪一仕舞ニ使用シ仕込ヲ爲サシメタルニ稍、

冷込ノ氣味アリシヲ以テ燒石膏ヲ多量ニ投シ尙昇温ニ勉メ醱酵ヲ促シ辛フシテ普通酒ヲ得ルニ至レリ傍倉庫內ハ勿論容器器具器械類ハ一切消毒殺菌ヲ行ヒ新規酛立ノ準備トシテ製麴ニ著手セリ

(ロ)製麴中火氣ヲ用フルヲ禁シ麴室温度低キニ過クルトキハ火氣ニ代フルニ熱湯ヲ以テシ各操作ノ適温ニ注意シ殆ト理想的ノ麴ヲ得タルヲ以テ直ニ酒母ノ仕込ニ供セリ

(ハ)軟水ニ適應セシメムカ爲酒母ノ原料配合率ヲモ變更シ

(ニ)腐敗續發ノ際救濟策トシテ尤モ必要缺クヘカラサル純粹酵母添加酛育テニ著手シ其ノ熟成シタル酒母五箇ノ內山卸廢止酛ハ非常ニ優良ノ成績ヲ得外四箇ノ酛モ佳良ノ成績ヲ得タルヲ以テ直ニ仕込ニ供セリ

○晉州國有地小作人組合ニ於ケル副業奬勵

(慶南長官報告)

晉州郡平居驛國有地小作人組合ニ於テハ組合員ノ爲ニ副業トシテ巾著紐及眞田紐ノ製造ヲ奬勵シツツアリシカ何レモ農閑ヲ利用シテ製作シ得ヘキ簡易ナル手業ナルヲ以テ漸次其ノ效果ヲ擧ケ平居驛地方ノ物產トシテ知ラルルニ至レリ一箇年間ノ中著紐製作概況左表ノ如シ

製作時期	製品數量(個)	生產額(圓)	原料價額(圓)	一個ノ賣價(圓)	純益(圓)
自一月 至三月	五、八五〇	二二二一・三〇	五七七・五〇	・三八	二六八・八〇
自七月 至十二月	一五、六〇〇	六二四〇・〇〇		・四〇	
總計	二一、四五〇	八四六・三〇	五七七・五〇	・三九	二六八・八〇

備考 四、五、六ノ三箇月ハ農繁期ナルヲ以テ製造セス

販路ハ一定ノ得意先ト稱スル如キ大ナル取引先ナシト雖從來平居驛產木八絲トシテ知ラレ慶南、全南、慶北、京畿各道ノ商人主トシテ之ヲ購買ス、該組合ニ於テハ奬勵ノ一著手トシテ原料綿絲購買資金ノ融通ヲ行ヒ製產品ヲ多數ナラシメムコトヲ期シ製品ノ發達、製器ノ改良ヲ努メツツアリ

○平北碧潼市場開始狀況

(平北長官報告)

碧潼ハ義州ヲ距ル三十三里鴨綠江ノ上流ニ在ル都邑ニシテ從來對岸ノ盛京省石柱子及大荒溝ノ兩地ヨリ物資ノ供給ヲ受クルカ故ニ自然此ノ地方ノ生產物モ對岸ニ搬出セラレ碧潼ノ商況ハ萎靡振ハサリシカ近時金融組合ノ組織成リ勸業ノ奬勵ニ併セテ市場開設ヲ見ルニ至リ商況頓ニ繁盛ヲ來セリ、市場ハ二月五日第一回ヲ開催シタリシカ時恰モ陰曆正月前ノ事トテ地方農民ノ出市者頗フル多ク出貨モ案外ニ夥多ナリキ、第二回ハ同月八日開催セラレタリシカ前市ニ增シタル賑況ヲ呈シ物貨ノ賣行甚タ旺ナリ對岸淸國人ノ來市スルモノ多ク作

出市亦少カラサリキ物價ハ前市ニ於テ白米ノ一石十六圓六十五錢ナリシモノ第二回市場ニ於テハ一躍十八圓ニ昇騰シタルノ外甚シキ變動ナシ左ニ第一回市場ニ於ケル物價ノ概況ヲ示サム

碧潼市場相場表（二月五日）

賣出品

品名	單位	價格（円）
化之布 上	一疋	九.〇〇
化之布 中	一疋	八.五〇
玉唐木 同 上		九.三〇
玉唐木 同 中		八.五〇
石油 上	一箱	四.四〇
石油 中	一箱	三.八〇
眞木 上	一疋	一.八〇
眞木 中	一疋	一.六〇
唐木 同		九.〇〇
		八.〇〇
清國筆 同	一房	九〇
		八〇
朝鮮筆 上	一房	一.三〇
朝鮮筆 中	一房	—
白鷺紙 同	一疋	八〇
		六〇
黒達里 同	一疋	九.〇〇
木炭	一俵	四五
鷄卵	十箇	一五

買入品

品名	單位	價格（円）
白米	一斗	一.八五
大豆	同	六〇
小豆	一斗	一.〇〇
粟	同	一.四〇
玉唐	同	五八
唐米	同	六〇
木米（晝米）		一.一〇
薪	一束	五
同	同	六
雞	一羽	三〇
雉 大	一羽	三五
雉 小	一羽	三〇

○穀物價格表（二月分）

二月十五日現在

府郡道廳名	玄米 上（円）	玄米 中（円）	玄米 下（円）	玄米 平均（円）	大豆 上（円）	大豆 中（円）	大豆 下（円）	大豆 平均（円）	大麥 上（円）	大麥 中（円）	大麥 下（円）	大麥 平均（円）
京城（京畿）	一四.二一	一三.四八	一二.七八	一三.四八	七.七五	七.四四	七.一三	七.四四	五.二七	四.八〇	四.四九	四.八五
仁川（同上）	一四.〇〇	一三.五〇	一三.〇〇	一三.五〇	八.二〇	八.〇〇	七.三五	七.八五	四.六五	四.五五	四.四五	四.五五
清州（忠北）	一五.〇〇	一四.四〇	一四.〇〇	一四.四六	八.〇〇	七.四〇	六.五〇	七.三〇	—	—	—	—
公州（忠南）	一四.二〇	一三.七〇	一三.四七	一三.七九	七.〇〇	六.六二	六.四〇	六.六七	七.二五	六.八五	六.四〇	六.八三
恩津（同上）（江景）	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
全州（全北）	—	—	—	—	七.六五	七.五〇	七.二五	七.四六	—	—	—	—
群山（同上）	一三.七〇	一三.五五	一三.四〇	一三.五五	八.〇〇	七.九〇	七.六〇	七.八三	六.五〇	五.九〇	五.〇七	六.〇三
光州（全南）	一五.〇〇	一四.六〇	一四.二〇	一四.六〇	一〇.五〇	一〇.一〇	九.八〇	一〇.一三	八.〇〇	七.七〇	七.四〇	七.七〇
木浦（同上）	一四.七〇	一四.五〇	一五.二〇	一四.四六	九.〇〇	八.七〇	八.五〇	八.七三	—	—	—	—
大邱（慶北）	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
晉州（慶南）	一三.五〇	一三.五〇	一二.〇〇	一三.〇〇	六.一〇	五.九〇	五.七〇	五.九〇	五.六〇	五.三〇	五.〇〇	五.三〇
釜山（同上）	一五.二〇	一四.五〇	一三.九〇	一四.五三	八.二〇	七.九〇	七.七〇	七.九三	六.〇〇	五.九〇	五.八〇	五.九〇

	籾 上	籾 中	籾 下	籾 平均	玄米 上	玄米 中	玄米 下	玄米 平均	大豆 上	大豆 中	大豆 下	大豆 平均
馬山(同上)	一四・八〇	一四・四〇	一四・〇〇	一四・四〇	七・六〇	七・四五	七・三〇	七・四五	六・〇〇	五・八〇	五・六〇	五・八〇
春川(江原)	一七・五〇	一七・一〇	一六・二〇	一六・九三	六・二〇	六・〇〇	五・八〇	六・〇〇	—	—	—	—
江陵(同上)	—	—	—	—	六・八〇	六・五〇	六・二〇	六・五〇	—	—	—	—
海州(黃海)	一三・三〇	一三・〇〇	一二・八〇	一三・〇三	七・〇〇	六・七〇	六・五〇	六・七三	四・八〇	四・五〇	四・二〇	四・五〇
鳳山(同上)(沙里院)	一二・〇〇	一一・五〇	一〇・〇〇	一一・一六	七・〇〇	六・六〇	六・二〇	六・六〇	四・〇〇	三・六〇	三・四〇	三・六六
平壤(平南)	一二・三〇	一二・二〇	一一・七〇	一二・〇〇	七・三〇	六・二〇	六・〇〇	六・五〇	四・四〇	四・二〇	四・一〇	四・〇三
鎭南浦(同上)	一四・五〇	一四・一〇	一三・〇〇	一三・八六	八・二〇	七・八〇	七・二〇	七・七三	五・三〇	四・八〇	四・五〇	四・八六
龍川(平北)	一五・五〇	一四・五〇	一四・〇〇	一四・六六	七・五〇	七・四〇	七・三〇	七・四〇	—	—	—	—
平均	一四・三三	一三・八九	一三・二九	一三・八三	七・六六	七・三三	七・〇二	七・三四	五・六四	五・三二	五・〇八	五・三四
前期對比較高低	・三四	・三六	・一八	・二九	・二一	・一九	・一四	・一八	△・〇三	△・〇四	△・一三	△・〇六

備考

一、本表ハ每一石ノ(法定量)卸賣價格ヲ揭記シタルモノナリ

二、比較高低欄ノ△印ハ低落ヲ示スモノナリ

三、本表中記入ナキ部分ハ取引ナカリシ爲ナリ但シ恩津大邱ノ分ハ報告書未著ニ付籾價格ノミ記入シ他ハ不明ニ付記入セス

四、大麥ヲ除クノ外各穀物共益〻高騰シツツアルハ現品ノ出廻リ少ク需要ニ對スル供給不足ナルト內地相場ニ促進セラレツツアルニ依ル而シテ前者ノ主因トモ見ルヘキハ農家ノ先行ヲ見越シテ賣惜ツツアルカ爲ナリ

五、大麥ハ各市場共商況不振ニシテ取引皆無ノ市場モ多ク從テ平均額ニ於テ六錢ノ下落ヲ見尙下落ノ傾向ヲ呈セリ

○最近三箇年間穀物價格比較表

時期	籾 上	籾 中	籾 下	籾 平均	玄米 上	玄米 中	玄米 下	玄米 平均	大豆 上	大豆 中	大豆 下	大豆 平均
	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円
四十三年二月二十日	三・七八	三・五〇	三・二七	三・五一	七・五七	七・二八	七・〇四	七・二九	五・九七	五・六七	五・三八	五・六七
四十四年二月十五日	四・七八	四・三六	四・〇二	四・三八	一〇・九九	一〇・四四	九・八六	一〇・四三	六・二四	六・〇〇	五・七一	五・九八
四十五年二月十五日	六・七四	六・二五	五・七八	六・二五	一四・三三	一三・八九	一三・二九	一三・八三	七・六六	七・三三	七・〇二	七・三四
比較高低 對四十三年二月二十日	二・九六	二・七五	二・五一	二・七四	六・七六	六・六一	六・二五	六・五四	一・六九	一・六六	一・六四	一・六六
比較高低 對四十四年二月十五日	一・九六	一・八九	一・七六	一・八七	三・三四	三・四五	三・四三	三・四〇	一・四二	一・三三	一・三一	一・三五

水産業

○京畿道養蟶事業成績

本道沿岸ニハ古來蟶ヲ産シ特ニ永宗島及江華島ハ其ノ主産地トシテ著名ナリ然ルニ近年清國輸出ノ途開クルニ及ムテ忽チ濫採ノ弊ニ陷リ其ノ産額ノ減少甚タ著シク人工ヲ加ヘテ之カ蕃殖ヲ圖ルニアラスムハ遂ニ種族ヲ絶滅スルニ至ラムトスルノ狀況ニ逼レリト雖漁民ハ只採取ニ專ニシテ蕃殖ノ法ヲ知ラス依テ先ツ其ノ方法ヲ周知セシムルノ目的ヲ以テ明治四十四年五月及十月ノ二回ニ亙リ永宗島松山里ニ五千坪及同年十月江華島東幕里ニ二千坪ノ地ヲ劃シテ養蟶場ヲ設置スルコトトセリ

一、養蟶場地勢

永宗島ハ仁川港ヲ距ルコト約三浬ノ西方ニ横ハレル一大島ニシテ周圍約十里人家七百二十餘戶ヲ有ス沿岸屈曲灣入ニ富ムト雖大概皆潟干ニ圍繞セラレテ東岸ニ於ケル舊邑里西北岸ニ於ケル禮湖里ノ外ハ船舶ノ出入ニ便ナラス干潟ハ島ノ南北ニ擴延シ其ノ北方ハ土質概シテ固硬ナレトモ南方ハ軟泥ノ地多ク蟶其ノ他ノ貝類ニ富ム、干潮時ニハ全島ノ女子此處ニ出テテ之ヲ採取ス

江華島ハ永宗島ノ北方ニ位シ殆ト本土ニ於ケル通津郡ノ沿岸ニ接シテ横ハレル周圍約三十里ノ大島ニシテ三面皆深水ヲ以テ繞ラスト雖其ノ南岸ハ長約十浬幅約三浬ニ亙レル干潟擴延ス此ノ干潟ニハ蟶其ノ他ノ貝類ヲ産シ沿岸ノ下道面及吉祥面ハ素ヨリ遙ニ内地ニ介在セル上道面ノ住民ニ至ルマテ盛ニ之ヲ採取ス

二、養蟶場ノ位置

養蟶場ノ位置ヲ選定スルニ當リテハ先ツ養蟶上ノ適否、監督上ノ便否等諸般ノ狀況ヲ較量セサルヘカラス永宗島ニ在リテハ其ノ南岸稍〻東端ニ偏セル後所里附近ノ前面ハ現時蟶産地ノ中心ニシテ又蟶ノ成育ニ最適セルカ如シト雖其ノ地沿岸ヲ距ルコト遠ク且採貝業者ノ往來頻繁ニシテ監督上ノ不便尠カラス後所里ノ東一里ナル松山里ノ前面ハ地質大概稍〻硬ク養蟶ニ適良ナリト謂フヘカラサルモ監督上ノ便利ヲ有シ且從來蟶ノ棲息ヲ見サル場所ニ蕃殖ヲ計ル亦養蟶事業獎勵上效果尠カラサルヘシトノ見解ニ因リ明治四十四年五月此ノ地ヨリ距岸約一浬ノ處ニ面積二千五百坪ヲ區劃シテ養蟶場ヲ設置シタリ後同年十月更ニ之ヲ擴張スルノ必要ヲ認メ同場ノ北側ニ接シテ二千五百坪ヲ劃シテ場内ニ編入セリ

江華島ニ在リテハ下道面東幕里ノ前面ニ二千坪ノ地ヲ劃シテ養蟶場ヲ設ケタリ現時同島ニ於ケル蟶ノ採取場ハ吉祥面ノ前面東檢島ノ西方ヲ以テ中心トシテ下道面地先ニハ茫漠タル干潟擴延スト雖岸邊ニ近キ部分ヲ除クノ外ハ大概蟶ノ棲息ヲ見ス然レトモ永宗島ニ於ケルト同一ノ理由ニ依リ養蟶場ヲ此處ニ選定セリ

三、苗貝供給地

永宗島ニ在リテハ其ノ沿岸干潟ノ間ニ存スル澪筋ニ苗貝ヲ產スレトモ豐富ナラス同島ヲ距ルコト西南約十一浬ナル舞衣島ノ東岸一帶ノ干潟ハ常ニ稚貝ニ富ムヲ以テ苗貝ヲ同島ヨリ供給スルコトトセリ蓋潮流及風向等ニヨリテ觀察スルニ同島ノ稚貝ハ大概永宗島ニ棲息セル蟶ノ產出セルモノナルヘク將來永宗島ニ於ケル親貝ノ蕃殖スルニ從ヒ稚貝亦增殖シ永宗島ニ於ケル養蟶場ノ苗貝供給地トシテ屈竟ノ場所タリ

江華島ニ在リテハ東檢島西岸一帶ノ干潟ヲ苗貝供給地トナス養蟶場ヲ距ルコト僅ニ約三浬ニシテ往來稍便ナリ此ノ地亦東幕方面ニ於ケル蟶ノ蕃殖ニ伴ヒ永久苗貝供給地タルノ位置ヲ失ハサルモノト認ム

四、養蟶事業

（甲）永宗島

明治四十四年五月十一日ヨリ永宗島養蟶事業ニ著手ス

養蟶場ノ面積ハ二千五百坪ニシテ場內四方ニ空地ヲ存シ其ノ中央七百二十坪ヲ八十坪宛九列ニ分チ中央ノ三列ニハ一坪ニ二升五合、兩側ノ三列ニハ各二升ノ割合ヲ以テ蒔付ルコトトセリ蓋地質稍硬キニ過ルノ嫌アリシヲ以テ普通ノ割合ヨリ少シク減シタリ

後更ニ必要ニ迫リテ曩ニ設置シタル養蟶場ヲ擴張スルコトト成リ同年九月中ニ著手スルノ豫定ナリシモ江華島ニ於ケル養蟶作業ノ困難ニシテ大ニ時日ヲ要シタルニ歸因シ十月ニ入リテ漸ク著手スルニ至リシカ時已ニ遲ク苗貝ヲ得ルコト甚タ容易ナラス僅ニ二百坪ノ蒔付ヲ爲スヲ得タリ

（乙）江華島

同年十二月十二日ヨリ江華島養蟶事業ニ著手ス當時苗貝ハ非常ノ減少ヲ來シ且天候屢不穩ニシテ苗貝ヲ得ルコト甚タ困難ナリシヲ以テ豫定ノ坪數ニ達スルコト能ハサリキ右六百三十坪ハ之ヲ三十坪宛三列七分シ總テ一坪ニ對シ三升ノ割合ヲ以テ蒔付ケタリ

五、經費

養蟶場設置ノ作業ニ要シタル經費ハ總計二百七十三圓四十四錢ニシテ左表ノ如シ

場別	經費			
	苗貝代	人夫賃	借船賃	計
	円	円	円	円
永宗島	六三・〇〇	四九・四〇	一九・五〇	一三一・九〇
江華島	五六・七〇	四二・八四	四二・〇〇	一四一・五四
總計	一一九・七〇	九二・二四	六一・五〇	二七三・四四

六、養蟶場ノ管理

永宗島養蟶場ニ在リテハ二名江華島養蟶場ニ在リテハ一名ノ管理人ヲ置キ永宗島ニ於ケル二名ノ內一名ハ特ニ管理以外蟶苗成育狀態ノ檢測ヲ委託シ每月其ノ成績ヲ報告セシム

七、成績

永宗島養蠣場ニ在リテハ當初蒔付ケタル苗貝ハ體長九分七厘體量一匁ナリシモ同十一月迄ニ體長一寸五分三厘體量二匁四分トナリ卽チ六箇月間ニ體量ニ於テ一倍以上ノ成長ヲ遂ケタリ之ヲ表示セハ左ノ如シ而シテ當時一坪ニ對シ二升及三升五合ノ二區ニ分チテ蒔付ケタルモ其ノ成績ニ於テハ兩者共ニ大差ヲ見ス

檢測時	體長（寸）	體量（匁）	一合ノ數（個）	一合ノ量（匁）
五月	、九七	一、〇二	三五	三五
七月	一、三二	一、七二	二二	三八
八月	一、四五	二、一〇	一八	三八
九月	一、五一	二、五〇	一六	四〇
十月	一、五二	二、三三	一五	三五
十一月	一、五三	二、四〇	一五	三六
十二月	一、五三	二、四〇	一五	三六

備考　蠣苗蒔付ハ五月ナリシモ檢測ハ七月ヨリ開始セリ
檢測ハ毎月二十日ヨリ二十五日迄ノ間ニ於テセリ
十一月以後ハ發育休止期ニ入ル

四十四年十月擴張シタル永宗島養蠣場及同月新設シタル江華島養蠣場ニ於ケル成績ハ苗貝蒔付後間モナク結氷期ニ入リタレハ發育甚タ遲鈍ニシテ今日ニ至ル迄體形ニ於テ著シキ差異ヲ認メス然レトモ本道沿岸ニハ未タ害敵ノ來襲ナキヲ以テ各場共ニ苗貝ノ斃死スルモノ稀ニシテ成育順調ニアルモノノ如シ之ヲ要スルニ各養蠣場ハ何レモ設置以來日尙淺シト雖今日迄ノ成績ハ頗ル良好ニシテ特ニ比較的多クノ日子ヲ經過セル永宗島養蠣場ノ成績ハ最顯著ニシテ附近住民ニ尠ナカラサル感動ヲ與ヘ彼等ハ蠣養殖ノ可能ナルコト且其ノ事業ノ有利ナルコトヲ悟リ本場設置ノ方法ニ傚ヒ自ラ養蠣事業ニ從事セムト欲シ續續其ノ準備ニ著手スルモノアリト謂フ本場設置ノ效果空シカラサルナリ

○忠淸南道延繩漁業傳習成績

延繩漁業ノ傳習ヲ開始スルニ當リ特ニ幅七尺五寸全長三十六尺深二尺三寸ノ甲板裝置アル漁船一艘ヲ群山ニ於テ新造シ之ニ延繩漁具其ノ他傳習ニ必要ナル器具ヲ設備シタリ

傳習生ハ管內沿海各郡守ヲシテ當業者中ヨリ選拔セシメタルカ當初其ノ數多カリシモ乘込ノ際ニ至リ異動ヲ生シ定員ヨリ六名ヲ減スルニ至レリ其ノ數左ノ如シ

舒川郡	十名	庇仁郡	三名
鰲川郡	五名	泰安郡	六名
總計		二十四名	

傳習ハ四十四年十月ヨリ十一月ニ至ル間ニシテ之ヲ二回ニ分チ第一回ハ十月十六日ヨリ同二十八日迄第二回ハ十一月十四日ニ開始シ同三十日ヲ以テ終了セリ

傳習ニ際シテハ道廳員一名漁撈教師二名通譯一名傳習生ト共ニ漁船ニ乘組ミ延繩ノ使用方法、內地式漁船ノ操縱法、漁具製作法其ノ他延繩漁業ニ必要ナル事項ヲ實地ニ就キ懇導切指

導シ而シテ漁具ト潮流トノ關係、魚族ト餌料トノ關係及漁具ノ製作ハ本漁業者ノ緊要トスル處ナルヲ以テ時化若ハ潮待ノ際能ク傳習スル所アラシメ特ニ釣ノ製作縎絲ノ結束法ハ極メテ熟練ヲ要スヘキモノナルニ因リ反覆練習セシムルコトニ努メタリ

漁場ハ本道鰲川郡沿海ニシテ氣溫頓ニ降下シタル爲魚族ノ退去ヲ早カラシメタルト時化ノ爲好潮時ヲ逸シ恰モ潮流激甚ナル時期ニノミ操業スルノ止ヲ得サルニ至リ漁獲上ラスト雖漁獲物ノ種類ハ鯛石首魚鮸鱠鱭鰒小鰈等ニシテ水揚高九拾六圓餘ニ達シタリ、而シテ餌料ハ主トシテ本道沿岸ニ產出スル蛸ヲ使用シタルモ尙鰕蝦姑鰡(大ハ三四箇小ハ二箇ニ切斷ス)等ヲ併用シタリ

以上傳習ノ成績ヲ見ルニ延繩ノ使用漁船ノ操縱ニ就テハ素養ノ有無及技能ノ如何ニ因リ一定セスト雖一般ニ會得スルコト速ニシテ普通ノ天候ニ共同作業セハ操業シ得ル迄ニ熟練スルニ至レリ、漁具ノ製作ハ最熟練ヲ要スルモノナルヲ以テ反覆傳習ノ結果其ノ要領ヲ覺知セシムルヲ得タリ

○慶尙北道模範漁業成績

延日灣ニ於ケル鰊擧網ハ同地固有ノ漁具ナルモ施設上多大ノ經費ヲ要スルノミナラス其ノ構造上ノ關係ヨリ布設ノ位置ハ一定水深以內ノ場所ニ限ラレ廣ク使用スルヲ以テ漁獲成績良好ナラス時時收支相償ハサルコトアリ爲ニ該漁業ハ近時甚タ

振ハス、又該地ニ於テハ擧網ノ外內地式壺網ヲ布設スル者アリト雖之亦布設ノ箇所ニ局限アリ且一時ニ魚ノ大群ヲ收容シ得ヘキ構造ヲ欠キ鰊漁ニ對シテハ未タ以テ完全ノ漁具ト稱スルヲ得ス殊ニ朝鮮人ノ如キハ其ノ壺網ノ構成ニ於テ徒ニ網地ヲ節約シ十分ノ縮結ヲ行ハス其ノ利害ヲ察知セサルモノアリ因リテ左記二統ノ網ヲ調製シ延日灣鰊漁場ノ最沖合ヲ選ヒ其ノ位置ヲシテ當業者ノ後網タラシメ昨年十二月下旬之ヲ布設セリ

一、甲網

構造ハ普通ノ壺網ナルモ特ニ縮結ヲ多クシ且普通ノモノニ比シ網ノ周圍ヲ十尋內外增大ス

一、乙網

壺網ノ小袋ノ代用トシテ網奥ニ口幅四尋長六尋ノ落袋ヲ設ク

右二統ノ網ハ略同一ノ場所ニ於テ雙方約百五十間ノ間隔ヲ保チ相對立セシメテ布設ス

該漁場ニハ特ニ大ナル標識旗ヲ設ケ當業者ノ注視ニ便ニス

漁獲成績表

月日	漁獲物	賣上金高
明治四十四年十二月三十日 同 三十一日	鱈	円 二・二九八
自同四十五年一月三日 至同 一月三十日	鱈、鮃、河豚、鰆、鰊等	五五九・四四三
自同 二月五日 至同 七日	鱈、鮃、鰊等	六五九・八〇〇
計		一、二二一・五四一

○二月中漁業免許數

二月中ニ漁業ヲ免許シタル件數ハ三十八件ニシテ皆慶尙南道ニ於ケル朝鮮人團體ノ出願ニ係ルモノニシテ他道ニハ免許シタルモノナシ

貿易及經濟

○鎭南浦港ニ於ケル最近貿易及經濟狀況

甲、貿易狀況

第一、輸移出貿易

四十四年九月黃海道諸郡水害アリ其ノ後引續キ雨天勝ニテ收穫期ノ後レタルノミナラス一般穀物ノ減收ヲ來シ爾來出廻リ甚タ振ハス僅ニ豆類（主トシテ大豆）及白米ノ取引並鐵鑛、石炭等ノ搬出ニ幾分活氣ヲ呈シタルニ過キサリシカ十二月ニ入リテハ穀類ノ廻著モ漸次增加シ且當港結氷期ニ近ツキタルヨリ相應ノ輸移出アリタレトモ其ノ取引ハ尙豆類白米ニ止マレリ斯クテ十二月末ニハ流氷ノ爲水上ノ交通ハ全ク杜絕シ爾來輸移出ハ汽車便ニ依ルノ外ナク本年一月ノ貿易モ殆ト見ルニ足ルモノナシ而シテ一月中輸出品ノ大部分ハ白米ニシテ大連、安東縣、長春、奉天等滿洲諸地方ニ仕向ケラレタルモノト京城開城並北鮮地方ニ送ラレタルモノト相半シ其ノ數量合シテ二千餘石ニ過キス之ヲ昨年十二月中ノ白米仕向高五千三百餘石ニ比スレハ非常ノ減退ト謂フヘキモコレ結氷期中例年見ル所ノ現象ニシテ素ヨリ止ムヲ得サルナリ然レトモ近時鮮滿鐵道連帶輸送開始ノ爲奉天、長春等ニモ盛ニ精米ノ仕向アルハ頗ル注目ニ値スヘク將來此ノ方面ニ於ケル鮮白米ノ優勢ナルニ至ルヘキハ疑ヲ容レサル所ナリ

輸移出ノ狀況斯ノ如クナルヲ以テ當港輸出商ハ專心地方穀物ノ買出ニ努力シ解氷後ノ商戰ニ備ヘツツアリ而シテ其ノ買出シタル穀物モ氷上運搬ノ便アル地方ヨリハ盛ニ當港ニ廻送セラルルヲ以テ（解氷後水運ニ依ルノ極メテ便利ナル地方ニ於テハ其ノ地ニ貯藏ス）當港ノ在品ハ次第ニ增加シ一月末ニ於ケル穀物在高ハ左記ノ如シトス

米	一八、〇〇〇叺	小豆	六、〇〇〇叺
籾	二、〇〇〇俵	小麥	九、〇〇〇叺
大豆	三五、〇〇〇叺	粟	四、〇〇〇叺
雜穀	二、〇〇〇叺		

惟フニ昨秋ノ水害カ一般作物ノ減收ヲ來シタル事ハ否定スル能ハスト雖事實平安南北道ノ被害ハ極メテ少ナク黃海道亦大被害ハ一部ニ止マリ其ノ平年作ニ對スル減收モ甚大ナラサリシ模樣ニテ昨秋以來當地穀物市場ノ不振ハ主トシテ出廻遲延ニ歸因スルモノナルヘシトハ近來一般當業者ノ口ニスル所ナルヲ以テ本春解氷後船舶ノ出入頻繁ナルニ至ラハ當港ノ輸移出貿易ハ相當ニ好況ヲ呈スルニ至ルヘシ、今一月中ニ於ケル

主要穀物ノ市價ヲ擧クレハ左ノ如シ

品名		最高	最低	品名		最高	最低
		円	円			円	円
籾	上	七・〇〇	六・六〇	大豆	大玉	八・四五	八・〇〇
	並	六・五〇	六・一〇		並	八・三〇	七・七〇
白米(石拔)	上	一八・五〇	一七・五〇	綠豆		九・三〇	八・七〇
	並	一八・〇〇	一七・〇〇				
	下	一七・五〇	一五・八〇	小麥		七・六〇	七・三〇
玄米	上	一三・五〇	一二・七〇	粟		一三・〇〇	一二・〇〇
	並	一二・八〇	一二・〇〇	小豆	上	一〇・〇〇	九・二〇
	下	一一・五〇	一一・〇〇		並	九・六〇	九・〇〇
糯玄米		一四・二〇	一三・五〇	大麥		四・六〇	四・二〇
糯白米		二〇・〇〇	一九・五〇				

第二、輸移入貿易

一月中ノ輸移入貿易亦輸移出ト同シク殆ト謂フニ足ルモノナク唯常用品小雜貨類ノ僅ニ汽車便ニ依リテ到著シタルモノアルニ過キス元來當港輸移入品ノ過半ハ對岸黄海道諸地方ニ供給スルモノニシテ又結氷期ニ於ケル奥筋地方ノ需要品ハ大同江及其ノ上流諸川ノ結氷前概ネ仕入ヲ了スルヲ以テ一月中輸移入品ノ取引ハ唯鮮人舊節季ノ近ツキタル爲綿布綿絲其ノ他鮮人向雜貨ノ當港附近ノ部落ニ小口ノ需要アルト京義鐵道沿線地方ニ繩叺、石油及食料品等ノ需要アルニ過キサルナリ

一月中重要輸移入品ノ市價大略左ノ如シ

品名		商標	單位	最高	最低
綿絲	平	十手	二十玉一梱	七四・〇〇	七〇・〇〇
		十六手		七四・五〇	七三・五〇
燃絲		雙鹿三十二子	四十玉	二三〇・〇〇	二二二・〇〇
		扇子ク二子		一四一・〇〇	一三六・〇〇
晒金巾		九桃花	五十疋入	三七五・〇〇	三六五・〇〇
		九牡丹		四〇〇・〇〇	三九〇・〇〇
		二君子		三七五・〇〇	三六二・〇〇
		月星		三六五・〇〇	三六〇・〇〇
和金巾		三A	二十疋入	一三九・〇〇	一三六・〇〇
		三B		一三七・〇〇	一三四・〇〇
		三		一二九・〇〇	一二六・〇〇
		騎兵		一三一・〇〇	一三一・〇〇
天竺布			四十疋	一五六・〇〇	一四八・〇〇
白木綿		城	六十疋	一〇九・〇〇	一〇八・〇〇
		牡丹		一〇五・〇〇	一〇五・〇〇
		旗		一〇六・〇〇	一〇六・〇〇
砂糖		E	百斤袋	一一・五〇	一一・五〇
		X		一一・五〇	一一・五〇
		N		一一・三〇	一一・二〇
石油		松	一函	三・四〇	三・三三
		勝利		三・〇八	三・〇〇
		旗		二・九五	二・九〇
麥粉		東鄕	一袋	二・六〇	二・六〇
		日ノ出		二・六〇	二・六〇

第三、當港商圈内ニ於ケル貿易品集散ノ狀况

一、輸移出品出廻狀况

當港ノ重要輸移出品ハ穀物ニシテ其ノ生産地ハ黄海道ノ北半部京義沿線地方ヨリ此ハ遠ク宣川車輦館ニ延ヒ南ハ汗浦岑城ニ至リ甚タ廣大ナル區域ナリ而シテ當港出廻穀物ハ平均年額四十萬石ノ巨額ニ達ス是レ當港カ大同江水運ノ便ヲ有シ西海

度補助金ヲ以テ製絲機ヲ購入セリ講習ハ三箇月ヲ以テ一期トス四十三年十月開講以後四十四年十二月ニ至ル五期間ニ於ケル生徒講習ノ狀況左ノ如シ

講習期	募集人員	應募人員	入所許可人員	卒業生人員
第一期	一四人	二〇人	一四	一四
第二期	一四	一八	一〇	一〇
第三期	二〇	一三	一〇	八
第四期	二〇	二〇	一九	一三
第五期	三五	三五	三四	三三
計	一〇三	一一三	八七	七八

卒業生總數七十八名ノ內八名ハ各自自宅ニ於テ製絲業ニ從事シ三十七名ハ講習所ニ於テ委託繭ノ製絲ニ從事シ居レリ而シテ四十四年度ニ於ケル消費豫定繭數二百七十三萬粒ニ上レリ」尙製織傳習ニ就テハ四十四年京都ヨリ實地家ヲ傭聘シ四十五年ニハ春夏ノ講習會開催ノ豫定ヲ以テ各種製織ノ試驗ヲ爲シ織機ハ曩ニ總督府ヨリ配付シタルモノヲ使用シツツアリ

○營林廠事業成績（明治四十五年一月中）

一　惠山鎭支廠ニ於テ本月迄ニ於ケル伐木運材數

材種	伐木數 一月中	伐木數 累計	運材數 一月中	運材數 累計
丸、角材	六,七七七尺〆	七四,二〇二尺〆	一七,三八七尺〆	八一,五〇五尺〆
築港用丸太	—	一四一本	—	—
電柱	—	四,九〇八	—	四,九〇八本
計	六,七七七尺〆	七四,二〇二尺〆 五,〇四九本	一七,三八七尺〆	八一,五〇五尺〆 四,九〇八本

二　製材

（一）新義州製材所ニ於ケル製材

種別	消費木材數(尺〆) 一月中	消費木材數(尺〆) 累計	製材數(尺〆) 一月中	製材數(尺〆) 累計
丸、角材	八,六九〇	一四三,〇四五	五,八一七	九〇,三二七
準備材	五四〇	五,一七九	三七三	三,三四三
計	九,二三〇	一四八,二三四	六,一九〇	九三,六七〇

（二）會寧出張所ニ於ケル製材

種別	消費木材數(尺〆) 一月中	消費木材數(尺〆) 累計	製材數(尺〆) 一月中	製材數(尺〆) 累計
丸、角材	八七一	一〇,八四一	三八四	四,七四〇
端切材	—	四七四	—	三四九
計	八七一	一一,三一五	三八四	五,〇八九

三　木材賣却

種別	賣却木材數 一月中	賣却木材數 累計	代金(圓) 一月中	代金(圓) 累計
丸、角材	二,一四四尺〆	二九,九九一尺〆	一一,六五七	一一九,〇五三
小丸太	二七四本	一〇,五二四本	二三九	八,四一四
五尺未滿モノ	—	四九三本	—	四四
車軸	三七條	二八七條	一〇〇	六九三
車杠	四二六片	二,一四七片	二三九	一,二二四
製材	一二,三一〇尺〆	六三,九七二尺〆	八七,六〇九	四四四,九四七
副產物	—	—	一,二三八	三〇,七一八
計			一〇一,〇八二	六〇五,〇九三

鑛業

○雲山金鑛概況 （明治四十四年十一月十二月視察）

目次　一、鑛業ノ概要　二、各金坑記事　三、鑛床論

一、鑛業ノ概要　雲山金鑛ニ於テ東洋鑛業會社ノ自ラ經營セルハ大岩金坑（Tabowie Mine）橋洞金坑（Taracol Mine）鎭後金坑（Chintui Mine）月隱乃金坑（East Condlestick Mine）極城洞金坑（Kuk San Dong Mines）及鷹峰金坑（Charabowie Mine）ノ六金坑ナリ之等ノ金坑ハ相接近シテ所在セス北西ナル月隱乃金坑北東ナル極城洞金坑及南方ナル鷹峰金坑ノ位置ヲ結ヘハ一邊約七里ノ正三角形ヲ爲シ大岩橋洞及鎭後ノ三金坑ハ此ノ三角形内ノ北西隅ニ近ク位セリ卽チ雲山金鑛操業區域ハ二十二平方里餘ニ亙リ鑛石ハ一箇所ヨリ產出スルモノニ非ス雲山金鑛ニ於テ現ニ一日ニ採堀スル金鑛ノ數量ハ約千〇十噸ニ達ス各金坑一日ノ出鑛高、鑛石ノ平均含金量等ヲ擧クレハ次ノ如シ

鑛石ノ含金量及實收率ハ明治四十三年七月ヨリ四十四年六月末日ニ至ル一箇年ノ平均値ヲ揭ク

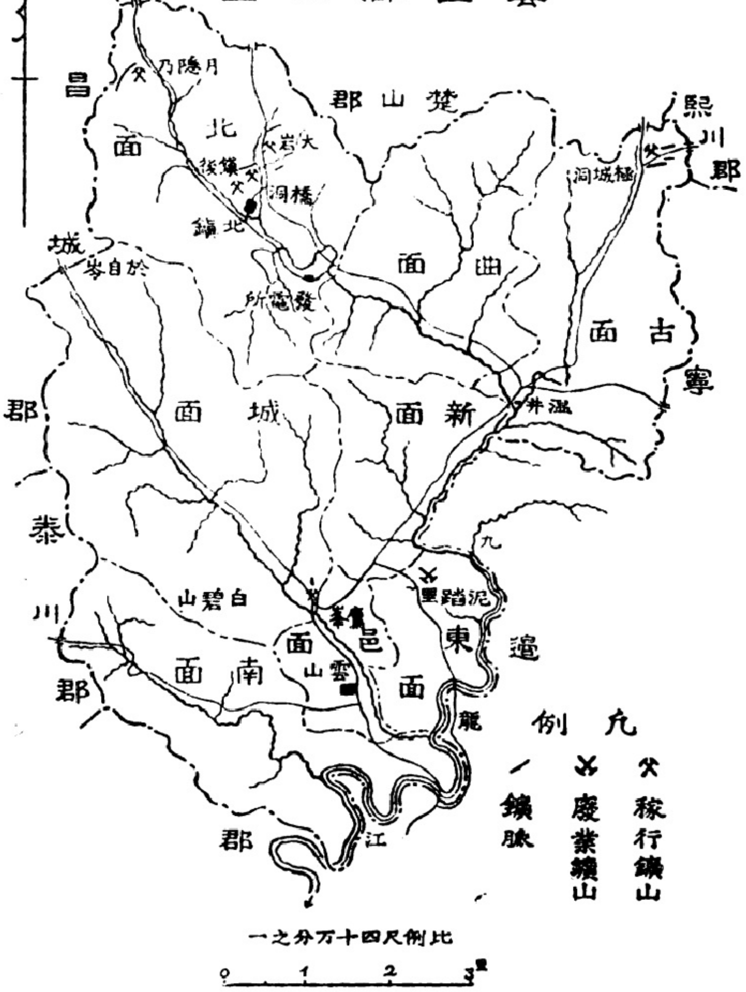
	一日出鑛高（噸）	一噸ニ付平均含金値（弗）	實收百分率	價額（弗）
大岩金坑	三二〇	五・〇七	八四・四	一、三六九・三
橋洞金坑	三〇〇	四・九二	八六・三	一、二七三・八
鎭後金坑	八〇	五・〇二	八五・四	三四三・〇
月隱乃金坑	三〇	一〇・九〇	八七・五	二八六・一
極城洞金坑 北坑	一〇〇	三・〇九	八〇・五	二四八・七
極城洞金坑 南坑	七〇	二・五四	八〇・二	一四二・六
鷹峰金坑	一一〇	八・三八	八一・四	七五〇・三
計	一〇一〇			四、四一三・八

上記ノ如クニシテ雲山金鑛ヨリ一箇年約三十六萬噸ノ鑛石ヲ採堀シ三百萬圓ノ產金額アリ鑛石ハ大岩、橋洞、月隱乃、極城洞及鷹峰ニ於ケル搗鑛所竝橋洞、月隱乃及極城洞ニ於ケル青化收金所ニ於テ製錬ニ附セリ鑛石ノ品位ハ鑛石一噸ニ付平均五弗一七卽チ百萬分ノ七・六ニシテ良鑛ト謂フヲ得ス其ノ極城洞金坑南坑所產鑛石ノ如キハ鑛石一噸ニ付平均二弗五四卽チ百萬分ノ三・七六ノ含金アルニ過キス蓋東洋鑛業會社長パーキンスカ「本會社ノ位置ハ除外例ニ屬ス卽チ東洋ニ於ケル品質粗惡ナル鑛石ヲ處理シテ然モ成功セル鑛業ヲ營メル先進者ナリ」ト謂ヘルハ過言ニアラスト信ス而シテ此ノ言ノ肯定セラル、ハ一ニ製錬法其ノ宜シキヲ得タルニ因ルナルヘシ然モ尙銳意製錬法ヲ改メテ鑛石含金ノ大部分ヲ抽出セムト務メツツアリ其ノ設備ノ一端ヲ窺フニ搗鑛鑛尾ヨリ汰物ヲ得ルニ是レ勗メ最近ニ於テモ大岩ニ「カンパス」ニヨル汰物集收所ヲ設クルアリ又青化收金ノ殘滓ハ再ヒ之ヨリ收金セムトシテ既ニ極城洞ニ再收金所ヲ建テ其ノ成績ニ鑑ミ橋洞ニモ同樣ナル設

備ヲ爲サムトシツヽアリ而シテ各金坑ニヨリ異種ノ裝置ヲ設ケテ所產鑛石ニ最適應セル製錬法ヲ採用セムトセリ

雲山金鑛成功ノ一因ハ又採鑛及製錬ニ要スル動力經費ノ大ナラサルコトナリ本金鑛中主要ナル金坑タル大岩及橋洞ノ製錬所及橋洞ノ鐵工場ニ要スル動力ハ主トシテ水力電氣ニ依ル、其ノ發電所ハ北鎮ノ南東一里餘ナル北面館坐洞ニ在リ給水ハ北鎮ヨリ分派セル水道及草里ニ於ケル貯水池ニ依ルモノナリ而シテ最近四箇年間ノ會社報告ニ依レハ冬期給水缺乏ノ爲ニ發電ヲ休止スルコト一箇年ニ六十八日乃至百四十四日間ニシテ殘餘ハ裝置ニ故障ナキ限リ平均五百餘馬力ノ動力ヲ送レリ大岩及橋洞兩金坑ニ於テ發電不能ノ場合ニ用フル燃料及他ノ四金坑ニ於ケル採鑛及製錬ニ要スル燃料ハ一箇年約三萬三千「コード」(一「ゴード」ハ四呎四呎、八呎積ナリ)ヲ使用セリ此等ノ薪材ノ容易ニ獲ラルルハ雲山金鑛ニ取リテ幸ナルコトニ屬ス

雲山郡略圖



金鑛ノ稼行ニ從事セル人員ハ坑夫ノ約千百人ナルニ加ヘテ約千人ノ雜夫アリ此等ノ大多數ハ朝鮮人ニシテ二千餘人ノ人夫ヲ指揮監督シ及會社ノ事務ニ鞅掌スル外國人七十七人アリ坑內採鑛ニ關シテハ僅ニ外國人ノ之ヲ指導スルアルニ過キスシテ請負制度ヲ採レリ爲ニ坑夫ヲシテ自ラ勤勉ナラシムルノ利アリ其ノ他經營ノ方法ヲ看ルニ簡捷ヲ旨トシ總テノ事經濟的ニシテ役員ノ數少ク徒然タルモノヲ見ス是レ所謂亞米利加式經營ニシテ採ツテ以テ範ト爲スニ足ル所ナリ

如上說述セル如ク鑛石ノ多量ナルト製錬ノ設備完全ニ近キト動力ノ費用少ナルト經營ノ經濟的ナルトハ實ニ東洋鑛業會社ノ收益一箇年百三十餘萬ニ達スル理由ナリト思惟ス

二、各金坑狀況

(イ)大岩金坑　ハ雲山金鑛金坑中ノ巨擘ニシテ北部雲山郡ニ

於ケル主要ナル開市場タル北鎭ノ北方三十町北面荻里了好尾下洞ニ在リ而シテ會社ノ主要ナル事務ハ大岩ニ於テ執ラル

大岩附近ノ地質ハ巨晶ノ長石ヲ有スル花崗岩ヨリ成ル該岩ハ時ニ不完全ナル劈理ヲ有シ又岩體中ニハ往往捞取セラレタル雲母片岩ヲ包有ス鑛床ハ花崗岩ニ胚胎ス露頭ハ大岩谷ノ東側竪坑ノ傍ニ起リ大岩ト稱スル屏風狀ノ巍然タル岩體ヲ爲シ東方千四百呎ニ亙ル竪坑ノ東方四百五十呎ノ地ニ於テ上盤鑓及下盤鑓ノ二脈ニ分岐シ更ニ東方ニ進ムコト五百二十呎ニシテ再ヒ合一セリ一般ノ走向北七十五度東ニシテ北方ニ傾斜スルコト七十五度ナリ露頭ハ西方大岩谷ヲ越エテ顯ハレス蓋妥ニ南北ニ走ル斷層ノアルアリテ其ノ踪跡ヲ晦マシ南方三千呎ヲ隔テ橋洞ニ其ノ連續セル鑛脈ヲ露出スルモノナリ坑內ニ就キテ鑛脈ノ狀態ヲ見ルニ鑛脈ノ延長ハ二千八百呎ニ達スレトモ稼行ニ堪フヘキ部分卽チ富鑛帶(ペーシュート)ハ約千二百呎ナリ富鑛帶ハ下部ニ降ルニ從ヒ其ノ位置西方ニ移動シ富鑛帶ノ傾斜(ピッチ)ハ約六十五度ナリトス而シテ西方ニハ斷層ノアルアリテ鑛脈ヲ斷ツカ爲ニ第七坑道以下ニ於テハ富鑛帶ノ延長千呎ヲ出テス鑛脈ノ幅ハ十尺乃至四十尺ニシテ灰色石英ヨリ成ル內ニ幅一尺乃至十五尺ニ達スル白色石英ノ部分アリ此ノ白色石英ノ部分ハ卽チ鑛石ニシテ貧鑛部ハ白色石英ヲ鈌キタル灰色石英脈ノ部分ナリ上盤鑓及下盤鑓ノ間隔ノ最廣部ハ三十尺乃至七十尺ニ達シ其ノ間ハ母岩タル花崗岩ヨリ成ル而シテ一般ニ地表ニ近キ所ニ於テハ上盤鑓良好ニシテ下部ニ於テハ下盤鑓良好ナリ鑛脈內ニハ時ニ幅狹キ岩脈ノ貫入セルコトアルモ鑛脈ハ之カ爲ニ特殊ノ影響ヲ蒙ラス

鑛石ニハ黄鐵鑛方鉛鑛閃亞鉛鑛ヲ伴隨シ時ニ縞條ヲ爲セル石墨ヲ含有ス鑛石ノ品位ハ一噸三弗乃至十六弗ニシテ平均五弗⊙七ナリト謂フ

大岩金坑ニハ略鑛脈ノ傾斜ニ沿ヒ掘下セル一箇ノ竪坑アリ其ノ延長千二百二十八呎ニ達ス第一坑道ヨリ第十坑道ニ到ル十箇ノ坑道ヲ有シ其ノ各ノ間隔垂直ニ九十呎乃至百二十呎アリ竪坑坑口地並以上ニモ亦上部坑道中部坑道及本坑道ノ三坑道アリ現今ハ主トシテ本坑道以下第七坑道ノ間ヨリ出鑛セリ

大岩製錬所ニハ搗鑛杵八十本アリテ一日平均三百二十噸ノ鑛石ヲ處理ス而シテ混汞搗鑛ニヨル實收率ハ全含金量ニ對シ平均百分ノ四十四・五ナリト謂フ汰物ハ橋洞ナル青化收金所ニ送致ス其ノ量一日平均約三十四噸ナリ青化實收率ハ汰物ノ含金量ニ對シ百分ノ八十六・四ナリト謂フ斯クシテ其ノ全實收率ハ百分ノ八十四・四ニ該當ス

(ロ)橋洞金坑　ハ北面荻里了好尾下洞ニ在リテ大岩金坑ト北鎭トノ中間ニ位ス製錬所ノ外鐵工場病院等ヲ置ク

橋洞附近ノ地質ハ大岩附近トハ稍〻其ノ趣ヲ異ニシ花崗岩ハ

剝理ヲ有スルモノ多ク內ニ黑雲母片麻岩ヲ介在ス片麻岩剝理ノ走向ハ東西ニ近ク傾斜北方七十度ナリ又橋洞西方ノ山地ハ主トシテ長石ノ巨晶ヲ有スル花崗岩ヨリ成ル

橋洞金坑ノ鑛脈ハ大岩金坑ニ於ケルモノト其ノ性狀同樣ナリ走向平均北七十六度五十分東傾斜北六十五度乃至八十度ナリ露頭ハ東大岩谷ノ西側ニ起リ西走シテ鎭後金坑ヲ經柳秋萩ノ溪谷ニ到ル其ノ延長約五千七百五十呎アリ尙鑛脈ハ西方ニ連亙スト謂フ鑛脈ノ東端ハ大岩谷ノ西側ニ於テ斷タレ谷ヲ越エテ東方ニ延ヒス是レ大岩金坑ノ條下ニ述ヘシ如ク大岩谷ニ沿ヒ南北ニ走ル斷層アルカ爲ニシテ從來地質學者ノ說ク所ニ據レハ大岩金坑及橋洞金坑ノ鑛脈ハ同一鑛脈ノ連續セルモノニシテ大岩谷ニ沿ヘル斷層ニ依リ其ノ西側落下シ爲ニ其ノ間ニ約千米突ノ水平差ヲ見ルニ至リタリト謂フ橋洞ヨリ鎭後ニ亙ル鑛脈ハ其ノ延長五千七百五十呎ニ及ヘトモ其ノ內採鑛ニ足ルヘキ部分ハ橋洞金坑ニ於ケル延長約千六百呎鎭後金坑ニ於ケル延長約千二百呎ノ間ニシテ橋洞金坑坑內ト鎭後金坑坑內トノ間ニハ稼行ニ堪エサル部分約千呎ヲ存ス、橋洞金坑ニ於ケル鑛脈亦竪坑ヨリ西方約七百尺ニ於テ上盤𨫤及下盤𨫤ノ二脈ニ分岐シ西南西ニ亙ルコト約千百呎ニシテ再ヒ合一セリ富鑛帶ハ前記ノ如ク約千六百呎アリテ其ノ傾斜ハ大岩ニ於ケルト同シク西方ニ向フ鑛脈ノ幅ハ十尺ヨリ二十尺ニ達スレトモ鑛石トシテ採掘スルニ足ル部分ハ一尺乃至十餘尺ナリ坑內ニ於テ上盤𨫤及下盤𨫤ノ二脈ヲ共存スル部分ニテハ上盤𨫤ヲ良好ナリトス

鑛石ノ性質ハ大岩金坑ニ於ケルモノト同シク唯時ニ磁硫鐵鑛ヲ伴隨スルヲ異ナレリトス其ノ品位ハ一噸平均四弗九二ナリト謂フ

橋洞金坑ニモ鑛脈ノ傾斜ニ沿ヒ掘下セル一箇ノ竪坑アリテ其ノ延長千二百六十一尺ニ達シ坑道十箇アリ竪坑地並及之以上ニ三箇ノ坑道ヲ有ス各坑道ノ垂直距離ハ八十呎乃至百二十呎ナリ現ニ主トシテ第三坑道以下第七坑道ノ間ヨリ採鑛セリ而シテ第十坑道ニ於テハ鑛脈ノ稼行スルニ足ルヘキ部分ヲ未タ發見セスト謂フ

製鍊所ハ竪坑ノ南方約三町ニ在リ搗鑛杵八十本アリテ橋洞及鎭後兩金坑ノ鑛石ヲ搗鑛ス橋洞ニ於ケル鑛石ノ搗鑛ニヨル實收率ハ全含金量ニ對シ平均百分ノ四十六・七ニシテ橋洞青化收金所ニ於テハ現ニ橋洞搗鑛所ニ於ケル汰物ニ加フルニ大岩及鷹峰搗鑛所ニ於ケル汰物ヨリ收金セリ而シテ橋洞金坑ノ鑛石ノ汰物ハ其ノ含金量ノ百分ノ八十六・九ヲ實收ス斯シテ全實收率ハ鑛石ノ含金量ニ對シ百分ノ八十六・三ニ當ル青化收金ノ殘滓ハ橋洞ニ山積シアリ之ヲ再ヒ青化收金ニ附スル計劃アリテ現ニ青化收金所ノ裝置ヲ變更シツツアリ

(八)鎭後金坑　ハ橋洞ノ西方約二十町ノ山地ニ在リ鎭後金坑附近ノ地質ハ主トシテ長石ノ巨晶ヲ有スル花崗岩ヨリ構成セ

ラレ内ニ黒雲母片麻岩及黒雲母片岩ノ薄層ヲ介在ス片麻岩及片岩ノ劈理ハ北七十度東乃至東西ニシテ北方ニ五十度乃至七十度傾斜ス

鑛脈ハ橋洞鑛脈ノ西方ニ連亙セルモノノ一部ニシテ走向ハ東北東ニ向ヒ北方ニ急斜セリ鎮後竪坑ハ東方ニ於テ其ノ露頭ヲ檢スルニ厚サ十二尺乃至二十尺アリ坑内ニ於テ稼行スヘキ富鑛帯ノ延長ハ約千二百呎アリテ該帯ノ傾斜(ピッチ)ハ西方ニ五十度乃至六十度ナリ上盤鑓及下盤鑓ノ二脈アレトモ上盤鑓ハ稼行ニ堪フル部分極メテ小ニシテ鑛脈ノ幅ハ二尺乃至十二尺ナリ

鑛石ノ性質ハ大岩金坑ニ於ケルモノト同シク其ノ品位ハ一噸ニ付含金三弗乃至十弗ニシテ平均五弗〇二ナリト謂フ

鎮後竪坑ハ延長約四百二十呎ニ達シ第一坑道以下第四坑道ニ到ル四坑道アリ第四坑道以下ハ坑井ヲ掘下スルコト三百五呎ニ迨ヒ茲ニ第五坑道第六坑道及第七坑道ヲ開鑿セリ又鎮後竪坑ノ西南西約千四百呎ナル柳秋狄谷ヨリ第三坑道地並水平坑道ヲ開坑シ竪坑ト連結セリ尚該水平坑道坑口ノ北方ニ延長約二百尺ノ一竪坑ヲ掘下セリ現今ハ主トシテ第一坑道以下第三坑道ニ於テ採鑛ニ從事ス

鎮後竪坑ヨリ出鑛スル鑛石ハ橋洞製錬所ニ送致セラル搗鑛實收率ハ百分ノ四十六・五ニシテ汰物ノ青化收金率ハ原鑛石ノ含金量ニ對シ百分ノ三十八・九ナリ即チ全實收率ハ百分ノ八十五・四ナリトス

(二)月隱乃金坑　月隱乃金坑ハ北鎮ヲ距ル北西二里半北面狄里月隱上洞ニ在リ本金坑ノ鑛脈ハ東洋鑛業會社ニ於テ稼行セル鑛脈中幅員最小ナレトモ含金量ハ最大ナルモノニ屬ス

月隱乃ノ溪谷ハ巨晶長石ヲ有スル斑狀花崗岩及帯綠色ノ花崗岩ヨリ構成セラル鑛脈ハ前者ニ胚胎シ延長九千呎ニ亙リ其ノ北東端ハ月隱乃谷西側ノ一支谷「ネンサ」谷ニ起リ南西ニ走ルコト約四千二百呎ニシテ燭臺峰ニ到リ走向ヲ轉シテ南走ス此ノ南北走スル部分ノ延長四千八百呎アリ而シテ鑛脈ノ北東ヨリ南西ニ向フ部分ヲ東燭臺峰坑區ト稱シ南走スル部分ヲ西燭臺峰坑區ト稱ス現ニ採鑛ニ從事セルハ前者ニシテ朝鮮人ハ呼ムテ月隱乃金坑ト謂フ本金坑ニ於ケル鑛脈ハ走向北四十度乃至五十度東ニシテ南東ニ傾斜スルコト六十七度乃至七十三度ナリ幅ハ二寸乃至一尺三寸ニシテ兩盤ノ肌際ハ明亮ニ母岩タル花崗岩ト相接ス本鑛脈ハ實ニ花崗岩ノ節理ニ沿ヒテ生セル間隙ヲ充塡セシ石英脈ナリ坑内ニ就キテ鑛脈ノ狀態ヲ見ルニ本坑道ヲ南西ニ進ムコト約千五百呎ニシテ鑛脈ハ南七十六度東ニ急折シ北東四十度ニ傾斜ス其ノ延長約三十五尺ニシテ再ヒ復舊シ南西ニ走ル斯ク鑛脈ノ一度南東南ニ屈折スルハ獨リ本坑道ニ於テ見ルノミナラス本坑道上ナル中間坑道及第二隧道ニ於テモ本坑道ニ於ケル鑛脈屈折箇所ニ相應セル位置ニ於テ鑛脈ノ同樣ニ屈折セルヲ見ル蓋此ノ南東南ナル方向亦花崗岩中ノ一ノ節理面ノ走向ニ一致スルモノナルヘシ坑内ニ於テ

ハ此ノ鑛脈屈曲ノ點ヨリ南西ニ掘進スルコト未タ長カラス而シテ現今迄ニ知得セラレタル範圍內ニ於テハ本坑ニ在リテ稼行スヘキ鑛脈ノ延長約千六百呎ナリトス

鑛石ハ黃鐵鑛方鉛鑛及少量ノ閃亞鉛鑛ヲ含有スル白色石英ニシテ含金量ハ鑛石ニヨリ差違甚タシク一噸三弗乃至百弗アリテ其ノ平均十弗九ナリト謂フ

月隱乃金坑ニハ本坑道ノ外上部ニ中間坑道及第二隧道アリ本坑道以下ハ坑井ヲ掘下スルコト三百呎ニシテ第一坑道及第二坑道アリ「ネンサ」谷ヨリ第二坑道地並下部隧道ヲ開鑿シ今後百餘尺ニシテ坑井ニ貫通スヘシ現ニ主トシテ本坑道以上ヨリ採鑛シ本坑坑口ヨリ出鑛ス若夫レ他日下部隧道開鑿ノ工成ラハ採鑛及出鑛ニ多大ノ便宜ヲ得ヘシ

月隱乃谷ノ西側ニ製錬所アリ搗鑛杵十本ヲ設置ス靑化收金ノ裝置ハ他ノ靑化收金所ニ於ケルモノト異ニシテ靑化法ヲ施スニ先タチ鑛尾ノ淘汰ハ之ヲ省略シ搗鑛機ヨリ出ツル鑛尾ノ全部ヲ直ニ靑化加里液ト共ニ攪拌ス搗鑛實收率ハ全含金量ニ對シ百分ノ七十四・七ニシテ靑化法ニヨル實收率ハ鑛尾ニ對シ百分ノ五十三・八ナリ斯シテ百分ノ八十七・五ノ全實收率ヲ擧ケツツアリ

(ホ)極城洞金坑　ハ古面牛上里及牛中里ニ在リテ雲山、楚山、熙川三郡ノ界ニ近ク位シ北鎭ヲ東微北ニ距ル直徑五里ニ在リ通路ハ北鎭ノ東南東三里半ナル古面溫井ヨリ北微東ニ極城洞ノ溪谷ヲ溯ル三里半ニシテ本金坑ニ達ス本金坑ハ極城洞谷ニヨリテ南北兩坑ニ分タレ其ノ中間ノ谷ノ南側ニ中坑ナルモノアリ

極城洞金坑附近ノ地質ハ主トシテ剝狀花崗岩ヨリ成リ內ニ黑雲母片麻岩及黑雲母片岩ノ薄層ヲ介在ス之等岩類ノ剝理ノ走向ハ北六十度乃至七十度東ニシテ南方或ハ北方ニ六十度乃至八十度ヲナシテ急斜ス

鑛脈ハ剝狀花崗岩ニ胚胎シ時ニ鑛脈ノ下盤ヲナシテ薄キ黑雲母片岩ノ存スルアルヲ檢セリ南坑ノ鑛脈ハ極城洞谷ノ南方山側ニ露出シ走向平均北四十五度西ニシテ傾斜南西十二度ナリ幅二尺乃至十五尺アリテ時ニ鑛脈中ニ黑雲母片岩ヲ夾有ス又石英脈ハ其ノ一部巨晶花崗岩質ヲ帶ヒ來リテ帶紅色長石ヲ伴隨スルコトアリ鑛脈ノ南側ハ東北東ニ走ル斷層ニヨリテ斷絕セラレタルカ如ク爲ニ鑛床賦存區域ノ幅約八百呎ニ過キスシテ延長ハ東北東ノ方向ニ約千六百呎アリ而シテ南坑ハ既ニ賦存鑛石ノ三分ノ二餘ヲ採鑛シ盡セリ北坑ハ南坑ノ北東ニ位シ其ノ鑛脈ハ走向平均北四十五度東ニシテ北西ニ傾斜スルコト十五度ナリ幅ハ三尺乃至十五尺ニシテ內ニ黑雲母片岩ヲ夾有スル部分少カラス坑內ニ就キテ見ルニ北三十度東乃至東西ニ亙ル數箇ノ斷層アリテ鑛脈ハ北西或ハ北方ニ落下ス而シテ本鑛脈ハ賦存ノ幅約七百呎以上ニ達セサルモノノ如ク其ノ延長ハ東北東ニ亙リ雲山郡界迄約千九百呎アリ尙此ノ鑛脈ハ雲山郡

界ノ地中ニ布衍シテ東方黑川郡西面克城里側洞ニ露出ス側洞ニ於ケル露頭ハ一ノ許可鑛區內ニ在リ東洋鑛業會社ハ鑛業權者ヨリ借區シ現ニ側洞ニ於ケル露頭部ヨリ坑道開鑿ニ從ヘリ而シテ郡界ヨリ側洞ノ露頭ニ至ル迄鑛床賦存ノ延長東北東ニ二百八十間アリ中坑ハ南坑及北坑ノ間ニ介在ス其ノ鑛脈ハ剝狀花崗岩ニ胚胎シ走向北六十五度東乃至東西ニシテ北方ニ八十五度傾斜ス而シテ鑛脈ハ延長千八百呎ニ達スルカ如ク幅ハ三尺乃至五尺アリ南坑ノ北側ニ於テ現ニ採鑛ニ從ヘリ

鑛石ハ南北兩坑共ニ黃鐵鑛方鉛鑛及土狀石墨ヲ含有スル石英鑛石ニシテ硫化鑛物ハ縞條ヲナシ又ハ散點ス其ノ含金量ハ貧弱ナリ卽チ南坑ニ於ケル鑛石ハ平均品位一噸ニ付二弗五四ニシテ北坑ニ於ケルモノハ一噸ニ付三弗〇九ナリ

極城洞金坑ニ於テ現ニ採鑛ニ從事セルハ南坑及北坑ナリ南坑ニハ露頭ヨリ入レル九條ノ坑道ヲ有スルモ第六坑道以上殊ニ鑛床ノ南部ハ既ニ採盡シ現時主トシテ第六坑道及第八坑道ヨリ採鑛セリ北坑ニハ露頭部ヨリ開鑿セル第一ヨリ第八ニ到ル八坑道並零坑道及零零坑道アリテ現ニ主トシテ鑛床ノ北西部ヲ採鑛セリ

極城洞ナル搗鑛所ニハ搗鑛杵四十本ヲ備ヘ之ニ附隨シテ青化收金所アリ尙明治四十四年落成セシ青化收金殘滓卽チ有價汰物再收金所アリ搗鑛ニヨル實收率ハ南坑ノ鑛石ハ含金ノ百分ノ五十九・三ニシテ北坑ノ鑛石ハ百分ノ五十九・七ナリ又青化法ニヨル實收率ハ汰物含金量ノ百分ノ六十六・八ニシテ全實收率ハ南坑ノモノ百分ノ八十・五北坑ノモノ八十・二ナリトス而シテ有價汰物ノ再青化收金ハ未タ創設當時ニ屬スレトモ成績良好ニシテ其ノ裝置ハ一日約五十噸ノ汰物ヲ處理スルコトヲ得

（ヘ）鷹峰金坑　ハ城面鷹峰ナル九龍江ノ北岸ニ在リテ溫井ヲ距ル南西約四里半雲山郡邑ヲ距ル北西一里半ニ在リ本金坑ハ東洋鑛業會社ニテハ之ヲ龜岩金坑ト呼ヒ土人ハ之ヲ鷹峰金坑ト稱ス

鷹峰四近ノ地質ハ複雲母花崗岩黑雲母花崗岩及白雲母花崗岩ヨリ成リ金坑ノ北西ナル山地及九龍江ノ南側ニ峭壁ヲ爲シテ聳ユル白碧山ノ連嶂ハ剝狀花崗岩ヨリ成ル複雲母花崗岩中ニハ巨晶花崗岩小花崗岩及玢岩ノ岩脈頻リニ貫入シ殊ニ巨晶花崗岩脈ヲ多シトス鑛脈ハ複雲母花崗岩ニ胚胎シ九龍江ノ北岸階段狀丘阜ノ突角ニ露頭ノ跡アリ脈幅二十尺アリテ其ノ內良好ナル鑛石ヲ有セシ部分ハ上盤ニ二尺下盤ニ十二尺アリシト謂フ其ノ走向ハ北十度西ニシテ傾斜ハ西方五十四度ナリ露頭ノ延長ハ僅ニ約七間ニ過キス蓋本露頭ハ初其ノ形狀龜ノ如カリシヲ以テ此ノ附近ヲ龜岩ト稱シタルナルヘシ此ノ如ク露頭ハ大ナリト云フヘカラス其ノ兩端ハ平地ノ下ニ沒セシモノニシテ之ヲ坑內ニ就テ見ルニ稼行スヘキ鑛脈ノ延長約千呎ニ達セリ鑛脈ハ竪坑附近ニ於テ二分シテ北走シ上盤鍢及下盤

爲シ北走スルニ從ヒ其ノ間隔愈〻隔タリ約百尺ヲ計ルニ到ル又兩脈ノ分岐點ハ下底ニ到ルニ從ヒテ北進ス鑛脈ノ走向ハ略南北ニシテ傾斜ハ地下ニ到ルニ從ヒ急ニシテ第八坑道ニ於テ六十七度ヲ計レリ上下兩鏈トモ含金白色石英脈ハ幅一尺乃至十尺アリテ十數尺ノ綠色脈石ノ間ニ夾在シ時ニ細脈ヲ爲シテ脈石中ニ存ス上盤鏈及下盤鏈ノ富鑛帶ハ共ニ北方ニ傾斜スト雖下盤鏈富鑛帶ノ傾斜(ピッチ)ハ上盤鏈ノ其レニ比シ緩ニシテ前者ハ約四十度後者ハ約五十度ナリ又兩鏈富鑛帶ノ延長ヲ比スルニ一般ニ下盤鏈ノモノ長ク七百呎乃至八百呎ニ達シ上盤鏈ノモノハ百呎乃至五百呎ナリトス往往鑛脈ヲ切斷シ或ハ鑛脈內ニ幅二尺乃至四尺ノ黑色緻密ノ岩脈ノ貫通スルアルモ鑛脈ノ性狀ニ對シテハ何等ノ變化ヲモ與フルコトナシ本金坑ハ嘗テ第五坑道ニ於テ下盤鏈ハ幅五寸ニ減シ上盤鏈亦稼行スヘカラサルニ至リ一時悲境ニ陷リ明治三十九年ヨリ製錬ヲ休止シ總テノ搗鑛機ヲ撤廢シ纔ニ下底ノ探掘ニ從事セリ然ルニ下底ニ於テ再ヒ鑛脈ノ膨大セルニ會スルヤ明治四十一年十二月再ヒ製錬ヲ開始スルニ至レリ

鑛石ハ白色石英ニシテ毒砂方鉛鑛及黃鐵鑛ヲ夾有シ時ニ肉眼的自然金粒ヲ散點ス而シテ露頭ニ於テハ鑛脈中ニ白雲母ノ存スルヲ檢セリ含金量ハ鑛石一噸ニ付二弗半乃至二十弗ニ迨ヒ平均ノ品位八弗三八ナリトス

本金坑ニハ鑛脈ノ傾斜ニ沿ヒ延長千二百六十呎ナル竪坑一アリソヨリ第一坑道乃至第九坑道ヲ開掘セリ第九坑道以下ハ坑內水多キカ爲ニ未タ竪坑ヲ掘下スルニ至ラス坑井ニヨリテ掘下シ第十坑道ヲ少シク開鑿セリト謂フ現ニ主トシテ第八坑道ヨリ出鑛ス

製錬所ニハ搗鑛杵二十本ヲ設置セリ搗鑛ニヨル實收率ハ鑛石含金量ノ百分ノ六十二・七ナリ汰物ハ之ヲ橋洞ニ送致シテ青化收金ニ附セリ青化收金ノ實收率ハ汰物含金ノ百分ノ八十二ニシテ全實收率ハ鑛石含金量ノ百分ノ八十一・四ニ該當ス

(ト)泥踏里廢坑　ハ東面馬場里內洞ニ在リテ鷹峰ノ東方約一里十町ニ位ス嘗テ會社ニヨリテ盛ニ操業セラレタル鑛脈ハ內洞東方ノ山丘上ニ露ハレ明治三十三四年ノ交最盛況ヲ呈セリ其ノ後下底ニ掘下スルニ從ヒ鑛脈ノ幅漸次狹小トナリ含金量亦貧弱トナルニ迨ヒ遂ニ三十九年九月廢坑ノ止ムヘカラサルニ至レリ鑛脈ハ複雲母花崗岩ニ胚胎シ北十七度西ニ走リ西南西ニ傾斜スルコト七十二度ナリ韓國鑛業調査報告ニヨレハ脈幅三尺乃至十五尺アリテ明治三十八年十一月ニ於テハ第一坑道以下第九坑道アリシト謂フ現今附近ニ散在セル鑛石ヲ見ルニ石英鑛石ニ多量ノ毒砂竝方鉛鑛黃鐵鑛閃亞鉛鑛及時ニ雲母ヲ夾雜ス本廢坑ヨリ採鑛セル鑛量ハ會社ノ報告ニヨレハ十五萬二千六百三十二噸ニシテ含金量ハ一噸十弗ニ近カリシト謂フ

雲山郡內ニハ如上記述セル鑛脈ノ外小鑛脈アリテ其ノ數二百

ニ達スヘシ而シテ橋洞ノ東方ナル東谷及北鎮ノ東方ナル三峰里ニ於ケル小鑛脈ハ朝鮮人之ヲ採掘シ會社ハ買鑛セリ又南面富淵里ニ於テハ朝鮮人ノ會社ニ納税シテ小鑛脈ヲ稼行セルモアリ

三、鑛床論　雲山郡ニ於テ鑛床ヲ胚胎スル地質ハ主トシテ剝狀花崗岩巨晶長石ノ斑狀ヲ爲セル花崗岩及複雲母花崗岩ニシテ之等ノ岩類ハ朝鮮ニ於テ獨リ雲山郡ニ特有ナルモノニアラス實ニ平安北道ノ大部ヲ奄有スル地質ニ屬ス鑛床ハ含金石英脈ニシテ幅小ハ月隱乃金坑ニ於ケル平均六寸ノモノヨリ大ハ大岩金坑ニ於ケル平均五六尺ノモノニ迨ヘリ鑛石ハ黃鐵鑛、方鉛鑛、閃亞鉛鑛、磁硫鐵鑛、毒砂等ノ硫化鑛物ヲ伴隨シ金ハ一般ニ之等硫化物中ニ含有セラルルカ如シ是レ朝鮮ニ於ケル一般金鑛ノ性狀タリ、雲山金鑛採掘ノ鑛石ハ硫化鑛物ノ種類卽チ黃鐵鑛或ハ毒砂ヲ多存スルコトニヨリ二樣ニ區別スヘシ大岩、橋洞鎭後月隱乃及極城洞ニ於ケル鑛石ハ黃鐵鑛ヲ鷹峰ニ於ケルモノハ毒砂ヲ多存ス此ノ鑛石ニ二樣ノ別アルハ雲山ノミニアラスシテ昌城及朔州兩郡ニ於テモ是アルヲ認メタリ又雲山各金坑ノ地質ヲ見ルニ鷹峰ノモノノミ地殼ノ比較的深處ヲ形成セリト認メラルヘシ複雲母花崗岩ニ胚胎セリ之ヲ要スルニ雲山金鑛稼行ノ鑛脈ハ朝鮮ニ於ケル普通ノ金鑛鑛床ニ屬シ特ニ著シキ異點ノ認ムヘキモノアルニアラス唯夫大岩ノ露頭ニ比敵スルニ足ル雄大ニシテ良質ナルモノヲ他ニ未タ發見セサルハ偶、以テ雲山金鑛ノ名ヲ獲タル一因タルヘシ」雲山金鑛ニハ大岩、橋洞鎭後ノ大露頭アルト大岩、橋洞及鷹峰ノ三金坑ニ於テハ地表ヨリ千呎以上ニ掘下セルトニ因リ一般金鑛脈ニ關スル性狀ニ就キ闡明セルモノ少カラス大岩、橋洞鎭後ニ亙ル鑛脈ニ於テハ其ノ延長中三箇所ニ千二百呎乃至千六百呎ノ富鑛帶アリテ之等富鑛帶ハ鑛脈ノ二分セル附近ニ存在シ又富鑛帶ハ何レモ直立セサルコトヲ認メタリ朝鮮ニ於ケル他ノ鑛脈ニ就テ亦同樣ナル性狀アルコトヲ豫想スルニ難カラス又鷹峰金坑ニ在リテハ第五坑道附近ニ於テ一度鑛脈ハ緊縮シテ稼行ニ堪エサルニ至リシモ再ヒ下底ヲ開鑿スルニ迨ヒテ鑛脈ハ再ヒ膨大シ曩日ノ景況ヲ挽回スルヲ得タリ是レ鑛脈ハ其ノ走向ニ沿ヒ富鑛帶アルト共ニ傾斜ニ沿ヒ亦扁薄ナル扁桃狀ヲ呈スルニ因ルナリ是ニ於テカ知ル鑛脈ノ傾斜方向ニ一旦緊縮スルアルモ必スシモ深ク其ノ縮迫ヲ持續スルモノニアラサルコトヲ

雲山金鑛會社カ明治二十九年其ノ鑛業權ヲ得シヨリ四十四年六月三十日ニ至ルマテノ採鑛量ハ二百五十九萬八千八百十二噸ニシテ其ノ價額千五百九十五萬四千三百五十七弗五十八「セント」五ニ上リ就中大岩及橋洞ノ兩金坑ハ最多産シ大岩ハ七十六萬二千九百八十噸此價額四百六十三萬六千六百三十三弗三十五「セント」橋洞ハ七十七萬六千百六十六噸此ノ價額四百七十四萬八千六百四十八弗七十六「セント」五ノ鑛石ヲ産セ

リト謂フ卽チ大岩及橋洞ヲ併セ雲山金鑛既出ノ約五分ノ三ヲ產出セルナリ

翻テ之ヲ將來ニ考フルニ大岩金坑ハ現今ヨリ下底ニ掘下スルニ從ヒ稼行スヘキ鑛脈ノ延長縮少スヘキモ尙有望ナリトス橋洞金坑ハ第十坑道ニ於テ鑛脈稼行ニ堪エサルカ如シト稱スレトモ鷹峰ノ實例ヲ見ルモ必スシモ悲観スヘキニ非ス下底ニ掘進セハ恐ク再ヒ富鑛帶ニ逢著スルナルヘシ況ムヤ橋洞附近ノ地盤ハ地質學上大岩ノ地盤ニ比シ地殼ノ上位ニ在ルモノト認メ得ヘク下底ヘノ掘下ハ望ヲ囑スヘカラサルニ非サルニ於テヲヤ他ノ四金坑中月隱乃金坑ハ稼行鑛脈小ナレトモ未タ水準以上ヲ採鑛スルノ餘地充分ナルモノアリ極城洞金坑ハ其ノ北坑ニ連續セル熙川鑛區ヨリ出鑛スルノ望アリ鷹峰金坑亦尙現產額ヲ維持スヘシ是ヲ以テ之ヲ觀レハ雲山金鑛ハ大ナル支障ナキ限リ現況ヲ持續スルコトヲ得ヘシト思惟ス

商工業

○清酒腐敗原因及善後策

本篇ハ忠淸南道太田ナル某釀造家ノ出願ニ依リ釀造酒腐敗ノ原因調査並釀造實地指導ノ爲出張セル釀造試驗所技手草道常春氏ノ復命書中ヨリ抄出シタルモノナリ以テ一般ノ參考ニ資ス

一、釀造場現況　釀造ハ四十三年新規起業ニ係リ同年冬期著手四十四年春期迄ニ百石餘ヲ釀成シタルモ七月ニハ自製淸酒全部ヲ販賣シ盡シタルノ好況ナリシヲ以テ更ニ十月下旬ヨリ釀造ニ著手シタルニ第一號仕込一箇ノミ普通淸酒ノ製成ヲ見第二號仕込醪ヨリ腐釀ニ陷リ續テ第五號仕込迄ノ四仕舞分六十五石ハ全ク腐敗ニ歸シ仕込ヲ中止スルノ外ナキニ至レリ依テ腐敗醪四箇ノ內一箇分ハ過成ノ酸ヲ中和シ濁酒トシテ一升十錢ニ販賣シツツアルモ殘三仕舞分ハ處分ニ窮シ强テ搾取セリ

二、腐敗ノ原因　釀造場ハ河岸ニ在リ倉庫ノ築造敢テ宜シキヲ得サルニ非サルモ仕込場ノ土間砂質ニシテ特ニ酛取場ノ設ナク作業中塵芥飛散シ易ク酛育中有害菌類ノ酛液中ニ落下スルノ媒介ヲ爲スハ腐敗原因ノ一タルヘク又該製造場ノ仕込水ハ極度ノ軟水ナリシニモ拘ラス氣溫ト水質トニ留意スルコトナク單ニ內地ニテ習得セシ器械的操作ニ依リ飽迄モ舊慣ヲ墨守シ何等臨機ノ措置ニ出テサリシハ其ノ原因ノ二ナリ

三、腐敗醪ノ處置　以上ノ腐敗醪ハ强テ搾取シタルモ到底其ノ儘販賣ノ見込ナク酒母ハ燒酎ニ變製ノ外ナカラムモ惡性ノ腐敗酛ト認メ難ク仕込ニ供スルハ冒險タルヲ免レスト雖之カ善後策トシテ先ツ

（イ）二箇ノ酛ヲ醪一仕舞ニ使用シ仕込ヲ爲サシメタルニ稍、

冷込ノ氣味アリシヲ以テ燒石膏ヲ多量ニ投シ尙昇溫ニ勉メ醱酵ヲ促シ辛フシテ普通酒ヲ得ルニ至レリ傍倉庫内ハ勿論容器器具器械類ハ一切消毒殺菌ヲ行ヒ新規酛立ノ準備トシテ製麴ニ著手セリ

（ロ）製麴中火氣ヲ用フルヲ禁シ麴室溫度低キニ過クルトキハ火氣ニ代フルニ熱湯ヲ以テシ各操作ノ適溫ニ注意シ殆ト理想的ノ麴ヲ得タルヲ以テ直ニ酒母ノ仕込ニ供セリ

（ハ）軟水ニ適應セシメムカ爲酒母ノ原料配合率ヲモ變更シ

（ニ）腐敗續發ノ際救濟策トシテ尤モ必要缺クヘカラサル純粹酵母添加酛育テニ著手シ其ノ熟成シタル酒母五個ノ内山卸廢止酛ハ非常ニ優良ノ成績ヲ得外四箇ノ酛モ佳良ノ成績ヲ得タルヲ以テ直ニ仕込ニ供セリ

○晉州國有地小作人組合ニ於ケル副業奬勵

（慶南長官報告）

晉州郡平居驛國有地小作人組合ニ於テハ組合員ノ爲ニ副業トシテ巾著紐及眞田紐ノ製造ヲ奬勵シツツアリシカ何レモ農閑ヲ利用シテ製作シ得ヘキ簡易ナル手業ナルヲ以テ漸次其ノ效果ヲ擧ケ平居驛地方ノ物産トシテ知ラルルニ至レリ一箇年間ノ中著紐製作概況左表ノ如シ

製作時期	製品數量	生産額	原料價額	一個ノ賣價	純益
自一月至三月	個 五、八五〇	圓 二二二・三〇	圓 五七七・五〇	圓 ・三八	圓 二六八・八〇
自七月至十二月	一五、六〇〇	六二四・〇〇		・四〇	
總計	二一、四五〇	八四六・三〇	五七七・五〇	・三九	二六八・八〇

備考　四、五、六ノ三箇月ハ農繁期ナルヲ以テ製造セス

販路ハ一定ノ得意先ト稱スル如キ大ナル取引先ナシト雖從來平居驛産木八絲トシテ知ラレ慶南、全南、慶北、京畿各道ノ商人主トシテ之ヲ購買ス、該組合ニ於テハ奬勵ノ一著手トシテ原料綿絲購買資金ノ融通ヲ行ヒ製産品ヲ多數ナラシメムコトヲ期シ製品ノ發達、製器ノ改良ヲ努メツツアリ

○平北碧潼市場開始狀況

（平北長官報告）

碧潼ハ義州ヲ距ル三十三里鴨綠江ノ上流ニ在ル都邑ニシテ從來對岸ノ盛京省石柱子及大荒溝ノ兩地ヨリ物資ノ供給ヲ受クルカ故ニ自然此ノ地方ノ生産物モ對岸ニ搬出セラレ碧潼ノ商況ハ萎靡振ハサリシカ近時金融組合ノ組織成リ勸業ノ奬勵ニ併セテ市場開設ヲ見ルニ至リ商況頓ニ繁盛ヲ來セリ、市場ハ二月五日第一回ヲ開催シタリシカ時恰モ陰曆正月前ノ事トテ地方農民ノ出市者頗フル多ク出貨モ案外ニ夥多ナリキ、第二回ハ同月八日開催セラレタリシカ前市ニ增シタル販況ヲ呈シ物資ノ賣行甚タ旺ナリ對岸淸國人ノ來市スルモノ多ク生牛ノ

出市亦少カラサリキ物價ハ前市ニ於テ白米ノ一石十六圓六十五錢ナリシモノ第二回市場ニ於テハ一躍十八圓ニ昇騰シタルノ外甚シキ變動ナシ左ニ第一回市場ニ於ケル物價ノ概況ヲ示サム

碧潼市場相場表（二月五日）

賣出品 品名	單位	價格	買入品 品名	單位	價格
化之布	上中 一疋	円 九.〇〇 / 八.五〇	白米	一斗	円 一.八五
玉唐木	同	九.三〇 / 八.五〇	大豆	同	六〇
石油	上中 一箱	四.四〇 / 三.八〇	小豆	一斗	一.〇〇
眞木	上中 一疋	一.八〇 / 一.六〇	粟	同	一.四〇
唐木	同	九.〇〇 / 八.〇〇	玉唐	同	五八
清國簟	同 一房	九〇 / 八〇	唐米	同	六〇
朝鮮簟	上中 一房	一.三〇 / —	木米（舊米）		一.一〇
白鬚紙	同 一疋	八〇 / 六〇	薪	一束	五
黑塗里	同 一疋	九.〇〇	同	同	六
木炭	一俵	四五	雞	一羽	三〇
卵	十箇	一五	雉	大小 一羽	三五 / 三〇

○穀物價格表（二月分）

二月十五日現在

府郡道廳名	玄米 上	玄米 中	玄米 下	玄米 平均	大豆 上	大豆 中	大豆 下	大豆 平均	大麥 上	大麥 中	大麥 下	大麥 平均
	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円
京城（京畿）	一四.二一	一三.四八	一二.七八	一三.四八	七.七五	七.四四	七.一三	七.四四	五.二七	四.八〇	四.四九	四.八五
仁川（同上）	一四.〇〇	一三.五〇	一三.〇〇	一三.五〇	八.二〇	八.〇〇	七.三五	七.八五	四.六五	四.五五	四.四五	四.五五
清州（忠北）	一五.〇〇	一四.四〇	一四.〇〇	一四.四六	八.〇〇	七.四〇	六.五〇	七.三〇	—	—	—	—
公州（忠南）	一四.二〇	一三.七〇	一三.四七	一三.七九	七.〇〇	六.六二	六.四〇	六.六七	七.二五	六.八五	六.四〇	六.八三
恩津（同上）（江景）	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
全州（全北）	—	—	—	—	七.六五	七.五〇	七.二五	七.四六	—	—	—	—
群山（同上）	一三.七〇	一三.五五	一三.四〇	一三.五五	八.〇〇	七.九〇	七.六〇	七.八三	六.五〇	五.九〇	五.〇七	六.〇三
光州（全南）	一五.〇〇	一四.六〇	一四.二〇	一四.六〇	一〇.五〇	一〇.一〇	九.八〇	一〇.一三	八.〇〇	七.七〇	七.四〇	七.七〇
木浦（同上）	一四.七〇	一四.五〇	一五.二〇	一四.四六	九.〇〇	八.七〇	八.五〇	八.七三	—	—	—	—
大邱（慶北）	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
晋州（慶南）	一三.五〇	一三.五〇	一二.〇〇	一三.〇〇	六.一〇	五.九〇	五.七〇	五.九〇	五.六〇	五.三〇	五.〇〇	五.三〇
釜山（同上）	一五.二〇	一四.五〇	一三.九〇	一四.五三	八.二〇	七.九〇	七.七〇	七.九三	六.〇〇	五.九〇	五.八〇	五.九〇

馬山(同上)	一四・八〇	一四・四〇	一四・〇〇	一四・四〇	七・六〇	七・四五	七・三〇	七・四五	六・〇〇	五・八〇	五・六〇	五・八〇
春川(江原)	一七・五〇	一七・一〇	一六・二〇	一六・九三	六・二〇	六・〇〇	五・八〇	六・〇〇	—	—	—	—
江陵(同上)	—	—	—	—	六・八〇	六・五〇	六・二〇	六・五〇	—	—	—	—
海州(黄海)	一三・三〇	一三・〇〇	一二・八〇	一三・〇三	七・〇〇	六・七〇	六・五〇	六・七三	四・八〇	四・五〇	四・二〇	四・五〇
鳳山(同上)(沙里院)	一二・〇〇	一一・五〇	一〇・〇〇	一一・一六	七・〇〇	六・六〇	六・二〇	六・六〇	四・〇〇	三・六〇	三・四〇	三・六六
平壌(平南)	一二・三〇	一二・二〇	一一・七〇	一二・〇〇	七・三〇	六・二〇	六・〇〇	六・五〇	四・四〇	四・二〇	四・一〇	四・〇三
鎮南浦(同上)	一四・五〇	一四・一〇	一三・〇〇	一三・八六	八・二〇	七・八〇	七・二〇	七・七三	五・三〇	四・八〇	四・五〇	四・八六
龍川(平北)	一五・五〇	一四・五〇	一四・〇〇	一四・六六	七・五〇	七・四〇	七・三〇	七・四〇	—	—	—	—
平均	一四・三三	一三・八九	一三・二九	一三・八三	七・六六	七・三三	七・〇二	七・三四	五・六四	五・三二	五・〇八	五・三四
前期對比較高低	・三四	・三六	・一八	・二九	・二一	・一九	・一四	・一八	△・〇三	△・〇四	△・一三	△・〇六

備考

一、本表ハ毎一石ノ(法定量)卸賣價格ヲ掲記シタルモノナリ
二、比較高低欄ノ△印ハ低落ヲ示スモノナリ
三、本表中記入ナキ部分ハ取引ナカリシ爲ナリ但シ恩津大邱ノ分ハ報告書未着ニ付粟價格ノミ記入シ他ハ不明ニ付記入セス
四、大麥ヲ除クノ外各穀物共益〻高騰シツツアルハ現品ノ出廻リ少ク需要ニ對スル供給不足ナルト內地相場ニ促進セラレツツアルニ依ル而シテ前者ノ主因トモ見ルヘキハ農家ノ先行ヲ見越シテ賣惜ツツアルカ爲ナリ
五、大麥ハ各市場共商況不振ニシテ取引皆無ノ市場モ多ク從テ平均額ニ於テ六錢ノ下落ヲ見尙下落ノ傾向ヲ呈セリ

○最近三箇年間穀物價格比較表

時期	粟 上	粟 中	粟 下	粟 平均	玄米 上	玄米 中	玄米 下	玄米 平均	大豆 上	大豆 中	大豆 下	大豆 平均
	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円
四十三年二月二十日	三・七八	三・五〇	三・二七	三・五一	七・五七	七・二八	七・〇四	七・二九	五・九七	五・六七	五・三八	五・六七
四十四年二月十五日	四・七八	四・三六	四・〇二	四・三八	一〇・九九	一〇・四四	九・八六	一〇・四三	六・二四	六・〇〇	五・七一	五・九八
四十五年二月十五日	六・七四	六・二五	五・七八	六・二五	一四・三三	一三・八九	一三・二九	一三・八三	七・六六	七・三三	七・〇二	七・三四
比較高低 對四十三年二月二十日	二・九六	二・七五	二・五一	二・七四	六・七六	六・六一	六・二五	六・五四	一・六九	一・六六	一・六四	一・六六
比較高低 對四十四年二月十五日	一・九六	一・八九	一・七六	一・八七	三・三四	三・四五	三・四三	三・四〇	一・四二	一・三三	一・三一	一・三五

水産業

○京畿道養蟶事業成績

本道沿岸ニハ古來蟶ヲ產シ特ニ永宗島及江華島ハ其ノ主產地トシテ著名ナリ然ルニ近年清國輸出ノ途開クルニ及ムテ忽チ濫採ノ弊ニ陷リ其ノ產額ノ減少甚タ著シク人工ヲ加ヘテ之カ蕃殖ヲ圖ルニアラスムハ遂ニ種族ヲ絶滅スルニ至ラムトスルノ狀況ニ迫レリト雖漁民ハ只採取ニ專ニシテ蕃殖ノ法ヲ知ラス依テ先ツ其ノ方法ヲ周知セシムルノ目的ヲ以テ明治四十四年五月及十月ノ二回ニ亙リ永宗島松山里ニ五千坪及同年十月江華島東幕里ニ二千坪ノ地ヲ劃シテ養蟶場ヲ設置スルコトトセリ

一、養蟶場地勢

永宗島ハ仁川港ヲ距ルコト約三浬ノ西方ニ横ハレル一大島ニシテ周圍約十里人家七百二十餘戸ヲ有ス沿岸屈曲彎入ニ富ムト雖大概皆潟干ニ圍繞セラレテ東岸ニ於ケル舊邑里西北岸ニ於ケル禮潮里ノ外ハ船舶ノ出入ニ便ナラス干潟ハ島ノ南北ニ擴延シ其ノ北方ハ土質概シテ固硬ナレトモ南方ハ軟泥ノ地多ク蟶其ノ他ノ貝類ニ富ム、干潮時ニハ全島ノ女子此處ニ出テテ之ヲ採取ス

江華島ハ永宗島ノ北方ニ位シ殆ト本土ニ於ケル通津郡ノ沿岸ニ接シテ横ハレル周圍約三十里ノ大島ニシテ三面皆深水ヲ以テ繞ラスト雖其ノ南岸ハ長約十浬幅約三浬ニ亙レル干潟擴延ス此ノ干潟ニハ蟶其ノ他ノ貝類ヲ產シ沿岸ノ下道面及吉祥面ハ素ヨリ遙ニ內地ニ介在セル上道面ノ住民ニ至ルマテ盛ニ之ヲ採取ス

二、養蟶場ノ位置

養蟶場ノ位置ヲ選定スルニ當リテハ先ツ養蟶上ノ適否、監督上ノ便否等諸般ノ狀況ヲ較量セサルヘカラス永宗島ニ在リテハ其ノ南岸稍ゝ東端ニ偏セル後所里附近ノ前面ハ現時蟶產地ノ中心ニシテ又蟶ノ成育ニ最適セルカ如シト雖其ノ地沿岸ヲ距ルコト遠ク且採貝業者ノ往來頻繁ニシテ監督上ノ不便尠カラス後所里ノ東一里ナル松山里ノ前面ハ地質大概稍ゝ硬ク養蟶ニ適良ナリト謂フヘカラサルモ監督上ノ便利ヲ有シ且從來蟶ノ棲息ヲ見サル場所ニ蕃殖ヲ計ル亦養蟶事業奬勵上效果尠カラサルヘシトノ見解ニ因リ明治四十四年五月此ノ地ヨリ距岸約一浬ノ處ニ面積二千五百坪ヲ區劃シテ養蟶場ヲ設置シタリ後同年十月更ニ之ヲ擴張スルノ必要ヲ認メ同場ノ北側ニ接シテ二千五百坪ヲ劃シテ場內ニ編入セリ

江華島ニ在リテハ下道面東幕里ノ前面ニ二千坪ノ地ヲ劃シテ養蟶場ヲ設ケタリ現時同島ニ於ケル蟶ノ採取場ハ吉祥面ノ前面東檢島ノ西方ヲ以テ中心トシテ下道面地先ニハ茫漠タル干潟擴延スト雖岸邊ニ近キ部分ヲ除クノ外ハ大概蟶ノ棲息ヲ見ス然レトモ永宗島ニ於ケルト同一ノ理由ニ依リ養蟶場ヲ此處ニ選定セリ

三、苗貝供給地

永宗島ニ在リテハ其ノ沿岸干瀉ノ間ニ存スル澪筋ニ苗貝ヲ產スレトモ豐富ナラス同島ヲ距ルコト西南約十一浬ナル舞衣島ノ東岸一帶ノ干潟ハ常ニ稚貝ニ富ムヲ以テ苗貝ヲ同島ヨリ供給スルコトトセリ蓋潮流及風向等ニヨリテ觀察スルニ同島ノ稚貝ハ大概永宗島ニ棲息セル蟶ノ產出セルモノナルヘク將來永宗島ニ於ケル親貝ノ蕃殖スルニ從ヒ稚貝亦增殖シ永宗島ニ於ケル養蟶場ノ苗貝供給地トシテ屈竟ノ場所タリ

江華島ニ在リテハ東檢島西岸一帶ノ干潟ヲ苗貝供給地トナス養蟶場ヲ距ルコト僅ニ約三浬ニシテ往來稍便ナリ此ノ地亦東幕方面ニ於ケル蟶ノ蕃殖ニ伴ヒ永久苗貝供給地タルノ位置ヲ失ハサルモノト認ム

四、養蟶事業

（甲）永宗島

明治四十四年五月十一日ヨリ永宗島養蟶事業ニ著手ス

養蟶場ノ面積ハ二千五百坪ニシテ場内四方ニ空地ヲ存シ其ノ中央七百二十坪ヲ八十坪宛九列ニ分チ中央ノ三列ニハ一坪ニ二升五合、兩側ノ三列ニハ各二升ノ割合ヲ以テ蒔付ルコトトセリ蓋地質稍硬キニ過ルノ嫌アリシヲ以テ普通ノ割合ヨリ少シク減シタリ

後更ニ必要ニ迫リテ曩ニ設置シタル養蟶場ヲ擴張スルコトト成リ同年九月中ニ著手スルノ豫定ナリシモ江華島ニ於ケル養蟶作業ノ困難ニシテ大ニ時日ヲ要シタルニ歸因シ十月ニ入リテ漸ク著手スルニ至リシカ時已ニ遲ク苗貝ヲ得ルコト甚タ容易ナラス僅ニ二百坪ノ蒔付ヲ爲スヲ得タリ

（乙）江華島

同年十二月十二日ヨリ江華島養蟶事業ニ著手ス當時苗貝ハ非常ノ減少ヲ來シ且天候屢不穩ニシテ苗貝ヲ得ルコト甚タ困難ナリシヲ以テ豫定ノ坪數ニ達スルコト能ハサリキ右六百三十坪ハ之ヲ三十坪宛三列七分シ總テ一坪ニ對シ三升ノ割合ヲ以テ蒔付ケタリ

五、經費

養蟶場設置ノ作業ニ要シタル經費ハ總計二百七十三圓四十四錢ニシテ左表ノ如シ

場別	經費			
	苗貝代	人夫賃	借船賃	計
永宗島	六三・〇〇円	四九・四〇円	一九・五〇円	一三一・九〇円
江華島	五六・七〇	四二・八四	四二・〇〇	一四一・五四
總計	一一九・七〇	九二・二四	六一・五〇	二七三・四五

六、養蟶場ノ管理

永宗島養蟶場ニ在リテハ二名江華島養蟶場ニ在リテハ一名ノ管理人ヲ置キ永宗島ニ於ケル二名ノ内一名ハ特ニ管理以外蟶苗成育狀態ノ檢測ヲ委託シ每月其ノ成績ヲ報告セシム

七、成績

永宗島養蠣場ニ在リテハ當初蒔付ケタル苗貝ハ體長九分七厘體量一匁ナリシモ同十一月迄ニ體長一寸五分三厘體量二匁四分トナリ卽チ六箇月間ニ體量ニ於テ一倍以上ノ成長ヲ遂ケタリ之ヲ表示セハ左ノ如シ而シテ當時一坪ニ對シ二升及二升五合ノ二區ニ分チテ蒔付ケタルモ其ノ成績ニ於テハ兩者共ニ大差ヲ見ス

檢測時	體長	體量	一合ノ數	一合ノ量
五月	寸 .九七	匁 一.〇二	箇 三五	匁 三五
七月	一.三二	一.七二	二一	三八
八月	一.四五	二.一〇	一八	三八
九月	一.五一	二.五〇	一六	四〇
十月	一.五二	二.三三	一五	三五
十一月	一.五三	二.四〇	一五	三六
十二月	一.五三	二.四〇	一五	三六

備考　蠣苗蒔付ハ五月ナリシモ檢測ハ七月ヨリ開始セリ
檢測ハ毎月二十日ヨリ二十五日迄ノ間ニ於テセリ
十一月以後ハ發育休止期ニ入ル

四十四年十月擴張シタル永宗島養蠣場及同月新設シタル江華島養蠣場ニ於ケル成績ハ苗貝蒔付後間モナク結氷期ニ入リタレハ發育甚タ遲鈍ニシテ今日ニ至ル迄體形ニ於テ著シキ差異ヲ認メス然レトモ本道沿岸ニハ未タ害敵ノ來襲ナキヲ以テ各場共ニ苗貝ノ斃死スルモノ稀ニシテ成育順調ニアルモノノ如シ之ヲ要スルニ各養蠣場ハ何レモ設置以來日尙淺シト雖今日迄ノ成績ハ頗ル良好ニシテ特ニ比較的多クノ日子ヲ經過セル永宗島養蠣場ノ成績ハ最顯著ニシテ附近住民ニ尠ナカラサル感動ヲ與ヘ彼等ハ蠣養殖ノ可能ナルコト且其ノ事業ノ有利ナルコトヲ悟リ本場設置ノ方法ニ倣ヒ自ラ養蠣事業ニ從事セムト欲シ續續其ノ準備ニ著手スルモノアリト謂フ本場設置ノ效果空シカラサルナリ

○忠淸南道延繩漁業傳習成績

延繩漁業ノ傳習ヲ開始スルニ當リ特ニ幅七尺五寸全長三十六尺深二尺三寸ノ甲板裝置アル漁船一艘ヲ群山ニ於テ新造シ之ニ延繩漁具其ノ他傳習ニ必要ナル器具ヲ設備シタリ

傳習生ハ管內沿海各郡守ヲシテ當業者中ヨリ選拔セシメタルカ當初其ノ數多カリシモ乘込ノ際ニ至リ異動ヲ生シ定員ヨリ六名ヲ減スルニ至レリ其ノ數左ノ如シ

舒川郡	十名	庇仁郡	三名
鰲川郡	五名	泰安郡	六名
總計		二十四名	

傳習ハ四十四年十月ヨリ十一月ニ至ル間ニシテ之ヲ二回ニ分チ第一回ハ十月十六日ヨリ同二十八日迄第二回ハ十一月十四日ニ開始シ同三十日ヲ以テ終了セリ

傳習ニ際シテハ道廳員一名漁撈敎師二名通譯一名傳習生ト共ニ漁船ニ乘組ミ延繩ノ使用方法、內地式漁船ノ操縦法、漁具製作法其ノ他延繩漁業ニ必要ナル事項ヲ實地ニ就キ懇導切指

導シ而シテ漁具ト潮流トノ關係、魚族ト餌料トノ關係及漁具ノ製作ハ本漁業者ノ緊要トスル處ナルヲ以テ時化若ハ潮待ノ際能ク傳習スル所アラシメ特ニ釣ノ製作縉絲ノ結束法ハ極メテ熟練ヲ要スヘキモノナルニ因リ反覆練習セシムルコトニ努メタリ

漁場ハ本道鷲川郡沿海ニシテ氣温頓ニ降下シタル爲魚族ノ退去ヲ早カラシメタルト時化ノ爲好潮時ヲ逸シ恰モ潮流激甚ナル時期ニノミ操業スルノ止ヲ得サルニ至リ漁獲上ラスト雖漁獲物ノ種類ハ鯛石首魚鮸鰆鱇鰒小鱶等ニシテ水揚高九拾六圓餘ニ達シタリ、而シテ餌料ハ主トシテ本道沿岸ニ產出スル蛸ヲ使用シタルモ尙鰕蝦姑鰡(大ハ三四箇小ハ二箇ニ切斷ス)等ヲ併用シタリ

以上傳習ノ成績ヲ見ルニ延繩ノ使用漁船ノ操縱ニ就テハ素養ノ有無及技能ノ如何ニ因リ一定セスト雖一般ニ會得スルコト速ニシテ普通ノ天候ニ共同作業セハ操業シ得ル迄ニ熟練スルニ至レリ、漁具ノ製作ハ最熟練ヲ要スルモノナルヲ以テ反覆傳習ノ結果其ノ要領ヲ覺知セシムルヲ得タリ

○慶尙北道模範漁業成績

延日灣ニ於ケル鰊擧網ハ同地固有ノ漁具ナルモ施設上多大ノ經費ヲ要スルノミナラス其ノ構造上ノ關係ヨリ布設ノ位置ハ一定水深以內ノ場所ニ限ラレ廣ク使用スルヲ以テ漁獲成績良好ナラス時時收支相償ハサルコトアリ爲ニ該漁業ハ近時甚タ振ハス、又該地ニ於テハ擧網ノ外內地式壺網ヲ布設スル者アリト雖之亦布設ノ箇所ニ局限アリ且一時ニ魚ノ大群ヲ收容シ得ヘキ構造ヲ缺キ鰊漁ニ對シテハ未タ以テ完全ノ漁具ト稱スルヲ得ス殊ニ朝鮮人ノ如キハ其ノ壺網ノ構成ニ於テ徒ニ網地ヲ節約シ十分ノ縮結ヲ行ハス其ノ利害ヲ察知セサルモノアリ因リテ左記二統ノ網ヲ調製シ延日灣鰊漁場ノ最沖合ヲ選ヒ其ノ位置ヲシテ當業者ノ後網タラシメ昨年十二月下旬之ヲ布設セリ

一、甲網

構造ハ普通ノ壺網ナルモ特ニ縮結ヲ多クシ且普通ノモノニ比シ網ノ周圍ヲ十尋內外增大ス

一、乙網

壺網ノ小袋ノ代用トシテ網奧ニ口幅四尋長六尋ノ落袋ヲ設ク

右二統ノ網ハ略同一ノ場所ニ於テ雙方約百五十間ノ間隔ヲ保チ相對立セシメテ布設ス

該漁場ニハ特ニ大ナル標識旗ヲ設ケ當業者ノ注視ニ便ニス

漁獲成績表

月日	漁獲物	賣上金高
明治四十四年十二月三十日 同 三十一日	鱈	円 二・二九八
自同四十五年一月三日 至 一月三十日	鱈、鮃、河豚、鯖、鰊等	五九九・四四三
自 二月五日 至同 七日	鱈、鮃、鰊等	六五九・八〇〇
計		一、二二一・五四一

○二月中漁業免許數

二月中ニ漁業ヲ免許シタル件數ハ三十八件ニシテ皆慶尚南道ニ於ケル朝鮮人團體ノ出願ニ係ルモノニシテ他道ニハ免許シタルモノナシ

貿易及經濟

○鎭南浦港ニ於ケル最近貿易及經濟狀況

甲、貿易狀況

第一、輪移出貿易

四十四年九月黃海道諸郡水害アリ其ノ後引續キ雨天勝ニテ收穫期ノ後レタルノミナラス一般穀物ノ減收ヲ來シ爾來出廻リ甚タ振ハス僅ニ豆類（主トシテ大豆）及白米ノ取引竝鐵鑛、石炭等ノ搬出ニ幾分活氣ヲ呈シタルニ過キサリシカ十二月ニ入リテハ穀類ノ廻著モ漸次增加シ且當港結氷期ニ近ツキタルヨリ相應ノ輸移出アリタレトモ其ノ取引ハ尙豆類白米ニ止マレリ斯クテ十二月末ニハ流氷ノ爲水上ノ交通ハ全ク杜絶シ爾來輸移出ハ汽車便ニ依ルノ外ナク本年一月ノ貿易モ殆ト見ルニ足ルモノナシ而シテ一月中輸出品ノ大部分ハ白米ニシテ大連、安東縣、長春、奉天等滿洲諸地方ニ仕向ケラレタルモノト京城竝北鮮地方ニ送ラレタルモノト相半シ其ノ數量合シテ二千餘石ニ過キス之ヲ昨年十二月中ノ白米仕向高五千三百餘石ニ比スレハ非常ノ減退ト謂フヘキモコレ結氷期中例年見ル所ノ現象ニシテ素ヨリ止ムヲ得サルナリ然レトモ近時鮮滿鐵道連帶輸送開始ノ爲奉天、長春等ニモ盛ニ精米ノ仕向アルハ頗ル注目ニ値スヘク將來此ノ方面ニ於ケル鮮白米ノ優勢ナルニ至ルヘキハ疑ヲ容レサル所ナリ

輸移出ノ狀況斯ノ如クナルヲ以テ當港輸出商ハ專心地方穀物ノ買出ニ努力シ解氷後ノ商戰ニ備ヘツツアリ而シテ其ノ買出シタル穀物モ氷上運搬ノ便アル地方ヨリハ盛ニ當港ニ廻送セラルルヲ以テ（解氷後水運ニ依ルノ極メテ便利ナル地方ニ於テハ其ノ地ニ貯藏ス）當港ノ在品ハ次第ニ增加シ一月末ニ於ケル穀物在高ハ左記ノ如シトス

米	一八、〇〇〇叺	小豆	六、〇〇〇叺
籾	二、〇〇〇俵	小麥	九、〇〇〇叺
大豆	三五、〇〇〇叺	粟	四、〇〇〇叺
雜穀	二、〇〇〇叺		

惟フニ昨秋ノ水害カ一般作物ノ減收ヲ來シタル事ハ否定スル能ハスト雖事實平安南北道ノ被害ハ極メテ少ナク黃海道亦大被害ハ一部ニ止マリ其ノ平年作ニ對スル減收モ甚大ナラサリシ模樣ニテ昨秋以來當地穀物市場ノ不振ハ主トシテ出廻遲延ニ歸因スルモノナルヘシトハ近來一般當業者ノ口ニスル所ナルヲ以テ本春解氷後船舶ノ出入頻繁ナルニ至ラハ當港ノ輸移出貿易ハ相當ニ好況ヲ呈スルニ至ルヘシ、今一月中ニ於ケル

主要穀物ノ市價ヲ擧クレハ左ノ如シ

品名	最高	最低	品名	最高	最低
	円	円		円	円
籾 上	七・〇〇	六・六〇	大豆 大玉	八・四五	八・〇〇
籾 並	六・五〇	六・二〇	大豆 並	八・三〇	七・七〇
白米(石拔) 上	一八・五〇	一七・五〇	綠豆	九・三〇	八・七〇
白米(石拔) 並	一八・〇〇	一七・〇〇	小麥	七・六〇	七・三〇
白米(石拔) 下	一七・五〇	一五・八〇	粟	一三・〇〇	一二・〇〇
玄米 上	一三・五〇	一二・七〇	小豆 上	一〇・〇〇	九・二〇
玄米 並	一二・八〇	一二・〇〇	小豆 並	九・六〇	九・〇〇
玄米 下	一一・五〇	一一・〇〇	大麥	四・六〇	四・二〇
糯玄米	一四・二〇	一三・五〇			
糯白米	二〇・〇〇	一九・五〇			

第二、輸移入貿易

一月中ノ輸移入貿易亦輸移出ト同シク殆ト謂フニ足ルモノナク唯常用品小雜貨類ノ僅ニ汽車便ニ依リテ到著シタルモノアルニ過キス元來當港輸移入品ノ過半ハ對岸黃海道諸地方ニ供給スルモノニシテ又結氷期ニ於ケル奥筋地方ノ需要品ハ大同江及其ノ上流諸川ノ結氷前概ネ仕入ヲ了スルヲ以テ一月中輸移入品ノ取引ハ唯鮮人舊節季ノ近ツキタル爲綿布綿絲其ノ他鮮人向雜貨ノ當港附近ノ部落ニ小口ノ需要アルト京義鐵道沿線地方ニ繩叺、石油及食料品等ノ需要アルニ過キサルナリ

一月中重要輸移入品ノ市價大略左ノ如シ

品名	商標	單位	最高	最低
綿絲	平 十手	二十玉一梱	七四・〇〇	七〇・〇〇
綿絲	十六手	二十玉一梱	七四・五〇	七二・五〇
撚絲	雙鹿 三十二 三子	四十玉	二三〇・〇〇	二二二・〇〇
撚絲	扇子 ク 二子	四十玉	一四一・〇〇	一三六・〇〇
晒金巾	九 桃花	五十疋入	三七五・〇〇	三六五・〇〇
晒金巾	九 牡丹	五十疋入	四〇〇・〇〇	三九〇・〇〇
晒金巾	二 君子	五十疋入	三七五・〇〇	三六二・〇〇
晒金巾	月星	五十疋入	三六五・〇〇	三六〇・〇〇
和金巾	三A	二十疋入	一三九・〇〇	一三六・〇〇
和金巾	三B	二十疋入	一三七・〇〇	一三四・〇〇
和金巾	三	二十疋入	一二九・〇〇	一二六・〇〇
和金巾	騎兵	二十疋入	一三二・〇〇	一三二・〇〇
天竺布		四十疋	一五六・〇〇	一四八・〇〇
白木綿	城	六十疋	一〇九・〇〇	一〇八・〇〇
白木綿	牡丹	六十疋	一〇五・〇〇	一〇五・〇〇
白木綿	旗	六十疋	一〇六・〇〇	一〇六・〇〇
砂糖	E	百斤袋	一一・五〇	一一・五〇
砂糖	X	百斤袋	一一・五〇	一一・五〇
砂糖	N	百斤袋	一一・三〇	一一・二〇
石油	松	一函	三・四〇	三・三三
石油	勝利	一函	三・〇八	三・〇〇
石油	旗	一函	二・九五	二・九〇
麥粉	東鄉	一袋	二・六〇	二・六〇
麥粉	日ノ出	一袋	二・六〇	二・六〇

第三、當港商圏内ニ於ケル貿易品集散ノ狀況

一、輸移出品出廻狀況

當港ノ重要輸移出品ハ穀物ニシテ其ノ生產地ハ黃海道ノ北半部京義沿線地方ヨリ此ハ遠ク宣川車輦館ニ延ヒ南ハ汗浦岑城ニ至リ甚タ廣大ナル區域ナリ而シテ當港出廻穀物ハ平均年額四十萬石ノ巨額ニ達ス是レ當港カ大同江水運ノ便ヲ有シ西海

岸唯一ノ良港タルノ地位ヲ占ムルニ依ル思フニ鮮滿鐵道連帶輸送モ既ニ開始セラレ更ニ築港完成水陸連絡ノ便益加ハルニ至ラハ當港輸移出貿易ハ更ニ一般ノ發達ヲ見ルニ至ルヘキ乎

今試ニ當港回著主要穀物ノ產地ヲ示セハ左ノ如シ

黃海道　黃州、鳳山、載寧、安岳、信川、殷栗、長連、長淵、松禾、豐川、興水、新溪、沙里院、瑞興、汗浦、岑城、南川等

平安道　平壤、龍岡、三和、中和、郭山、博川、安州、鐵山、肅川、宣川、車輦館、嶺美、定州、東林、南市、新安州等

輸移出貿易商ハ穀物出廻時期ニ至レハ是等ノ主要生產地ニ人ヲ派シテ買出ニ從事セシメ殊ニ集散多キ地ニハ間間出張所ヲ設クルモノアリ又有力ナル地方鮮人ニ資金ヲ給シテ買出シニ從事セシメ利潤ヲ分配スルノ方法ヲ採ルモノアリ近來ノ傾向ハ貿易商カ當港ニ穀物ノ回著スルヲ待ツテ買收スルヨリモ地方ニ就テ買出スノ利ナルヲ覺リ地方トノ連絡ニ重キヲ置クニ至リタリ

此ノ如ク穀物ノ出廻リ範圍ハ極メテ廣キニ亙ルト雖一月ハ大同江水運杜絕ノ結果汽車輸送ニ依ルノ外ナキヲ以テ江岸ニ近キ地方ノ產米ニ解氷期迄產地ニ貯藏セラレ平壤以北ノ鐵道沿線地方產米ノミ當港ニ運搬セラル而シテ一月中鐵道ニ依リ回著シタル穀物ノ主ナルモノハ左ノ如シ(鎭南浦驛調査)

米	四七一噸	大豆	一、五五一噸
雜穀	四六七噸	計	二、四八九噸

二、輸移入品ノ分配狀況

鎭南浦商人ノ輸移入品供給範圍ハ主トシテ對岸黃海道ニシテ載寧、安岳、殷栗、長連、長淵、松禾、豐川地方需要最モ多ク其ノ他本道諸地方及京義沿線主要市場ニ對シテ亦取引ヲナセトモ其ノ額頗ル僅少ナリ蓋平南線ノ開通ハ最近ノコトニシテ從來京義沿線各市場ハ平壤輸入商ノ取引區域ニ屬シ當港商人ノ活動舞臺ハ甚タ制限セラレテ勢ヒ主トシテ黃海道方面トノ取引ニ從事シタルナリ而シテ是等ノ地方トノ取引關係ハ

一、內地人輸入商及地方鮮人雜貨商間
二、內地人輸入商及地方內地人雜貨商間
三、當港鮮人雜貨商及地方鮮人雜貨商間

ノ三種ニシテ從來內地人輸入商ト地方鮮人雜貨商トノ取引其ノ大部分ヲ占メタルカ近來各地方ニ於テ雜貨商ヲ營ム內地人增加シタルタメ前記第二ノ取引ヲ見ルニ至リシナリ

是等地方トノ取引ハ殆ト全部掛賣ナルカ其ノ期間ハ普通荷物到著後一箇月位ノ約定ナレトモ此ノ期限ヲ嚴守スルモノ少ナク二箇月若ハ三箇月ニモ及フモノアリ近來代金決濟ノ爲郵便振替貯金ヲ利用スルモノ多ク鮮商中ニモ此ノ方法ニ依ルモノ往往コレアルカ如シ其ノ他ハ地方ヨリ新ニ商品仕入ニ來ル時前回ノ代金ヲ支拂ヒ歸ルモノト當地輸入商カ店員ヲ派出シテ

集金ヲナスモノトアリ

因ニ當地輸入商ト當地鮮人雜貨商間ノ取引ハ多クハ約束手形ニ依リ期間ハ一箇月乃至二箇月ヲ普通トス

乙、貿易ニ關スル經濟狀況

第一、貿易金融事情

一、輸移出品ニ對スル爲替割引ノ狀況

四十四年十二月中ノ輸移出貿易ハ秋季以來不振ノ市場ニ少シク活氣ヲ呈セシメ從テ此等輸移出ニ對スル爲替割引ノ方面ニ資金ノ需要ヲ惹起シ多少繁忙ノ姿ニテ越年シタルカ一月ニ入ルヤ船舶ノ出入杜絶シタル爲輸移出ニ對スル爲替割引モ極メテ少ナク當地三銀行（朝鮮、百三十、農工）ニ於テ取組ミタルモノ合セテ五十九口五萬九千餘圓ニ過キス（他所代金取立手形ヲ含ム）而シテ其ノ大部分ハ京城、安東縣及大連仕向ノ精米代金ニ對スルモノトス

二、輸移入品ニ對スル貸出

輸入商カ嚮ニ仕入タル商品ニ對スル代金決濟期日ハ漸次切迫シタルモ一方地方商人ニ對スル賣掛代金ハ多クハ解氷後回收セラルル模樣ニテ其ノ間大口ノ取引ナク資金ノ移動鈍キカ故ニ輸入商ノ金繰思ハシカラス從テ一部輸入商品ノ賣買ニ依リテ成立シタル約束手形ノ割引及輸入商品擔保ノ貸付ハ相當ノ額ニ達シタリ、元來輸入商ハ倉敷料及保險料等ノ負擔ノ關係上輸入品擔保ヲ喜ハス商業手形ノ割引ニ依ッテ融通ヲ得ムトスレトモ事情上述ノ如キヲ以テ止ムヲ得ス結氷中移動ナキ手持商品ヲ擔保トシタルナリ、而シテ綿絲、綿布、砂糖、麥粉、煙草及繩叺ノ如キハ其ノ主ナル擔保品ナリトス然レトモ其ノ貸出額ハ斯カル時期ニ於テモ尚比較的少ナク三銀行ヲ合セテ繩叺約九千圓其ノ他約八千圓ニ過キス

三、穀物買出資金並在庫穀類ニ對スル貸出

一月中最モ需要多カリシハ地方穀物買出ノ資金及在庫穀物ニ對スル貸出ナリトス船舶ノ出入自在ニシテ輸移出ノ盛ナル時ニ於テハ穀物回著後直チニ輸出セラルルヲ以テ資金ハ轉輾移動スレトモ結氷期ニ於テ地方ニ放資セラルルモノ及在庫品ニ對スル貸出カ解氷迄ハ兎ニ角居据ノ姿ナルハ亦止ムヲ得サルナリ一月初旬以來地方ニ於ケル穀物ノ買出ハ漸次盛ニシテ一月中朝鮮銀行出張所ノ銀行券發行高ハ十三萬圓ニ達シ其ノ還收セラレタルモノ皆無ナリシハ主トシテ地方ニ散布セラレタルニ依ル於是乎商品擔保ノ貸出及當座貸越ハ常ニ增加ノ傾向ヲ有シコレヲ三銀行貸出ノ統計ニ徵スルニ左ノ如シ

	前月末殘高	一月中貸出高	一月中回收高	一月末殘高
	円	円	円	円
定期貸付	三二四、〇九六	二一二、三八三	一〇、四四三	五二五、九九六
當座貸越	一六二、五七六	五三四、二六二	四七五、六八一	二二一、一五七
割引手形	七四八、六三四	四二三、三三八	五六一、二一八	六一〇、七五二
合計	一、二三五、二六六	一、一六九、九八三	一、〇四七、三四二	一、三五七、九〇五

備考　割引手形ニハ當所割引手形、他所割引手形及荷爲替手形等ヲ含ム

割引手形十三萬圓ノ減少ヲ見タルハ主トシテ嚮ニ取組ミタル輸出爲替割引カ漸次決濟セラレ而シテ新ニ取組マルルモノナキニ依ル又定期貸付カ二十萬圓ヲ增加シタルハ穀物及輸入品ノ在庫貨物ニ對スル貸付ニシテ當座貸越六萬圓ノ增加ハ大體ニ於テ地方買付資金ト見ルヲ得ヘシ斯クテ一月末各銀行ノ貸出總額百三十五萬圓ニ達シ昨年十二月ニ比シ十二萬圓ヲ增加シ恰モ昨年結氷期ニ於ケルト同樣ナル結果ヲ見ルニ至リタリ

第二、市中金融狀況一班

頼母子講

小資本ノ商人ニシテ未タ銀行ヨリ借入ヲナス能ハサルモノカ頼母子講ニ依ッテ資金繰合ヲナスハ何レノ地ニ於テモ見ル所ナリ殊ニ當地ノ如ク結氷期中市場閑散商品ノ賣行キ鈍ク資金ノ移動少ナキ時ニハ其ノ簇出ヲ見ルヲ常トス

目下當地ニ於ケル頼母子講ハ甚タ多ク其ノ一講ノ金額多キハ千圓以上ノモノアレトモ普通二三百圓ナリトス今當地ニ於ケル頼母子講ノ數ヲ見ルニ

千圓以上	四	五百圓以上	十四
三百圓以上	三十三	二百圓以上	十四
二百圓以下	二十四		

ニシテ其ノ他一講四五十圓ノモノ少カラス一講ノ加入人員ハ平均十五人乃至二十人ニシテ總人數二千餘人ニ達ス而シテ多キハ一人ニテ二十口以上ノ講ニ加入シ普通ノ者ト雖五口乃至十口ニ加入スルカ故ニ其ノ加入人名ハ大概一定セリ現在講金總額ハ三萬圓ニシテ其ノ平均落札割合ハ七割五分卽チ二萬二三千圓ハ市中ニ轉輾シツツアリ

此等講金ハ主トシテ小商人ノ資金トナリ又一部ハ寺院、團體ノ基本金、財産整理資金等トナリ或ハ臨時費用ノ支出ニ充ツル爲加入スルモノアリ

質屋

當地ニ於テハ質屋營業ヲナスモノ目下十二軒其ノ貸金一萬五六千圓ナリトス此ノ種ノ貸出ハ極メテ祕密ニ附セラルルヲ以テ正確ナル數ヲ得ル能ハス

貸金組合

質屋業ノ外數人合同シテ出資ヲナシ擔保若ハ對人信用ニ依リ貸金ヲナスヲ目的トスル組合ニシテ其ノ數五アリ其ノ貸金二萬圓ニ近カルヘク金利概ネ五錢內外ナリト聞ク

個人金貸

組合ニアラスシテ金貸ヲ以テ殆ト本業トナスモノアレトモ其ノ貸出額ハ知ルニ由ナシ

右ノ外當地貿易商カ其ノ輸移出貨物集散ニ便セムカ爲廣ク信用アル鮮商人ニ對シ買入資金トシテ前貸ヲナス方法アリ今其ノ額判明セサルモ總計七八萬圓ヲ下ラサルヘク要スルニ結氷中ノ當港金融ハ一般ニ緩漫ナルヲ免カレス

○朝鮮貿易概況（二月分）

本年二月中ノ朝鮮貿易ハ輸移出百十一萬四千八百圓、輸移入四百二十五萬八千八百圓合計五百三十七萬三千七百圓ニシテ差引三百十四萬四千圓ノ入超ヲ呈シ一月以降累計輸移出二百六十三萬四千九百圓、輸移入八百四十九萬四千四百圓合計一千百十二萬九千四百圓ニシテ差引五百八十五萬九千五百圓ノ入超ヲ示セリ累計額ヲ前年同期ニ比較スレハ輸移出ニ於テ百六十九萬千二百圓ヲ減少シ輸移入ニ於テ百九十四萬八千七百圓ヲ増加セリ

次ニ貿易品ノ趨勢ヲ見ルニ輸移出ニ於テ増加セルハ穀類、人蔘、魚類、牛皮、黒鉛、肥料等ニシテ減退セルハ米ノ六十二萬圓ヲ主トシ麥類、豆類、生牛、金鑛、石炭、棉花等ニシテ輸移入ニ於テハ罐詰類、蠟燭、金巾、シーティング、麻布、石炭、陶磁器ノ各品ニ減少ヲ示セル外總テ増加ヲ呈シ其ノ主ナルモノハ石油ノ二十九萬六千圓、軌條及附屬品ノ二十六萬一千圓、諸機械類ノ二十七萬圓等ナリ其ノ他貿易ノ概要ハ左表ニ示スカ如シ

（一）貿易額港別表（圓）

（△印ハ減）

	輸出及移出	輸入及移入	總計	輸移入超過	一月以降累計 輸出及移出	一月以降累計 輸入及移入	一月以降累計 總計	通過及同漕貨物
仁川	一六二、二一三	一、二四六、六〇八	一、四〇八、八二一	—	四四五、五〇〇	二、二三六、八九一	二、六八二、三九一	一九〇、三四八
釜山	三九五、九九四	一、〇九三、五八四	一、四八九、五七八	—	一、一一五、八〇二	二、二九〇、八九三	三、四〇六、六九五	二八、〇六三
元山	七二、四七六	三〇二、七六四	三七五、二四〇	—	一七九、三六三	五四六、五〇五	七二五、八六八	—
鎭南浦	五六、五五三	一二七、八八七	一八四、四四〇	—	一二二、八二〇	二九一、一三六	四一三、九五六	四五
京城	一四、八九四	七九〇、八八一	八〇五、七七五	—	二九、六五〇	一、五九〇、〇九一	一、六一九、七四一	—
群山	一四六、一三八	一四五、〇一六	二九一、一五四	—	二六五、〇九一	三七一、〇四三	六三六、一三四	—
木浦	八一、七八四	一三九、〇四四	二二〇、八二八	—	一八五、九六二	二八七、八六五	四七三、八二七	—
大邱	六、二三一	八九、一一二	九五、三四三	—	八、三三二	二〇二、〇一七	二一〇、三四九	—
馬山浦及行巖灣	一三、〇四九	一〇一、二二〇	一一四、二六九	—	二七、六〇六	二〇二、五四九	二三〇、一五五	—
清津	五、六四八	八一、六一三	八七、二六一	—	一〇、七一四	一六七、一九九	一七七、九一三	四五、三九一
城津	一五〇、二一九	四〇、五八八	一九〇、八〇七	—	二〇七、九七〇	一〇六、二六二	三一四、二三二	—
新義州及龍岩浦	五八、七四三	四八、〇八二	一〇六、八二五	—	一三六、一三九	二二〇、八四三	三五六、九八二	九一、九〇二
平壤	二、〇一二	一七一、五七〇	一七三、五八二	—	九、九九七	三四三、一八五	三五三、一八二	—
合計	一、一一四、八四四	四、二五八、八七九	五、三七三、七二三	三、一四四、〇三五	—	—	—	三五五、七四九
一月以降累計 四十五年	二、六三四、九五六	八、四九四、四九九	一一、一二九、四五五	五、八五九、五四三	—	—	—	—
一月以降累計 四十四年	四、三二六、二二七	六、五四五、七四四	一〇、八七一、九七一	二、二一九、五一七	—	—	—	—
一月以降累計 增減	△一、六九一、二七一	一、九四八、七五五	二五七、四八四	—	—	—	—	—

（二）貿易額國別表（圓）

國別	二月 輸出	二月 輸入	二月 合計	一月以降累計 輸出	一月以降累計 輸入	一月以降累計 合計
亞細亞洲						
清國	一七一、〇二三	三五七、四一九	五二八、四四二	三四〇、五六一	五九四、四六五	九三五、〇二六
香港	二九	一一、六三六	一一、六六五	二四〇	一七、九八〇	一八、二二〇
英領印度	—	四、〇一三	四、〇一三	—	四、三八二	四、三八二
蘭領印度	—	二四、四九六	二四、四九六	—	四一、二一七	四一、二一七
露領亞細亞	八二、九四三	二、二七六	八五、二一九	二〇四、七七六	六、五〇二	二一一、二七八
暹羅	—	一、二三五	一、二三五	—	一、二五五	一、二五五
其ノ他	一	七九二	七九三	九、〇二二	一、〇四三	一〇、〇六五

計	二五三,九九六	四〇一,八八七	六五五,八八三	五四四,五八八	六六六,七五三	一,二一一,三四一
歐羅巴洲						
英吉利	一六三	五八九,七七五	五八九,九三八	五三四	一,〇七〇,二四〇	一,〇七〇,七七四
佛蘭西	—	四,七六〇	四,七六〇	八八	七,五〇三	七,五九一
獨逸	一,一二六	五三一,三七七	五三二,五〇三	二,五〇三	一四〇,〇五〇	一四二,五五三
白耳義	—	四,九九三	四,九九三	—	一四,〇七三	一四,〇七三
伊太利	—	六六三	六六三	八	六,九七七	六,九八五
瑞西	—	三九一	三九一	六	一,三六三	一,三六九
墺太利匈牙利	—	一,三六三	一,三六三	—	一,七〇四	一,七〇四
露西亞	—	三二八	三二八	一四	七二九	七四三
土耳其	—	四,五五六	四,五五六	—	六,七〇七	六,七〇七
其ノ他	—	二六	二六	一三	一二九	一四二
計	一,二九一	六五九,三一〇	六六〇,六〇一	二一,一六七	一,二五〇,四六四	一,二七一,六三一
亞米利加洲						
北米合衆國	六五四	六七六,三二四	六七六,九七八	一六,三一六	一,一六六,二八七	一,一八二,六〇三
英領亞米利加	一五	二一六	二三一	六八	九〇八	九七六
計	六六九	六七六,五四〇	六七七,二〇九	一六,三八四	一,一六七,一九五	一,一八三,五七九
其ノ他諸國	八一	八,八六一	八,九四二	八八	一,八一三	一,九〇一
通計	二五六,〇一八	一,七四六,七三八	二,〇〇二,七五六	五五,二八九	三,〇四〇,二二六	三,〇九五,五一五

(三) 輸出及移出重要品價額港別（圓）（△ハ印減）

品名	仁川	釜山	元山	鎭南浦	京城	群山	木浦	大邱	馬山浦及行巖灣	淸津	城津	新義州及龍巖浦	平壤	合計	一月以降累計 四十五年	四十四年	增減
米	四六三,八二一	八七,三三三	—	五六,三一	—	一二四,六三三	一三四,五八二	—	一四〇	—	—	一九二,二六	—	二九七,七七七	五六九,四三一	一,一九〇,〇四五	△六二〇,六〇四
大麥及小麥	八七	五九二	—	—	—	—	—	—	—	—	—	二二九	—	六八八	七二七	六,一六〇	△五,四三三
豆類	八〇,九七四	一〇九,七七七	四八,五六四	—	—	一〇,八八六	—	二,七五六	四一四	四,〇一八	一四七,八六四	七	—	四〇四,〇四〇	一,〇〇四,三四一	一,〇一八,八九九	△一四,五五八
雜穀	一八	一二六	—	—	—	—	—	—	—	—	—	六,五三七	—	六,六七一	一九,九七九	六,六四一	一三,三三八
鮮魚	—	一七,一二三	—	—	—	—	—	—	—	—	—	三,六五三	—	二〇,六七五	三五,九四二	三九,一五五	△三,二一三
乾魚及鹹魚	—	五五六	六	—	二九	—	一八	—	—	—	—	四〇	—	六七一	一〇,六一六	三,三一六	七,三〇〇
人蔘	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一四五	—	一四五
棉花	—	—	—	—	—	—	三八,四三六	—	一,三三八	—	—	四	—	三九,七七八	八八,九九〇	一二二,六六九	△三三,六七九
金	—	四〇〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	四〇〇	一五,〇一八	一六,五〇四	△一,四八六
鐵	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
黑鉛	—	三,六九五	—	—	—	—	—	—	—	—	七三	—	—	四,〇二七	五,五三〇	三,〇七〇	二,四六〇
石炭	三六五	—	—	—	—	—	—	—	—	六	—	一八三	—	五五四	八三四	三七,八三〇	△三六,九九六
牛皮	八,八一七	一九,三三八	一九	—	六,〇五九	四,九〇一	四,四八五	一,五〇一	—	—	五三五	一七,五五六	八六	六四,〇三〇	一六五,三三一	一三九,六九六	二五,六三五

品名	仁川	釜山	元山	鎮南浦	京城	群山	木浦	大邱	馬山浦及行巖灣	清津	城津	新義州及龍岩浦	平壤	合計	一月以降累計 四十五年	一月以降累計 四十四年	一月以降累計 增減
生牛	四五	九,二一一	—	—	—	—	—	—	—	—	—	四八八	—	九,六四四	二一,〇四六	一〇四,四七四	△八三,四二八
木材及板	—	四〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	六一八	—	六五六	一,七九一	三,四四一	△一,六五〇
肥料	三,二九五	七,六九三	四,八六四	—	—	一,一〇四	七〇七	—	一四〇	—	—	二三四	—	一八,〇三六	三六,八一七	二六,〇〇一	一〇,八一六
其ノ他諸品	三三,四一〇	一四〇,〇一二	一八,八六三	三三	八,八三六	一四,五四三	一三,五五五	一,八六四	二,〇〇七	一,六三四	二,三三八	一〇,〇六七	一,二三四	二四六,一六四	六五〇,八四七	一,五八七,二八三	△九三六,四三六
總計	一六二,一一三	五九五,六九四	七三,四七六	五,六五三	一四八,九四四	一四六,一三八	八一,七八四	六,二三三	一三,〇四八	五,六四八	一四〇,二一九	五八,七四三	二二,〇一三	一,二一四,八四四	二,六五四,九五六	四,三三六,二三七	△一,六八一,二八一

（四） 輸入及移入重要品價額港別表 （圓） （△印ハ減）

品名	仁川	釜山	元山	鎮南浦	京城	群山	木浦	大邱	馬山浦及行巖灣	清津	城津	新義州及龍岩浦	平壤	合計	一月以降累計 四十五年	一月以降累計 四十四年	一月以降累計 增減
小麥粉	九,二一八	一四,六〇六	二,八〇〇	—	一一,二八四	四,三三七	二,七〇〇	三,三三〇	五八二	一,六〇一	—	三六	二,一九〇	五二,六七四	一一二,四〇四	六三,四三一	四八,九七三
食鹽	二七,五五〇	—	五,〇九二	—	—	五七八	—	—	—	一九六	四八〇	—	—	三三,八九六	五〇,七八二	六,四七〇	四四,三一二
果實及核子	二,二五〇	九一二	八六八	二	八,二三六	一,二四二	一,六七六	三三三	七九七	九四八	二八	四一八	一,九三九	二三,九四五	六三,六四九	五三,九九六	九,六五三
鹹魚	四,三八六	四〇,八一六	五一三	五	三,八八五	六,一六〇	六,八七四	七七	一〇九	—	二九	一,四一七	五,〇一六	一〇六,二八七	一三九,二四二	四七,七八九	九一,四五三
罐詰及壜詰食物	一,九三三	二,七一四	二五六	一五	二,五七八	九八一	六五〇	二四	一五三	一六一	七一	一一〇	二八四	九,八九七	一九,二四五	二〇,一七九	△九三四
砂糖及精糖	二,六六三	二八,二五〇	三,一五四	—	一四,一三三	九,六八三	六,二五〇	五,五四四	二,〇七一	一,八二七	二四一	三四四	一,七七一	八二,九二二	一五二,四三〇	二八,八五四	一二三,五七六
清酒	八,二三〇	九,五八五	三,六三三	三四七	一〇,〇六一	二,〇三四	一,七三三	八一四	六〇〇	五,九七一	五一〇	二,四七六	一,二〇四	四七,〇八七	九九,七七九	七一,八七〇	二七,九〇九
參酒及黑參酒	五八八	三一〇	三五〇	—	二,三五三	五六〇	三三六	三五〇	—	—	—	—	—	四,七三六	六,七八七	三,七七一	三,〇一六
其ノ他ノ酒類	二,一九五	一,三六六	二六三	二〇	二,三二八	八五	—	二六	一七	一八	—	三,四四二	一六	九,八七八	二〇,六八〇	一一,八九二	八,七八八
石油	一三五,六五六	一五七,五三二	三,六〇〇	—	—	—	一,八〇〇	—	—	二,三一一	—	四八九	一一二	三〇一,五三〇	三四九,一六七	五二,八一五	二九六,三五二
蠟燭	二,九三三	一三三	一四三	—	四五〇	七六	四〇	—	三	八四	八四七	三八七	五五	五,一四八	七,八三七	一八,〇六六	△一〇,二二九
綿及打綿	一,〇八一	六,八二八	一〇,五五七	九〇	一,二七〇	九六三	五六七	六六四	五七六	一,一四四	六五八	九九七	四,九三二	三六,四六六	八二,三六一	五六,七四〇	二五,六二一
綿絲	二五,六五九	九〇,七六五	六,四八八	二,三七五	一八,二三二	八,七六八	五五,三五五	一一,〇九八	三,二三四	四〇一	九一三	八八	一五,七四三	一八九,四一二	四〇九,五四四	三一六,一四三	九三,四〇一
生金巾及生シーチング	七八,四二三	二四,八五二	一五,八二二	九四〇	一六六,二七七	三二,三五六	九,〇五〇	九,二五八	—	四,三八二	六,六〇〇	一,六〇四	二七,六二七	四七七,三八二	一,一五六,七九六	一,〇二〇,七〇三	一三六,〇九三
晒金巾及晒シーチング	七三,八一八	九,八二二	一三,二一七	—	七,九〇二	五	三〇六	三〇五	一五	二六〇	五一〇	五八	二,三五七	一二七,四一四	二六一,九〇六	三四九,七八七	△八七,八八一
天竺布	三七	二,六二五	一三,六五六	一三	四三五	一五四	五二四	二二八	一一六	—	五,七六四	二六	三,五八八	二六,〇九八	一〇三,八六〇	六七,一三七	三六,七二三
綿繻子及綿イタリアンス	三二,一〇二	二,七一八	二,四二六	—	—	—	—	—	八三	—	一,二四八	三三	—	三六,八八八	七三,四八八	一一〇,〇〇〇	△三六,五一二
日本木綿	二,三一二	三八,五〇五	三八,八八七	二,六六五	三,四〇八	一,八二七	二,〇八七	五,三六九	一,七〇四	二,〇〇〇	二,一七四	二二九	二三,六三一	一二四,七一〇	三〇六,三四一	二九三,七一六	一二,六二五
麻布	二八,三三九	一,〇三二	三七二	—	一七六	三	—	一五	一六	—	—	—	三〇	二九,八八二	三一,八六六	七七,四三三	△四五,五六七
毛織物	三,三五〇	五,三二六	一,〇四一	一七	三二,一八七	三四二	三六〇	八三九	一,六三二	一一四	八二	四四	六,八三六	四二,三三六	七二,四四四	三九,一〇七	三三,三三七
絹布	八九,四四一	七,八六四	二,六〇六	—	二三,〇〇二	三三	四〇	二七七	四八八	一三四	三三二	一八	—	一三三,三四六	一七七,五九六	一一二,九七七	六四,六一九

交織布	三、四八四	七六八	二二五	—	二六、一四五	四七	三	三三	一四二	一一九	七	六八	—	四〇、〇四〇	六七、三八五	二五五、五七八	四一、八〇五
靴及履物	三、〇四九	四、五九七	一、四〇四	一四四	二、五五〇	九八〇	九六三	六五九	八二七	八二三	二一九	三六四	五九三	一七、一九二	三〇、一三七	一四三、二七一	四、八六五
紙	二〇、二四八	一七、二九九	二五、三二六	一三	三〇、七九二	三、八一五	三、四六八	一、八四五	一、〇〇五	一、五〇〇	九二九	一、〇七一	二、〇七六	八六、六五六	一五〇、三三三	三三一、三三二	四八、〇一一
諸文具	三、〇三〇	三、三五三	一、一六三	一三八	六、六二五	一、三〇二	一、三七九	八〇八	五七二	四三一	一一四	二六九	九九六	一九、九六九	三二、一三八	三一、〇六一	一、〇七〇
書籍及雜誌	六一七	二、三四九	二九八	四九	六、二一五	三〇	三三	四九九	一三	—	—	九九	二四〇	一〇、五四九	二〇、八八七	一九、二四一	一、六四六
熟鐵	二四、三五一	二三、五二八	七九九	—	一五四	四、二四八	四、八八八	一、九二五	四六五	一、五七五	四六二	一三四	—	六一、五二九	九六、六二一	五八、〇六〇	三八、五三一
軌條及同附屬品	一九、七〇五	一九	二五、一九五	—	二、〇九〇	—	一、一六〇	—	四〇	—	—	—	一三六	四八、三四五	二六四、六八九	三〇、〇三四	二六一、六三五
鐵（筒及管）	一、四四九	一、四二九	—	五	二、八三一	—	—	—	三一、〇八三	—	—	—	—	三六、八〇七	七〇、六九六	二八、九八四	四一、七二三
鐵釘	二、五八五	六、三四四	四〇五	—	二六	五三八	三九七	—	九	八六八	—	四九	—	一一、三三一	一七、九八六	一一、三五一	六、六五五
鐵鍋及釜	六、六三二	七、六五〇	一、〇四九	—	五九七	一、八一三	四、九三四	二、六八四	一一五	一五〇	四五	一、二〇七	二一	二六、八四三	五七、三四四	二五、八八三	三一、四八一
鐵道機關車及同部分品	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
諸機械類	五三、六二九	三四、七一三	五三七	四〇	三二、八〇四	一、五八六	一、八九七	五、四一一	二六一	一三六	五二六	三三三	三六一	一三〇、三三四	四三五、〇九五	一五四、二〇八	二〇、八八七
煙草	七、〇四九	二〇、二二七	六、三二三	—	四四、九八二	三、三一八	九三六	—	—	一、四九二	—	一三八	一、〇三六	八五、五〇五	一四七、三八四	一四五、三四一	一、九四二
石炭	二七、九九三	一四、四六四	三、五〇二	—	四五	二、一九四	一、八二四	八	二九〇	七三	—	二、八八一	—	五三、一七四	一〇四、四八七	△二一九、六三〇	一二、一四五
陶器及磁器	三六、九一六	一七、三八七	一、九六五	四	一、七五三	六一五	二、九七四	八六九	七五八	一、一一七	二三九	三八一	六五七	三八、一四五	五九、三五四	三一、九七四	二七、五九九
木材及板	四六、八七三	三八、一三八	八四七	—	一、〇六四	四、七七三	一、七三四	二八二	一一、八一三	九四	一五四	八、一〇八	九六	一〇三、九七四	一五八、三九一	△一六五、四三一	七〇、四五二
叺縄及莚	一四、一五四	八、八九六	七、七〇八	—	一九〇	三、二八三	七三	九	三四	三、三〇四	七、〇六三	五六三	一、六八四	四六、五三九	一〇九、〇一八	一〇〇、五九七	八、四二二
セメント及石灰	四三、四六八	三、三八五	—	—	—	—	五九一	四七	三三〇	—	—	二三	—	四六、八〇五	八四、三八一	六〇、一七一	二四、二一〇
家具	九九二	二、六九八	五八八	二	一、〇五八	五二四	八八六	四四〇	六〇二	一五一	八四	一四四	三三七	八、四〇五	一九、五五三	一三、九四八	五、六〇五
マッチ	九、七七七	七、三三四	一、二九五	—	五七四	一、四九五	三、三〇〇	—	三五三	四六三	八〇五	三一七	—	二五、六一三	五一、六五三	五一、四七七	一五五
木製品	一、九四八	四、二三四	五四九	四九	一、八九〇	九六七	五五〇	二四六	三〇八	四八〇	一四	一六一	二七四	一一、五五六	一九、四四五	一四、九五三	五、五三三
爆發物	五、八八一	五、四〇三	五、二九〇	—	—	—	二二〇	—	—	—	—	—	—	一六、六九四	三三、五三三	二一、四六四	三三、〇五八
洋傘	二五、三〇八	六、二一七	二	—	二二八	一、八〇三	一、四七〇	四、四九九	一〇七	—	—	—	—	三九、六〇三	四〇、七六八	三七、八〇七	三、六六一
小包郵便物	三三、七一五	八四、八八〇	四一、二〇〇	二、三一四	一七八、六〇七	—	一八、九二九	一三、九〇八	八、六八七	一九、六六九	四、九一八	六、八〇四	三二、八九七	四三五、二二八	八四七、四二九	八〇七、二一五	四一、五三六
其ノ他諸品	三二一、九五五	二三九、八七八	四三、九九八	三、三六一	一六四、六〇〇	三七、一二八	四一、六五〇	一八、八五一	三一、〇八一	二八、五八五	四、三三〇	一三、三三五	二四、三七一	九七二、五〇五	一、八四六、四三九	一、三五八、九八七	四八七、四五一
總計	一、三二四、六〇八	一、〇九三、五八四	二〇二、七六四	二二、七八七	七九〇、八八一	一四五、〇一六	一三五、〇四四	八九、一三三	一〇一、三三〇	八一、六一三	四〇、五八八	四八、〇六二	一七一、五七〇	四、三五八、八七九	八、四九四、四九九	六、五四四、七四四	一、九四八、八五八

(五) 正貨及地金（圓）（△印ハ減）

		四十五年二月	一月以降累計 四十五年	四十四年	增減
輸出及移出	金貨及金地金	六四四、九〇〇	一、三四三、六九六	一、二二一、一八四	一二二、五一二
	銀貨及銀地金	一四三、二〇〇	二二九、三四四	一七三、九七三	五五、三七一
	合計	七八八、一〇〇	一、五七三、〇四〇	一、四〇五、一五七	一六七、八八三
輸入及移入	金貨及金地金	—	—	—	—
	銀貨及銀地金	三、九六四	一一、一六三	一〇、八七六	二八七
	合計	三、九六四	一一、一六三	一〇、八七六	二八七
總計		七九二、〇六四	一、五八四、二〇三	一、四一六、〇三三	一六八、一七五

(六) 船舶（噸）（△印ハ減）

		四十五年二月	一月以降累計 四十五年	四十四年	增減
入港	汽船	二八七、四八六	六一七、五八九	四七九、一一三	一三八、四七五
	帆船	三、九〇二	七、〇七四	六、九八八	八六
	ジャンク	一、七七七	三、二七四	二、九四四	三三〇
	合計	二九三、一六五	六二七、九三七	四八九、〇四五	一三八、八九二
出港	汽船	一九三、二四九	六二〇、六四〇	四七三、九二七	一四六、七一三
	帆船	三、七六五	六、一〇一	六、〇五五	四六
	ジャンク	一、七六二	三、二七三	二、五九七	六七六
	合計	二九八、七七六	六三〇、〇一四	四八二、五七九	一四七、四三五

(七) 收稅表

税別	二月 四十五年	二月 四十四年	一月以降累計 四十五年	一月以降累計 四十四年
輸出税	一一、九九四	一〇三、三七七	二五、六八一	一九〇、八〇〇
移出税	三四、八四四		八〇、六二四	
輸入税	一二一、五八四	二〇三、八六六	二二一、一九八	三九四、三九四
移入税	一六三、〇三四		三五一、二四五	
噸税	五、四一二	五、六一三	一五、〇五五	一一、五四七
諸收入	四、五〇八	七、七四七	一三、七八二	二〇、七四九
計	三四二、三七六	三二〇、六〇三	七〇八、五八五	六一七、四九〇

○經濟概況（一月分）

第一款 通貨

(一) 各種貨幣流通高表（△印ハ減）

年月	朝鮮通貨 硬貨	朝鮮通貨 朝鮮銀行券	朝鮮通貨 葉錢	內地各種通貨	計
	円	円	円	円	円
一月末	四、八三〇、六〇三	一九、九六〇、六二三	五〇〇、六〇三	七、八五四、二七五	三三、一四六、一〇三
對前月增減	△一一七、三三三	△一、四三一、三三六	△八三、一一二	五、一〇九、三八六	三、四八六、六一五
對前年同月增減	△三、三七四、一一二	二、八八〇、六八一	△一、二〇三、三五〇	七、六〇三、九八二	五、九〇八、二〇一

(二) 舊韓國硬貨流通高表（△印ハ減）

種類	十二月末流通高	一月中引上高	差引流通高
	円	円	円
金貨	五、五〇〇・〇〇	—	五、五〇〇・〇〇
銀貨	四、〇四四、八七六・四〇	一〇八、四四八・三〇	三、九三六、四二八・一〇
白銅貨	四六八、一〇六・五〇	七、〇〇六・〇〇	四六一、一〇〇・五〇
青銅貨	四二九、三四三・六一	一、七六九・〇五	四二七、五七四・五七
計	四、九四七、八二六・五一	一一七、二二三・三五	四、八三〇、六〇三・一七
引上高累計		五、五八四、三九六・八四	

（三）朝鮮銀行券流通高表

（△印ハ減）

年月	發行高 正貨準備	發行高 保證準備	發行高 計	金庫在高	銀行手許在高	市場流通高
	円	円	円	円	円	円
一月末	八、二六六、九九〇	一五、〇二七、一四〇	二三、二九四、一三〇	二、五〇五、四四二	七二八、〇六六	一九、九六〇、六二二
對前月增減	△六七〇、〇〇〇	△一、一四三、四一〇	△一、八一三、四一〇	△三一五、三三〇	△七四、七四四	△一、四二三、三三六
對前年同月增減	一、七〇一、二四〇	二、六四九、九九〇	四、三五一、二三〇	一、三二八、二一二	二四二、三三六	二、八八〇、六八二

（四）內地通貨流通見込高表

（△印ハ減）

年月	現在高 金貨	現在高 補助貨	現在高 兌換券	現在高 計	朝鮮銀行正貨準備高 金貨	朝鮮銀行正貨準備高 兌換券	朝鮮銀行正貨準備高 計	金庫在高	朝鮮銀行手許在高	市場流通高
	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円
一月末	一、九八七、一五五	八、四九五、四〇〇	四、六九〇、〇三二	一五、一七三、五八七	一、九七九、九九〇	四、一八七、〇〇〇	六、一六六、九九〇	八七一、五七九	二七九、七四三	七、八五四、二七五
對前月增減	四七五	五、二九三、〇〇二	△五七七、六七二	四、七一五、八〇五	—	△六七〇、〇〇〇	△六七〇、〇〇〇	一二八、〇七四	一四八、四四五	五、一〇九、二八六
對前年同月增減	一、八九七、五五五	八、三〇八、二三三	△一七一、九〇一	一〇、〇三三、八五七	一、九〇〇、四九〇	△二五六、〇〇〇	一、六四四、四九〇	七〇四、一五六	八一、二二九	七、六〇三、九八二

（五）葉錢輸出回收高表

年月	回收高	輸出高	計
	円	円	円
一月末	八三、一一二・五三八	—	八三、一一二・五三八
引上着手後累計	四、八二三、〇六四・七三九	一、六一七、九八一・〇〇〇	六、四四一、〇四五・七三九
差引市場流通高	—	—	五〇〇、六〇二・七三六

第二款　金融

第一項　概況

（一）一月中各種銀行預金貸出金及遊金表

（△印ハ減）

銀行別	預金	貸出金	遊金 現金	遊金 預ケ金
	円	円	円	円
朝鮮銀行	六、二八八、一四二	九、一八五、〇六二	六、一五三、三四一	五五六、四三四
農工銀行	四、一五二、〇七八	八、六五四、三九二	六四四、二一七	六六、六六八
普通銀行	九、七四三、四六八	一三、七一八、六二〇	七九八、八五二	四三八、七一七
東洋拓殖株式會社	—	二、八五三、〇五六	—	—
地方金融組合	—	—	—	—
合計	二〇、一八三、六八八	三三、四一一、一三〇	七、五九六、四一〇	一、〇六一、八一九
對前月增減	六三四、〇四四	六九九、五〇九	△八三五、一二六	△二一五、八五五
對前年同月增減	二、一二六、八〇九	一三、九八一、九八四	三三一、八三二	四七〇、八七三

（二）一月中各種銀行預金金利表

（△印ハ減）

銀行別	定期預金 一ヶ年以上	定期預金 六ヶ月以上	定期預金 三ヶ月以上	當座預金 最高	當座預金 最低	當座預金 普通	小口預金 最高	小口預金 最低	小口預金 普通	諸預金 最高	諸預金 最低	諸預金 普通
	分厘	分厘	分厘	錢厘	錢厘	錢厘	錢厘	錢厘	錢厘	錢厘	錢厘	錢厘
朝鮮銀行	五〇	四五	四二	七	六	七	一一	一〇	一〇	一二	九	九
農工銀行	六〇	五五	五〇	九	九	九	一五	一四	一五	一七	一四	一四

銀行別												
普通銀行	五七	五二	四七	九	八	九	一二	一一	一二	一二	一〇	一一
平均	五六	五一	四六	八	八	八	一三	一二	一二	一四	一一	一一
對前月增減	—	—	—	—	—	—	一	—	—	一	△一	△一
對前年同月增減	△三	△四	△二	△一	—	△二	一	一	—	—	—	△二

(三) 一月中各種銀行貸出金金利表

(△印ハ減)

銀行別	不動産 高	不動産 低	不動産 普	證券 高	證券 低	證券 普	商品 高	商品 低	商品 普	信用 高	信用 低	信用 普	當座貸越 高	當座貸越 低	當座貸越 普	手形割引 高	手形割引 低	手形割引 普
朝鮮銀行	三二	二七	三〇	三〇	二六	二八	三〇	二七	二九	三二	二七	三〇	三三	二九	三二	三二	二六	二九
農工銀行	四九	三九	四五	三八	三三	三六	四一	三三	三七	四七	四一	四六	四六	三七	四二	四〇	三三	三六
普通銀行	四〇	三三	三六	三四	二七	三一	三四	二九	三二	三八	三三	三五	三九	三一	三五	三九	三七	三三
東洋拓殖株式會社	—	二七	三三	—	—	—	—	—	—	四九	一九	—	—	—	—	—	—	—
平均	四〇	三二	三六	三四	二八	三二	三五	三〇	三二	四二	三〇	三七	三九	三二	三六	三七	二八	三三
對前月增減	—	一	—	一	△一	一	—	一	—	二	二	二	△一	△一	—	一	—	一
對前年同月增減	△七	二	△四	△二	△四	△二	△三	一	△三	一	△二	△四	△二	△二	△二	△三	△二	△二

(四) 一月中各種銀行爲替受拂表

(△印ハ減)

銀行別	朝鮮內 受入高	朝鮮內 拂出高	朝鮮及內地間 受入高	朝鮮及內地間 拂出高	朝鮮及淸國其他間 受入高	朝鮮及淸國其他間 拂出高	計 受入高	計 拂出高
	円	円	円	円	円	円	円	円
朝鮮銀行	五,四二四,九八六	五,五一八,三八〇	二,三二七,三四九	八〇一,五五一	四五,一二一	一七三,五九五	七,七九七,四五六	六,四九三,五二六
農工銀行	二,四三七,六三三	一,九三三,六八九	一三六,九三三	一一〇,二〇五	四,七二九	八,五〇二	二,五七九,二八三	二,〇四二,三九六
普通銀行	二,一二七,八五六	二,三〇八,〇四三	二,六七八,六五九	一,四七五,九一一	七三,八一二	一〇六,〇七五	四,八八〇,三二七	三,八九〇,〇二九
合計	九,九九〇,四七四	九,七五〇,一一二	五,一四二,九三〇	二,三八七,六六七	一二三,六六二	二八八,一七二	一五,二五七,〇六六	一二,四二五,九五一
對前月增減	△二,二五六,八五一	△二,七〇〇,二九六	△一,七二三,五六一	△七一六,九二七	△三八,二五二	△一六一,六九六	△四,〇一八,六六四	△三,五七八,九一九
對前年同月增減	四,六一一,一九〇	四,二三二,七三四	一,六四三,八八七	△一,七六五,九三〇	二二,六五一	△三六二,六七八	六,二七七,七二八	二,一〇四,一二六

第二項　各地狀況

一、京城仁川方面

久シク出廻薄ノ米穀モ移出稅撤廢ヲ見越シ漸次買煽リタルト且舊節季前トニテ相當ノ出廻ヲ見ルニ至リ大豆モ内地高ニ伴ヒ氣配宜シク金巾其他輸入品ノ賣行概シテ良好ニシテ旁々金融比較的繁忙ナリキ

二、平壤義州方面

結氷期間ニ於ケル買米資金ト舊歲末決濟資金トノ需要ニ因リ

金融ノ繁忙ヲ見ルハ常例ナルカ殊ニ本年ハ各種穀價ノ高値ナルト一般商況ノ振作セルトニヨリ最モ繁忙ヲ告ケタリ

三、群山全州方面

米穀ハ依然回著稀薄ナルモ小口ハ絶ヘス大連及釜山京城地方ヘ移送アリ精撰籾米ハ浦潮仕向ケ尠ナカラス殊ニ舊正月前ニテ輸入諸雜貨賣行好況爲ニ資金ノ需要尠カラサリキ

四、木浦方面

季節柄明太ノ回著多ク金巾石油砂糖等輸入品ノ賣行好況ナリキ輸出方面ニアリテハ棉花牛皮等ノ回著捗々シカラス一般出穀不振尚依然タリ随テ金融モ亦繁忙ヲ見ルニ至ラサリキ

五、釜山大邱方面

年甫金融小康ノ狀態ナリシモ月央後ハ大豆相場昂騰セシト米ノ出廻幾分増加シ又浦潮行籾ノ輸出アリ一方舊正月ニ近クニ從ヒ輸入貨物ノ賣行良好ナリシ爲メ常ニ資金ノ需要ヲ喚ヒ金利モ内地ノ引上ニ伴ヒ強含ナリキ

六、元山方面

鐵道用地、東拓土地等ノ買收資金散布セラレ何レモ手許潤澤ナリシモ聽テ季節柄大豆明太魚ノ荷動盛急ニシテ金融繁忙ヲ見ルニ至レリ明太魚ハ一時不漁ナリシモ當月ニ入リテ漁獲日ニ増シ當初ヨリノ漁獲高八萬駄見當ニシテ終期迄尚旬日餘ヲ剩セル今日既ニ昨年ノ總收獲ヲ超フルコト一萬五六千駄ニ及ヒタリ

七、清津方面

昨年末貿易上ノ景氣立直リ官帖相場モ漸次復舊ニ近ツキ舊正月モ切迫シ商況殷賑ニシテ殊ニ元山地方粟ノ需要ニ對シ間島粟ノ搬出近來稀ナル盛況ヲ呈シ大豆モ高値ノ爲メ相當ノ移出アリ彼是資金ノ需要多ク例年見サル繁忙ヲ告ケタリ

（一）一月中地方別各種銀行預金種別表　（△印ハ減）

地方別	公金預金	定期預金	當座預金	小口預金	諸預金	計
	円	円	円	円	円	円
京城、仁川方面	一、一〇六、一二九	三、一〇六、六五三	四、三七二、三三六	二、三三五、〇八五	一、四二一、八五六	一二、三三二、〇四九
平壤、鎭南浦方面	一七七、七一六	三六二、七八三	五五四、一九九	四二〇、八三三	一一〇、五五〇	一、六二六、〇八一
釜山、大邱方面	二九九、五三五	八七六、四八三	一、二三六、四〇九	八九一、三〇九	一〇二、〇七二	三、四〇五、八〇八
群山方面	九二、一六七	一六二、五六七	四七一、三四五	一八四、二一九	三八、三三六	九四八、六三四
木浦方面	一〇二、〇一七	一四七、二六七	四一八、〇三七	二二四、九〇〇	二〇、七四〇	九一二、九六一
元山方面	五五、一一四	八八、五九六	三〇三、八三七	一六一、七九〇	二一、九四九	六三一、二八六
清津方面	五七、二三五	四八、一五九	八八、四九八	一二一、八七一	一一、一〇六	三二六、八六九

合計	一,八八九,九一三	四,七九二,五〇八	七,四四四,六五一	四,三三〇,〇〇七	一,七二六,六〇九	二〇,一八三,六八八
對前月增減	二六三,一五六	三三,八五九	二五一,八三三	一七四,九五二	△ 八九,七五五	六三四,〇四四
對前年同月增減	△ 三六,六三三	七〇八,八八〇	九七九,七七六	六六七,一二六	△ 一九二,三四一	二,一二六,八〇九

(二) 一月中地方別各種銀行貸出金種類別表　（△印ハ減）

地方別	政府貸上金 円	年賦貸付金 円	普通貸付金 円	當座貸越金 円	手形割引 円	計 円
京城、仁川方面	四,五九四,六七七	八,〇四五,九九〇	五,九〇三,四四七	一,二八二,三三六	九,二三〇,〇六一	二九,〇五六,五〇一
平壤、鎭南浦方面	—	一四一,一九二	一,一五四,二四五	二八八,七一八	二,六一〇,三七六	四,一九四,五三二
釜山、大邱方面	—	二一九,五三〇	一,四三六,一八五	六三二,六〇八	二,五四七,三八六	四,八三五,七〇九
群山方面	—	三五四,六一一	五三五,四二二	一八七,九五〇	一,〇五八,〇四三	二,一三六,〇二六
木浦方面	—	一六八,一五一	六三四,六一九	六六,六〇六	六四一,八二九	一,五一一,二〇五
元山方面	—	一七,八八七	四四六,九六〇	八七,五二〇	六八〇,九二一	一,二三三,二八八
清津方面	—	一一,〇〇〇	九三,五〇〇	一〇,四四六	二六八,七三〇	三八三,六七六
合計	四,五九四,六七七	八,九五八,三六一	一〇,二〇四,三七八	二,五五六,一七四	一七,〇三七,三四七	四三,三五〇,九三七
對前月增減	—	一〇〇,〇六六	八四〇,三三一	五二,三三三	△ 三五〇,六一七	六四二,一一二
對前年同月增減	四,五九四,六七七	七,六八四,四五二	二,三六五,八六二	一,〇三七,九一七	八,二三八,八九七	二三,九二一,八〇五

備考　京城方面ハ政府貸上金及第一銀行ニ對スル別途貸付ヲ含ム

(三) 一月中地方別各種銀行金銀出納及遊金表　（△印ハ減）

地方別	繰越高		入金高		出金高		現在高	
	現金 円	預ケ金 円	現金 円	預ケ金 円	現金 円	預ケ金 円	現金 円	預ケ金 円
京城、仁川方面	五,六二二,七一七	一,〇一二,六九二	七四,二〇四,八七四	四,一七六,五五六	七四,九〇二,七七八	四,三二四,一三七	四,九二四,八一三	八六五,一一一
平壤、鎭南浦方面	六三八,六九八	六四,八四七	一七,〇六九,八四九	七九五,三〇六	一七,〇八二,三六九	八三五,一六二	六二六,一七八	二四,九九一
釜山、大邱方面	九七六,二三一	七七,四五三	二三,九二〇,一〇六	九五一,七二五	二三,九六五,六八八	九二六,〇一九	九三〇,六四九	一〇三,一五九
群山方面	二〇七,一八六	六三,七八八	七,四三三,二二四	二五九,〇七一	七,四一三,二八一	三〇一,五二二	二二六,一一九	二一,三三七
木浦方面	二六四,八七四	三六,一七九	五,六八八,〇八三	九六,六四七	五,七一九,三一九	一〇九,五九五	二三三,六三八	二三,二三一

元山方面	三八、二四一	二一、三四八	六、四〇六、五五九	三九三、九三〇	六、四四九、八二三	三九二、八九〇	二八四、九七八	二三、三八八
清津方面	四〇八、五二六	一、三六七	二、一七、九四四	一三、三三八	二、一六二、三三六	一三、一〇三	四二四、二三四	一、六〇二
合計	八、四四六、四七三	一、二二七、六七四	一三五、八九九、六二九	六、六八六、五七三	一三六、六九五、四九三	六、九〇二、四二八	七、六五〇、六〇九	一、〇六一、八一九

備考　金銀在高中ニハ外國貨幣及外國手形ヲ含ム

(四) 一月中各地方金利表

(△印ハ減)

地方別	銀行 預金 定期預金 一箇年以上 (分厘)	六箇月以上 (分厘)	三箇月以上 (分厘)	當座預金 高 (錢厘)	低	普	小口預金 高	低	普	諸預金 高	低	普	貸付金 普通貸付 高	低	普	當座貸越 高	低	普	手形割引 高	低	普	個人 朝鮮人 高	低	普	內地人 高	低	普
京城、仁川方面	五九	五四	四九	九	八	九	一三	一二	一三	一二	八	一〇	四三	二八	三五	四二	二九	三五	三九	二五	三三	四〇〇	四〇	九九	四〇〇	五〇	八五
平壤、鎭南浦方面	五七	五二	四九	一〇	八	九	一七	一三	一三	一四	一一	一二	四四	二八	三六	四三	三一	三八	三八	二七	三三	三〇〇	四〇	八〇	二〇〇	四〇	八四
釜山、大邱方面	五五	五〇	四五	九	六	九	一三	一二	一二	一〇	一四	一六	三九	二五	三一	三九	三一	三四	三四	二六	二九	四〇〇	五〇	一〇三	四〇〇	四〇	六八
群山方面	五九	五四	四九	九	六	九	一五	一三	一五	一五	一〇	一〇	四九	二九	三八	四七	三三	三八	四二	三〇	三五	四〇〇	六七	一一九	三三三	三三	一〇四
木浦方面	五六	五二	四八	九	八	九	一三	一二	一三	一二	五	九	五二	三〇	四一	五〇	二八	三七	五四	三一	四〇	三三三	六七	一二四	三三三	六七	一〇六
元山方面	五八	五一	五〇	一〇	五	八	一四	一〇	一一	ー	ー	ー	四八	二〇	三一	五五	三三	三九	四〇	二九	三一	二〇〇	八〇	一一〇	一二〇	五〇	九三
清津方面	五六	五一	五〇	八	七	八	一四	一〇	一二	一五	一〇	一二	五〇	二九	三八	四八	三一	四〇	四五	二七	三八	一六六	八三	一二三	二〇〇	六七	九四
平均	五七	五二	四九	九	七	八	一四	一三	一三	一五	一〇	一二	四六	二七	三六	四六	三一	三七	四二	二八	三四	三一四	六一	一〇八	二八四	五〇	九一
對前月增減	△二	△一	ー	ー	ー	△一	ー	ー	ー	一	ー	ー	△四	ー	△一	ー	△一	△一	ー	ー	ー	九	△三	△五	ー	一	△三
對前年同月增減	△二	△一	△一	△三	一	△一	△一	二	一	一	一	ー	△一二	三	△四	△六	七	△二	△七	二	△四	一〇	△二〇	一六	△一	一三	三

第三款　物價

(一) 一月中各地重要物價表（卸賣相場）

品目	單位	京城	仁川	平壤	鎭南浦	群山	釜山	大邱	馬山	木浦	元山	城津	新義州	清津	平均
棉花上	百斤	ー	三五、〇〇〇	四五、〇〇〇	ー	ー	二四、〇〇〇	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	三四、六七〇
石炭上	一噸	一〇、〇〇〇	八、七五〇	一二、〇〇〇	九、〇〇〇	九、五〇〇	八、五〇〇	ー	一〇、〇〇〇	九、〇〇〇	一〇、五〇〇	一二、〇〇〇	ー	一一、五〇〇	一〇、〇七〇
牛皮 中皮 十斤迴シ	百斤	三七、〇〇〇	三八、〇〇〇	二九、五〇〇	二七、〇〇〇	三七、〇〇〇	三六、五〇〇	三八、五〇〇	三一、〇〇〇	三五、〇〇〇	三四、〇〇〇	三八、〇〇〇	ー	ー	三四、六八〇

牛骨	上	百斤	一,八〇〇	一,七〇〇	一,〇〇〇	一,三〇〇	一,四〇〇	一,五〇〇	一,六〇〇	一,五〇〇	一,〇〇〇	一,五〇〇	—	—	—	一,四二〇
牛蠟	上	同	一五,二七〇	一六,七五〇	一七,五〇〇	一三,五〇〇	一四,〇〇〇	九,五〇〇	一七,〇〇〇	一三,〇〇〇	一一,〇〇〇	一三,〇〇〇	—	—	—	一四,〇五〇
セメント	上	一樽	五,三〇〇	四,八〇〇	—	五,五〇〇	五,〇〇〇	四,四〇〇	六,〇〇〇	五,二〇〇	四,八〇〇	五,二〇〇	—	—	—	五,一四〇
石材	御影石	一才	—	—	—	三〇〇	六〇〇	四〇〇	八〇〇	一,五〇〇	—	六五〇	—	—	—	七一〇
松角材	二間物	尺立方角	—	六,五〇〇	五,〇〇〇	八,〇〇〇	四,二五〇	五,四〇〇	—	三,八〇〇	六,二〇〇	—	—	三,〇〇〇	—	五,二七〇
杉角材	同	同	—	七,五〇〇	五,六〇〇	九,〇〇〇	四,四〇〇	六,〇〇〇	—	四,七〇〇	七,三〇〇	—	—	—	—	六,三五〇
玄米	上	一石	一三,二〇〇	一三,九五〇	一四,五〇〇	一三,三〇〇	一三,六〇〇	一四,八三〇	一三,三〇〇	一四,三〇〇	一四,〇〇〇	—	—	—	—	一三,八八〇
	中	同	一三,七〇〇	一三,五〇〇	一四,〇〇〇	一三,三〇〇	一三,三〇〇	一四,〇九〇	一三,〇〇〇	一三,七〇〇	一三,八〇〇	—	—	—	—	一三,三七〇
	下	同	一三,〇〇〇	一三,九〇〇	一三,五〇〇	一〇,〇〇〇	一三,八〇〇	一三,三五〇	一三,七〇〇	一三,三〇〇	一三,六〇〇	—	—	—	—	一三,六七〇
白米	上	一石	一八,一〇〇	一八,一〇〇	一八,〇〇〇	一六,五〇〇	一四,七〇〇	一七,六〇〇	一八,四〇〇	一七,五〇〇	一八,八〇〇	二〇,五〇〇	一九,〇〇〇	一七,五〇〇	二〇,〇〇〇	一八,〇五〇
	中	同	一七,八〇〇	一七,〇〇〇	一七,〇〇〇	一五,五〇〇	一四,三〇〇	一六,五八〇	一七,九〇〇	一六,五〇〇	一七,〇〇〇	一九,八〇〇	一八,〇〇〇	一七,〇〇〇	一九,〇〇〇	一七,一八〇
	下	同	—	一四,三〇〇	一六,〇〇〇	一四,五〇〇	一三,九〇〇	一五,五六〇	一五,三〇〇	一五,五〇〇	一四,九〇〇	一五,八〇〇	一六,〇〇〇	一六,五〇〇	一六,五〇〇	一五,三九〇
大麥	上	一石	五,四〇〇	四,八〇〇	四,一〇〇	四,〇〇〇	—	五,八五〇	五,七五〇	六,〇〇〇	三,八〇〇	—	—	—	—	四,九六〇
	下	同	—	四,四〇〇	三,九〇〇	—	—	五,五五〇	五,三五〇	五,五〇〇	三,四〇〇	—	—	—	—	四,六八〇
小麥	上	一石	八,三五〇	七,七五〇	七,五〇〇	七,三〇〇	—	八,五五〇	七,五五〇	七,八〇〇	七,〇〇〇	八,九〇〇	—	—	—	七,八四〇
	下	同	—	七,三五〇	七,一〇〇	—	—	八,四五〇	七,三〇〇	七,一〇〇	六,五〇〇	—	—	—	—	七,三〇〇
大豆	上	一石	七,八〇〇	八,五五〇	六,九〇〇	七,九〇〇	七,六〇〇	八,三七〇	七,二五〇	七,四〇〇	七,三〇〇	九,五〇〇	七,〇〇〇	六,五〇〇	六,三〇〇	七,五六〇
	下	同	—	七,九〇〇	六,三〇〇	六,八〇〇	七,五〇〇	七,五三〇	六,九〇〇	七,三〇〇	七,〇〇〇	七,六〇〇	六,〇〇〇	五,七〇〇	—	六,九四〇
小豆	上	一石	一三,一〇〇	—	七,五〇〇	九,〇〇〇	—	一〇,三三〇	九,七五〇	九,八〇〇	一〇,五〇〇	一〇,三〇〇	—	八,五〇〇	六,四〇〇	九,四一〇
	下	同	—	—	七,三〇〇	八,五〇〇	—	一〇,一七〇	八,〇〇〇	九,四〇〇	一〇,〇〇〇	九,二〇〇	—	七,五〇〇	—	八,七六〇
麥粉	上	五十封度入一袋	二,四五〇	二,四三〇	二,四五〇	二,六〇〇	二,五〇〇	二,三〇〇	二,三九〇	二,三八〇	二,五〇〇	二,四五〇	二,五〇〇	二,六三〇	二,四五〇	二,四六〇
食鹽	上	八斗入一俵	—	一,五〇〇	—	二,〇〇〇	二,八〇〇	二,五〇〇	—	一,六〇〇	一,六〇〇	一,一三五	—	二,六〇〇	一,四〇〇	一,九〇〇
味噌	上	十貫入一樽	三,〇〇〇	三,八〇〇	四,三〇〇	三,二〇〇	四,五〇〇	四,〇〇〇	四,一五〇	四,三〇〇	四,五〇〇	四,〇〇〇	五,〇〇〇	三,七五〇	—	四,〇四〇
醬油	上	一斗入一挺	三,〇〇〇	四,〇五〇	四,五〇〇	三,五〇〇	三,九〇〇	三,五〇〇	三,九〇〇	三,〇〇〇	四,〇〇〇	四,五〇〇	四,〇〇〇	三,〇〇〇	四,六〇〇	三,八八〇
砂糖	四温	百斤	一〇,八〇〇	一〇,四〇〇	一一,五〇〇	一一,六〇〇	一〇,五〇〇	九,九〇〇	一〇,三五〇	一〇,〇〇〇	一〇,五〇〇	一〇,五〇〇	一一,〇〇〇	一〇,九〇〇	一〇,五〇〇	一〇,六四〇

（二）一月中各地重要物價表（小賣相場）

鷄卵		百個	一,五〇〇	一,六〇〇	一,七〇〇	一,五〇〇	一,〇〇〇	一,八〇〇	一,二五〇	一,三〇〇	一,三〇〇	一,八〇〇	八〇〇	一,六〇〇	一,八〇〇	一,四五〇
明太魚	上	一駄（四十貫入）	—	二七,〇〇〇	二三,〇〇〇	二六,〇〇〇	二六,〇〇〇	二五,〇〇〇	二四,五〇〇	—	二五,〇〇〇	一九,〇〇〇	—	—	三〇,〇〇〇	二三,八四〇
薪	上	十貫目	—	三五〇	六〇〇	三八〇	四〇〇	二三〇	五〇〇	三五〇	二八〇	六〇〇	四〇〇	三〇〇	四〇〇	三九〇
木炭	上	十貫目	一,一五〇	八五〇	七五〇	一,一〇〇	一,六〇〇	一,〇〇〇	七〇〇	八〇〇	一,〇〇〇	八五〇	八〇〇	一,一五〇	一,一〇〇	九八八
石油	上松票	一函	三,三六〇	三,二八〇	三,〇五〇	三,三八〇	三,一五〇	三,〇三〇	三,三六〇	三,二〇〇	三,三八〇	三,三六〇	三,三〇〇	—	三,二五〇	三,二四〇
マッチ	人猿印又犬猿印	一函（二百打入）	—	三,九五〇	四,〇〇〇	三,九〇〇	四,二〇〇	三,五五〇	四,〇〇〇	三,九〇〇	四,〇〇〇	三,七〇〇	四,〇〇〇	—	四,二〇〇	三,九五〇
洋金巾	上	一梱（五十反入）	三六〇,〇〇〇	三九〇,〇〇〇	三七五,〇〇〇	三三〇,〇〇〇	三三〇,〇〇〇	四〇二,五〇〇	三二二,五〇〇	三五〇,〇〇〇	四〇〇,〇〇〇	四〇〇,〇〇〇	三七五,〇〇〇	—	四〇二,五〇〇	三六八,一三〇
和金巾	上	一梱（二十反入）	一三七,三〇〇	一三七,〇〇〇	一三五,〇〇〇	一三七,〇〇〇	一四〇,〇〇〇	一三八,〇〇〇	一三八,〇〇〇	一三〇,〇〇〇	一三七,〇〇〇	一三三,〇〇〇	一四〇,〇〇〇	—	一三五,〇〇〇	一三五,六一〇
紡績絲	鐘紡	一俵（二十玉入）	—	七三,二五〇	七四,〇〇〇	七六,〇〇〇	六九,五〇〇	—	七一,〇〇〇	六七,五〇〇	七三,〇〇〇	—	—	—	—	七一,八九〇
	攝紡	同	—	七三,二五〇	七四,〇〇〇	七六,〇〇〇	六九,五〇〇	七〇,五〇〇	—	—	—	七〇,〇〇〇	七〇,〇〇〇	—	—	七一,八九〇
	三重紡	同	—	七二,七五〇	七三,五〇〇	七四,五〇〇	六九,五〇〇	—	—	—	—	—	—	—	—	七二,五六〇
打綿	上	一斤	—	五〇〇	五〇〇	五五〇	六〇〇	三〇〇	四七〇	五〇〇	四五〇	—	二七〇	—	—	四六〇
生漉中紙	上	一締	五,〇〇〇	五,〇〇〇	六,七〇〇	三,五〇〇	四,七〇〇	二,四〇〇	三,五〇〇	三,八〇〇	—	三,八〇〇	三,六〇〇	—	三,一〇〇	四,一〇〇
朝鮮白紙	上	一塊（百卷入）	三〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇	三一,〇〇〇	二七,〇〇〇	一八,〇〇〇	三〇,〇〇〇	三六,〇〇〇	—	二四,〇〇〇	—	—	—	—	二四,五〇〇
日本酒	正宗	一挺	二三,〇〇〇	二一,七五〇	二一,五〇〇	二二,五〇〇	二一,〇〇〇	二一,五〇〇	二三,〇〇〇	二三,〇〇〇	二一,〇〇〇	—	二一,五〇〇	二三,〇〇〇	二一,五〇〇	二三,〇一〇
	白鶴	同	二二,〇〇〇	二〇,五〇〇	二一,〇〇〇	二一,〇〇〇	二一,〇〇〇	二一,二五〇	二三,〇〇〇	二一,〇〇〇	二〇,〇〇〇	二二,〇〇〇	二一,五〇〇	一九,二〇〇	二一,〇〇〇	二一,〇四〇
	澤龜	同	二〇,〇〇〇	一九,五〇〇	一九,五〇〇	一九,〇〇〇	二一,〇〇〇	二〇,〇〇〇	二〇,五〇〇	二〇,五〇〇	—	二一,〇〇〇	—	一七,五〇〇	一九,五〇〇	一九,七七〇
	光武	同	—	一六,二五〇	—	—	—	一七,〇〇〇	二一,〇〇〇	—	—	—	—	—	—	一八,〇八〇
	東洋一	同	—	—	二〇,〇〇〇	—	—	一六,五〇〇	—	二一,五〇〇	二〇,〇〇〇	—	—	—	—	一九,五〇〇
麥酒	札幌	一函（四打入）	九,四〇〇	九,五〇〇	九,五〇〇	九,五〇〇	九,五〇〇	九,三〇〇	九,六五〇	九,四〇〇	九,四〇〇	—	—	—	—	九,四六〇
	エビス	同	—	九,五〇〇	—	—	九,五〇〇	九,三〇〇	—	九,四〇〇	九,四〇〇	—	—	—	—	九,四三〇
	朝日	同	九,四〇〇	九,五〇〇	九,〇〇〇	九,五〇〇	九,五〇〇	九,三〇〇	九,六五〇	九,八〇〇	九,四〇〇	—	—	—	—	九,四五〇
朝鮮刻煙草	上	百斤	—	二七,一五〇	二三,五〇〇	二三,〇〇〇	四五,〇〇〇	二三,〇〇〇	—	四八,〇〇〇	三五,〇〇〇	—	—	—	—	三四,六六〇

品目		單位	京城	仁川	平壤	鎭南浦	群山	釜山	大邱	馬山	木浦	元山	城津	新義州	清津	平均
白米	上	一斗	一、八一〇	一、九五〇	一、八五〇	一、七五〇	一、八七〇	二、〇五〇	一、九〇〇	二、〇〇〇	一、八〇〇	二、一〇〇	二、一〇〇	一、八三〇	二、一〇〇	一、九三〇
	中	同	一、七八〇	一、九〇〇	一、八〇〇	一、六五〇	一、七〇〇	一、九〇〇	一、八〇〇	一、九〇〇	一、六〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	一、七五〇	一、九〇〇	一、八三〇
	下	同	—	一、八五〇	一、七五〇	一、五五〇	一、五五〇	一、八五〇	一、六八〇	一、八〇〇	一、五〇〇	一、六〇〇	一、七〇〇	—	一、八〇〇	一、六九〇
大豆	上	一斗	七八〇	九二〇	七二〇	八五〇	九〇〇	九〇〇	九〇〇	八〇〇	八〇〇	一、三〇〇	—	七七〇	七〇〇	八六〇
	下	同	—	八七〇	六八〇	八〇〇	八五〇	八〇〇	八〇〇	七五〇	七〇〇	一、〇〇〇	—	六七〇	—	七九〇
小豆	上	一斗	一、二二〇	一、一五〇	七七〇	九五〇	一、二〇〇	一、一五〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、二〇〇	一、三〇〇	—	一、二〇〇	—	一、一三〇
	下	同	—	一、〇〇〇	七五〇	九〇〇	—	一、〇〇〇	九〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	—	九五〇	—	九四〇
麥粉	上	五十封度入一袋	二、四五〇	二、四七〇	二、六〇〇	二、六五〇	二、五〇〇	二、三二〇	二、五五〇	二、四〇〇	二、五五〇	二、四五〇	二、六五〇	二、七〇〇	二、四五〇	二、五三〇
食鹽	上	一升	—	三〇	八〇	四五	六〇	七〇	八〇	八〇	五〇	六〇	一〇〇	五〇	一一〇	六八
味噌	上	一貫	三〇〇	四〇〇	五二〇	五〇〇	八五〇	五〇〇	五〇〇	四五〇	六〇〇	四五〇	六〇〇	五〇〇	六〇〇	五二〇
醤油	上	一升	五〇〇	五〇〇	五五〇	四〇〇	四〇〇	二六〇	五五〇	四〇〇	五〇〇	五〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇	四五〇
砂糖	四温	一斤	—	一二〇	一五〇	一三〇	一四〇	一二〇	一二〇	一二〇	一三〇	一四〇	一三〇	一四〇	一三〇	一三〇
鷄卵		十箇	一五〇	一七〇	一九〇	一七〇	一〇〇	二〇〇	一二〇	一五〇	一六〇	二〇〇	一〇〇	一八〇	一二〇	一六〇
明太魚	上	二十尾一綴	—	二九〇	三〇〇	二八〇	二五〇	三〇〇	二五〇	二〇〇	二七〇	三〇〇	—	—	四五〇	二八九
薪	上	十貫目	—	四〇〇	八五〇	四一〇	三二〇	二八〇	五五〇	三〇〇	三〇〇	六〇〇	四五〇	二五〇	五〇〇	四一四
木炭	上	十貫目	一、一五〇	九〇〇	一、二五〇	一、三〇〇	一、六五〇	一、二〇〇	七五〇	八〇〇	一、二〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、二三〇	一、三〇〇	一、一二三
石油	上	一罐	一、六二〇	一、六七〇	一、七二〇	一、八〇〇	一、六〇〇	一、五五〇	一、六五〇	一、六〇〇	一、六七〇	一、八〇〇	一、六〇〇	一、五〇〇	一、六五〇	一、六五〇
マッチ	人猿印	一袋	二五	二五	二五	二五	三〇	三五	三〇	—	二〇	四〇	四〇	—	—	三〇
	犬猿印	同	—	二五	二五	—	三〇	三〇	—	三〇	二〇	四〇	—	—	—	二九
洋金巾	上	一反	七、七〇〇	七、九〇〇	七、二〇〇	六、五〇〇	七、〇〇〇	八、一〇〇	六、四七〇	六、二〇〇	八、二〇〇	八、一〇〇	七、六〇〇	八、〇〇〇	八、一五〇	七、四八〇
和金巾	上	一反	六、九〇〇	六、九五〇	六、九〇〇	七、〇〇〇	七、五〇〇	七、〇〇〇	六、九五〇	—	七、〇〇〇	六、七〇〇	七、二〇〇	—	六、七五〇	六、九九〇
寒冷紗	上	一反	—	一、二五〇	一、七〇〇	—	—	一、六〇〇	—	一、五五〇	一、六五〇	—	一、八〇〇	一、五〇〇	—	一、五九〇
紡績絲	鐘紡	一玉	—	三、七一〇	二、七〇〇	—	三、九〇〇	—	三、六八〇	—	三、六〇〇	—	—	—	—	三、五三〇
	攝紡	同	—	三、七一〇	二、七〇〇	三、九〇〇	三、九〇〇	三、五五〇	三、六八〇	三、三〇〇	三、六〇〇	三、四五〇	三、五〇〇	—	—	三、五三〇
	三重紡	同	—	三、七一〇	二、七〇〇	三、八〇〇	三、九〇〇	—	三、六八〇	—	三、六〇〇	—	—	—	—	三、五七〇

打綿 上	一斤	—	五五〇	五〇〇	六五〇	六三〇	四三〇	五〇〇	五五〇	四八〇	六〇〇	三五〇	八〇〇	七三〇	五六〇
生漉半紙 上	一帖	六五	三五	六五	四五	三〇	六〇	四〇	三〇	三〇	四〇	四〇	七〇	三五	三〇
朝鮮白紙 上	一巻	一〇〇	二八〇	一三〇	三〇〇	三〇〇	—	四〇〇	一三〇	三〇〇	三五〇	—	—	一三〇	二三〇
石炭 上	一噸	八、五〇〇	九、七五〇	一三、〇〇〇	一一、〇〇〇	九、五〇〇	九、五〇〇	—	一〇、五〇〇	八、五〇〇	一一、〇〇〇	一四、〇〇〇	—	一四、五〇〇	一〇、八九〇
松材	尺メ一才	—	九〇	八〇	一二〇	七〇	八〇	一三〇	—	七〇	—	五〇	六〇	—	八二
杉材	同	—	一〇〇	一〇〇	一三〇	一三〇	八五	一五〇	—	九〇	—	七〇	—	—	一一〇
日本酒 正宗	一升	七五〇	七五〇	七五〇	七〇〇	七〇〇	七〇〇	七〇〇	七〇〇	七〇〇	—	六〇〇	六五〇	七〇〇	七〇〇
日本酒 白鶴	同	六五〇	六五〇	六八〇	六五〇	七〇〇	六五〇	六〇〇	六〇〇	六〇〇	六五〇	六〇〇	五〇〇	六〇〇	六三〇
日本酒 金露	同	六五〇	六〇〇	六〇〇	六〇〇	六五〇	六〇〇	六〇〇	六〇〇	六〇〇	六〇〇	—	五〇〇	五五〇	六〇〇
日本酒 春駒	同	—	五五〇	五八〇	六〇〇	六五〇	五五〇	—	六〇〇	五五〇	六〇〇	—	—	五五〇	五八〇
日本酒 東洋一	同	—	—	六〇〇	—	—	五〇〇	—	六〇〇	五五〇	—	—	—	—	五六〇
麦酒 札幌	一打	二、三〇〇	二、五〇〇	二、六〇〇	二、四〇〇	二、四〇〇	二、四〇〇	二、六〇〇	二、三〇〇	二、五〇〇	—	—	—	—	二、四六〇
麦酒 エビス	同	—	二、五〇〇	—	—	二、四〇〇	二、四〇〇	—	二、三〇〇	二、五〇〇	—	—	—	—	二、四三〇
麦酒 朝日	同	二、四〇〇	二、五〇〇	二、六〇〇	二、四〇〇	二、四〇〇	二、四〇〇	二、六〇〇	二、三〇〇	二、五〇〇	—	—	—	—	二、四六〇
朝鮮刻煙草 上	一斤	—	三五〇	三七〇	三七〇	五〇〇	四〇〇	—	五〇〇	四〇〇	—	五〇〇	—	—	四一〇

第四款 勞銀

一月中各地勞働賃銀表

職業	京城	仁川	平壤	鎭南浦	群山	釜山	大邱	馬山	木浦	元山	城津	平均
大工	一•五〇〇	一•四〇〇	一•八〇〇	一•六〇〇	一•五〇〇	一•一五〇	一•三〇〇	一•二〇〇	一•三〇〇	一•五〇〇	一•六〇〇	一•四四〇
同朝鮮人	一•〇〇〇	九七〇	六〇〇	九〇〇	八〇〇	七〇〇	八〇〇	—	一•二〇〇	六〇〇	一•〇〇〇	八五〇
左官	一•五〇〇	一•五〇〇	一•八〇〇	—	一•五〇〇	一•二三〇	一•三〇〇	一•三〇〇	一•三〇〇	一•五〇〇	一•六〇〇	一•四五〇
石工	二•〇〇〇	二•一〇〇	二•二五〇	一•八〇〇	一•六〇〇	一•八〇〇	一•五〇〇	一•六五〇	一•五〇〇	二•〇〇〇	二•〇〇〇	一•八四〇
同朝鮮人	—	一•一五〇	一•二〇〇	—	—	—	一•二〇〇	—	一•二〇〇	六五〇	一•〇〇〇	一•〇七〇
木挽	一•八〇〇	一•四五〇	一•七〇〇	—	一•五〇〇	一•二五〇	一•四〇〇	一•五〇〇	—	二•〇〇〇	一•六〇〇	一•五七〇

同朝鮮人	一・〇〇〇	一・二二〇	八〇〇	―	一・二〇〇	八七五	八〇〇	―	―	一・二〇〇	八〇〇	九九〇
瓦葺	二・〇〇〇	一・八五〇	一・八〇〇	一・八〇〇	一・五〇〇	一・八〇〇	一・三〇〇	一・三〇〇	一・八〇〇	一・五〇〇	一・六〇〇	一・六六〇
煉瓦職	二・〇〇〇	一・八五〇	二・〇〇〇	二・〇〇〇	一・五〇〇	一・三八〇	一・四〇〇	一・八〇〇	二・〇〇〇	一・五〇〇	二・〇〇〇	一・七七〇
同朝鮮人	―	一・〇五〇	一・二〇〇	一・〇〇〇	―	一・一〇〇	一・三〇〇	―	―	六〇〇	一・〇〇〇	一・〇四〇
ペンキ職	一・五〇〇	一・八五〇	一・七五〇	二・〇〇〇	一・五〇〇	一・一五〇	一・六〇〇	一・六〇〇	一・五〇〇	一・五〇〇	二・〇〇〇	一・六三〇
錻力職	二・〇〇〇	一・六五〇	一・六〇〇	一・八〇〇	一・二〇〇	一・三五〇	一・三〇〇	一・四〇〇	一・五〇〇	二・〇〇〇	二・〇〇〇	一・六二〇
鍛冶職	一・四〇〇	一・七五〇	二・二五〇	二・〇〇〇	一・二〇〇	一・三五〇	一・三〇〇	一・七五〇	一・〇〇〇	一・八〇〇	二・〇〇〇	一・六二〇
疊職	一・四〇〇	一・六〇〇	一・二五〇	一・七〇〇	一・五〇〇	一・一〇〇	一・三〇〇	一・二〇〇	一・三〇〇	一・五〇〇	一・六〇〇	一・四一〇
井戸掘	一・〇〇〇	一・八五〇	一・八〇〇	―	一・六〇〇	一・六五〇	一・三〇〇	―	二・〇〇〇	一・五〇〇	一・五〇〇	一・五八〇
表具師	一・〇〇〇	一・五五〇	一・三五〇	一・五〇〇	一・二〇〇	一・一〇〇	八〇〇	一・四〇〇	一・五〇〇	一・五〇〇	一・六〇〇	一・三三〇
同朝鮮人	八〇〇	一・〇五〇	七〇〇	一・〇〇〇	八〇〇	―	一・二〇〇	―	一・三〇〇	六〇〇	―	九三〇
靴製造職	―	一・六五〇	二・三〇〇	―	一・三〇〇	一・二五〇	一・三〇〇	一・二五〇	―	一・八〇〇	二・〇〇〇	一・六一〇
洋服職工	―	一・五五〇	二・五〇〇	―	一・五〇〇	一・二五〇	一・五〇〇	一・二五〇	二・〇〇〇	一・五〇〇	一・八〇〇	一・六五〇
車夫	一・四五〇	一・三五〇	一・九〇〇	一・五〇〇	二・〇〇〇	一・五〇〇	一・五〇〇	一・三〇〇	二・〇〇〇	一・〇〇〇	―	一・五五〇
同朝鮮人	一・一〇〇	一・二五〇	一・七〇〇	一・五〇〇	一・五〇〇	一・五〇〇	一・二〇〇	一・一〇〇	―	―	―	一・三四〇
人夫	七〇〇	一・一五〇	九〇〇	七〇〇	八〇〇	六二〇	七五〇	七四〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇	八五〇
同朝鮮人	六〇〇	五五〇	四二〇	四五〇	四〇〇	四五〇	三五〇	四〇〇	五〇〇	四五〇	六〇〇	四七〇

第五款　參考資料

第一　各手形組合保證及仕拂額表

組合名	前月末現在額	保證額	仕拂額	現在額
	円	円	円	円
漢城	四〇七、三九〇・〇〇〇	一三六、七二〇・〇〇〇	一四二、六二〇・〇〇〇	四〇一、四九〇・〇〇〇
水原	四六、八八〇・〇〇〇	一八、一五〇・〇〇〇	二三、一八〇・〇〇〇	四一、八五〇・〇〇〇
平壤	一六九、二九五・〇〇〇	六八、九一〇・〇〇〇	七五、二三五・〇〇〇	一六二、九七〇・〇〇〇
鎭南浦	九六、八三〇・〇〇〇	四一、〇三〇・〇〇〇	四四、二三〇・〇〇〇	九三、六三〇・〇〇〇
大邱	一六五、七八〇・〇〇〇	四八、一五〇・〇〇〇	五〇、七四〇・〇〇〇	一六三、一九〇・〇〇〇

全州	五五,六〇〇・〇〇〇	二二,二五〇・〇〇〇	一七,〇〇〇・〇〇〇	六〇,八五〇・〇〇〇
晋州	九二,二八五・〇〇〇	五二,六六五・〇〇〇	三二,二九五・〇〇〇	一二二,六五五・〇〇〇
光州	八三,九一〇・〇〇〇	三〇,二八〇・〇〇〇	二八,七五〇・〇〇〇	八五,四四〇・〇〇〇
總計	一,一一七,九七〇・〇〇〇	四一八,一五五・〇〇〇	四一四,〇五〇・〇〇〇	一,一二三,〇七五・〇〇〇

第二 手形交換

（一） 京城、釜山手形交換所手形交換高表

銀行別	仕拂手形						持出手形					
	京城		釜山		計		京城		釜山		計	
	交換金額 円	交換差額 円	交換金額 円	交換差額 円	交換金額 円	交換差額 円	交換金額 円	交換差額 円	交換金額 円	交換差額 円	交換金額 円	交換差額 円
朝鮮銀行	九四八,三六〇	一八一,一五四	二六六,七八七	二九,四九八	一,二一五,一六七	二一〇,六五二	一,〇〇九,四四六	二四三,三三〇	四一四,四〇〇	一七七,一一一	一,四二三,八四六	四一九,三三一
第一銀行支店	六二一,八七六	一〇三,六三一	四九九,五三〇	八六,七四九	一,一二一,四〇六	一八九,三七〇	七三九,一八四	二一九,九三九	五一八,一九一	一〇五,五一〇	一,二五七,三七五	三二五,四三九
百三十銀行支店	五二三,〇七四	一六七,一八〇	一六五,九六三	一五,二二一	六八九,〇三七	一八二,四〇一	四二四,一〇三	六八,二〇九	一九七,一〇六	四六,二六四	六二一,二〇九	一一四,四七三
十八銀行支店	四〇七,〇一二	六〇,三七一	三九八,七九三	九四,九九三	八〇五,八〇五	一五五,三六四	五七八,二〇四	二三一,四六三	三六九,七五八	六五,九五八	九四七,九六二	二九七,四二一
漢湖農工銀行	三七四,二八八	一七四,九三五	—	—	三七四,二八八	一七四,九三五	二七九,三〇八	七九,九四五	—	—	二七九,三〇八	七九,九四五
朝鮮商業銀行	四一一,三一一	一三七,七五八	—	—	四一一,三一一	一三七,七五八	三三二,三五三	四八,六九九	—	—	三三二,三五三	四八,六九九
韓一銀行	六五,八九三	三九,一七五	—	—	六五,八九三	三九,一七五	三六,六三五	九,九〇七	—	—	三六,六三五	九,九〇七
漢城銀行	一六一,七七七	七九,六六七	—	—	一六一,七七七	七九,六六七	一三四,四八九	四三,三七九	—	—	一三四,四八九	四三,三七九
慶尚農工銀行	—	—	三二八,一八〇	一四三,六九九	三二八,一八〇	一四三,六九九	—	—	八八,〇六七	三一,五八六	八八,〇六七	三一,五八六
周防銀行支店	—	—	一四七,三三三	四五,五六七	一四七,三三三	四五,五六七	—	—	一一九,〇六三	一七,二九八	一一九,〇六三	一七,二九八
京城郵便局	三四三,七一七	—	—	—	三四三,七一七	—	三四三,七一七	—	—	—	三四三,七一七	—
合計	三,八五七,三三八	九四三,七五一	一,七〇六,五八五	四一五,七二七	五,五六三,九二三	一,三五八,四七八	三,八五七,三三八	九四三,七五一	一,七〇六,五八五	四一五,七二七	五,五六三,九二三	一,三五八,四七八

（二） 交換手形種別表

證書種別	京城		釜山		計	
	枚數	金額 円	枚數	金額 円	枚數	金額 円
小切手	九,六一六	二,六九五,一二八	五,六〇七	一,四二九,三二五	一五,二二三	四,一二四,四五三

爲替手形	三九四	二二一、一四四	八二七	一六五、〇八二	一、二二一	三八六、二二六
約束手形	四九	二二、三二七	三一	一一、二八四	八〇	三三、六一一
仕拂命令	八九九	四七〇、三五〇	六〇	九、三三六	九五九	四七九、六八六
郵便爲替證書	一、九四一	三四三、七一七	—	—	一、九四一	三四三、七一七
公債債券同利札	九一五	五一〇	—	—	九一五	五一〇
雑證票	一八五	一〇四、一五二	四一	九一、五五八	二二六	一九五、七一〇
合計	一三、九九九	三、八五七、三三八	六、五六六	一、七〇六、五八五	二〇、五六五	五、五六三、九一三

第三 一月中大阪及仁川定期米相場表 (△印ハ減)

年月	大阪 當限 最高	大阪 當限 最低	大阪 當限 平均	大阪 中限 最高	大阪 中限 最低	大阪 中限 平均	大阪 先限 最高	大阪 先限 最低	大阪 先限 平均	仁川 當限 最高	仁川 當限 最低	仁川 當限 平均	仁川 中限 最高	仁川 中限 最低	仁川 中限 平均	仁川 先限 最高	仁川 先限 最低	仁川 先限 平均
一月中	一九、一四〇	一八、〇五〇	一八、五九〇	一八、七九〇	一七、九二〇	一八、三六〇	一八、六六〇	一八、〇八〇	一八、三六〇	—	—	—	一三、八九〇	一三、一〇〇	一三、五五〇	一三、九六〇	一三、〇二〇	一三、六七〇
對前月增減	一、三六〇	一、六〇〇	一、三六九	九七〇	一、六七〇	一、三三〇	九一〇	一、七四〇	一、二七〇	—	—	—	二、四九〇	一、八七〇	二、二五〇	一、三五〇	一、九九〇	一、六一〇
對前年同月增減	四、四五〇	二、九二〇	五、五五二	—	—	—	三、七二〇	三、七二〇	三、七四五	—	—	—	—	—	—	—	—	—

第四 一月中朝鮮産大豆大阪相場表 (△印ハ減)

年月	釜山 高	釜山 低	釜山 平	仁川 高	仁川 低	仁川 平	鎭南浦 高	鎭南浦 低	鎭南浦 平	元山 高	元山 低	元山 平
一月中	一〇、八〇〇	一〇、二〇〇	一〇、五九〇	一一、〇〇〇	一〇、二〇〇	一〇、六二〇	一一、二〇〇	一〇、二〇〇	一〇、六七〇	一二、五〇〇	一二、四〇〇	一二、四六〇
對前月增減	—	六四〇	六〇〇	一、一〇〇	四〇〇	七四〇	六〇〇	△四〇〇	七〇	—	—	—
對前年同月增減	—	一、八九〇	一、六五二	一、八五〇	一、八〇〇	一、六二〇	一、七〇〇	一、二〇〇	一、四八九	—	—	—

運輸及交通

○軌道及輕便鐵道ノ認許及出願 (四十五年二月分)

許可若ハ認可シタルモノ左ノ如シ

一、京城府内東大門黄土峴間複線軌道車輛運轉ノ件

一、同龍山漢江通六丁目ヨリ分岐シ元町四丁目ニ到ル軌道車輛假運轉ノ件(以上日韓瓦斯電氣株式會社出願)

出願シタルモノ左ノ如シ

一、京城府内清涼里電車軌道終點附近ヨリ分岐シ清涼里鐵道停車場構内ニ到ル約十四鎖間軌道敷設ノ件（日韓瓦斯電氣株式會社出願）

一、全羅北道群山府内各國公園下ヨリ鐵道停車場ニ到ル約一哩間人車軌道敷設ノ件（全羅北道群山府本町通岩田宇之助外八名出願）

一、曩ニ許可シタル慶尙北道漆谷郡巴彌面倭舘驛ヨリ洛東江岸間人車軌道敷設工事施行ノ件（慶尙北道漆谷郡巴彌面倭舘松原米吉出願）

○鐵道建設工事概況（四十五年二月末日調）

一、京義線改築工事

淸川江避溢橋新設其ノ他工事　土工工事ハ結氷ノ爲施工セス橋梁工事ハ七厘通成工シ全體トシテハ未タ歩通ヲ計上スルニ至ラス

元平壤保線事務所ヲ龍山停車場構内本局廳舍ニ移轉改增築工事　基礎工事五分通軸及屋根工事三分通成工シ全工事ヲ通シ約二分五厘通成工セリ

龍山停車場構内旋盤及組立工場其ノ他新設工事　本月十五日工事ニ著手シ未タ歩通ヲ計上スルニ至ラス

二、平南線改築工事

橋梁改築工事　結氷ノ爲工事ヲ中止セリ

三、京釜線改築工事

漢江橋梁新設工事　基礎工事八分通軀體工及前後築堤工事二分通全工事ヲ通シ約五分通成工セリ

四、京元線建設工事

（龍山方面）

土工、橋梁及隧道工事

漣川鐵原間（二十八哩八分）結氷ノ爲成工歩通ヲ記スルニ至ラス

漢灘江橋梁鋼桁架設工事　桁架足場及「トラベラー」ノ組立ヲ終リ全體ヲ通シテ約三分通成工セリ

軌道敷設竝建築列車運轉　客年十二月中龍山起點三十八哩七十二鎖（漢灘江左岸）ニ達ス

建物工事　施工中ノモノナシ

電線　客年十一月中平康迄通話ヲ開始ス

用地　龍山洗浦間丈量及買收ノ全部終了セリ

（元山方面）

土工、橋梁及隧道工事

元山南山間（十三哩六分）結氷ノ爲工程ヲ記スルニ至ラス

用地　元山元山里間（三哩一分）八分三厘通、元山南山間（十哩五分）九分七厘通、南山龍池院間（十哩九分）八分五厘通、龍池院高山間（四哩二分）八分八厘通ノ買收ヲ了セリ

五、湖南線建設工事

（大田方面）

土工、橋梁及隧道工事

大田連山間（二十四哩六分）　引續キ修補工事ノ施工中ナリ
裡里金堤間（十一哩五分）　土工工事五分五厘通成工シ橋梁工事ハ未タ歩通ヲ計上スルニ至ラス全體ヲ通シテ約三分通成工セリ
金堤四街里間（二十七哩）　未タ工程ヲ記スルニ至ラス
第二蘆嶺隧道工事（延長三千百二呎）　導坑堀鑿百九呎丸形切擴三十四呎「シヤフト」堀鑿百四十七呎ニ達ス
第一蘆嶺隧道工事（延長千五十六呎）　導坑堀鑿三百八十五呎丸形切擴百八十八呎ニ達ス
軌道敷設並建築列車運轉　江景裡里間（十七哩）及群山支線（十四哩八分）ニ達ス
建物工事　群山停車場本屋其ノ他新築工事ハ竣功シ咸悅及黄登停車場構内八等官舍其ノ他新築工事ハ三分通成工セリ
電線　停車場本屋落成ヲ俟チテ施工スヘキ部分ヲ除キ全線竣功セリ
用地　群山支線（十四哩八分）七分二厘通、裡里井邑間（二十七哩二分）六分二厘通買收ヲ了シ其ノ他ノ區間ハ先月ト大差ナシ

（木浦方面）

土工、橋梁及隧道工事
本浦夢灘間（十二哩）　土工工事三分六厘通全體ヲ通シテ三分二厘通成工セリ
夢灘鶴橋間（十哩三分）　土工工事三分六厘通全體ヲ通シテ二分七厘通成工セリ
雲洞隧道工事（延長四百六十二呎）　導坑堀鑿三百八十四呎ニ達ス
望永隧道工事（延長四百二呎六分）　導坑貫通ス
用地　木浦鶴橋間（二十二哩三分）七分九厘通、鶴橋榮山浦間（十一哩二分）五分七厘通ノ買收ヲ了シ榮山浦四街里間（三十四哩八分）二十哩五分ノ丈量ヲ了セリ

○通信事業施設概況　（四十五年一月分）

第一　通信機關及取扱業務ノ開始
本期間内ニ於テ開廢施設シタル通信機關數ヲ擧クレハ左ノ如シ

郵便局ノ設置　一（鎮海）
郵便所ノ設置　四
郵遞所ノ廢止　二

又本期間内ニ於ケル取扱業務增加數ヲ擧クレハ左ノ如シ

通常郵便ノ取扱開始　三
小包郵便ノ取扱開始　五
郵便爲替貯金ノ取扱開始　五
國庫金受拂事務ノ開始　五
電報ノ取扱開始　八
電話通話ノ取扱開始　八
電話交換業務ノ開始　三（春川、羅州、榮山浦）

特設電話交換ヲ普通電話交換ニ變更　一（晉州）

如上施設ノ結果一月末日現在通信機關ノ現狀左ノ如シ

種別	局所數	業務取扱別								
		通常郵便	小包郵便	爲替貯金	電報 和文	電報 歐文	電報 諺文	電報 交換及通話	電報 通話	國庫金受拂
郵便局	一八九 外分室四	一八九 外分室二	一八九 外分室三	一八九 外分室一	一八〇 外分室一	一八〇 外分室一	一八〇 外分室一	三三	一二九	一六一 外分室一
郵便所	二五四	二五四	二五四	二五四	八六	八六	八六	八	七〇	二一八
鐵道驛電信取扱所	•六一	｜	｜	｜	六一	｜	｜	｜	｜	｜
郵遞所	六	六	｜	｜	｜	｜	｜	｜	｜	｜
郵便受渡所	二	二	二	｜	｜	｜	｜	｜	｜	｜
計	五一二 外分室四	四五一 外分室二	四四五 外分室三	四四三 外分室一	三二七 外分室一	二六六 外分室一	二六六 外分室一	四〇	一九九	三七九 外分室一

第二　郵便

一、郵便遞送ニ關スル施設事項

郵便遞送ニ關スル施設トシテハ郵便所ノ開設ニ伴ヒ新ニ郵便線路ヲ開キ又ハ關係郵便線路ヲ變更セルモノノ外一般ノ改良ニ依リ郵便線路ヲ開廢變更セルコト等ニシテ其ノ計數ヲ擧クレハ左ノ如シ

一　線路開始　九（毎日便）

一　線路廢止　七（毎日便）

一　小包郵便ノ遞送ヲ開ケル線路　一

一　標準時ノ改正其ノ他ニ依リ發著時刻又ハ遞送方法ヲ改メシ線路　六二

右ノ外一月二十五日ヨリ縣洞新市街ニ鎭海郵便局設置ニ伴ヒ同地ト馬山間船便ニ依ル郵便發著回數ハ毎日二回ナリシモノヲ毎日三回ニ增加セリ

二、郵便集配ニ關スル施設事項

郵便集配ニ關スル改良施設トシテハ莞島局ノ郡書記囑託集配ヲ廢シ同局直傭集配人ヲシテ集配セシムルコトニ改メ其ノ他一般ノ改良竝郵便局所ノ開設鐵道及陸路郵便線路ノ發著時刻改正等ニ伴ヒ集配上ノ改良施設ヲ爲セル事項及其ノ計數左ノ如シ

一　郵遞所ヲ郵便所ニ改定ノ爲集配區畫ヲ細分規定セル所數　二

一　郵便所新設ノ爲郵便區ヲ分割設定セシ所數　二

一　郵便區又ハ集配區畫ノ組替ヲ爲セシ局所數　八

一　集配區畫ヲ分割增加シ又ハ集配回數ヲ增加セシ局所數　五

一　郵便區市內ニ郵便函新設ノ爲取集便ヲ開始セシ局所數　四

一　郵便局所ニ遼隔セル地ニ遞送途中集配ヲ開始セシ個所數　一二

一　前各項ノ外集配時刻其ノ他集配方法ヲ改善セシ局所數　一五九

右ノ外電信事務取扱開始ノ爲電報配達區畫ヲ分割改定セシモノ七局所アリ

第三　電信電話

一、電信電話回線

電信電話回線ニ關スル改良施設トシテハ電信電話事務取扱開始其ノ他ニ依リ左記ノ回線ヲ變更又ハ新設シ其ノ他電報中繼順路ヲ變更セルモノ二件、電話通話事務取扱開始ニ伴ヒ呼出地域ヲ改定セルモノ八局所等トス

電信電話回線ノ新設又ハ變更

回線名	
京城開城線(電信電話兼用線)	京城汶山線ヲ開城ニ延長ス
春川麟蹄線(同上)	春川楊口線ヲ麟蹄ニ延長ス
水原天安線(同上)	接續局ニ平澤ヲ追加ス
大邱若木線(同上)	新設
榮川奉化線(同上)	同上
釜山馬山二番線(電話線)	同上
馬山元町縣洞線(電信線)	接續局ニ鎮南ヲ追加ス
馬山鎮海線(電話線)	馬山縣洞線ヲ鎮海ニ延長ス
平壤鎮南浦線(電信電話兼用線)	接續局ニ江西ヲ追加ス

二、電信電話工事

一　南平特設電話開始工事ハ本年一月中竣成加入者四名收容二月一日ヨリ交換業務開始ノコトトセリ

一　本年度計畫電信事務開始工事中ノ長淵郵便所ハ本年一月二十七日求禮郵便所ハ同三十日孰レモ竣成セリ

一　釜山馬山間市外電話線一回線ノ增設工事ハ本年一月二日竣成セリ

一　鎮海郵便局電信創設工事ハ本年一月二十日竣成同日直ニ業務ノ取扱ヲ開始セリ

司法

○出獄人保護ノ概況

出獄人保護事業ノ發達ハ漸次其ノ緒ニ就キ各地トモ夫夫計劃中ナルカ今明治四十四年中ニ於ケル概況ヲ記セハ左ノ如シ

一、仁川ニ在リテハ仁川寺ノ經營ニ係ル仁川救護院ニ交渉シ仁川分監及其ノ他ノ監獄ヨリ釋放シタルモノニシテ寄邊ナキモノハ同院ニ於テ引受ケ保護シ或ハ旅費ヲ調達シテ歸國セシメ又ハ職業ノ紹介ヲ爲シテ正業ニ從事セシメツツアリ又同院ニ於テハ毎月二十五日仁川分監長及同院管理者出席ノ上被保護者及最寄ノ假出獄者釋放者ヲ招集シテ精神修養上ノ教訓ヲ施セリ

一、公州ニ在リテハ岩田檢事正、服部警務部長、菱田內務部長、田中慈惠醫院長、鯰江典獄、朴郡守、鷲田警察署長、小川日本人會長、劉東部面長及美南部面長ノ十名發起人トナリ公州慣業院ヲ設立シ主トシテ出獄人ヲ保護スルコトトセリ其ノ規程及施行細則ノ全文左ノ如シ

公州慣業院規程

第一條　本院ハ出獄人ニシテ親族故舊ノ頼ルヘキモノナク又生業ヲ立ツヘキ職業ナキモノヲ保護監督シ自立自營ノ道ヲ開キ良民ニ復歸セシムルヲ以テ目的トス但シ出獄人以外ノ者ト雖必要ト認メタル場合ニ於テハ一時之ヲ保護スルコトアルヘシ

第二條　本院ハ公州慣業院ト稱シ公州ニ之ヲ置ク

第三條　本院ノ維持ハ慈善家ノ寄附金ヲ以テ之レニ充ツ

第四條　本院ニ左ノ役員ヲ置ク

院長一名　院務ヲ總理シ本院ヲ代表ス

監事若干名　院務及在院者ヲ監督シ其ノ他取締ニ關スル事項ヲ掌ル

理事若干名　院長ノ命ヲ受ケ會計及庶務ニ從事ス

評議員若干名　本院ニ關スル重要事務ヲ審議ス

第五條　本院ノ役員中在院者外部ノ監督ニ從事スル監事竝常時院務ニ從事スル理事ニ限リ之ニ相當ノ手當金ヲ支給スルコトヲ得

本院ノ事業ニ特別功勞アリト認ムル者アルトキハ評議員會ノ決議ヲ經テ之ニ慰勞金ヲ與フルコトヲ得

第六條　院長ハ評議員之ヲ選定シ監事及理事ハ院長之ヲ囑託ス

第七條　規程ノ改正又ハ評議員ノ補缺增減ハ評議員會ニ於テ之ヲ決ス但シ創立ノ際ハ發起人ニ於テ評議員ヲ推擧ス

第八條　院長ハ毎年六月十二月ノ二回本院ノ事務成績竝會計出納ニ關スル事項ヲ院內一定ノ場所ニ公示ス

第九條　本規程ハ明治四十四年九月一日ヨリ施行ス

公州慣業院規程施行細則

第一條　本院ニ於ケル出獄者ノ保護ハ左ノ方法ニヨリ之ヲ行フ

一　家庭善良ナル家ヘ傭人ニ紹介スルコト

一　農工業日傭及公州衞生組合ノ事業ニ使役勞働セシムルコト

一　自治ノ道立ツニ至レハ保護ヲ解キ外宿又ハ家庭ニ復歸セシムルコト

第二條　本院ノ保護ヲ受ケムト請フモノアルトキハ院長ハ豫メ本人ニ就キ(又ハ監獄ニ其ノ取調方ヲ囑託シ)身上其ノ他諸般ノ關係ヲ審査シ規程等ヲ說示シ異議ナキトキハ其ノ承認ヲ與フルモノトス

第三條　本院ノ維持費ヲ寄附金ヲ以テ補充スルハ必要ノ時機ニ於テス

第四條　本院ノ役員ハ當分如左之ヲ定ム

院長　一人

評議員　六人以下

監事　四人以下

理事　四人以下

評議員會ハ必要ニ應シ之ヲ開ク但シ會同ヲ省略シテ回覽議決ニ代ユルコトヲ得

第五條　左ノ役員ニハ月手當金ヲ給ス

外部監督ノ事務監事　内地人十五圓以上四十圓　朝鮮人七圓以上十五圓

常時院ニ在テ院務ニ從事スル理事　内地人十圓以上三十圓　朝鮮人六圓以上十二圓

第六條　役員ノ囑託及解任ハ院名辭令書ヲ以テス

第七條　本院ニ左ノ諸帳簿ヲ備フ但シ可成數年間繼續使用ノ目的ヲ以テ之カ設備ヲ爲シ尙左ノ區別ニ依リ之カ整理ヲ爲スモノトス

一　寄附金品收納簿　金品ニ部トシ物品ハ事務用ト事業用ト册中內譯ヲ爲スモノトス

二　就業簿　就業年月日、出先、業種、就業時間、就業人員ヲ登記スルモノトス

三　現金出納簿　寄附金ト受負金トヲ册中內譯登記スルモノトス

四　備品受拂簿　事務所寄宿所用品ト事業用器具トヲ册中內譯登記スルモノトス

五　消耗品受拂簿　日常用ト外部事業用トヲ册中內譯登記スルモノトス

六　日誌　慣業院內外事務關係ノ要項ヲ日記スルモノトス

第八條　在院者ニハ每週一回以上訓誨ヲ施スモノトス尙志望者又ハ必要ト認ムル者ニ對シテハ之ニ習字ヲナサシムルコトヲ得

第九條　本院ノ所持金ハ總テ銀行若ハ郵便局ニ預入シ院內ニ現金ハ留置セサルモノトス

但シ日常必要ノ限定金額ハ此ノ限ニアラス

第十條　在院者ヲ傭入レントスルモノアルトキハ本院ハ直接雇主ニ勞働及賃金ヲ約定シ之ニ應スルモノトス

第十一條　在院者所得ノ賃金ハ每月之ヲ積算シ食費其ノ他ノ雜費ヲ控除シ殘額及入院ノ際所持スル金員ハ本人ノ名義ニテ銀行預金又ハ郵便貯金ト爲サシメ利殖ヲ計リ其ノ通帳ハ本院ニ於テ保管シ濫費ヲ防止シ保護ヲ解クノ際本人ニ之ヲ交付ス

但シ細則第十三條ニ妨ケナキ手續ハ盡シ置クヘシ在院者ニシテ貯金拂戾ノ請求ヲ爲シタルトキハ院長ハ其ノ事由ヲ調査シ必要ト認ムルトキノ外之ニ承認ヲ與ヘス

第十二條　在院者ニハ臥具及勞働用器具ヲ貸與スルノ外時服及理髮等ノ費用ハ自辨セシム若自辨シ能ハサル者ニハ貸與又ハ惠與スルコトアルヘシ

第十三條　在院者ニシテ本院又ハ他人ニ對シ損害ヲ加ヘタルトキハ其ノ情狀ニ依リ保管ノ貯金ヲ以テ賠償セシムルコトアルヘシ

第十四條　在院者逃亡シタルトキハ其ノ遺留金品ハ本院ノ資金ニ加入スルモノトス

第十五條　在院者死亡シ引取人ナキトキハ本院ニ於テ埋葬ス死亡者ノ金品ハ其ノ費用ニ充ツ剩餘アルトキハ親族ニ交付スヘシト雖受取人ナキトキハ本院ノ資金ニ加フ

第十六條　在院者自立自營ノ途立ツニ至レハ隨時保護ヲ解ク

モノトス
而シテ明治四十四年九月以降同院ニ引取リ職業ヲ與ヘタルモノ七人職業ノ紹介ヲ爲シタルモノ二人合計九人ニシテ何レモ成績良好ナリ

一、清州ニ在リテハ明治四十四年十二月清州分監職員一同規約ヲ設ケ清州出獄人保護會ナルモノヲ組織シ會員ノ醵出金ヲ以テ免囚中必要ト認ムル者ニ限リ保護ヲ與フルコトトセリ其ノ規約左ノ如シ

清州出獄人保護會

第一條　本會ハ清州出獄人保護會ト稱シ清州分監內ニ之ヲ設置ス
第二條　本會ハ主トシテ清州分監出獄人中特ニ必要ト認ムル者ヲ保護スルヲ以テ目的トス
第三條　本會ノ保護ハ概ネ左ノ方法ニ據ル
一　就職ノ紹介ヲ爲スコト
二　衣類又ハ歸鄉旅費ナキ者ニ之ヲ惠與スルコト
三　前各項ノ外本會役員會ニ於テ特ニ必要アリト認ムル者ニ對シ相當ノ保護ヲ加フルコト
第四條　本會ハ會員ノ會費及慈善家ノ義捐金其ノ他ノ收入ヲ以テ之ヲ維持ス
第五條　分監職員ハ凡テ會員トシ左ノ二種ニ分ツ
一　正會員　每月二十錢以上ノ會費ヲ納ムル者
二　普通會員　每月五錢以上ノ會費ヲ納ムル者
但シ會長ニ於テ會費徵收ノ必要ナシト認ムルトキハ臨時其ノ徵收ヲ中止スルコトアルヘシ尙一應納付セシ會費ハ轉任退職其ノ他ノ場合ト雖返付ヲ求ムルコトヲ得ス
第六條　本會ニ左ノ役員ヲ置ク
一　會長一名　會長ハ分監長ヲ以テ之ニ充ツ
會長ハ會務ヲ總理シ本會ヲ代表ス會長事故アル時ハ年長ノ幹事之ヲ代理ス
二　幹事若干名　幹事ハ分監在勤ノ監獄醫敎誨師及看守部長ヲ以テ之ニ充ツ
幹事ハ會長ノ命ヲ承ケ保護監督等ノ事務ニ從事ス
三　書記一名　書記ハ分監在勤ノ看守中ヨリ會長之ヲ命ス
書記ハ會長及幹事ノ命ニヨリ庶務會計ノ事務ニ從事ス
第七條　役員ハ總テ無報酬トス
第八條　保護ノ成績及收支計算ハ便宜ノ方法ニ依リ每年一回之ヲ會員ニ報告ス
第九條　會員ハ隨時本會ノ成績其ノ他ノ帳簿ヲ檢閱スルコトヲ得

一、咸興ニ在リテハ同年十一月咸鏡南道廳ニ於テ府尹郡守會議開催ノ際同監獄典獄其ノ席ニ臨ミ囚人ノ狀況及既往ニ於テ職員カ多少ノ保護ヲ加ヘタル事例竝將來長刑期者ノ釋放セラルル時期ニ至ラハ家庭知友ニ疏遠ヲ加フルニ隨ヒ保護ヲ

要スル者續出スヘキハ自然ノ數ナル所以ヲ說示シテ其ノ起草セル保護案ヲ道長官ノ手ヲ經テ交付シ府尹郡守ハ歸任ノ後方案ヲ定メ意見ヲ附シ通報スルコトトセリ其ノ保護案ノ概要ハ道廳所在地ニ保護團ヲ設ケ府廳及郡廳所在地ニ保護團支部ヲ置キ以テ出獄人ノ保護ヲ爲シ又ハ出監ノ際時衣及歸鄕ノ旅費無キモノ若ハ病氣等ノ爲途中保護ヲ要スルモノニシテ本人ノ家族及親族等ニ發信スルモ之ニ應スルモノナキトキハ監獄ヨリ所轄警察官署、府廳、郡廳又ハ面長ニ照會シテ相當ノ人ニ訓諭スルコトト爲ス等ナリ

一、海州ニ在リテハ監獄敎誨師ヲ主任トシ同職員ヨリ醵金シ掃除用ニ使用スヘキ器具卽チ「スコップ」鶴嘴、鍬、糞便運搬器等ヲ備付個人ノ雇傭ニ應セシムヘキ計畫ヲ立テ之カ準備中ニ屬シ又客年十二月以來同監獄職員一同協議ノ結果出獄人保護會ノ基本金トシテ各自俸給四百分ノ一ヲ醵出シ保護上ニ要スル機關ノ基礎トナスコトトセリ

一、釜山ニ在リテハ同年十二月釜山保護園ナルモノヲ設ケ先以テ同監職員ノ賛同ニ依リ各每月相應ノ醵金ヲ爲セリ其ノ趣意書及定款ハ左ノ如シ

釜山保護園趣意書

免囚ニ保護ナク浮浪者ニ正業ヲ與ヘ若ハ寄食セシムル處ナク孤兒貧者行路病者ノ保育療養ノ方法ナキハ人類社會ノ缺陷ニシテ頓カテハソレカ爲ニ吾等同胞ニ悲ムヘキ忌ムヘキ犯罪者ヲ多數ナラシムルニ至ル「世ノ犯罪者ハ社會カ自身ノ不完全ヨリ產出シタル社會ノ罪ナリ」ト謂フ人アルハ强チニ誣言ニアラサルヘシサレハ此等ノ哀ムヘキ同胞ヲ救濟スルコトハ吾等ノ罪ノ辨償ニシテ社會當然ノ自衞ナリ朝鮮ノ咽喉東亞ノ關門タル吾カ釜山ニハ未タ此ノ自衞ヲ行ヒ救護スルノ機關ナク其ノ活動ヲ要スヘキ事實ハ遺憾ナカラ日日多數ニ產出セラルルモノアリ是ニ於テ先ツ免囚ノ保護浮浪者等ヲ救濟保護スヘキ釜山保護園ヲ設ケ特志慈善家ノ喜捨ニヨリテ此ノ事業ヲ創始セムトス若夫レ多額ノ資ヲ集メ初ヨリ大規模ノ慈善團ヲ起スコトハ今ハ時機ノ許ササルモノアリ其ノ大成ヲ期セムコトハ更ニ他日ニ讓リ唯知人僚友間ノ同情ニマチ零細ノ資ヲ醵集シ本旨ノ何分ヲモ遂行シ得テ之ニヨリ彼等ノ幾人ニテモ正業ニ就キ人道ニ入ルノ便ヲ得ハ之レヲ以テ本園設立ノ趣旨ニ適フモノト爲ス別紙釜山保護園假定款ヲ設ケタル所以卽チ之レナリ

釜山保護園定款

一釜山保護園ハ監獄釋放者警察留置者等ニシテ賴ルヘキ所ナク又ハ職業ナキ者ヲ保護シ進ムテハ孤兒貧者行路病者ノ保護療養ノコト等慈善事業ヲ行フヲ目的トス

一本園ノ事務ハ當分釜山監獄內ニ於テ之ヲ取扱フ

一本園ハ何人ヲ問ハス本園ノ爲每月金品ヲ寄送シ又タハ一回ニテモ金品ノ寄送ヲナシタル人ヲ永遠ノ贊助員トス

一本園ニハ左ノ役員ヲ置キ無報酬トス

顧問　數名

評議員　若干名

以上本園ノ設立及維持ニ關シ功勞アル人ヲ推戴ス

園長　一名

當分釜山監獄典獄ニ其ノ事務ヲ囑託ス

庶務理事　一名

保護理事　若干名

會計理事　一名

以上ハ當分園長ヨリ囑託ス

一本園評議員會ハ必要ニ應シ便宜ニ之ヲ開會シ顧問ノ一人ヲ會長トシ其ノ他ノ役員ハ評議會員トシテ意見ヲ陳ヘ可否ノ數ニ加ハルモノトス

一本園ニ寄送シ來リタル金員物件ハ總テ事業ノ資ニ供シ其ノ被服、食物、藥餌、郵稅、旅費ニ關スル費用及事務用品ノ出費ハ園長ニ於テ理事ノ評決ニヨリ支出スルモノトス

本園ニ保護者收容場、附屬耕耘地又ハ作業場ヲ設ケ若ハ特ニ慈善演藝會等ヲ開カムトスルトキハ豫メ評議員會ノ決議ヲ經ヘキモノトス

一本園ニ備フル帳簿左ノ如シ

贊助員名簿、寄送金品申込簿、現金出納簿、物品出納簿、日誌

一會計理事ハ毎年一月及七月ノ兩回ニ前半期分ノ決算ヲナシ園長及他ノ理事ノ監査ヲ經テ之ヲ顧問評議員ニ報告シ同時ニ之ヲ贊助員ニ發表ス

一本園定款ハ評議員會ノ決議ニヨリ何時ニテモ之ヲ改正スルコトヲ得

一、大邱ニ在リテハ既報ノ如ク客年四月同監獄職員間ニ於テ出獄人保護會ヲ設ケ爾來實行中ニシテ同會ヨリ歸鄕旅費ヲ惠與シタルモノ三件家族トノ連絡ヲ結ハシムル爲郵劵ヲ惠與シタルモノ二十七件アリ（別表參照ノコト）

一、前記ノ外各監獄ニ在リテハ出監ニ際シ歸鄕旅費及時衣ナキモノニ對シテ直接間接ニ本人ノ家族、親族及知己ノ者ヘ諭示シテ之ヲ送付セシメ或ハ監獄職員ニ於テ引取リ保護ヲ加ヘ、職員ノ紹介ヲ爲シ又ハ親族、知己ヲ呼出シテ保護方ヲ諭シ且既ニ出監シタル者ニ付テモ其ノ狀況ヲ視察スル等能フ限リ保護ニ努メタルモ多クハ出獄ノ際窮境ニ在ルモノヲ一時救濟スルト共ニ善導シタルニ止リ未タ保護事業トシテ著シク活動シタルモノ少ナキカ如シト雖向後ニ於テハ其ノ設立及發達ヲ見ルニ至ルハ必然ナリ倘近時保護事業贊助ノ爲監獄職員及監獄ニ關係アル官署ノ職員竝一般ノ篤志家ヨリ金品ヲ寄贈セラルル向漸ク加ハルニ至レルハ斯業ノ爲大ニ喜フヘキコトナリ

明治四十四年ニ於ケル出獄人保護件ヲ揭クレハ左表ノ如シ

出獄人保護件數調

明治四十四年中

件名	京城	仁川	春川	永登浦	公州	淸州	咸興	元山	淸津	平壤	鎭南浦	新義州	海州	大邱	釜山	馬山	晉州	光州	木浦	全州	群山	計
歸鄕旅費ヲ惠與シタルモノ	五	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一	—	—	六
仁川救護院ニ入レタルモノ	一	三	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	四
敎誨師宅ニ引取保護ヲ加ヘタルモノ	二	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一	—	一	—	—	—	—	—	—	四
親族及知己ヲシテ保護セシメタルモノ	二	—	—	一	—	—	—	二	—	—	—	—	—	—	二	—	—	一	三	—	三	一三
大谷派本願寺ノ行旅病舍收容所ニ入レタルモノ	—	—	—	二	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	二
家族ヨリ歸鄕旅費ヲ送ラシメ又乘車(船)場迄同行乘車(船)券ヲ購求本人ニ交付シタルモノ	—	—	—	二	—	—	—	一	—	—	一	—	—	—	四	—	一	一	二	—	一	一三
水陸路ノ警察署ニ保護方ヲ依託シ歸鄕セシメタルモノ	—	—	—	一	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一	—	—	—	二
行路病者トシテ京城居留民團役所ヘ引渡シタルモノ	—	—	—	一	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一
病氣ノ爲歩行シ難キニ依リ保護ヲ加ヘ病院ニ送リタルモノ	—	—	—	一	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一
公州慣業院ニ入レタルモノ	—	—	—	—	七	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	七
職業ノ紹介ヲナシタルモノ	二	—	—	—	二	—	一	—	二	—	—	—	四	—	四	—	一	一	—	—	一	一八
本派本願寺布敎師ニ保護ヲ依賴シ歸鄕セシメタルモノ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一
歸鄕旅費ヲ監獄職員中ニテ惠與シタルモノ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	三	二	一	—	—	一	—	—	—	七
所轄警察署ヲ經テ又ハ直接家族及知己ニ衣類送付方ヲ諭示シ取寄セタルモノ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一	—	—	—	—	一	—	—	二
家族トノ連絡ヲ結ハシムル爲保護會ヨリ郵便ヲ惠與シタルモノ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	二七	—	—	—	—	—	—	—	二七
自宅ヲ訪問シタルモノ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	二	—	八	—	一九
基督敎病院ニ入レタルモノ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一	一
計	一二	三	—	八	九	—	一	三	二	—	二	—	八	三〇	一二	—	二	一六	一六	八	六	一三八

○監獄作業ノ近況

監獄作業ハ各監獄ニ於テ鋭意之カ擴張普及ヲ圖リツツアル結果ハ逐年就業者ヲ增加シ明治四十四年十二月三十日ノ現況ニ於テハ五千七百六十九人ニ達シ又就業者ト不就業者トハ六十五ト三十五ノ割合ヲ示スニ至レリ今試ニ最近三箇年間ニ於ケル就業者增加ノ狀況ヲ調査スレハ左ノ如シ

	就業人員	前期ニ比シ増減 増	前期ニ比シ増減 減
	人	人	人
明治四十二年六月三十日現在	七二三	—	—
同　十二月三十日現在	八七八	一五五	—
明治四十三年六月三十日現在	二、五九〇	一、七一二	—
同　十二月三十日現在	二、五七三	—	一七
明治四十四年六月三十日現在	三、七四二	一、一六九	—
同　十二月三十日現在	五、七六九	二、〇二七	—

備考　明治四十三年六月三十日現在就業人員ニ比シ同年十二月三十日現在就業人員ノ減少セルハ同期間ニ於テ就業者中大赦ニ依リ多數ノ出監シタルモノアリタル結果ナリ

而シテ仍同期間ニ於ケル就業人員ト不就業人員トノ割合ニ付之ヲ比較スレハ左表ノ如シ

	受刑者百人中 就業者	受刑者百人中 不就業者	前期ニ比シ増減 就業者 増	前期ニ比シ増減 就業者 減	前期ニ比シ増減 不就業者 増	前期ニ比シ増減 不就業者 減
	人	人	人	人	人	人
明治四十二年六月三十日現在	一七	八三	—	—	—	—
同　十二月三十日現在	一七	八三	—	—	—	—
同四十三年六月三十日現在	三九	六一	二二	—	—	二二
明治四十三年十二月三十日現在	四一	五九	二	—	—	二
同　六月三十日現在	四六	五四	五	—	—	五
同　十二月三十日現在	六五	三五	一九	—	—	一九

現在不就業ノ人員ハ三千八十六人ニシテ内四百九十八人ハ疾病其ノ他事故ノ爲課業スル能ハサルモノニ屬シ殘リ二千五百八十八人ハ監獄工場ノ不足ト依託若ハ受負ニ依リ在監者ノ勞力ヲ傭役セムトスル者ノ缺乏等ニ由リ未タ就業セシムルニ至ラサルモノトス

現在作業人員ヲ各監獄別ニ調査スレハ左表ノ如クニシテ受刑者全部ノ就業ヲ見ルニ至リタル監獄ハ僅ニ四箇所ニ過キス他ハ多少ノ不就業者ヲ存セリ此等不就業者ヲ存スル監獄ニ在リテハ天幕ヲ使用シ或ハ監房廊下其ノ他ノ建物ヲ利用シテ一時工場ニ充テ或ハ作業受負人ニ對シ監獄敷地ノ一部ヲ貸付ケテ工場ノ建設ヲ許シ又出來得ル限リ監外作業ニ就カシムル等ノ方法ヲ講シ以テ監獄工場ノ不足ヨリ來タストコロノ作業上ノ支障ヲ除クニ努ムルト共ニ一面又作業受負希望者ヲ募集スル等孜孜作業ノ擴張ヲ圖リツツアルヲ以テ近キ將來ニ於テハ受刑者全部ノ就業ヲ見ルニ至ルヘキヲ信ス

各監獄別作業人員表

明治四十四年十二月三十日現在

監獄		就業人員 官司業	就業人員 監獄傭夫	就業人員 受負業	就業人員 依託業	就業人員 計	不就業人員 作業上ノ都合ニ由リ	不就業人員 疾病等ニ由リ	不就業人員 計	受刑者百人中 就業者	受刑者百人中 不就業者
京城	男	九八	二四八	一、六二五	—	一、九七一	一二六	一五七	二八三	八八	一二
	女	五四	—	—	—	五四					

		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女					
永登浦		—	—	二七	一三	一二	—	一九二	—	二五〇	一三	—	二七	二七	九一	九
仁川		—	—	一三	—	二一	五	—	—	一二四	五	—	一	一	一〇〇	—
春川		八二	—	二〇	九	七〇	—	—	—	一八二	九	四七	三	五	七三	二七
咸興		二〇	—	一七	一八	—	—	一五四	—	一九一	一八	五四	二四	七八	七三	二七
元山		—	—	一〇	二	—	—	一〇〇	—	一一〇	二	六九	八	七七	五九	四一
清津		—	—	一六	三	—	—	三五	—	五一	三	八二	一	八三	三九	六一
公州		二三四	—	二七	二六	—	—	一四三	—	四〇四	二八	—	八	八	九八	二
清州		六〇	二一	九	—	—	—	一六〇	—	三九	二二	一六	三	一九	九三	七
平壤		—	—	五九	一	二九九	—	一三	二六	四七一	二七	三八四	四二	四二七	五四	四六
鎮南浦		—	—	二	—	—	—	—	—	一	—	七四	—	七四	一三	八七
新義州		—	—	一〇	—	—	—	—	—	一〇	—	一一〇	—	一〇	八	九二
海州		一〇	—	二九	二	一〇六	—	九六	—	二五	一	一三〇	九	三九	六五	三九
大邱		一八	四〇	一〇〇	六	一〇八	—	一二九	—	三六五	五六	六九二	五七	七四九	三六	六四
釜山		六	八	一三	—	一七	—	一二三	—	一七九	八	二〇四	一六	二〇	四六	五四
馬山		—	—	五	一	二九	—	一三	—	五七	一	一二	三	五	八〇	一〇
晋州		—	—	一三	五	一三	—	三〇	—	七五	五	一四九	六	一五	三四	六六
光州		二九	一九	五一	五	八〇	—	二一	—	一八一	二四	三三	一〇二	二四	四八	五三
群山		—	—	九	—	九二	七	—	—	一〇一	七	—	九	九	九二	八
木浦		二四	—	一二	一七	—	—	七〇	—	一六	一七	一〇〇	一一	二一	五一	四九
全州		五	—	四四	一五	—	—	六七	—	一六	一五	二一七	一〇	二七	三七	六三
計		五九六	一四二	七八三	一四四	二、七一〇	二三	一、三五六	二六	五、四四五	三二四					
合計		七三八		九二七		二、七三三		一、三八二		五、七六九		二、五八八	四九八	三、〇八六	六九	三九

現時施行ノ業種及各業別ニ調査シタル人員ヲ擧クレハ左表ノ如クニシテ就業者ノ大部分ヲ占ムルモノハ藁工之ニ次クハ土方ナリトス藁工ハ監獄ノ衞生及經濟上適當ノ業種ト稱スル能ハスト雖工場ニ多クノ面積ヲ費ヤサスシテ成ルヘク多數ヲ使役シ且習熟ニ易キ業種ヲ得ムトシタル結果各監獄共ニ之ヲ採用スルニ至リタルモノトス又土方ノ多キハ工場ノ不足ナルヨリ自然屋外ニ於テスル作業ヲ求メムトシタル結果ニ外ナラサルナリ

業種別就業人員表　明治四十四年十二月三十日現在

業種	官司業	受負業	依託業
裁縫工	一四六	—	三七
綿打	一〇	—	四
木工	一六	一八	五五
藁工	四八四	二二〇四	四七六
鈬力工	四	三九	四
耕耘	四八	—	—
抄紙工	二	四	—
紙袋工	—	七八	—
疊工	—	二〇	二
土方	—	六〇	四九六
木挽	—	八	二
朝鮮鞋工	—	五三	—
スリッパ工	—	二六	—
莚織工	—	三	—
叺工	—	一六	—
莞莚工	—	三八	—
麻裏工	—	四四	—
麻工	—	一〇	一三
行籃工	—	—	二五
經師工	—	—	一
靴工	—	—	一
麥稈工	—	—	五三
桶工	—	—	二
麻鞋工	—	—	一〇〇
帽子編工	—	—	一六
編工	一〇	—	—
機織工	一	一九	—
炭團工	二	—	—
竹工	六	—	—
米撰	—	一三	—
金網工	—	三三	—
亞鉛工	—	一〇	—
荷札工	—	一〇	—
上草履工	—	—	五二
網工	—	—	四三
雜役	—	六	—
合計	七三八	二七三三	一三八二

外ニ監獄傭夫（炊事夫、掃除夫、營繕夫等）トシテ使役スルモノ九百二十七人アリ

調査資料

○日本ニ於ケル柞蠶絲需要ノ状況

一、柞蠶絲輸入額

明治二十七年以降同四十三年ニ至ル日本ノ柞蠶絲輸入額ヲ擧クレハ左表ノ如シ

年次	數量（斤）	價額（圓）	百斤平均價額（圓）
明治二十七年	九、七五五	一一、九六四	一二三
二十八年	二三、五九二	三一、二九五	一三九
二十九年	一〇、〇九四	一五、一四九	一五〇
三十年	六、六〇〇	一一、三七〇	一七二
三十一年	一五、七六〇	三七、八二二	二四〇
三十二年	一五一、八五〇	三七五、一八九	二四七
三十三年	一四八、二四六	三五一、三五九	二三七
三十四年	二一三、〇一八	四三三、一八五	二〇三
三十五年	四、一八四	九六二、三三〇	二三〇
三十六年	二、七六四	一、〇五三、四六五	三八一
三十七年	一、五三九	五六一、五七七	三五二
三十八年	三、二七二	一、一三四、一三三	三四六
三十九年	四、五三七	一、七九〇、五八一	三九四
四十年	四、六八〇	二、〇七一、四六七	四四二
四十一年	三、五〇七	一、一九一、三三九	三三九
四十二年	三、五七一	一、一三七、五四七	三一八
四十三年	一、七九四	六五六、五八五	三六六

二、輸入柞蠶絲ノ品位

日本ニ於テ主トシテ需用セラルル柞蠶絲ノ品位ハ

日本娘	四百十五圓
黑金魚 七粒	三百七十五圓
金鷹	二百八十圓
祥印	二百五十圓
大枠絲 中等	二百十圓

ニシテ日本娘黑金魚ハ最上等品ノ交織若ハ横絲縞絲ニ用ヰラレ金鷹祥印ハ亦絹紬裏地ノ類ニ交織セラル而シテ大枠絲ハ粗製ノ太物ニシテ婦人ノ肩掛若ハ腰掛ニ用ヰラル今近年ニ於ケル輸入額中大枠絲小枠絲ノ比例ヲ擧クレハ左ノ如シ

	輸入梱數		同上比例	
	大枠絲	小枠絲	大枠絲	小枠絲
明治四十二年	二、二六〇	一、三一一	六・三三割	三・六七割
同四十三年	七七〇	一、二二四	三・七〇	六・三〇

婦人肩掛ノ流行廢滅ト共ニ大枠絲ノ輸入著シク減少シタルモ小枠絲ハ其ノ減少左迄甚シカラサルカ如シ

三、柞蠶絲ノ需用地

柞蠶絲ノ需要地ハ主トシテ京都及濃尾地方ニシテ濃尾地方ニ於テハ一ノ宮ヲ中心トス其ノ他關東及越後地方ナリ需用尠カラス左ニ明治四十年以降各地方輸入額ヲ示サム

年次	京都地方 梱數	京都地方 價額（圓）	濃尾地方 梱數	濃尾地方 價額（圓）	其ノ他各地 梱數	其ノ他各地 價額（圓）
明治四十年	二、六三七	一、一七〇、〇五〇	八三〇	四二一、八六九	二一三	九一、五八八
同　四十一年	一、五四五	四八八、五三一	一、四三三	五六六、七七七	三八九	一一五、一八一
同　四十二年	二、一一六	六三八、八八八	一、三四七	四七八、〇三三	一〇八	三〇、六三七
同　四十三年	九一五	三三九、三九三	五三三	二三三、二〇五	三一三	八八、六一七

四、柞蠶絲ノ用途

婦人肩掛及膝掛、結城縞ノ竪絲、絹綿交織ノ筋絲、絹紬、露國白服地、鹽瀨織魚子織ノ横絲、朱珍厚板、其ノ他帶地ノ横絲等其ノ主ナルモノナリ

京都ニ於テハ襦子、御召織ノ外殆ント柞蠶絲ヲ交ヘサルモノナク帶地ノ類ノ横絲ニハ欠クヘカラサルモノヽ如シ

五、柞蠶絲ノ調整

柞蠶絲ノ調整ハ一把三百目ニ對シ漂白及練賃五十錢撚絲賃三本合七十錢二本合一圓餘ヲ要ス漂白及練ニ對シテハ未タ甚シキ弊害ナキモ撚絲ニ就テハ殆ムト救フ可カラサル弊竇アリ京都ニハ撚絲專門ノ工場唯一二アルノミニシテ他ハ皆内職的織絲屋ナリトス而シテ織業家カ徒ニ撚絲料ヲ安價ナラシメムトシタル結果撚絲屋ハ依託絲ヲ拔キ取ル惡習ヲ生シ現今ニ於テハ俗ニ佛三匁ト稱シ佛ノ如キ正直ナル撚絲屋ニテモ一把ノ内三匁ノ絲ハ公然拔キ取ルコトヽナリ居レリ甚シキニ至リテハ五匁八匁ヲ拔キ取ルアリ更ニ甚シキニ至リテハ依託絲ヲ融通シテ遂ニ機業家ニ損害ヲ蒙ラシムルモノスラアリト謂フ而モ撚絲屋ノ數比較的ニ少キヲ以テ始終仕事ニ追ハレ委託ノ背負込多ク容易ニ約束ノ期日ニ仕上ケ能ハサルヲ常トス或ハ約束期日ヨリ二三箇月後レテ尚間ニ合ハサルモノアリ而シテ此ノ間ニ柞蠶絲相場變動シテ爲ニ織屋カ損害ヲ蒙ル事珍ラシカラス

茲ニ於テカ柞蠶絲ヲ原産地ニ於テ撚絲シ然ル後輸出セハ如何ノ問題ヲ生セリ或ハ撚絲シテ輸出セハ織屋ノ掛引ニ罹ル懼アリ卽チ自家希望ノ撚絲ナル場合ニモ殊更ニ此ノ撚固キニ過クト唱ヘ或ハ甘キニ過クト稱シ口實ヲ設ケテ安價ニ買收セムトスルハ必然ナルカ故ニ販賣頗ル困難ナルヘシト主張スルモノアリト雖モ撚方ハ斯ク多樣ナルニ非ス凡ソ通常用キル所三四種ヲ作リ注文ニ應シテ希望ノ種類ヲ送ルトセンカ此ノ苦情ヲ避クルコト容易ナルヘシ京都地方ニ於テハ前述ノ如キ弊害アルト臨時入用ノ場合ニ直ニ希望スル撚絲ヲ購フ能ハサル不便アルカ故ニ若原産地ニ於テ撚絲トシ輸出サルヽヲ得ハ絲商人モ機業家モ共ニ多大ノ便宜ヲ得ヘシ然シ之ヲ實行セムト欲セハ賃錢如何ト多少資本ヲ澁滯セシメサルヘカラサルカコトトヲ顧慮セサル可カラス

六、柞蠶絲ノ取引

從來日本ニ於テ柞蠶絲ヲ取扱フモノヽ多クハ三流以下ノ絲商人ニシテ一流二流ノモノハ未タ之ヲ取扱ハサリシカ如シ其ノ理由ハ

第一流ノ絲商人ハ柞蠶ヲ以テ擬物用ト做シ體面上之ヲ取扱フヲ憚リシコト其ノ一ナリ而カモ肩掛織大流行トナリ無資本虛業家先ツ之カ取扱ニ手ヲ染メ柞蠶絲業者間ノ惡風亦增長シテ缺ニ之ヲ混和スルニ至リタルコト其ノ二ナリ相場ノ高低亂調ニシテ稍ヽ投機的ナリシコト其ノ三ナリ柞蠶絲ノ賣先亦甚タ不安全ナリシコト其ノ四ナリ然レトモ肩掛織ノ流行頽レ柞蠶絲業者ノ倒産普ネク漸ク斯界ヲ一掃シ今日ニ在リテハ柞蠶絲ハ交織トシテ上等品ニモ鈌クヘカラサルヲ認メラルルニ至リシカハ相當ナル絲商人モ之ヲ取扱ハムトスル傾向ヲ有セルカ如シ從來日本ノ柞蠶絲ハ清商ニ依リテ多クハ大阪川口ヨリ輸入セラルルモノニシテ大阪ヨリノ輸入額ハ明治四十二年度ニ於テハ二十六萬三千五百九十三斤同四十三年度ニ於テハ七萬三千三百九十二斤ニ達セリ而シテ此等清國商人ハ(一)五厘金ト稱シ一圓ニ對シ五厘ヲ徵收シ(二)量目ノ如何ヲ顧ミス風袋ヲ合シテノ斤量ニテ販賣セムトシ(三)商品ヲ成ルヘク久シク澁滯セシメムトスル等ノ弊習アルヲ以テ日本ノ絲商人ハ柞蠶絲ノ原産地ト直接取引セムコトヲ希望シ居レリ

日本ニ於テ今後柞蠶絲ノ需要益ヽ增大スヘキハ疑ヲ容レス然レトモ今尙柞蠶織トシテ公然市場ニ賣リ出セルモノ無ク多クハ擬織交織等ニシテ範圍狹ク且騙詐ニ依リテ暴利ヲ占メムトスル商人ノ扱ヒ多キカ故ニ相場ノ亂高低ヲ免ルル能ハスシテ時ニ投機的タラムトスル傾アリ日本ニ於ケル柞蠶絲市場ハ尙危險ノ域ヲ全ク脫セスト謂フヘシ

○英殖民地及被保護國貿易對照表

統治別	領地	人口 四十三年	輸入額 四十二年 計	輸入額 四十三年 計	輸入額 四十三年 毎一人	輸出額 四十二年 計	輸出額 四十三年 計	輸出額 四十三年 毎一人	合計 四十二年 計	合計 四十三年 計	合計 四十三年 毎一人	歳入出額 四十三年度	同 毎一人	關税收入 四十三年
		千人	千円	千円	円	千円	千円	円	千円	千円	円	千円	円	千円
イ	印度	三一五,〇〇〇	八〇五,七八〇	八五八,八三〇	二•七三	一,一三五,七九〇	一,三七〇,五三〇	四•三五	一,九三一,五七〇	二,二二九,三四〇	七•〇七	一,四八四,五八七	四•六七	六〇,三八三
ハ	錫蘭	四,〇八三	八,六八六	八,九一八	二•一八	八,六七八	九,八〇一	二•四〇	一七,三六四	一八,七一九	四•五八	五三,四三一	一三•〇八	六,三七八
ハ	海峽殖民地	三六九,一二九	三六九,一二九	三六五,三八五	六三九•一三	三一九,四五四	三二八,〇四七	五七三•五〇	三二九,四五四	三三八,〇四七	一,二一三•六三	三〇,二二八	三五•三六	
ハ	香港	三三八	二九,一〇五	三五,六七四	一〇•五五	五,一〇五	四,五五七	一〇•五五	九,六六三	六四,六八九	三三•七三	一一,五五六	三四•一九	
ニ	馬來半島聯合州	九六九	五二,五四三	五一,五八五	五•三三	八〇,五九三	八七,九四七	九•〇七	一六八,五四〇	一〇四,一二七	一四•三九	五七,〇二八	五八•八五	一三,一三六
ロ	サイプラス	二六三	六,三九一	五,六七四	二一•六五	六,〇三五	五,八八九	二二•四七	一一,九三四	一一,九六五	四四•一二	五,六一一	二一•四一	四八八
イ	新南威耳斯	一,五九二	三七六,四三七	三八〇,三五〇	二三八•八五	四〇九,八五八	四一八,三七四	二六二•八〇	八三六,三三三	七五六,七七七	五〇一•六五	二七五,八二五	一七三•二五	三六,四三三

イ	ヴヰクトリア	一,二七一	二七一,九七七	二八一,五〇二	二二一・四七	二七一,九六二	二九八,九六三	二三五・二一	五七〇,九三五	五五三,四七九	四五六・六八	一六四,八七九	一二九・七二	三三,六四七
イ	クインスランド	五五二	九四,七一二	一〇一,八七七	一八四・〇六	一四一,九八〇	一四八,四四一	二六八・九一	二九〇,四三一	一九六,五八九	四五二・九七	一〇三,三三九	一八五・三七	一一,七四五
イ	南濠太剌利	四〇七	一一三,三二五	一一三,三五七	二七八・五一	一三七,七八五	一三六,四六七	三一〇・七三	二六四,二五三	二三五,六七二	五八九・二三	七四,九八九	一八四・二四	約一三,二一〇
イ	西同上	二六七	六一,七八二	六四,〇七一	二三九・九六	九五,一八〇	八八,六〇五	二三一・八五	一八一,七八五	一二五,八五三	五七一・八一	八三,三五〇	三二二・一七	約九,八五四
イ	タスマニア	一八六	三三,七一九	三一,三九九	一六八・二七	四〇,三〇八	三四,三一三	一八四・四八	七四,六二一	六五,〇一八	三五二・七五	二〇,〇六二	五三・六一	三,九七三
ニ	西亞弗利加	七,一六五	七五,一九〇	八七,四〇〇	一二・一九	七〇,四五〇	八三,八四〇	一一・五六	一五三,二九〇	一六二,五九〇	二三・七五	六一,三〇九	八・五五	一七,七六四
ニ	東同上	四,〇三八	七,九七二	七,七五二	一・九一	四,三六三	五,九〇一	一・四六	一〇,三六四	一五,七二四	三・二七	一一,七二三	二・七五	八四三
ニ	中部同上	九九七	一,四〇九	一,一三六	一・一三	一,三三六	一,一〇九	一・一一	二,三三五	二,五三五	二・二四	一,八五三	一・八五	
ハ	トランスヴアール	一,三四七	一六一,九六七	一九六,四三六	一四五・八四	三三三,三三六	三四一,二九〇	二五三・三六	六七四,五三六	三五三,四〇三	三九九・三〇	一一五,六〇一	八六・六三	一五,四六五
ニ	サンジバル	二三六	九,六九八	九,九四四	四二・一三	九,七七六	一〇,一一四	四三・八四	一九,八九〇	一九,六四二	八四・九七	缺		
イ	喜望峰殖民地	二,四一〇	一六一,三一三	一七七,八九二	七三・八一	四二一,一八七	四六五,七三〇	一九三・三四	八八六,九一七	三三九,二〇五	三六七・〇五	一四九,九三四	六三・一一	一八,八二七
イ	ナタール	一,二四九	七二,六五〇	七〇,三四四	五六・三三	三一,六八九	三〇,六二五	二四・五一	六三,三一四	一四三,九九四	八〇・八三	七八,二四〇	六二・七二	四,七七二
ハ	オレンヂ殖民地	三八七	二九,四五九	二六,六二七	九四・六四	三五,五八四	四七,七七一	一二三・四三	八三,三五五	六六,〇八六	二一八・〇七	一九,一〇六	四九・三七	
イ	加奈陀	五,三七一	七一三,二八〇	八九三,五八〇	一六六・一七	五五三,二三〇	五七五,〇九〇	一〇五・二一	一,二六五,五一〇	一,四六七,六七〇	二三五・六一	三七二,二五四	七九・二九	一三三,五二五
ロ	英領ギヤナ	三〇五	一八,三八九	一七,七四五	五八・一八	二一,〇四三	一九,八五三	六一・八一	四〇,八九五	三六,一三四	一一九・九七	一〇,八七〇	三五・九六	三,二一一
イ	ニウーファウンドランド及ラブラドール	二三九	二三,六六三	二三,二七四	九七・八〇	二三,九三七	二一,九四七	九一・八二	四五,八八四	四七,〇三七	一八九・六二	一三,五四六	五二・四九	四,九八四
ハ	英領ホンヂユラス	四四	五,五六八	五,五六四	一二六・四五	四,五八〇	四,五四五	一〇三・二七	九,一五五	一一,一三三	二三九・七二	一,五六七	三五・六一	四八三
ロ	ベルムダス島	一八	四,二〇六	三,九二五	二一八・五五	一,四〇六	一,〇五四	五八・五五	二,四六〇	八,一三一	二七七・一〇	一,〇九七	六〇・九四	四六八
ロ	西印度諸島	一,三五〇	七九,九三〇	八四,四五一	六三・五五	六九,九八〇	七八,〇八七	五七・八三	一四八,〇六七	一六四,三八一	一二〇・三八	五二,六一三	三九・〇〇	一二,〇三九
イ	新西蘭	一,〇四八	一七四,七一三	一五〇,七四七	一四三・八三	一六三,一七五	一九六,六二〇	一八七・六一	三五九,七九五	三三五,四六〇	三三一・四四	一七八,六九四	一七〇・五〇	二六,七一一
特許會社支配	ホルネオ	一八六	三,二一四	三,四〇五	一八・三〇	五,三八二	五,三三八	二八・七〇	一〇,七二〇	六,六一九	四七・〇〇	三,五五八	一九,一三	
ハ	ニユー、ギニヤ	五〇〇	九四七	一,二〇四	二・四〇	七九七	一,一〇四	五・〇三	一,八二一	二,一五一	七・四三	九九七	一・九八	
	臺灣（輸入税及噸税）	三,一二三	三六,五九八	四八,九二三	一五・六五	四七,九九七	五九,九二四	一九・一八	八四,五九五	一〇八,八四七	三四・八三	八七,三〇四	二七・九五	三三七
	朝鮮（總關税收入チ擧ク）	一三,三〇〇	三六,六四九	三九,七八三	二・九九	一六,二四九	一九,九一四	一・四九	五二,八九八	五九,六九七	四・四八	九七,四八四	七・三三	二,一八八

備考

1 本表ハ倫敦發行トレードヂョナル最近號政治年鑑（ステーツマンイヤブック）其ノ他ニ依リ調製ス
2 一磅ヲ十圓ニ換算ス
3 年度ハ四十一年及四十二年ノ統計ニ係ハルモノ若干アリ
人口ノ調査年度ハ數年前ニ屬スルモノアリ
4 統治別トハ次ノ如シ
（イ） 自治制施行地
（ロ） 半自治制施行地
（ハ） 自治制ヲ施行セサル殖民地
（ニ） 被保護領地
5 本表外ニ數多ノ小領地及被保護領地アリ

〇忠北地主納税實施狀況

忠清北道ニ在リテハ四十四年五月訓令ヲ發シテ結數連名簿ノ改訂ヲ企圖シ從來ノ連名簿樣式ニ新ニ納税管理人ノ一欄ヲ設ケ積年ノ慣行タル小作人納税ヲ變更シ以テ地主ノ所有權思想ヲ啓發セシメ之ヨリ徵税セシムルヲ最簡便ナリト認メ成ルヘク小作人ハ徵税上ノ關係ヲ絶タシメムコトヲ期シ各郡ノ大地主ヲ一堂ニ會シ官民間ノ意思疏通ヲ圖リ財務執行上ニ關スル意見ヲ交換シ地主納税ノ效果納税義務ノ尊重等ニ就キ懇談シタリシカ其ノ成績孰レモ良好ニシテ永同郡ノ如キ既ニ地主組合ノ成立ヲ見其ノ他二三郡ニ在リテハ目下納税禊ノ設立中ニ係レリ而シテ地主納税ハ各郡トモニ圓滿ニ實行セラレ小作契約ニ變更ヲ來シタルカ如キコトナク斯クテ四十四年度ノ地税ハ早クモ其ノ完納ヲ告クルノ美績ヲ擧クルヲ得タリ又他方ニ在リテハ地主納税ノ爲却テ米價ノ低落ヲ抑制シ經濟上ノ調和ヲ保持シ地主及小作人ニ對スル所得ヲ増加セシメタリ

（一）地主納税施設上大地主會同一覽

郡名	度數	場所	地主員數
清州	一	郡廳	四五
清安	五	同	一五〇
鎭川	一	同	二五
陰城	三	郡廳 無極市場	八五
槐山	五	郡廳 面事務所三	三六〇
忠州	七	郡廳	三五〇

清風	四	郡廳	一七九
堤川	二	同	三〇〇
永春	一	同	七九
丹陽	三	郡廳二　面事務所一	四四一
延豐	五	郡廳	六三〇
報恩	二	同	三七二
青山	一	同	五〇
黃磵	一	郡廳	二四七
永同	二	同　面事務所一〇一	三三四
沃川	五	郡廳　伊院市場　邑内市場　增若里	一六〇
懷仁	一	郡廳	一四二
文義	五	同	四二八
計	六三		四、三七七

○面費負擔額調查

本調查ハ各府郡ニ於ケル面費ノ負擔額ヲ示サムカ爲各府郡中ノ三面（内一面ハ市街地、他ハ市街ニ非サル大小ノ二面）ニ就キ調查シタルモノヲ更ニ道別ニ依リ其ノ平均額ヲ揭ケタルモノナリ

道別面費負擔額調查表（其ノ一）（區内面分）

道名	面費總額			面費平均負擔額					
				一人當			一戸當		
	四十四年度	四十三年度	比較增減	四十四年度	四十三年度	比較增減	四十四年度	四十三年度	比較增減
	円	円	円	円	円		円		
京畿道	四一三・四〇七	四〇一・六一一	一一・七九六	・一一一	・一〇六	・〇〇五	・五三一	・四九五	・〇三六
忠清北道	四八七・六一六	四二三・七二六	六三・八九〇	・一八〇	・一四九	・〇三一	・八七四	・七五〇	・一二四
忠清南道	二七九・五〇二	二二二・三一九	五七・一八三	・一五三	・一一一	・〇四二	・七三七	・五四五	・一九二
全羅北道	五二七・六〇六	四三三・九七三	九三・六三三	・二〇五	・一七九	・〇二六	・九九四	・八四四	・一五〇
全羅南道	八三八・二三一	六七三・四三二	一六四・七九九	・一八一	・一七九	・〇〇二	・八八七	・九〇三	△・〇一六
慶尚北道	四三五・五五九	三七〇・一二八	六五・四三一	・一二六	・一〇二	・〇二四	・六一七	・五一四	・一〇三
慶尚南道	二九六・七四〇	三五七・三二〇	△六〇・五八〇	・〇六八	・〇七五	△・〇〇七	・三二一	・四一四	△・〇九三
黃海道	五九四・〇七七	五二七・八九九	六六・一七八	・一七四	・一五七	・〇一七	・七九九	・七三二	・〇六七
平安南道	五〇二・五七五	三六六・八七二	一三五・七〇三	・一四八	・一〇六	・〇四二	・七五九	・五四七	・二一二
平安北道	四四八・三二三	三一四・四二六	一三三・八九七	・一五四	・一〇六	・〇四八	・七八五	・五二三	・二六二

江原道	二七〇・二八五	一九五・〇六四	七五・二二一	・〇九九	・〇七三	・〇二六	・四七一	・三三九	・一三二
咸鏡南道	六七六・六二〇	三九〇・九一〇	二八五・七一〇	・一〇五	・〇六二	・〇四三	・五三五	・三一八	・二一七
咸鏡北道	三八〇・三三九	一六五・三二〇	二一五・〇一九	・一一一	・〇五八	・〇五三	・六一四	・三四一	・二七三
總計	四七三・一四三	三七二・四六〇	一〇〇・六八三	・一三九	・一一二	・〇二七	・六八六	・五五八	・〇一二

道別面費負擔額調查表（其ノ二）（邑內面分）

道名	面長給料 四十四年度	面長給料 四十三年度	面長給料 比較增減	公錢領收員給料 四十四年度	公錢領收員給料 四十三年度	公錢領收員給料 比較增減	書記一人當給料 四十四年度	書記一人當給料 四十三年度	書記一人當給料 比較增減
	円	円	円	円	円	円	円	円	円
京畿道	九七・五〇〇	八〇・一一五	一七・三八五	五〇・六四七	三七・八二一	一二・八二六	四三・四一〇	二六・二四七	一七・一六三
忠清北道	一三二・四五一	一二六・九八八	五・四六三	九五・〇〇〇	一〇一・二一〇	△六・二一〇	四七・一一二	二四・七七七	二二・三三五
忠清南道	一一八・八八六	一〇七・三八六	一一・五〇〇	七二・三八六	二九・七〇〇	四二・六八六	六一・七五六	四四・八六九	一六・八八七
全羅北道	九二・五九〇	七五・三八八	一七・二〇二	八七・七〇二	七一・三一九	一六・三八三	五一・七七三	一〇・六九七	四一・〇七六
全羅南道	一一一・〇六二	八四・三一三	二六・七四九	七六・九七六	四九・八四〇	二七・一三六	六三・一二〇	二一・一〇九	四二・〇一一
慶尚北道	一一一・〇〇八	八六・九一五	二四・〇九三	五二・六四六	四二・八三四	九・八一二	四七・三八七	二三・四〇〇	二三・九八七
慶尚南道	一一九・〇三四	七九・〇一五	四〇・〇一九	六四・七八七	五七・六八七	七・一〇〇	五六・二八五	二〇・〇三〇	三六・二五五
黃海道	一一八・五八一	六三・六九五	五四・八八六	三三・三八八	六九・一八四	△三六・七九六	六三・〇〇〇	七・一九〇	五五・八一〇
平安南道	一二一・一五七	五〇・七六〇	七〇・三九七	五八・〇〇〇	三七・九八六	二〇・〇一四	七一・四三五	八・〇五七	六三・三七八
平安北道	八八・七五六	五五・六六二	三三・〇九四	五四・八〇〇	四・一六六	五〇・六三四	四八・〇八三	二五・〇七六	二三・〇〇七
江原道	八三・六九八	五七・一七六	二六・五二二	三八・一九六	二六・二三一	一一・九六五	三六・四〇〇	二・六三八	三三・七六二
咸鏡南道	八六・〇〇〇	六三・二一〇	二二・七九〇	七六・〇〇〇	一〇・〇〇〇	六六・〇〇〇	四七・七五〇	二一・七三七	二六・〇一三
咸鏡北道	一一一・二七二	七六・五五四	三四・七一八	八七・〇〇〇	—	八七・〇〇〇	八一・七五〇	—	八一・七五〇
總計	一〇七・〇七六	七七・四七五	二九・六〇一	六九・一一七	四一・三八二	二三・七三五	五五・三三七	一八・一四〇	三七・一八七

道別面費負擔額調查表 其ノ一（邑外面分）

道名	面費總額 四十四年度	面費總額 四十三年度	面費總額 比較增減	面費平均負擔額 一人當 四十四年度	一人當 四十三年度	一人當 比較增減	一戶當 四十四年度	一戶當 四十三年度	一戶當 比較增減	一結當 四十四年度	一結當 四十三年度	一結當 比較增減
	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円
京畿道	二六四・七五五	二四九・一〇六	一五・六四九	一一八	一一七	一	五六七	五五九	八	一・七五八	一・八五八	△ 一〇〇

忠清北道	四八一・四九三	三九九・二一六	八二・二七七	一九一	一六三	二八	八九九	七四九	一五〇	二・三四五	一・九四五	四〇〇
忠清南道	二八三・九九七	二四五・四八六	三八・五一一	一七三	一五四	一九	六三二	五三六	九六	一・二一六	一・〇〇四	二一二
全羅北道	五二六・〇三〇	四五六・四二九	六九・六〇一	二二五	二〇五	二〇	六一	九五一	一一〇	二・〇九五	一・八一八	二七七
全羅南道	七四七・三三四	六九四・三一七	五三・〇一七	二二三	二三三	△一〇	一・一四一	一・一八一	△四〇	二・六七五	二・八六五	△一九〇
慶尚北道	三九七・七四九	三五三・七四〇	四四・〇〇九	一四三	一二五	一八	六九三	六二〇	七三	一・五五二	一・三五六	一九六
慶尚南道	二六三・七三七	三一〇・三四二	△四六・六〇五	八五	九四	△九	四〇二	四五四	五二	九四五	九八三	△三八
黄海道	五一三・九五九	四七八・〇三七	三五・九二二	二三〇	二一一	一九	八五九	七六七	八八	一・八九一	一・八一四	七七
平安南道	四六三・一〇六	三八二・九五一	八〇・一五五	七三	六一	一二	三七八	三二四	五三	一・二二五	一・〇二七	一九八
平安北道	四七二・九九七	四〇〇・九〇一	七二・〇五六	一五八	一三四	二四	九一八	七九〇	一二八	二・六九一	二・五四八	一四三
江原道	三〇五・二七三	二四八・九二五	五六・三四八	九五	七四	二一	四三九	三五二	八七	三・〇三九	二・五八五	四五四
咸鏡南道	四八一・八一九	二六〇・〇八五	二二一・七三四	一〇九	五八	五一	五六六	三三二	二三四	一・四〇一	七二九	六七二
咸鏡北道	二七八・〇七五	一八一・六七二	九六・四〇三	九四	七三	二一	五三七	四三五	一〇二	七四〇	五〇七	二三三
合計	四二一・五六〇	三五八・五五四	六三・〇〇六	一四七	一三〇	一七	六九九	六一九	八〇	一・八一三	一・六一八	一九五

道別面費負擔額調査表　其ノ二（邑外面分）

道名	面長給料 四十四年度	面長給料 四十三年度	面長給料 比較增減	公錢領收員給料 四十四年度	公錢領收員給料 四十三年度	公錢領收員給料 比較增減	書記一人當給料 四十四年度	書記一人當給料 四十三年度	書記一人當給料 比較增減
	円	円	円	円	円	円	円	円	円
京畿道	八五・六四四	八五・九九八	△三五四	三四・七四〇	三二・六七五	二・〇六五	三一・〇四八	一二・八八四	一八・一六四
忠清北道	一四一・三四一	一三八・一五三	三・一八八	六九・五〇〇	七七・九五三	△八・四五三	三七・二六五	二二・一二六	一五・一三九
忠清南道	一二〇・九七八	一一六・三〇三	四・六七五	八八・三五一	五六・二七五	三二・〇七六	五六・八〇四	四一・一〇〇	一五・七〇四
全羅北道	九〇・三七八	七九・五〇二	一〇・八七六	八九・四〇一	九〇・三一五	△九一四	四九・七三五	一一・八一〇	三七・九二五
全羅南道	一一七・二九三	九六・三七九	二〇・九一四	七四・四二六	五八・九七一	一五・四五五	五七・三三三	二一・九八一	三五・三五二
慶尚北道	一〇三・四六八	八三・〇七〇	二〇・三九八	四五・六八八	四〇・三四九	五・三三九	三八・一八三	一二・六一二	二五・五七一
慶尚南道	一〇一・六五一	七八・八七〇	二二・七八一	五三・四一九	五二・〇三六	一・三八三	四六・五六六	一三・一七三	三三・三九三
黄海道	一二五・六四〇	八五・〇五八	四〇・五八二	五三・二五八	四八・三九八	四・八六〇	五六・一六四	一二・二六三	四三・九〇一
平安南道	一四五・五二六	七二・二四三	七三・二八三	四八・〇〇〇	三九・二三三	八・七六七	七四・八六四	一二・四二八	六二・四三六

平安北道	八四・一一八	五九・一一八	二四・九九〇	四九・一八七	八・〇六二	四一・一二五	三八・九四三	一九・一一三	一九・八三〇
江原道	八九・六三五	七〇・一六八	一九・四六七	三七・二一〇	二七・〇九六	一〇・一一四	三三・八八一	三・六五三	三〇・二二八
咸鏡南道	八二・一九〇	六〇・六〇五	二一・五八五	八一・五〇〇	—	八一・五〇〇	四八・七五〇	一三・一三五	三五・六二五
咸鏡北道	一〇二・〇〇〇	七一・二八二	三〇・七一八	一二六・〇〇〇	—	一二六・〇〇〇	九二・〇〇〇	—	九二・〇〇〇
合計	一〇六九一二	八四・三六六	二二・五四六	六五・四三六	四〇・八七四	二四・五六二	五〇・八八七	一五・〇九七	三五・七九〇

備考

一 諸表中明治四十四年度ノ收入額及支出額ハ同年度ノ面費豫算ニ依リ經常費ノミヲ計上シ明治四十三年度分ハ同年度ノ實績ニ依ル經常費ヲ計上セリ

二 面長カ公錢領收員ヲ兼任セル場合ニハ面長給料ノ欄ニ揭記シ公錢領收員給料ノ欄ニハ之ヲ揭記セス

三 物品ヲ以テ收支シタルモノハ總テ相當代價ヲ見積リ金錢ニ換算計上セリ

四 忠淸南道林川郡ニ於ケル調査指定面ハ數面ヲ聯合シテ面費ノ收支ヲナシ分割シ難キヲ以テ之ヲ除外シ計算中ニ加ヘス

五 京畿道京城府ハ他ノ府郡ト比シ特殊ノ事情アルニ依リ之ヲ除外シ計算中ニ加ヘス

雜錄

○二月中本府購入圖書

和漢書

著者	書名	發行年	冊數
	淸選考(寫本)		五
	忠烈錄		二
	楓嶽錄(寫本)		一
	高麗名臣傳		六
	忠武公家乘		二
	三學士傳(寫本)		一
	三國史記		一〇
	國朝曆象考		二
	號譜(寫本)		三
	星湖僿說(寫本)		一〇
	朝野僉載(寫本)		四七
高田忠周	漢字詳解 卷五	明治四十五年	一
佐々木吉三郎	教育的美學 上卷	明治四十四年	一
中村達太郎	日本建築辭典	明治四十五年	一
小西重直	現今教育の研究	同	一
谷本富	女子教育	明治四十四年	一
吉田熊次	女子研究	同	一
財部靜治	社會統計論綱	同	一
	海東輿地圖附里程表(寫本)		四
後藤朝太郎	漢字音の系統	明治四十四年	一
澤村眞	獨逸の農業教育	同	一
高木壬太郎	基督教大辭典	同	一

洋書

著者名	書名	發行年	冊數
H. T. Terry.	Common Forms of Agreements, Conveyances, etc.	1895.	1.

L. H. Loenholm.	Patents, Trade Marks, Disigns and Utility Models with all Ordinance and Regulation relating therets.	1910.	1.
L. H. Loenholm.	Das Japanische Strafgestzbuch.	1907.	1.
,, ,,	Code Pénal de L'Empire de Japon.	1907.	1.
	Chambers Mathematical Tables.	1903.	1.
T. W. Mohr.	Handbuch fur das Schutzgebiet Kiautschou.	1911.	1.
	Hazell's Annual, 1910, 1911. ...		2.
	Whitaker's Almanack, 1910, 1911.		2.
G. Wegener.	Samoa Reiseschilderungen von Dr. Siegfried.	1908.	1.
,, ,,	Korea ,, ,,	1905.	1.
,, ,,	Marokko ,, ,,	1906.	1.
Emma Kroebel.	Wie ich an den Koreanischen Kaiserhof Kam.	1909.	1.
Frank J. Goodnow.	Municipal Home Rule.	1906.	1.
His Majesty's Stationery Office.	Reports by His Majesty's Agent and Consul-General on the Finances, Administration, and Condition of Egypt and the Soudan in 1909.	1910.	1.
His Majesty's Stationery Office.	Despatches from Sir A. Hosie forwarding Reports respecting the Opium Question in China.	1911.	1.
His Majesty's Stationery Office.	Correspondence respecting the Ownership of Land and Mines by British Subjects in Corea.	1911.	1.
His Majesty's Stationery Office.	Papers relating to a Proposed Commercial Arrangement between Canada and the United States of America. ...	1911.	1.
His Majesty's Stationery Office.	Turiff Relations between the United States and the Dominion of Canada.	1911.	1.
His Majesty's Stationery Office.	Furher Correspondence respecting the Affairs of Persia.	1911.	1.
His Majesty's Stationery Office.	Translation of the Proposed New General Customs Tariff of the Netherlands.	1911.	1.
His Majesty's Stationery Office.	Bagdad Railway.	1911.	1.
His Majesty's Stationery Office.	Correspondence with the French Government in 1885 respecting the Treatment of Rice as Contraband.	1911.	1.
His Majesty's Stationery Office.	Reports from His Majesty's Representatives abroad respecting the Institution known as the Referendum. ...	1911.	1.
His Majesty's Stationery Office.	Conventions for the Unification of certain Rules of Law respecting (1) Collisions, (2) Assistance and Salvage at Sea, signed at Brussels, September 23, 1910, and Documents relating thereto. ...	1911.	1.
His Majesty's Stationery Office.	Repoot by His Majesty's Minister at Berne respecting the Institution known as the Initiative in Switzerland.	1911.	1.

His Majesty's Stationery Office.	Translation of the Award of Don Joaquin Fernandez Prida, Arbitrator in the matter of the Southern Boundary of the Territory of Walfisch Bay.	1911.	1.
His Majesty's Stationery Office.	Correspondence respecting the Fourth International Congress on the White Slave Traffic, held in Madrid, October 1910.	1911.	1.
His Majesty's Stationery Office.	Proposed Customs Tariff Reciprocity Arrangement between the Dominion of Canada and the United States of America.	1911.	1.
His Majesty's Stationery Office.	Reports from His Majesty's Ambassador at Washington respecting a Reciprocal Tariff Arrangement between Canada and the United States.	1911.	1.
His Majesty's Stationery Office.	Report of the British Delegate to the International Sugar Commission, July 1909.	1911.	1.
,,	,, March 1910.	1910.	1.
,,	,, February 1911.	1911.	1.
His Majesty's Stationery Office.	Suez Canal.—Returns, of Shipping and Tonnage: 1907, 1908, and 1909.	1910.	1.
His Majesty's Stationery Office.	Correspondence respecting the Application to British Subjects of the Benefits of the Swedish Law in regard to Workmen's Compensation for Accidents.	1910.	1.
His Majesty's Stationery Office.	Despatch from His Majesty's Minister at The Haque forwarding Law of February 10, 1910, regulating the Statu sas Netherland Subjects of the Population of the Netherland East Indies	1910.	1.
His Majesty's Stationery Office.	Despatch from the British Agent enclosing copy of the Protocol containing the Award of the Permanent Court of International Arbitration at The Haque in the North Atlantic Coast Fisheries Arbitration.	1910.	1.
His Majesty's Stationery Office.	Correspondence respecting the Declaration of London.	1910.	1.
His Majesty's Stationery Office.	Annual Licence Values under the Finance (1909-10) Act, 1910.	1910.	1.

○本府各部ニ於テ購入スル邦文雜誌及歐文新聞雜誌左ノ如シ

太陽	官房 內務部
中央公論	官房
外交時報	同
國際法雜誌	同
國家學會雜誌	同
法學協會雜誌	同
實業之日本	同
海外之日本	同
日本及日本人	同
國民雜誌	同
新日本	官房 內務部

朝鮮及滿洲(朝鮮改題)	總務部・內務部・司法部
教育學術界	內務部
學術界	同
教育時論	總務部・內務部
教育實驗界	內務部
教育界	同
小學校	同
教育研究	同
初等教育	同
帝國教育	同
日本ノ小學校	同
教材研究	同
普通教育	同
殖民公報	同
新半島	同
旅行案內	內務部・農商工部・度支部
工業化學雜誌	度支部
紙業雜誌	同
東洋皮革新誌	同
東京銀行通信錄	同
大阪銀行通信錄	同
統計集誌	總務部・度支部
朝鮮農會報	度支部
工業	總務部
工業界	同
電氣ノ友	同
印刷世界	同
臺灣統計協會雜誌	總務部
自治機關	同
統計學雜誌	同
政事學雜誌	同
兵事雜誌	官房

American Journal of International Law.	外事局
Colonial Official Journal.	內務部
Educational Review.	同
Engineering and Mining Journal.	鑛務課
Journal of Education.	內務部
Shanghai Mercury.	外事局
The American Review of Reviews.	外事局・農務課・關稅課
The Board of Trade Journal.	關稅課
The Chemical News.	稅務課
The Contemporary Review.	外事局
The Daily Consular Trade Report.	同
The Economist.	財務課
The Engineering.	關稅課
The Engineering News.	稅關工事課
The Fortnightly Review.	外事局
The Graphic.	關稅課
The Hongkong Weekly Press and China Overland Trade Report.	外事局
The Japan Weekly Mail.	同
The Japan Chronicle.	外事局・關稅課

The Japan Times.	總務部 內務部 司法部 農商工部
The Japan Daily Mail.	外事局
The Japan Daily Herald.	外事局 關稅課
The Japan Gazette.	外事局
The Japan Advertiser.	同
The Journal Society of Chemical Industry.	鑛務課
The London and China Express.	外事局
The Mail.	同
The National Review.	同
The North American Review.	同
The North China Daily News.	同
The North China Herald.	關稅課
The New York Times.	文書課
The Nineteenth Century and After.	外事局
The Outlook.	同
The Parliamentary Papers.	同
The Political Science Quarterly.	文書課
The Review of Reviews, Illustrated.	外事局
The Seoul Press.	關稅課 稅務課 文書課
The School Review.	內務部
The Times.	文書課
The Times Weekly.	關稅課
The Tobacco, London.	稅務課
The Tobacco, New York.	稅務課
The Tobacco Leaf.	同
The Tobacco Trade Review.	同
Das Echo.	外事局
Der Ostasiatische Lloyd.	同
Deutsche Japan-Post.	同
Kölnische Zeitung.	同
Zeitschrift für Colonialpolitik, etc.	同
Diplomatiques et Coloniales.	同
L'Echo de Chine.	同
L'Education.	內務部
Le Temps.	外事局
Figaro.	同

○二月中本府ニ於テ寄贈ヲ受ケタル圖書、雜誌左ノ如シ

寄贈者名	書名		部數
大藏省	明治四十四年十二月大日本外國貿易月表		一
同	明治四十四年十二月內地及樺太、朝鮮間貿易月表		一
同	國債法規追錄	第一號	二
外務省	通商彙纂	第八、九號 自第十一號 至第十五號	七
同	外國新聞摘要	第六十四號 第六十五號	二
同	清國時報	第八十四號	三
同	移民調査報告	第八	二〇
農商務省	明治四十四年參表		二
同	農商務省商品陳列館報告	第四十七號	一

農商務省	佛國保險業法竝附屬命令		一
同	紐育州保險法		一
同	保險年鑑	明治四十三年度	一
同	山林公報	第二、三號	二
農商務省水產講習所	日本鮭鱒養殖誌		一
特許局	特許發明々細書	自第四號至第八號	五
同	特許公報	自第一五一〇號至第一五一二號	四
同	商標公報	自第八四二號至第八四七號	六
同	實用新案公報	自第四七〇號至第四七六號	七
同	第五次特許局年報		一
文部省	高等小學新定畫帖	第二學年教師用	五
同	同	第二學年男女生共用	五
遞信省	明治四十三年度遞信省第廿五年報		三
陸軍省	靖國神社誌		一
海軍省	明治四十三年度海軍省年報		一
佐賀縣	明治四十二年佐賀縣統計書	第二編學事	一
新潟縣	明治四十三年新潟縣統計書	教育ノ部	一
三重縣	明治四十三年三重縣統計書	一般ノ部	一
岡山縣	明治四十三年岡山縣統計書		一
長野縣	長野縣農工商統計書		一
同	長野縣職員錄		一
群馬縣	群馬縣職員錄		一
長崎縣	長崎縣職員錄		一

京都府	京都府職員錄		一
丸龜稅務監督局	丸龜稅務監督局及管內稅務局職員錄		一
長野稅務監督局	明治四十三年度稅務統計書		一
仙臺稅務監督局	仙臺稅務監督局々報	第四號	一
熊本稅務監督局	營業稅事務取扱規程	局報號外	一
横濱商業會議所	月報	第一八三號	一
大阪商業會議所	貿易通報	一月號	
小樽商業會議所	小樽商業會議所報告		一
日本勸業銀行	第二十九期營業報告		一
日本銀行	第五十九回半季報告		一
同	明治四十四年營業報告		一
石川縣	蠶病豫防事務成績梗概		一
滋賀縣蠶病豫防事務所	蠶病豫防事務成績		一
横濱市役所	横濱市第九回統計書	明治四十五年刊行	一
東京帝國大學	東京帝國大學一覽	從四十四年至四十五年	三
九州帝國大學	九州帝國大學一覽	從四十四年至四十五年	一
鹿兒島高等農林學校	鹿兒島高等農林學校一覽	從四十四年至四十五年	一
盛岡高等農林學校	盛岡高等農林學校一覽		一
東京美術學校	東京美術學校一覽	從四十四年至四十五年	一
開發社	教育時論	自第九六四號至第九六六號	一
帝國吃語矯正會	帝國吃語矯正會々報	第十號	一
獨高會	三教會同ト金光敎		一
札幌北駕文庫	圖書目錄	第一同	一
東京每日新聞	新家庭	第二號	二

帝國在鄕軍人會本部	戰友	二月號	一
亞細亞義會	大東		一
勸業叢報社	勸業叢報	第十九號	一
千種園合資會會	純正種苗目錄		一
大日本農會	大日本農會報	第三六八號	一
	大日本山林會報		一
紙之世界社	紙之世界	第四十號	一
大阪朝鮮貿易商報社	大阪朝鮮貿易商報	第九十二號	一
共同火災海上運送保險會社	第六回營業年報		一
臺灣總督府	臺灣人口動態統計	四十三年原表ノ部	一
同	商工月報	第三十三號	二
同	明治四十五年臺灣森林手簿		一
關東都督府水產試驗場	關東都督府水產試驗場事業報告	四十三年度	二
南滿洲鐵道株式會社	第十回營業報告書		一
東亞經濟調查局	日本國有鐵道從事員疾病保險實施上ノ質疑ニ對スル私見		一
朝鮮總督府通信局	朝鮮總督府通信法規庶務編加除綴	第一回	一
朝鮮總督府鐵道局	業務月報	明治四十四年十一月分	五
朝鮮總督府航路標識管理所	朝鮮總督府航路標識管理所第五年報		三
朝鮮駐箚軍經理部	第八回朝鮮內里程圖異動表		五
慶尙南道廳	慶尙南道々勢要覽		一
慶尙北道廳	慶尙北道々勢一斑		五
京城商業會議所	商工彙報	第二號	一
京城日本人商業會議所	月報	第五十六號	一

釜山商業會議所	月報	第十六、十八號	二
朝鮮銀行	第五期營業報告書	四十四年下半季	一〇
朝鮮商業銀行	第十一期營業報告書		一
滿韓實業協會	滿韓之實業		一
Baillière Findall and Cox.	Fourth Report of the Wellcome Tropical Research Laboratories at the Gordon Memorial College, Khartoum. Vol. A.—Medical.		1
"	" (Prospectus.)		1


サッポロビール
アサヒビール
エビスビール
ミュンヘン
清涼飲料 シトロン
多く賣れるビールは常に新鮮なり

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

○朝鮮總督府月報ニ關スル規程

四十四年五月 總訓第四十一號

第一條　朝鮮ニ於ケル施政、産業其ノ他各般ノ狀況ヲ蒐錄スル爲毎月二十日朝鮮總督府月報ヲ發行ス

臨時調査事項ニシテ浩澣ニ涉ルモノハ月報附錄トシテ之ヲ發行スルコトヲ得

第二條　月報ハ總務部文書課ニ於テ之ヲ編纂ス

第三條　月報ニ揭載スヘキ事項ハ左ノ區分ニ依ル

一　農業及殖林
二　商工業
三　鑛業
四　水産業
五　貿易
六　運輸及交通
七　理財及金融
八　教育
九　社寺宗教
十　衞生
十一　救恤慈善
十二　地方行政
十三　司法
十四　調査資料
十五　統計

第四條　月報ニ記載スヘキ材料ハ關係ノ各部及所屬官署ニ於テ之ヲ蒐集スヘシ

第五條　材料ヲ蒐集セシムル爲各部及所屬官署（道ニ在リテハ内務部及財務部）ニ各一名ノ月報報告主任ヲ置ク

月報報告主任ハ奏任官又ハ判任官中ヨリ所屬長官之ヲ命シ其ノ官氏名ヲ文書課長ニ通知スヘシ

第六條　月報報告主任月報ニ揭載スヘキ事項ヲ調査シタルトキハ其ノ都度直ニ之ヲ文書課長ニ送付スヘシ

第七條　月報原稿締切期限ハ毎月十日トス

第八條　文書課長ハ月報揭載事項ニ關シ月報報告主任ニ直接交涉ヲ爲スコトヲ得

第九條　月報原稿ハ別記樣式ノ原稿用紙ニ之ヲ記入スヘシ但シ統計圖表類及印刷ニ係ルモノハ便宜美濃十三行罫紙若ハ美濃白紙ニ之ヲ記入シ又ハ其ノ印刷物ヲ美濃白紙ニ貼附シ之ニ代用スルコトヲ得

第十條　月報ハ朝鮮總督府印刷局之ヲ印刷ス

印刷局長ハ依賴ニ應シ月報ニ廣告ヲ揭載スルコトヲ得其ノ料金ハ印刷局長之ヲ定ム

（別紙樣式略）

○朝鮮總督府月報廣告揭載手續

一朝鮮總督府月報ニ廣告ヲ揭載セムトスル者ハ京城本町二丁目日韓書房ニ申込ムヘシ

一揭載シタル廣告ノ原稿ハ一切之ヲ返付セス

一廣告料ハ一頁金五圓トス

但シ廣告ニ圖書又ハ計表其ノ他特殊ノ版式ヲ要スルモノハ別ニ其ノ實費ヲ徵ス

明治四十五年三月十八日印刷
明治四十五年三月二十日發行

定價金二十二錢
郵税金一錢五厘

朝鮮總督府編纂

印刷所　朝鮮總督府印刷局

發賣所　京城本町二丁目　日韓書房

朝鮮總督府月報 第二卷 第三號 明治四十五年三月二十日發行